

# Syllabus

平成25年度

## 薬学部授業計画

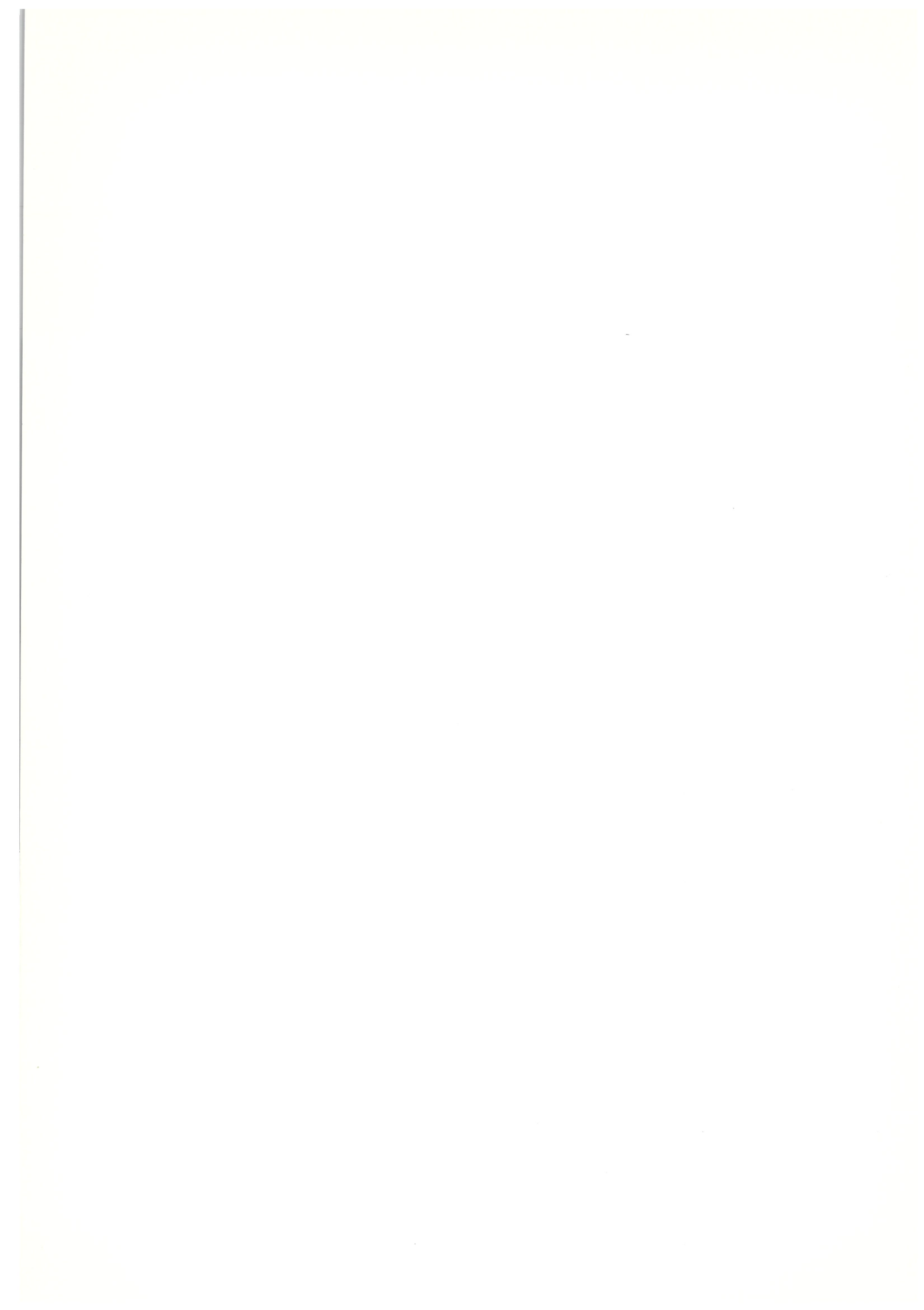
< 共通教養科目 >



< 外国語科目 >

近畿大学







## 近畿大学教育方針

本学は、「未来志向の実学教育と人格の陶冶」を建学の精神とし、「人に愛される人、信頼される人、尊敬される人の育成」を教育理念として掲げてきました。この「建学の精神」と「教育理念」は、知識基盤社会へ転換しようとする21世紀の日本において、いっそう必要とされる理念であると自負します。

本学が、総合大学として各学部の特色を生かしながら、共に手を携えて目指そうとしているのは、「実学教育」と「人格の陶冶」の融合です。真の「実学」とは、必ずしも直接的な有用性を志向するだけではなく、その事柄の意味を学び取ることを含みます。現実に立脚しつつも、歴史的展望をもち、地に足をつけて、しなやかな批判精神やチャレンジ精神を発揮できる、創造性豊かな人格の陶冶を志向するものです。「自主独往の気概に満ち」、生涯にわたって自己の向上に励み、社会を支える高い志をもつことが「人に愛され、信頼され、尊敬される」ことにつながります。このような学生を社会に送り出すことが、これからの時代に、本学が目指す社会的使命であります。

### カリキュラムポリシー(教育課程の編成方針)

本学は、「建学の精神」と「教育理念」を実現するために、「共通教育科目」と「専門教育科目」を2本柱として、各学部学科の特色を生かしたカリキュラムを提供します。また、ボランティア、インターンシップ、各種資格取得講座などのプログラムを展開し、全教職員が、学生の学問的、人間的成長とキャリア形成を支援します。

さらに、生涯学習社会実現のために、学生と社会人と教員が共に学び合う機会を提供します。

- 1 入学者の基礎学力の確認と向上を図るプログラムを提供します。
- 2 専門教育に携わっている教員が教養教育(共通教育科目)に参加して、実学(専門教育)と教養の連動ないし融合を視野に入れた授業を提供します。
- 3 「専門教育科目」においては、社会のニーズに対応できる教養に裏打ちされた専門性を高める工夫を進めます。また、必要に応じて他学部との単位互換制度等を活用し、複眼的な専門性の育成に努めます。
- 4 さまざまな国際分野で活躍できる人材を養成するために、国際スタンダード教育への参加を進めます。
- 5 産学連携を推進し、生きた実学教育の充実を図ります。
- 6 社会人の学びの場(リカレント教育)を充実し、生涯学習社会の実現に貢献します。
- 7 学生の資格取得のために、学部横断的な取り組みを展開します。
- 8 ボランティア、インターンシップ、留学制度等を充実し、学生が地域社会、国際社会において意味のある学びを体験できるよう努めます。

### ディプロマポリシー(卒業認定・学位授与に関する方針)

本学は、「建学の精神」と「教育理念」に基づいて、「深い教養と高い志をもち、社会を支える気概をもった学生を育成し、社会に送り出すことを最終教育目標」としています。厳格な成績評価を行い、所定の単位を修得した学生に卒業を認定し、学位を授与します。卒業までに身に付けるべき資質を以下に示します。

- 1 大学での種々の学びを通じて、「人に愛され、信頼され、尊敬される」人格へと自らを成長させ続ける自己教育力を培っていること。
- 2 問いながら学ぶ「学問」習慣を身に付け、専門領域における知識・技能を修得し、それらに裏打ちされた探究心と社会貢献への使命感に目覚めていること。



- 3 専門領域における課題の意味を、広い歴史観や深い人間観の中で位置づけようとする教養を、身に付けていること。
- 4 異質な価値や文化を理解し、自国の伝統や文化の意味を再発見する国際感覚を、身に付けていること。



## 薬学部

### カリキュラムポリシー(教育課程の編成方針)

薬学部では、薬に関する幅広く高度な専門知識と優れた臨床能力を有する薬剤師、リサーチマインドを有し、薬学研究の発展に貢献できる人材を養成するとともに、有機化学、レギュラトリーサイエンス、ゲノム科学、*in silico*創薬、細胞生物学などの最先端の薬学分野の知識とテクノロジーに精通し、医薬品の創製・設計、開発などの分野で薬学研究者・技術者として国際的に活躍できる人材を社会に輩出するために特色あるカリキュラムを提供します。

#### 〈共通教養科目〉

教養系科目を充実させることによって基礎学力を養うとともに、将来に対するモチベーションを高めます。

#### 〈外国語科目〉

ネイティブ教員による充実した語学教育カリキュラムを通して、医薬品開発や製薬業界のグローバル化、国際化に対応できるように英語力を強化することで、国際的に活躍できる人材育成プログラムを導入しています。

#### 〈専門科目〉

臨床に直結する重要科目に加えて、遺伝子治療や再生医療など高度先端医療に対応できる人材の養成をめざします。一方、基礎から発展まで幅広い創薬研究に対応できる知識と技術を修得するために、有機合成化学や分析化学関連の講義を充実させるとともに、ゲノム創薬や分子設計創薬学など最先端の講義と実習も導入しています。

### ディプロマポリシー(卒業認定・学位授与に関する方針)

薬学部では、「薬に関する高度な知識と臨床技能を備え、優れたコミュニケーション能力ならびに問題解決能力を備えた薬剤師として活躍できる人材を養成する」及び「医薬品の創製・発見や開発・適用などの分野で社会と人類の福祉・健康に貢献できる創造性にあふれた有能な薬学研究者、薬学技術者を社会に輩出する」という教育目標を達成するためのカリキュラムを策定しています。厳格な成績評価を行い、所定の単位を修得した学生に卒業を認定し、学士(薬学)あるいは学士(薬科学)の学位を授与します。卒業までに身につけるべき資質を以下に示します。

- 1 医療人としての使命感と倫理観  
医療に関する高い倫理観と責任感を有し、薬剤師の資質を生かして社会に貢献する使命感を培っていること。
- 2 幅広い教養と医療に関する高度な知識  
医療や人の健康に関わる者として必要とされる広い教養と、医療薬学に関する高度な専門知識を修得していること。
- 3 高度な先進医療に対応できる臨床能力  
基礎的な臨床に関する研究手技、高度で多様化する薬物治療に関する基本的技能を修得し、さらにチーム医療を実践できる能力を有すること。
- 4 臨床における問題解決能力及び自己啓発力  
薬剤師として臨床現場で発生するさまざまな問題に的確に対処し、解決する能力及び課題発見能力を修得し、生涯学習への意欲を有していること。
- 5 薬の創製に関わる研究者、技術者としての使命感と倫理観



生命に関する高い倫理観と責任感を有し、薬の創製に関わる研究者、技術者としての資質を生かして社会に貢献する使命感を培っていること。

- 6 論理的思考力と国際化に対応できる英語力  
科学の進歩に対応できる論理的思考力を培うとともに、海外の最新の文献や情報を入力することで国際化に対応できる英語力を身につけていること。
- 7 幅広い教養と医薬品創製に関わる知識  
医療や人の健康に関わる者として必要とされる広い教養と創薬科学に関する高度な専門知識を修得していること。
- 8 最先端の創薬研究を推進できる能力  
創薬における基本的な研究手法を修得し、さらに必要とされるコミュニケーション・プレゼンテーション能力及びディスカッション能力を有すること。

## 医療薬学科

### カリキュラムポリシー(教育課程の編成方針)

医療薬学科は、「薬に関する幅広く高度な専門知識と優れた臨床能力を有する指導的薬剤師、及び薬剤師の資質を活かして薬学研究の発展に貢献できるリサーチマインドを有する人材を養成する」ことを実現するため、以下のようなカリキュラムを設置しています。

- 1 優れたコミュニケーション能力ならびに問題解決能力を養成するためPBL (Problem Based Learning) の充実を図り、科学的根拠にもとづき問題を解決する能力の育成に努めます。
- 2 医学・薬学に関する海外文献などの情報を収集・評価する能力を養成する「基礎生物学英語」、「基礎化学英語」、「生物学英語」、現代医療で求められている「科学的根拠に基づく医療 (EMB: Evidence Based Medicine)」に対応できる人材を養成する「臨床薬学英語」を開講しています。また、ネイティブ教員による充実した語学教育カリキュラムを通して、国際化に対応できる「英語力」を強化します。
- 3 医学部における人体臓器見学、病棟体験などのアーリーエクスポージャーに始まり、解剖組織学、生命倫理学など、医療人として極めて重要な倫理観を涵養し、確立するための科目を開講しています。
- 4 臨床に直結する重要科目として、「薬効薬理処方解析」、「病態生理学」、「薬物治療学」、「臨床心理学」などを開講しています。また、遺伝子治療や再生医療など高度先端医療に対応できる人材の養成を視野にいれた科目を開講しています。
- 5 薬剤師実務に深く関わる「医薬品情報学」、「調剤学」、「臨床薬学」などの臨床薬学関連科目を開講しています。
- 6 臨床能力に長けた薬剤師の養成を目標に、長期の「実務実習事前学習」、「病院実務実習」、「薬局実務実習」を開講しています。
- 7 医学部及び三つの附属病院と連携し、最先端の医療情報を身につけるため、「臨床医学概論」、「医療薬学総論」、「薬科学特論3」などの臨床講義を開講しています。
- 8 臨床における多種多様な問題の解決能力を養成するため、また、薬剤師の資質を活かして薬学研究の発展に貢献できるリサーチマインドを有する人材を養成するため「総合薬学研究1・2・3」を開講しています。
- 9 薬剤師免許取得のために必要な学習プログラムを提供し、全国トップレベルの薬剤師国家試験合格率をめざします。

### ディプロマポリシー(卒業認定・学位授与に関する方針)

医療薬学科は、「薬に関する高度な知識と臨床技能を備え、優れたコミュニケーション能力ならびに問題解決能力を備えた薬剤師として活躍できる人材を養成する」という教育目標を達成するためのカリキュラムを策定しています。厳格な成績評価のもと、6年以上在学し、薬学部が設定した教養及び専門科目の所定の単位を修得したものに学位を授与します。卒業までに身につけるべき資質・能力を以下に示します。

- 1 関心・意欲・態度
  - 1) 生命に関わる職業人となることを自覚し、それにふさわしい行動・態度をとることができること。
  - 2) 医療に関する高い倫理観と責任感を有し、薬剤師の資質を活かして社会に貢献すべきであるという使命感を持つことができること。
  - 3) 人との共感的態度を身につけ、信頼関係を醸成し、さらに生涯にわたってそれらを向上させる習慣を身につけようとする意欲があること。
- 2 思考・判断

- 1) 明晰かつ批判的に思考できること。
- 2) 生命の尊さを認識し、医療における様々な問題について倫理的な判断ができること。
- 3) 医療専門職としての役割を理解し、合意に基づいて自主的、かつ協調的に判断し行動できること。

### 3 技能・表現

- 1) 基本的な薬剤師技能を身につけること。
- 2) チーム医療を実践できるコミュニケーション能力を身につけること。
- 3) 高度で多様化する薬物療法に関する基本的技能を修得し、さらにそれを医療の実践で応用できる能力を身につけること。
- 4) 自分の論点や考え方について論文や口頭で分かりやすく論理的に発表しディスカッションを行う能力を身につけること。

### 4 知識・理解

- 1) 薬物療法の意義について説明できること。
- 2) 医療や人の健康に関わる者として必要とされる広い教養と、医療薬学に関する基礎的専門知識を身につけること。
- 3) 医療薬学分野の幅広い技術について、基礎知識とそれらを課題解決に応用する能力を身につけていること。
- 4) 医療薬学分野の高度な専門知識とそれらを医療に関するさまざまな問題解決に応用する能力及び課題発見能力を身につけていること。



## 創薬科学科

### カリキュラムポリシー(教育課程の編成方針)

創薬科学科では、有機化学、レギュラトリーサイエンス、ゲノム科学、*in silico* 創薬、細胞生物学などの最先端の薬学分野の知識とテクノロジーに精通し、医薬品の創製・設計、開発などの分野で薬学研究者・技術者として国際的に活躍できる人材を社会に輩出するための特色あるカリキュラムを提供しています。

- 1 充実した卒業研究  
3学年から始まる卒業研究では、より専門性の高い最先端の薬学研究プログラムを導入しています。
- 2 演習科目の充実  
「化学」、「生物学」の演習科目を多く取り入れることで、これら教科の実践的な能力を修得します。
- 3 充実した英語教育  
ネイティブ教員による充実した語学教育カリキュラムを通して、医薬品開発や製薬業界のグローバル化、国際化に対応できる「英語力を強化」することで、国際的に活躍できる人材育成を実施しています。
- 4 最先端の創薬関連の講義と実習  
基礎から発展まで幅広い創薬研究に対応できる知識と技術を修得するために、有機合成化学や分析化学関連の講義を充実させるとともに、ゲノム創薬や分子設計創薬学など最先端の講義と実習も導入しています。
- 5 選択科目の充実  
2学年以降では生物学系と化学系にわかれて、それぞれ充実した科目群を履修することで、より専門的な能力を身につけることができます。
- 6 コミュニケーション・プレゼンテーション能力の重視  
1学年から、興味を持ったテーマに関するリサーチを行い、グループディスカッション、成果発表を通して、薬学研究者として不可欠なコミュニケーション・プレゼンテーション能力及びディスカッション能力を養成できる授業を開講しています。
- 7 専門技術者育成プログラムの導入  
附属病院との連携のもと、臨床検査技師や放射線取扱技術者などの資格取得に向けたカリキュラムを展開し、バイオ系理科学士としてのキャリア形成プログラムを充実させています。

### ディプロマポリシー(卒業認定・学位授与に関する方針)

創薬科学科では、「医薬品の創製・発見や開発・適用などの分野で社会と人類の福祉・健康に貢献できる創造性にあふれた有能な薬学研究者、薬学技術者を社会に輩出する」という教育目標を達成するためのカリキュラムを策定しています。厳格な成績評価のもと、4年以上在学し、薬学部が設定した教養及び専門科目のうち、133単位以上修得した学生に卒業を認定し、学士(薬科学)の学位を授与します。卒業までに身につけるべき資質を以下に示します。

- 1 関心・意欲・態度
  - 1) 生命に関する高い倫理観と責任感を有すること。
  - 2) 薬の創製に関わる研究者、技術者としての資質を活かして社会に貢献する使命感を培っていること。
- 2 思考・判断
  - 1) 科学の進歩に対応できる論理的思考力を培っていること。

2) 医療や人の健康に関わる者として必要とされる広い教養を有すること。

3 技能・表現

1) 海外の最新の文献や情報を入手することで国際化に対応できる英語力を身につけていること。

2) 創薬における基本的な研究手法を修得していること。

3) 必要とされるコミュニケーション・プレゼンテーション能力及びディスカッション能力を有すること。

4 知識・理解

1) 創薬科学に関する専門知識を修得していること。

# 目 次

共通教養科目	1
生涯スポーツ	45
英 語 (医療薬学科・創薬科学科平成 23 年度以前入学生用)	59
英 語 (創薬科学科 平成 24 年度以降入学生用)	75
第二外国語	171

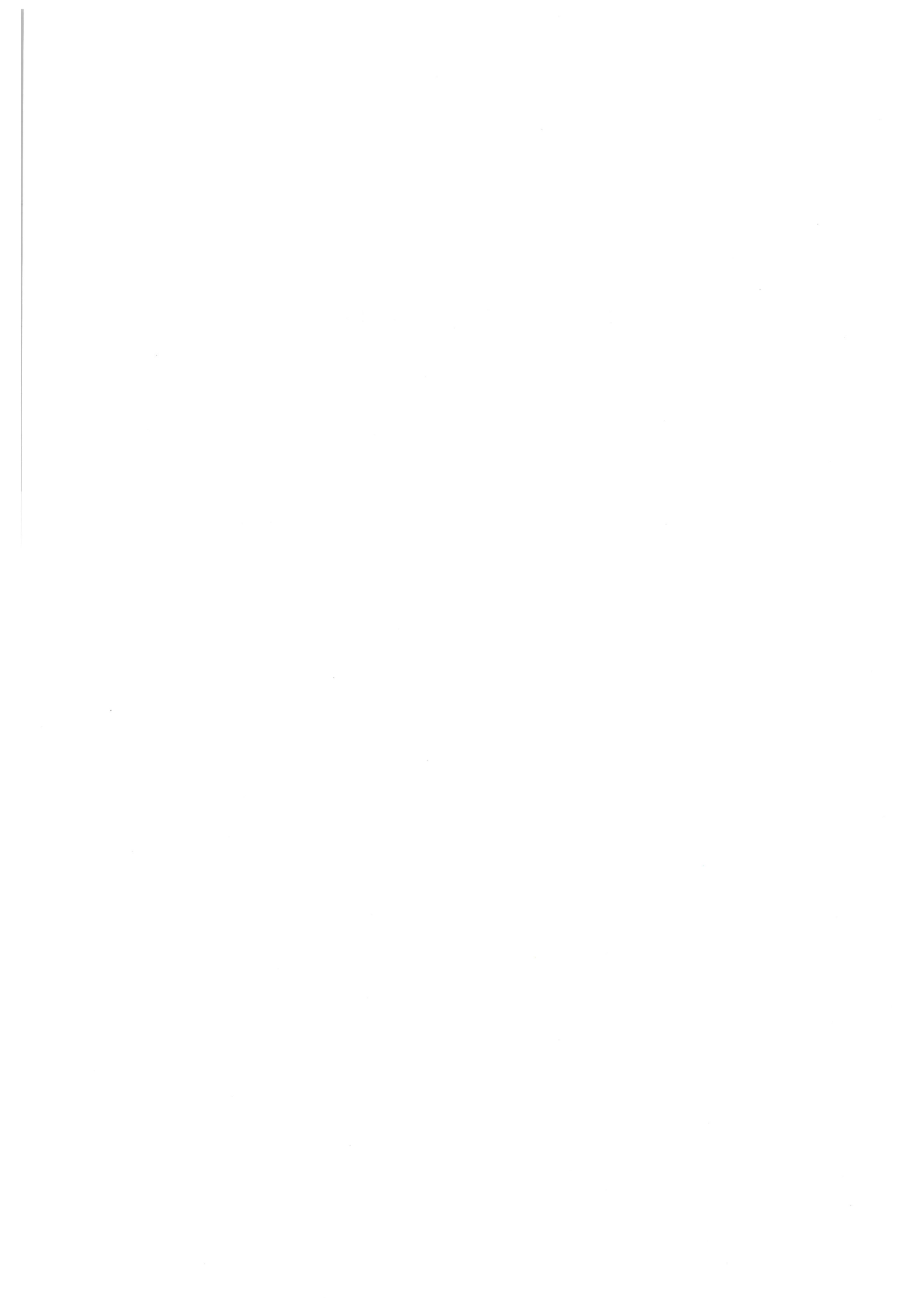




---

# 共通教養科目

---





## 近畿大学の教養教育の目的と目標

### 前 文

近畿大学の建学の精神は、「実学教育」と「人格の陶冶」にあり、教育の理念である「人に愛される人、信頼される人、尊敬される人」を育成することを教育の目的としている。この建学の精神に基づき、社会の発展に貢献できる有為な人材を育成するために、教育の中核に教養教育と専門教育を据え、それを通して総合的な教育を行うところに、本学の教育の特色がある。

さらに、近畿大学は、「世の中にないものを創り、生み出す」ことを社会的使命と任じ、新たな地平の開拓へ果敢に挑戦する人材を育成する。このような観点に立脚し、近畿大学の教養教育の目的を次のように謳うものである。

### 目 的

「近畿大学の教養教育は、幅広い知識と深い洞察力を培い、豊かな人間関係と確かな主体性を確立することを目的とする」

この目的の達成のために以下の目標をおく

1. 個人の自由と平等を尊重し、社会において担うべき責任を理解し、公正に判断する能力を養う。
2. 日本文化と外国文化の理解を通じ、国際感覚を高め、相互の個性を尊重し、信頼し合う精神を養う。
3. 課題設定と問題解決の能力を高め、課題に積極的に挑戦する意欲を養う。
4. 健康な精神と肉体を培うとともに、趣味の涵養を通して豊かな人間性を養う。
5. 国際社会に対応できる英語をはじめとする外国語によるコミュニケーション能力を養う。
6. 総合的な視野から専門分野を理解し、その研究に必要な基礎知識を養う。

科目群は、上記目標に対応させて

- ① 人間性・社会性科目群（個人の尊重・社会的責任の認識）
- ② 地域性・国際性科目群（国際的感覚の育成）
- ③ 課題設定・問題解決科目群（課題設定・解決能力の育成）
- ④ スポーツ・表現活動科目群（スポーツ・表現活動を通じた人間性の育成）
- ⑤ 外国語科目群（外国語によるコミュニケーション能力の育成）
- ⑥ 専門基礎科目群

科目名： <b>人権と社会1</b>			
英文名： Human Rights and Society 1			
担当者： <sup>クマモト</sup> <sup>リサ</sup> 熊本 理抄			
単 位： 2単位	開講年次： 1年次	開講期： 前期	必修選択の別： 選択科目

### ■授業概要・方法等

共通教養科目です。

現代社会における人権課題を「自己・他者・社会との関係性」および社会構造の視点から学修します。また、「人権」「平等」「障害」「貧困」「労働」「自尊感情」「エンパワメント」「性」「差別」「排除」「暴力」などの概念や実体を歴史的視点と現代的視点から学修します。

マイノリティたちによる人権獲得に向けたとりくみについても学修します。

### ■学習・教育目標および到達目標

受講者は、現代社会における人権課題についての知識を得るとともに、自己・他者・社会に対する理解力、思考力、分析力を深め、人間らしく生きること（自立）や他者とつながりあうこと（共生）について考えていきます。

### ■授業時間外に必要な学修

授業で習ったことを日常の生活や人間関係へ応用し、その思考や理解を深めること。

日々の国内外の社会の動きについて新聞等でよく接し把握しながら、それらを論理的に思考すること。

### ■教科書

特に指定しません。

### ■参考文献

授業中に適時紹介します。

### ■関連科目

人権と社会2

### ■成績評価方法および基準

授業中課題（ふりかえりシート）90%

レポート 10%

### ■授業評価アンケート実施方法

学部実施規程に準拠して行います。

### ■研究室・E-mailアドレス

研究室（本館5階・507号室）

E-mailアドレス（kumamoto@kindai.ac.jp）

### ■オフィスアワー

月曜日3限と金曜日3限

### ■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 オリエンテーション：授業概要について

第2回 「医学モデル」と「社会モデル」から「障害」を考える

第3回 「形式的平等」と「実質的平等」

第4回 人権の歴史

第5回 「働く」ということ

第6回 子どもの貧困と子どもの権利

- 第7回 ジェンダーの視点からみる労働の課題
- 第8回 多様な性のあり方（1）sexとgender
- 第9回 多様な性のあり方（2）「性別二元論」を考える
- 第10回 多様な性のあり方（3）sexual minority
- 第11回 親密な関係性における暴力～デートDV
- 第12回 自尊感情とエンパワメント
- 第13回 部落問題を歴史的にとらえる
- 第14回 部落問題の現在
- 第15回 春期人権講演会



科目名： <b>人権と社会1</b>			
英文名： Human Rights and Society 1			
担当者： <sup>フジモト ノブキ</sup> 藤本 伸樹			
単 位： 2単位	開講年次： 1年次	開講期： 後期	必修選択の別： 選択科目

### ■授業概要・方法等

私たちが暮らす身近な地域社会、そして日本において、さらに他のアジア諸国・地域における人権状況を認識するとともに、人権の保護と推進に向けた課題は何なのかについて考えていきます。

同時に、人権保障をめざして、政府や地方自治体、市民社会（人権団体をはじめとするNGO、NPOなど）、さらには国連をはじめとする国際機関がどのような取り組みを行っているのかについて検証していきます。

### ■学習・教育目標および到達目標

受講者は、多様なルーツや属性を持つ人々、「社会的弱者」などが差別・排除されることなく、人権が保障され、各人が平等に参画できるような社会の実現に向けた道筋を考えるための知識と人権感覚を学修します。

### ■授業時間外に必要な学修

現代社会における人権や社会問題に焦点をあてて授業を進めることから、テレビや新聞などのメディア報道に日頃から「アンテナ」を張っておくとともに、それらは本当に「正しい情報・解説」なのかどうかを読み解こうとする姿勢が大切です。

### ■教科書

教科書は使用しません。プリントを適宜配布します。一部、ビデオ、DVDなどを使用してビジュアルな授業を行います。

### ■参考文献

- ・ 部落解放・人権研究所編『世界人権宣言の実現にむけて－日本の人権課題から』解放出版社、2008年
- ・ 編集委員会編『知っていますか？ 部落問題一問一答（第2版）』解放出版社、2002年
- ・ 奥田均『見なされる差別－なぜ、部落を避けるのか』解放出版社、2007年
- ・ 奥田均『差別のカラクリ』解放出版社、2009年
- ・ 船橋邦子『知っていますか？ ジェンダーと人権 一問一答（第2版）』解放出版社、2006年
- ・ 田中宏『在日コリアン権利宣言』岩波ブックレット、2002年
- ・ 移住労働者と連帯する全国ネットワーク編『多民族・多文化共生社会のこれから－NGOからの政策提言＜2009年改訂版＞』現代人文社、2009年
- ・ 神野直彦『「分かち合い」の経済学』岩波新書、2010年
- ・ 竹村毅『CSRと人権－雇用・職業を中心に』解放出版社、2008年

### ■関連科目

人権と社会2

### ■成績評価方法および基準

レポート試験 60%

授業時に課す小レポート（コミュニケーション・カード）40%

### ■授業評価アンケート実施方法

学部実施規程に準拠して行います。

### ■研究室・E-mailアドレス

E-mailアドレス：nfuji@hurights.or.jp

授業日以外の平日の連絡先：TEL：06-6543-7003

（一般財団法人）アジア・太平洋人権情報センター（ヒューライツ大阪）

〒550-0005 大阪市西区西本町1-7-7

CE西本町ビル8F

### ■オフィスアワー

質問や相談は、毎回の授業前、あるいは終了後に教室で声をかけてください。もしくは、E-mail(アドレス: nfuji@hurights.or.jp)にて連絡してください。

### ■授業計画の項目・内容及び到達目標

#### 第1回 オリエンテーション（授業内容と目的の説明）

授業の内容や進め方について

## 第2回 人権とはなにかー日本と世界の人権課題

人権(human rights)とはなにかを理解したうえで、グローバル化のなかの日本の人権状況と、国際社会における人権の課題や国際人権基準の概要を知る

## 第3回 身近な地域で考える人権 (1) 被差別部落出身者の人権

部落差別の現状と、差別撤廃のための課題

## 第4回 身近な地域で考える人権 (2) 女性の人権

就職や職場における課題を中心に、女性の人権を考える  
「男女共同参画社会」とは？

## 第5回 身近な地域で考える人権 (3) 在日コリアンの人権

在日コリアンに対する差別の歴史と現状、人権保障の課題を考える

## 第6回 身近な地域で考える人権 (4) 新来の在日外国人 (ニューカマー) の直面する人権問題

日本における人種差別の現状と、多民族・多文化共生社会への挑戦

## 第7回 身近な地域で考える人権 (5) 日本における外国人女性の人身売買

外国人女性が直面する日本での人身売買の実態と、解決への道

## 第8回 身近な地域で考える人権 (6) 日本への外国人労働者受け入れの課題

少子・高齢社会を迎えている日本における外国人労働者・移民の受け入れをめぐる課題を考える

## 第9回 身近な地域で考える人権 (7) 子どもの人権

子どもが直面している人権課題と、子どもの権利を考える

## 第10回 身近な地域で考える人権 (8) 障害者の人権

障害者が直面する課題を人権の視点から考える

## 第11回 アジアを歩いて考える人権 (1) 貧富の格差と児童労働の現状

南北問題や、国内外の貧富の格差を考える

## 第12回 アジアを歩いて考える人権 (2) 日本の国際開発協力

日本の政府開発援助 (ODA)の課題

## 第13回 アジアを歩いて考える人権 (3) 企業の社会的責任 (CSR) と人権

国内の企業、および外国に投資して活動する企業の社会的責任をめぐる国際基準を知る

## 第14回 アジアを歩いて考える人権 (4) 現場を歩いて知る人権問題

実際にアジアを歩いてみて、様々な経験や見聞を通して人権問題を知る

## 第15回 総復習

各回の授業を振り返りながら、本当の人権とは何かをあらためて考える

科目名： <b>人権と社会2</b>			
英文名： Human Rights and Society 2			
担当者： <small>クマモト リサ</small> 熊本 理抄			
単 位： 2単位	開講年次： 1年次	開講期： 後期	必修選択の別： 選択科目

### ■授業概要・方法等

共通教養科目です。

グローバル社会における人権課題を歴史的視点と関係性の視点から学修します。

国際社会や日本社会で何が起きているのか。自分たちが生きているこの社会は国際社会とどんなつながりをもっているのか。自分の日々の生活と国際社会や日本社会で日々起きていることが、どのように関連しているのか。現在、社会で起きていることは、どのような歴史性をもっているのか。グローバル化の視点から、現代社会を検証していきます。

また、「暴力」をキーワードに、日常生活における他者との関係性と、世界で起きている暴力の構造についての理解を深めていきます。

さらに、地域・国内・国際レベルにおいて、人権や平和を推進する活動を展開しているNPOやNGOのとりくみについて学修します。

### ■学習・教育目標および到達目標

受講者は、グローバルかつローカルな視点から自らの歴史的・社会的立場を理解・認識するとともに、社会を論理的に分析する力を身につけます。

### ■授業時間外に必要な学修

授業で習ったことを日常生活や人間関係へ応用し、その思考や理解を深めること。

日々の国内外の社会の動きについて新聞等でよく接し把握しながら、それらを論理的に思考すること。

### ■教科書

特に指定しません。

### ■参考文献

授業中に適時指示します。

### ■関連科目

人権と社会1

### ■成績評価方法および基準

授業中課題（ふりかえりシート）90%

レポート 10%

### ■授業評価アンケート実施方法

学部実施規程に準拠して行います。

### ■研究室・E-mailアドレス

研究室（本館5階・507号室）

E-mailアドレス（kumamoto@kindai.ac.jp）

### ■オフィスアワー

月曜日3限と金曜日3限

### ■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 オリエンテーション：授業概要について

第2回 わたしたちの暮らしと南北問題

第3回 児童労働～歴史、実態、問題点、解決に向けたとりくみ

第4回 児童買春・人身売買：日本における課題と解決に向けたとりくみ

第5回 人権の国際的保障と国際人権法の国内的实施

第6回 NPO / NGOの活動の意義と課題

第7回 市民主導の軍縮交渉

第8回 世界で起きている紛争とわたしたちの日常生活との関連について考える

第9回 「暴力」を通じて考える他者との関係性と社会構造

第10回 アジアにおける女性たちのとりくみ①「人間の尊厳」と「生存権」

第11回 アジアにおける女性たちのとりくみ②エンパワーメント・アプローチ

第12回 社会的排除とソーシャル・インクルージョン

第13回 社会的排除と「人権のまちづくり」

第14回 秋期人権講演会

第15回 人権週間人権講演会



科目名：暮らしのなかの憲法			
英文名：Constitution in Everyday Life			
担当者：イシダ ヒデアジロウ 石田 榮仁郎			
単 位：2単位	開講年次：1年次	開講期：後期	必修選択の別：選択科目

### ■授業概要・方法等

暮らしのなかの憲法の授業では、まず国の基本法であり、最高法規である憲法の講義をする。総論でわが国を含めた各国の憲法史を、すなわち各国の民主主義と人権の歴史を、また各論の統治機構でわが国の国会・内閣・裁判所及び地方自治の仕組みを概論的（入門的）に学び、私達の暮らしのなかでなぜ憲法の知識が必要なのかを学ぶ。

（受講にあたっての注意事項）

とにかく毎回授業に出席し、静かに講義を聴き、そしてノートをとること。大事なことは、毎回のテーマについて各自が問題意識をもつこと。以上の諸点を守って全授業に出席したなら、必ず良い結果が出る筈です。

### ■学習・教育目標および到達目標

上記の授業概要に示した内容を理解することによって、各国の民主主義と人権の歴史及びわが国の統治機構の仕組みを学び、もって憲法及び民主主義の理解に資することを学習・教育及び到達目標と致します。

### ■授業時間外に必要な学修

授業で学んだ内容を応用・発展すべく新聞等の報道をもとに更なる理解を深めること。

授業で資料的に取り上げた題材・内容については、図書館等でも確認し、更に発展的に学ぶことが望ましい。

次週の授業に関係する内容を新聞等でも検索しておくこと。

### ■教科書

石田榮仁郎編著・日本国憲法講義（啓正社）

### ■参考文献

別冊ジュリスト・憲法判例百選Ⅰ・Ⅱ（有斐閣）

図解による法律用語辞典（自由国民社）

### ■成績評価方法および基準

定期試験 70%

授業中の課題・小論文等 30%

### ■授業評価アンケート実施方法

授業中に授業アンケートを実施する。学部実施規程に準拠した具体的な方法は後日掲示する。

### ■研究室・E-mailアドレス

h-ishida@jus.kindai.ac.jp

### ■授業計画の項目・内容及び到達目標

#### 第1回 憲法への誘い 第1編 憲法総論 第1章 憲法の概念

憲法とは何かについての基本的な講義をし、暮らしのなかの憲法の講義を受講する必要性を説く。

#### 第2回 第2章 憲法の歴史 第1節 近代市民憲法の成立と展開

各国憲法の歴史は、とりもなおさずその国の民主主義の歴史、人権の歴史であることについて講義する。

#### 第3回 第2節 明治憲法の成立とその特色

わが国の最高法規としての最初の憲法である明治憲法の成立過程とその特色について講義する。日本国憲法下の天皇との対比で天皇制についてもふれる。

#### 第4回 第3節 日本国憲法の成立

現行憲法たる日本国憲法はどのようにして成立したか、その制定過程を考察する。

#### 第5回 第4節 日本国憲法の基本原理

国民主権・基本的人権の尊重・権力分立・戦争の放棄（国際平和主義）について講義する。ここでは特に、人権を中心に講義する。



第6回 第2編 憲法各論—統治機構— 第1章 国会 第1節 国会の地位と構成（1）

国会の地位並びに衆議院と参議院の相違点を組織上及び権能上に別けて講義する。

第7回 第1節 国会の地位と構成（2）

国会の地位並びに衆議院と参議院の相違点を組織上及び権能上に別けて講義する。

第8回 第2節 国会の権能及び議院の権能（1）

国会の権能と議院の権能との違いを明確にしながそれぞれについて講義する。

第9回 第2節 国会の権能及び議院の権能（2）

国会の権能と議院の権能との違いを明確にしながそれぞれについて講義する。

第10回 第2章 内閣

内閣の地位・構成・権能・責任について概略的に講義する。

第11回 第3章 司法

司法権の概念・裁判所の構成と権限・違憲審査権・司法権の独立について概略的に講義する。

第12回 第4章 地方自治

地方自治の概念・地方自治の本旨・地方公共団体の機関と権能・地方住民の権利について概略的に講義する。

第13回 暮らしのなかの憲法（総括1）

最近の時事問題と憲法（1）—主として政治の問題—

第14回 暮らしのなかの憲法（総括2）

最近の時事問題と憲法（2）—主として社会問題・人権問題—

第15回 暮らしのなかの憲法（総括3）

私達の暮らしのなかでなぜ憲法が必要なのか。

「定期試験」実施

科目名：現代社会と倫理			
英文名：Modern Society and Ethics			
担当者： <small>モリモト サトシ</small> 森本 聡			
単 位：2単位	開講年次：1年次	開講期：前期	必修選択の別：選択科目

### ■授業概要・方法等

今日は、この科目を担当しています森本です。倫理学（りんりがく）とは、かんたんに言えば、我々の行動ないし行為の善悪について考える学問です。倫理学の講義では、様々な哲学者の倫理に関する考え方を古いものから順番に紹介していくという講義スタイルが普通のようなのですが、この講義はそのようなやり方をなるべくやらないで、現代社会のさまざまな問題を通じて倫理的な考え方を身につけることをめざしています。そもそも倫理学という学問も現実の社会を理解し、その問題点を解決するための学問のはずです。ですから、この講義では過去の学説（がくせつ）の紹介は必要最小限にとどめて、現実の様々な問題に直接、斬（き）りこんでいくことを優先（ゆうせん）したい思います。なお、今年度の講義テーマのほとんどは、いわゆる生命倫理の分野に属しています。生命倫理とはなにかということも講義中に説明します。それでは新学期にお会いしましょう。

☆昨年度の受講生の感想例（原則として原文のまま。ただし、一部省略の場合あり）

○すごく為（ため）になる授業でした。私的にとても興味のもてる内容でした。

○医療に関するテーマを毎回取り上げてもらえたので、興味ももてた。高校では「受験勉強」ばかりで”教養”になるような学習ができなかったので、（中略）面白かった。

○しゃべり方と言葉づかいがとてもきれいですごく聞きやすい授業でした。ありがとうございました。

### ■学習・教育目標および到達目標

この講義は、

(1)受講生諸君の倫理的感覚を養うこと、

(2)ドイツの哲学者・カントの倫理的立場や功利主義など、倫理学の基本的立場を理解できるようになること、

(3)将来、受講生諸君が社会人となった時に、現実の社会で直面（ちよくめん）する可能性のある様々な倫理的問題に自分なりのしっかりした考え方でもって対処（たいしよ）できるようになることなどを

を学習・教育目標および到達目標としています。

### ■授業時間外に必要な学修

(1)講義で使用するプリントはなるべく早い目に配布するように心がけているので、配布されたプリントは前もって必ず読んでおくこと。

(2)また、原則として講義のたびごとに違う参考書を紹介するので、紹介した参考書等は、図書館などで必ず目を通し、重要な部分はメモをとるようにすること。

(3)その上で、新聞やインターネットのポータルサイトなどをこまめに閲覧し、この講義で取り上げるインフォームド・コンセントや遺伝子（いでんし）診断（しんだん）などに関する記事が掲載（けいさい）されていたら、スクラップブックを作り、そこに自分の感想を記入するなどして、講義に関する理解をより深めること。

（これらは、すべて定期試験対策に役立ちます。）

### ■教科書

特定の教科書は使用しません。そのつどプリントを配り、それを用いて講義をします。そのため、ある程度プリントの枚数が多くなること避けられません。そのことに関する苦情はお断りします。

### ■参考文献

たくさんありますので、講義中に紹介します。

### ■関連科目

哲学と人間・社会など

### ■成績評価方法および基準

定期試験 100%

### ■授業評価アンケート実施方法

学部実施規程に準拠して行います。

### ■授業計画の項目・内容及び到達目標

以下の講義計画はあくまで予定であって、変更の可能性があります。また一つのテーマが一回の講義で終わるとは限りません。また、講義のたびごとに質問カードを配布しますので、もし分からないことがあれば、そのカードを用いて必ず質問し、疑問点は後に残さないようにして下さい。（重要な質問には次回の講義でお答えします。）

#### 第1回 倫理学とは何かということおよび講義に関する諸注意など

倫理学とはそもそも何をやる学問かという質問をよく受けますので、そのことについてまずお答えします。

また、この講義を受講する上での諸注意などを行います。

## 第2回 インフォームド・コンセントについて――医療関係者のさりげない一言が患者を傷つける!?(1)

今回の講義では、病院などで医療行為を受ける場合でも、また、医療関係者が医療行為をおこなう場合でも大切なインフォームド・コンセントという概念（がいねん）が成立した過程（かてい）について講義します。

## 第3回 インフォームド・コンセントについて――医療関係者のさりげない一言が患者を傷つける!?(2)

今回の講義は、主としてインフォームド・コンセントの正式な手続きについてお話しいたします。

## 第4回 遺伝子（いでんし）診断（しんだん）――もしあなたの遺伝子診断の結果が悪かったら、あなたはどうする？(1)

今回の講義は、主としてめざましく進歩している遺伝子診断の現状（げんじょう）について講義します。

## 第5回 遺伝子診断――もしあなたの遺伝子診断の結果が悪かったら、あなたはどうする？(2)

今回の講義は、主として遺伝子診断の倫理的な問題点について講義します。

## 第6回 人体の商品化と臓器売買（ばいばい）の問題――あなたの死後、あなたの臓器や組織が「商品」として売られても、あなたは平気？

今回の講義は、先進国における人体の商品化と発展途上国における臓器売買の問題について考えます。

## 第7回 偉大な哲学者・カントの倫理的立場

今回の講義は、生命倫理を支える重要な柱であるカントの倫理的立場について講義します。

## 第8回 功利（こうり）主義について

今回の講義は、生命倫理を支えるもう一つの柱である功利主義について講義します。

## 第9回 安楽死（あんらくし）――「植物状態」になった時、あなたは延命（えんめい）を拒否しますか？

今回の講義は、安楽死のはらむ問題性について講義します。安楽死と言っても、消極的安楽死と積極的安楽死とは違います。

## 第10回 ホスピスと末期（まつき）医療――死は怖いだけのものか？

今回の講義は、生命倫理と関係するホスピスと末期医療の現状と問題点について講義します。

## 第11回 生命倫理学についての時事（じじ）ネタコーナー(1)

今回の講義は、生命倫理学の分野およびそれと関連する分野で今現在問題になっているいわば時事ネタを取り上げます。内容はその時のお楽しみ!!

## 第12回 生命倫理学についての時事ネタコーナー(2)

今回の講義も、生命倫理学の分野およびそれと関連する分野で今現在問題になっているいわば時事ネタを取り上げます。内容はその時のお楽しみ!!

## 第13回 非配偶（ひはいぐう）者からの精子提供による人工授精の問題と卵子の値段――あなたは札束（さつたば）をつまれば卵子を売りますか？

非配偶者からの精子提供による人工授精の問題では、これまでその技術によって生まれてくる人の立場に立って考えるという視点がありませんでした。また一方では、人間の卵子の売買もアメリカなどを中心に広がってきています。今回の講義は、これら問題について考えます。

## 第14回 （社会倫理に関する特別コーナー）ワーキングプアと格差（かくさ）社会の問題――あなたも私も将来は公園で空き缶ひろい？

働いているのに年収が二百万円に満たない人をワーキングプアと言います。日本の労働者の三人に一人はすでにワーキングプアであると言われていています。今回の講義は、現在の日本の社会に深刻（しんこく）な影響（えいきょう）を与えつつあるワーキングプアと格差（かくさ）の問題について考察します。

## 第15回 講義のまとめと試験対策

予定では、今回は、今までの講義のまとめをすると同時に、試験対策をおこないます。

定期試験



科目名： <b>心理と行動</b>			
英文名： Psychology and Action			
担当者： <small>ナカミチ キヨ</small> 中道 希容			
単 位： 2単位	開講年次： 1年次	開講期： 後期	必修選択の別： 選択科目

### ■授業概要・方法等

心理学全般について、行動の観察、行動を指標として実施された調査や実験等から得られた“こころ”のはたらきの基本法則を身近な日常例を題材にして学びます。また、その基本法則を理解するために、教室内で簡単な実験、調査を実施し、その結果を分析します。

### ■学習・教育目標および到達目標

履修者は、以下のことが習得できます。

- (1)心理学全般にわたる人間のこころの働きについての基本法則、現象、それらを説明する専門用語についての知識を得る。
- (2)講義で得た知識が日常生活のさまざまな場面をどのように説明するかを知る。
- (3)その知識を土台にして、自分や自分の周りの人々の行動を理解することの一助とする。

### ■授業時間外に必要な学修

講義内容について、日常生活のどのような場面にどのように適用できるかを考え、理解を深めること。各授業テーマごとに何を考えるのかを呈示します。

### ■教科書

指定しません。

(講義用参考資料は各テーマごとに講義時に配布する)

### ■参考文献

「心理学の基礎」 今田寛・宮田洋・賀集寛共編 培風館

「不思議現象 なぜ信じるのか こころの科学入門」 菊池聡・谷口高士・宮本博章編著 北大路書房

また、心理学の様々な分野についての基礎知識を得るためには、培風館から発刊されている今田寛・八木昭弘監修の現代心理学シリーズ全16巻を推薦します。

### ■関連科目

なし

### ■成績評価方法および基準

定期試験 70%

授業時間内に出す課題と小実験、調査の分析 30%

### ■授業評価アンケート実施方法

学部実施規程に準拠して行います。

### ■授業計画の項目・内容及び到達目標

#### 第1回 心理学とは？

一般社会における心理学という学問に対する誤解を示し、心理学とはいかなる学問かを説明する。また、講義目的、到達目標について説明する。

#### 第2回 心理学の歴史、方法論について

心理学が今までどのように歩んできたかを「研究対象」の歴史を追うことで説明する。

#### 第3回 パーソナリティ①

性格とは何か、また、性格はどのようにして形成されるのかについて講義する。

#### 第4回 パーソナリティ②

性格の測定方法について解説する。

#### 第5回 パーソナリティ③

性格検査を実施して“自分”を測定し、性格検査についての理解を深める。

## 第6回 学習の理論①

学びの法則に基づき、自分の行動や他人の行動をコントロールする方法について考える（その1）。

## 第7回 学習の理論②

学びの法則に基づき、自分の行動や他人の行動をコントロールする方法について考える（その2）。

## 第8回 学習の理論③

日常に起こるさまざまな行動の問題を学習理論を用いて解決する方法を探る。

## 第9回 記憶①

簡単な記憶力テストの実施。自分の記憶力を測ってみよう。

## 第10回 記憶②

記憶の過程とそれぞれの過程に関わるさまざまな要因について考えよう。記憶の法則を駆使して、記憶力向上法を見つけよう。

## 第11回 知覚と感覚

わたしたちが感じている世界は本当の世界だろうか。主に、錯覚を題材にして、知覚と感覚の仕組みについて説明する。

## 第12回 適応の心理①（動機）

行動を分析する上で重要な概念である『動機』について解説する。

## 第13回 適応の心理②（欲求不満、ストレス）

欲求不満に対する反応の種類について説明する。普段自分がよく使用する反応について考えてみよう。ストレスとその対処法について説明する。効果的なストレス対処法とは？何かを模索する。

## 第14回 「ニセ科学」について心理学的に考える

『血液型と性格』を題材にし、ニセ科学がどうして信じられるのか、その心理過程について分析する。

## 第15回 『考える』ということを考える

人間の『考え』たり、『判断する』ときのくせや偏りについて、実際に問題を解きながら説明する。

## 定期試験

記号選択問題、内容記述問題、穴埋め問題、用語解説問題とさまざまな問題形式から出題します。



科目名：現代経済の課題			
英文名：Problems of Modern Economics			
担当者：呉 喆人			
単 位：2単位	開講年次：1年次	開講期：前期	必修選択の別：選択科目

### ■授業概要・方法等

日本は、失業、高齢化、年金、格差、地震など数多くの問題を抱えている。これらの問題をどのように見るべきか、どのような対応をとるべきか？本講義では、

- ①経済学の基礎知識を教える上で、
- ②これらの課題に関する一流経済学者の考え方を、具体的な事例とともに紹介する。

※講義では計算問題がある（ただし、難しい数式を使わない）。なお、グラフでの説明が多い。

### ■学習・教育目標および到達目標

- ①日本が現在抱えている課題を正しく理解すること。
- ②経済学的思考のセンスを磨き、経済学の視点で物事の本質を見抜く能力を養成すること。

### ■授業時間外に必要な学修

講義で紹介した文献を積極的に読み、質問があればオフィスアワーに教員に質問すること。  
授業で習ったことを日常生活に応用し、経済学の視点から身近な社会現象を解釈し、理解を深めること。

### ■教科書

大竹文雄『経済学的思考のセンス—お金がない人を助けるには』（中公新書）、中央公論新社、2005年。 価格：819円

### ■参考文献

N.グレゴリー マンキュー『マンキュー経済学〈1〉ミクロ編』（第2版）、東洋経済新報社、2005年。 価格：4200円

### ■関連科目

なし

### ■成績評価方法および基準

中間試験（持込OK）40%  
期末試験（持込不可）60%

### ■授業評価アンケート実施方法

学部実施規程に準拠して行います。

### ■研究室・E-mailアドレス

B館2K

### ■オフィスアワー

火曜日2限

### ■授業計画の項目・内容及び到達目標

#### 第1回 インTRODクシヨン

- ①講義の説明
- ②経済学と経済学的思考のセンス

#### 第2回 需要と供給（1）

- ①需要と需要曲線
- ②供給と供給曲線

#### 第3回 需要と供給（2）

- ①需要と供給を組み合わせる
- ②練習問題

#### 第4回 ルックスと賃金

- ①女性はなぜ、背の高い男性を好むのか？

②美男美女は本当に得か？

## 第5回 肥満の経済学

- ①太るアメリカ人、痩せる日本女性
- ②時間非整合性と肥満

## 第6回 因果関係と相関関係

- ①因果関係と相関関係
- ②応用例：イイ男は結婚しているか

## 第7回 地震保険と税金でみる金銭的インセンティブ

- ①自然災害に備えるには：地震保険から見る金銭的インセンティブ
- ②節税のために長生き：相続税で見る金銭的インセンティブ

## 第8回 中間試験

中間試験（持ち込みOK）

## 第9回 価格弾力性とその応用（1）

- ①需要の価格弾力性
- ②供給の価格弾力性

## 第10回 価格弾力性とその応用（2）

- ①価格弾力性の応用：豊作貧乏、麻薬対策など
- ②練習問題

## 第11回 日本の雇用慣行

日本の雇用慣行は崩壊したのか？

## 第12回 年功賃金の経済学

- ①年功賃金は「ネズミ講」だったのか？
- ②年功賃金と成果主義
- ③年功賃金はなぜ好まれる？

## 第13回 減給と失業

- ①賃金カットか人員整理か？
- ②失業と自殺・犯罪の関係

## 第14回 所得格差と再分配（1）

- ①日本の不平等
- ②見かけの不平等と真の不平等

## 第15回 所得格差と再分配（2）と復習

- ①所得格差と「小さな政府」
- ②全体の復習

## 定期試験

中間試験と期末試験

科目名： <b>自校学習</b>			
英文名： Studies of Kinki University			
担当者： <small>ナカムラ タケオ マツノ スミオ オオウチ ヒデカズ タガ アツシ</small> 中村 武夫・松野 純男・大内 秀一・多賀 淳			
単 位： 2単位	開講年次： 1年次	開講期： 通年・集中	必修選択の別： 選択科目

### ■授業概要・方法等

「実学教育」、「人格の陶冶」を重視する建学精神と「人に愛される人、信頼される人、尊敬される人」を育成することを教育目的とする近畿大学は創設以来、実社会に役立つ人材を育成する「実学」を中心とした実践的な教育と研究を行ってきました。様々な問題を抱える現代社会にあって、「未来志向の実学精神」が求められています。共通教養科目は、その根幹となる重要な科目群であり、今後、社会人として必要な幅広い見識を形成するためのものです。本授業は、近畿大学の学生として、本学の教育理念、教育目標・目的を理解し、自ら学ぶ意欲と習慣を身につけ、今後の学園生活を有意義に送ることができる、その動機づけを目指すものです。実施の順序については、変更になる可能性があります。

### ■学習・教育目標および到達目標

近畿大学の歴史と伝統および今後の展望を知り、大学の一員としての自覚と誇りを持つことができるよう、総合大学としての近畿大学の概要、また近畿大学薬学部ならではの教育・研究内容を知る。さらに自ら学ぶ意欲と習慣を身につけ、社会の要請に応えられるべく人材となるために必要とされる社会人基礎力礎力修得への動機づけを到達目標とする。

### ■授業時間外に必要な学修

近畿大学のホームページを定期的に見直し、近畿大学について知ること。また社会の動向についてニュース等を通して知ること。

### ■教科書

適宜、プリント等を配布する。

### ■関連科目

基礎ゼミ、薬学概論等の主として1年次開講科目

### ■成績評価方法および基準

課題レポート 100%

### ■授業評価アンケート実施方法

学部実施規程に準拠して行います。

### ■研究室・E-mailアドレス

(中村) 教育専門部門naktak@phar.kindai.ac.jp  
(松野) 教育専門部門smatzno@phar.kindai.ac.jp  
(大内) 教育専門部門  
(多賀) punk@phar.kindai.ac.jp

### ■オフィスアワー

(中村) 水曜日 16:30～18:00

### ■授業計画の項目・内容及び到達目標

#### 第1回 自校学習について

自校学習とは何か、なぜ自校学習を学ぶ必要があるのかについて説明するとともに、大学での授業の受け方等について説明する。

#### 第2回 自己発見レポート

自己分析、学習意欲改善等を目的とした自己発見レポートを実施する。

#### 第3回 近畿大学の理念、教育目標

近畿大学全体における教育の理念、目標について説明する。

#### 第4回 近畿大学の建学の精神

「近畿大学の過去・現在・未来」について、DVDを視聴しながら説明する。

## 第5回 自己発見レポートフォローガイダンス

自己発見レポートの診断結果に基づき、自分の長所・短所を認識し、各自に適した学習意欲改善についてフォローガイダンスを行う。

## 第6回 マイキャンパスプランの作成

近畿大学での学生生活について、自分で目標・計画を立て、充実したキャンパスライフを送れるように心がける。

## 第7回 学生生活における危機管理

大学生活を始めるに際しての、飲酒・薬物使用・犯罪等についての危機管理に関する講演を聞く。

## 第8回 OB、OGの話を聞こう（1）

近畿大学の卒業生である(株)中村ブレイス 中村俊郎氏からの近畿大学これから学ぼうとする人たちへのメッセージをDVDを通して視聴し、ディスカッションする。

## 第9回 近畿大学薬学部を知る（1）

近畿大学薬学部における教育内容や各学科ごとの進路等について説明する。

## 第10回 近畿大学薬学部を知る（2）

近畿大学薬学部の各研究室・部門、薬学総合研究所等について紹介する。また興味を抱いた研究内容等をレポートにまとめる。

## 第11回 社会人基礎力について

集団の中で多様な人々と関わりをもち、生活していく上において必要な社会人基礎力について説明する。

## 第12回 人間力について

社会を構成し運営するとともに、自立した一人の人間として力強く生きていくための総合的な力である人間力について説明する。

## 第13回 OB、OGの話を聞こう（2）

社会の中で活躍されている近畿大学卒業の先輩たちから大学での学びの重要性、こころ構え等についての話を聞く。

## 第14回 5Sについて

企業等で合理的生産活動の実施、改善改革の第一歩とされる5S「整理・整頓・清掃・清潔・躰」の学習への適用について説明する。

## 第15回 近畿大学を体験する

近畿大学にあるユニークな施設の1つである英語村で開催されるアクティビティ、また近畿大学浄化プログラム等への参加を通して、近畿大学の特色を体験する。



科目名： <b>住みよい社会と福祉</b>			
英文名： Welfare and Society Better to Live In			
担当者： <b>久保 克己</b>			
単 位： 2単位	開講年次： 2年次	開講期： 後期	必修選択の別： 選択科目

### ■授業概要・方法等

福祉の目的は、個人の生命・生活・労働を守ることです。守りが弱いと攻め続けること、働き続けることができなくなります。しかし、弱みをみせない人、できないことや弱いところを隠そうとする人がまだまだ多いようです。誰にでも苦手なことがあります。得意なこともあります。自分の得意が他者の苦手を助け、他者の得意が自分の苦手を助けることを相互扶助といい、福祉の原点でした。

困っていることを隠し続けていると誰も助けてくれません。国や自治体も助けてくれません。困っていることやできないことを自分で知ること、明確にしていくこと、誰かに伝えていく中に、改善策が生まれます。国家に対しても、困難性を伝えていかないと無作為のまま終わってしまいます。

日本国憲法は、国民一人一人の健康、暮らし、学び、働きなどを国家が保障することを謳っています。国民の生活・労働を守る責務があります。格差の拡大、貧困率の高さなど、我が国の現状を直視し、国民一人一人が生活と労働の豊かさを実感できるような方策を共に考えていきましょう。何が必要なのか、何が欠けているのか、いくつかの課題を共に考えながら、講義を進めていきます。

法学部においては、法律や制度に重点をおいた講義を、薬学部においては、生命と健康を守ることを目的として、ICFの障害定義やwell-being等に重点をおいた講義を予定しています。

### ■学習・教育目標および到達目標

みなさんの潜在的な可能性が将来の実行力に転じていくよう、数々の情報を提供します。協同を介した新たな能力、協同による新たな努力、協同性を広げること、関係性を豊かにすること、分かち合うことなど、人間存在の本来の姿を探ることを目標とします。

### ■授業時間外に必要な学修

講義用参考資料をよく読み、講義内容等と融合させ整理すること。

### ■教科書

特に指定しない

講義用参考資料（毎回資料を配布する）

### ■関連科目

人類学、社会保障論、経済学など

### ■成績評価方法および基準

定期試験 60%

授業中課題 40%

### ■授業評価アンケート実施方法

学部実施規程に準拠して行います。

### ■研究室・E-mailアドレス

なし

### ■オフィスアワー

なし

### ■授業計画の項目・内容及び到達目標

#### 第1回 生活の社会化、共用化にともなう利点と課題

- ①社会福祉的機能について
- ②講義の流れについて

#### 第2回 現代社会の状況について

- ①一人一人が個人として尊重されていない
- ②個人と社会との関係について
- ③高い自死率
- ④正規雇用が減少し非正規雇用が増加
- ⑤犯罪の増加



### 第3回 人間性について探る

- ①他の動物（犬や猫や象など）との違い
- ②関係力、社会力、コミュニケーション
- ③道具の使用と随意運動
- ④コトバ、記号化と記憶容量の拡大、意識の生成
- ⑤個別化と社会化

### 第4回 働く：傍（ハタ）を楽（ラク）にするということ

- ①働くことがヒトと他の動物との違いを生み出してきた
- ②働くことを介して他者との関係性が豊かになる
- ③貨幣の出現が働く目的、働き方を変えてしまった

### 第5回 働くことが尊重されていない現代社会

- ①労働者派遣法とワーキングプア現象
- ②安い賃金、厳しい労働条件、ブラック企業化現象
- ③消費活動と自己表現
- ④地域間による求人需要の格差
- ⑤decent workについて

### 第6回 貧困について

- ①貧困状況は個人の怠惰の結果ではない
- ②英国では農民から畑を奪って羊を育てる牧場を増やしてきた
- ③熟練工の仕事→機械に置き換え、単能工を安く多数雇う

### 第7回 生きること、暮らすことについて

- ①ヒトとして生きること
- ②栄養、酸素、新陳代謝、睡眠、より良く生きること
- ③細胞内ミトコンドリアとの共生関係
- ④睡眠や休息するということが重視されていない
- ⑤人間としての存在は本源的に关系的・協同的・相互依存的である

### 第8回 環境問題について

- ①住みやすい暮らし：よい環境の必要性
- ②原子力発電と安全神話 水俣病と国の責任
- ③食の安全よりも売上げ重視（偽装事件）
- ④薬害事故多発と事後対応（命を守ることの責任）
- ⑤有害廃棄物の処理や大気汚染防止（安心・安全・人間発達保障）
- ⑥発病は全て個人の責任か

### 第9回 住宅・居住問題

- ①人生の2分の1、1日の半分位を過ごす空間と場をどう考える
- ②居住環境と健康問題 狭小住宅と寝たきり老人
- ③ホームレスの現状（家がない人への人間発達保障は？）

### 第10回 ability と capability の違い

- ①できるということについて考える
- ②capability（道具・機械・情報などを活用していけば能力は拡大する）
- ③所得と実行力（agency）
- ④できないということについて考える

### 第11回 国際障害分類（ICF）と誰にでもある障害

- ①ICFについて
- ②障害事象
- ③ストレングスモデルの紹介
- ④生活領域の拡大にともなう障害事象の生成

### 第12回 GDP再考

- ①GDPが世界で第3位でも幸福を実感できないのはなぜ
- ②GDPの増大よりも国民のagency(実行力)増大をめざすべき
- ③負のコストについて
- ④GPI(真の発展指標)について

#### 第13回 社会参加度の不平等、機会の不平等について

- ①全世界の労働者28億人の内半数14億人は1日2ドル以下の収入
- ②ジニ係数(経済格差の指標)が増加しつつある
- ③富める者には機会が多く、貧しき者には選択肢が少ない
- ④お金がないとできないことが増えていく

#### 第14回 時流に沿ったトピックスについて共に考える

- ①ベーシックインカム
- ②アクチベーション論

#### 第15回 まとめ

これまでの講義内容に関連した課題を与え、各自の考え、提案等をお互いに討議する

#### 定期試験

これまでの講義内容から課題を集約し、小論文を作成していただく

科目名： <b>生活環境科学</b>			
英文名： Living Environmental Science			
担当者： <small>ナカムラ タケオ</small> 中村 武夫			
単 位： 2単位	開講年次： 1年次	開講期： 後期	必修選択の別： 選択科目

### ■授業概要・方法等

人は、その取り巻く種々の環境の中で生活、生存しています。地球環境のみならず、地域社会環境、家庭環境、教育環境、医療環境、経済環境など、さまざまな環境が人を取り巻いており、その環境の変化は、人の健康状態、生活の質に影響を及ぼします。本授業では、適宜、配布プリントを使用しながら、トピックス的な内容より生活環境における事象を種々の科学的視点から考究していきます。また課題レポートを作成することによって、より深い理解に努めていただきたい。

### ■学習・教育目標および到達目標

生活環境の中で起こっているさまざまな事象について、薬学的な視点から考え、関連する知識を習得することのみならず、関心をもってより深く学ぶ能動的学習態度を修得することを教育目標とします。

<一般目標> C12 環境 (2) 生活環境と健康：

生態系や生活環境を保全、維持するために、それらに影響を及ぼす自然現象、人為的活動を理解し、環境汚染物質などの成因、人体への影響、汚染防止、汚染除去などに関する基本的知識と技能を修得し、環境の改善に向かって努力する態度を身につける。

<一般目標> C11 健康 (3) 疾病の予防：

公衆衛生の向上に貢献するために、感染症、生活習慣病、職業病についての現状とその予防に関する基本的知識、技能、態度を修得する。

<一般目標> A 全学年を通して：ヒューマニズムについて学ぶ (1) 生と死：

生命の尊さを認識し、人の誕生から死までの間に起こりうる様々な問題を通して医療における倫理の重要性を学ぶ。

### ■授業時間外に必要な学修

新聞、インターネットやテレビ報道の中に本科目に関連した内容が多く見受けられます。常日頃より報道内容に関心を持ち、本科目との関連を意識してください。

### ■教科書

適宜、プリントを配布します。

### ■関連科目

環境衛生学、保健衛生学、生命倫理、医療・薬事関係法規 1

### ■成績評価方法および基準

課題レポート 30%

定期試験 70%

### ■授業評価アンケート実施方法

学部実施規程に準拠して行います。

### ■研究室・E-mailアドレス

教育専門部門 naktak@phar.kindai.ac.jp

### ■オフィスアワー

水曜日16:30～18:00

### ■授業計画の項目・内容及び到達目標

#### 第1回 イン트로ダクション

生活とは何かについて共に考え、さらに生活環境の具体例を挙げながら、その中での問題点、社会的課題をピックアップしながら若干の概説を行う。

#### 第2回 生活環境としての家庭・家族

家族を中心とした個人の生活空間である家庭は、生活の拠りどころ、拠点である。ヒトが健康で幸福な生活を営む場である家庭、また家庭を構成する家族のあるべき姿、また問題点について考える。

#### 第3回 生活環境の中の有害物質 (1)

人の生存に必須な空気中に含まれる有害物質による健康障害の1つとして、シックハウス症候群や化学物質過敏症などがある。それらの原因、対策等について説明する。

<到達目標> C12 環境 (2) 生活環境と健康  
【室内環境】 4) シックハウス症候群について概説できる。

#### 第4回 生活環境の中の有害物質 (2)

飲料水の安全性が危惧されはじめ、ペットボトル飲料水の消費量が増大している。トリハロメタンといった発ガン物質に関連して、水の安全性について考える。

<到達目標> C12 環境 (2) 生活環境と健康  
【水環境】 3) 水の塩素処理の原理と問題点について説明できる。

#### 第5回 生活環境の中の有害物質 (3)

生活者の中にじわじわと流行しつつある薬物汚染に関して、大麻、麻薬、覚せい剤といった薬物による健康障害について、実態を紹介し、法による規制について解説を加え、防止対策について討議する。

<到達目標> C18 薬学と社会 (1) 薬剤師を取り巻く法律と制度  
【管理薬】 1) 麻薬及び向精神薬取締法を概説し、規制される代表的な医薬品を列挙できる。  
2) 覚せい剤取締法を概説し、規制される代表的な医薬品を列挙できる。  
3) 大麻取締法およびあへん法を概説できる。

#### 第6回 人間活動と地球環境問題

地球温暖化やオゾン層破壊といった地球規模での環境問題について、人間の行動を中心として、その背景、現状、対策について考え、グローバルな環境問題が人間の生活、健康状態に及ぼす影響をもたらしつつあるについても考える。

<到達目標> C12 環境 (2) 生活環境と健康  
【地球環境と生態系】 4) 地球規模の環境問題の成因、人に与える影響について説明できる。

#### 第7回 生活環境からの廃棄物 (1)

人が生活を営んでいる中で、種々の廃棄物が発生する。食品廃棄物を中心に、排出の現状や行政による取組みを紹介し、食品廃棄物の有効利用について考える。

<到達目標> C12 環境 (2) 生活環境と健康  
【廃棄物】 1) 廃棄物の種類を列挙できる。  
2) 廃棄物処理の問題点を列挙し、その対策を説明できる。

#### 第8回 生活環境からの廃棄物 (2)

社会の高齢化が進む中であって、高齢者の医療・介護問題が深刻化している。医療機関のみならず在宅からの医療や介護に関わる廃棄物による問題点を上げ、現状と対策、課題について説明する。

<到達目標> C12 環境 (2) 生活環境と健康  
【廃棄物】 1) 廃棄物の種類を列挙できる。  
2) 廃棄物処理の問題点を列挙し、その対策を説明できる。

#### 第9回 生活環境からの廃棄物 (3)

「廃棄物」を「有用副産物」として認識し、その資源化有効利用について、「バイオマスニッポン総合戦略」と関連付けながら説明する。

<到達目標> C12 環境 (2) 生活環境と健康  
【廃棄物】 2) 廃棄物処理の問題点を列挙し、その対策を説明できる。

#### 第10回 生活環境と感染症 (1)

インフルエンザをはじめとする感染症の流行は、一度に多人数の健康・生命を脅かす。社会的混乱をも引き起こしかねないパンデミック問題に関連し、危機管理のあり方についても考える。

<到達目標> C11 健康 (3) 疾病の予防  
【感染症の現状とその予防】 1) 現代における感染症（日和見感染、院内感染、国際感染症など）の特徴について説明できる。  
2) 新興感染症および再興感染症について代表的な例を挙げて説明できる。

#### 第11回 生活環境と感染症 (2)

日常生活活動において留意すべき感染症としての性行為感染症について、発症背景、予防策等について説明する。

<到達目標> C11 健康 (3) 疾病の予防  
【感染症の現状とその予防】 5) 性行為感染症を列挙し、その予防対策と治療について説明できる。

#### 第12回 健康な生活と生活環境 (1)

21世紀における国民健康づくり運動（健康日本21）のうち、栄養、運動に関する内容およびメタボリック症候群や健康食品



等について、科学的視点から考える。

<到達目標> C11 健康 (3) 疾病の予防

【生活習慣病とその予防】 1) 生活習慣病の種類とその動向について説明できる。

2) 生活習慣病のリスク要因を列挙できる。

### 第13回 健康な生活と生活環境 (2)

健康日本21のうち、こころの健康、WHO憲章中の健康の定義にある精神的および社会的健康について、生活環境の中での問題、解決方法等について考える。

<到達目標> C11 健康 (3) 疾病の予防

【生活習慣病とその予防】 1) 生活習慣病の種類とその動向について説明できる。

2) 生活習慣病のリスク要因を列挙できる。

### 第14回 生活環境の中で出会う「生」

生命の育みが行われる生活環境の中で出会う「生」は大きな喜びの1つである。母子保健、健やか親子21に関連して、生活環境の中の「生」をめぐる諸問題について考える。

<到達目標> A 全学年を通して：ヒューマニズムについて学ぶ (1) 生と死

【生命の尊厳】 1. 人の誕生、成長、加齢、死の意味を考察し、討議する。

2. 誕生に関わる倫理的問題（生殖技術、クローン技術、出生前診断など）の概略と問題点を説明できる。

### 第15回 生活環境の中で出会う「死」

生活環境の中で出会うさまざまな「死」は大きな悲しみの1つである。自殺、安楽死、尊厳死、死生観等について、科学的な視点から考究する。

<到達目標> A 全学年を通して：ヒューマニズムについて学ぶ (1) 生と死

【生命の尊厳】 1. 人の誕生、成長、加齢、死の意味を考察し、討議する。

4. 死に関わる倫理的問題（安楽死、尊厳死、脳死など）の概略と問題点を説明できる。

### 定期試験

授業中の課題を中心とした記述形式の試験を行う。



科目名：基礎ゼミ

英文名：Foundation Seminar

担当者：中村 武夫・市田 成志・掛樋 一晃・三木 康義・村岡 修・岩城 正宏・杉浦 麗子・西田 賢治・  
 升三・川畑 篤史・松田 秀秋・鈴木 茂生・高田 充隆・眞砂 薫・仲西 功・松山 賢治・  
 伊藤 栄次・川崎 直人・松野 純男・小竹 武・中山 隆志・武智 昌幸・大内 秀一・角谷 俊二・  
 晃司・益子 高・伊藤 吉将・藤岡 真由美・田邊 元三・和田 哲幸・八木 秀樹・関口 俊二・  
 富美子・北小路 学・三田村 邦子・森川 敏生・細見 光一・森山 博由・大鳥 徹・石渡 敬二・  
 俊二・多賀 淳・前川 智弘・谷野 公俊・木下 充弘・川瀬 篤史・村田 和也・西脇 敬二・  
 井上 知美・二宮 清文・船上 仁範・長井 紀章・椿 正寛・喜多 綾子・緒方 文彦・松尾 一彦・  
 坪田 真帆・中村 真也・山本 哲志・山本 佐知雄・藤本 麻依・八軒 浩子・島倉 知里

単 位：2単位	開講年次：1年次	開講期：前期	必修選択の別：必修科目
---------	----------	--------	-------------

### ■授業概要・方法等

医療の高度化、薬学の進歩、また医療現場においては患者さんを中心とするチーム医療や医薬分業の推進により、薬剤師には高い能力が求められている。また、科学の進歩や変化に対応して年々新しい知識が加わるため、薬学の勉強量は膨大なものとなっている。したがって、社会のニーズに応える薬剤師、創薬研究者となるためには、自ら問題を見つけ、情報を検索・収集し、得た知識を持って自ら問題を解決する能力が必要となる。そのため薬学生には、これまでの“知識偏重型”の受動的な勉強スタイルから脱却し、自らが課題を見出す、「問題発見型」の能動的な勉強スタイルでの学習態度を身につける必要がある。

そこで基礎ゼミでは、提起された課題について少人数のグループでの討論を通じて論理的思考力、表現力、判断力を養成し、またグループの意見を整理して発表することによって、社会に通用するプレゼンテーション能力を獲得することを目指している。

討論する課題は、各グループ内で協議して決定する。そのために、基礎ゼミ開講までに、参考書に指定された図書あるいは薬学に関する任意の図書を読んでおき、その中から討議したいテーマ(課題)を各自提案する。提案された複数のテーマの中から、一つの課題に絞り込む。

毎回の授業は、提起された課題について各自が調査してきた内容を発表し、進行係のリードのもと討論を行う。したがって、図書館やインターネットあるいはフィールドワークなどを駆使して授業時間外に調査・学習することが必須となる。約10回のゼミで議論した内容は、最終的に1枚のポスターにまとめ、ポスター発表形式で成果を発表し、グループ間による討議を実施する。

以上のような内容に重点を置く一方で、この授業は教員と学生間あるいは学生同士のコミュニケーションを促し、大学生活が円滑に送れるようにするための第一歩と位置づけている。

### ■学習・教育目標および到達目標

基礎ゼミでは、卒業まで目的意識を持って計画的に勉強に取り組めるようになるために学部教育に関するガイダンスを行う。また将来、薬剤師あるいは創薬研究者といった医療に関わる専門家となるために、特定の課題について科学的な視点から「調べる」、「発表する」、「討議する」そして「書く」という基本的なコミュニケーションやプレゼンテーション能力を習得する。

<一般目標>ヒューマニズムについて学ぶ

生命に関わる職業人となることを自覚し、それにふさわしい行動・態度をとることができるようになるために、人との共感的態度を身につけ、信頼関係を醸成し、さらに生涯にわたってそれらを向上させる習慣を身につける。

(2) 医療の担い手としてのこころ構え

常に社会に目を向け、生涯にわたって医療を通して社会に貢献できるようになるために必要なこころ構えを身につける。

(3) 信頼関係の確立を目指して

医療の担い手の一員である薬学専門家として、患者、同僚、地域社会との信頼関係を確立できるようになるために、相手の心理、立場、環境を理解するための基本的知識、技能、態度を修得する。

<一般目標> F薬学準備教育ガイドライン

(8) プレゼンテーション

必要な情報、意思の伝達を行うことができ、集団の意見を整理して発表できるようになるために、プレゼンテーションの基本的知識、技能、態度を修得する。

### ■授業時間外に必要な学修

- ・参考書として指定された図書あるいは薬学に関する任意の図書を読み、その中から討議したいテーマ(課題)を考える。
- ・設定した課題に対して、図書館やインターネットあるいはフィールドワークなどを駆使して授業時間外に調査・学習をする。

### ■教科書

指定しない

### ■参考文献

入学時に配布した推薦図書リストにある書籍

### ■関連科目

卒業研究  
総合薬学研究1  
総合薬学研究2  
総合薬学研究3  
病院実務実習  
薬局実務実習

#### ■成績評価方法および基準

レポート 55%

課題調査・発言内容・議事進行・議事録作成などの授業への取り組み姿勢 45%

#### ■授業評価アンケート実施方法

学部実施規程に準拠して行います。

#### ■研究室・E-mailアドレス

連絡は各アドバイザー教員、あるいは、

総括担当：中村武夫（教育専門部門）

naktak@phar.kindai.ac.jp

まで。

#### ■オフィスアワー

各アドバイザー教員のオフィスアワーは、授業時に確認してください。

#### ■授業計画の項目・内容及び到達目標

##### 第1回 基礎ゼミおよび薬学部履修要項について

基礎ゼミについて（趣旨、進めかた、参加の心構え、スケジュール、成績評価法など）の内容をかみ砕いてわかりやすく説明する。そして今後の各回における議事進行係、議事録作成係を決める。また、薬学部履修要項（履修登録、試験、成績評価、進級基準など）や履修確認表による単位認定確認についても詳細に解説するので、入学時に配布した薬学部履修要項冊子を忘れずに持参すること。

<到達目標>

- 1) 基礎ゼミの趣旨を理解し、毎回の授業で何をなすべきかを説明できる。
- 2) 薬学部の履修要項を理解し、試験システムや進級基準を説明できる。

##### 第2回 テーマ（課題）設定1

各グループの討論テーマについて話し合う。各自が基礎ゼミ開講までに読んだ図書の概要、感想、疑問点、基礎ゼミで取り上げたいテーマなどを発表し、グループ全員で協議する。できるだけ全員の意見も聞きながらテーマを絞る。議事進行係は、グループのメンバー全員の発言を引き出すように工夫をし、グループの意見をまとめるように努めること。

<到達目標> Aヒューマニズムについて学ぶ

(2) 医療の担い手としてのこころ構え

【自己学習・生涯学習】

1. 医療に関わる諸問題から、自ら課題を見出し、それを解決する能力を醸成する。(知識・技能・態度)
2. 医療の担い手として、生涯にわたって自ら学習する大切さを認識する。(態度)

<到達目標> F薬学準備教育ガイドライン

(8) プレゼンテーション

【プレゼンテーション】

- 1) 課題に対する自分の意見を決められた時間内、字数で発表できる。

##### 第3回 テーマ（課題）設定2

第2回目で絞ったテーマについて再度協議し、メンバー全員が納得した討論テーマを決める。少数意見をも無視することなく、メンバーが積極的に意見が出せるよう議事進行係が配慮・工夫しながら自分たちの取り上げるテーマを決定する。

<到達目標> Aヒューマニズムについて学ぶ

(2) 医療の担い手としてのこころ構え

【自己学習・生涯学習】

1. 医療に関わる諸問題から、自ら課題を見出し、それを解決する能力を醸成する。(知識・技能・態度)
2. 医療の担い手として、生涯にわたって自ら学習する大切さを認識する。(態度)

<到達目標> F薬学準備教育ガイドライン

(8) プレゼンテーション

【プレゼンテーション】

- 1) 課題に対する自分の意見を決められた時間内、字数で発表できる。

##### 第4回 グループ討論1



第3回で設定したテーマに関し、各自が調査した内容を発表し、討論を行う。発表をうまく行うためには、調査した内容について資料をもとにあらかじめまとめておく必要がある。各回提出するレポートの別項として、発表内容のポイントを整理して記入しておくこと。グループによる討論は第8回まで続くので、議事進行係は結論を出し急ぐことなく、多くの意見を引き出すように工夫すること。

<到達目標> Aヒューマニズムについて学ぶ

(3) 信頼関係の確立を目指して

【相手の気持ちに配慮する】

1. 対人関係に影響を及ぼす心理的要因を概説できる。
2. 相手の心理状態とその変化に配慮し、適切に対応する。(知識・態度)

【チームワーク】

2. チームに参加し、協調的態で役割を果たす。(態度)
3. 自己の能力の限界を認識し、必要に応じて他者に援助を求める。(態度)

<到達目標> F薬学準備教育ガイドライン

(8) プレゼンテーション

【プレゼンテーション】

- 1) 課題に対する自分の意見を決められた時間内、字数で発表できる。
- 3) 質問に対して的確な応答ができる。
- 4) 他者のプレゼンテーションに対して、優れた点および改良点を指摘できる。
- 5) 効果的なプレゼンテーションを行う工夫をする。

## 第5回 グループ討論2

設定したテーマに関し、第4回に引き続き各自が調査した内容を発表し、討論を行う。他者の意見はよく聞き、よい点は認めつつ、問題点を指摘(批判)するように心がけること。また、批判に対しては感情的にならず、論理的に考えを整理しながら議論すること。対立意見が出ることもあるが、安易に妥協することなく納得できるまで十分な議論を行うこと。議事進行係は活発な議論となるように工夫すること。

<到達目標> Aヒューマニズムについて学ぶ

(3) 信頼関係の確立を目指して

【相手の気持ちに配慮する】

1. 対人関係に影響を及ぼす心理的要因を概説できる。
2. 相手の心理状態とその変化に配慮し、適切に対応する。(知識・態度)
3. 対立意見を尊重し、協力してよりよい解決法を見出すことができる。(技能)

【チームワーク】

2. チームに参加し、協調的態で役割を果たす。(態度)
3. 自己の能力の限界を認識し、必要に応じて他者に援助を求める。(態度)

<到達目標> F薬学準備教育ガイドライン

(8) プレゼンテーション

【プレゼンテーション】

- 1) 課題に対する自分の意見を決められた時間内、字数で発表できる。
- 3) 質問に対して的確な応答ができる。
- 4) 他者のプレゼンテーションに対して、優れた点および改良点を指摘できる。
- 5) 効果的なプレゼンテーションを行う工夫をする。

## 第6回 グループ討論3

設定したテーマに関し、第5回に引き続き各自が調査した内容を発表し、討論を行う。討論にも慣れてくると多くの意見が出てくるが、その中には少数意見も少なからずある。少数意見の中には、多くの人が気づいていない重要な点が含まれていることもあるので、議事進行係は少数意見も大切にしつつ討論を進めるように工夫すること。

<到達目標> Aヒューマニズムについて学ぶ

(3) 信頼関係の確立を目指して

【相手の気持ちに配慮する】

2. 相手の心理状態とその変化に配慮し、適切に対応する。(知識・態度)
3. 対立意見を尊重し、協力してよりよい解決法を見出すことができる。(技能)

【チームワーク】

2. チームに参加し、協調的態で役割を果たす。(態度)
3. 自己の能力の限界を認識し、必要に応じて他者に援助を求める。(態度)

<到達目標> F薬学準備教育ガイドライン

(8) プレゼンテーション

【プレゼンテーション】

- 1) 課題に対する自分の意見を決められた時間内、字数で発表できる。
- 3) 質問に対して的確な応答ができる。
- 4) 他者のプレゼンテーションに対して、優れた点および改良点を指摘できる。
- 5) 効果的なプレゼンテーションを行う工夫をする。

## 第7回 グループ討論4

設定したテーマに関し、第6回に引き続き各自が調査した内容を発表し、討論を行う。討論も回を重ねると、以前に出た意見や議論の方向性を再確認する必要も出てくる。その際に重要になるのが議事録である。したがって、各回でどのような意見が出たのか、どのような議論の経緯であったのかをしっかりと記録しておく必要がある。議事録作成担当者は、そのようなことを踏まえて議事録を作成し、内容に関しグループメンバー全員の確認を取っておくようにすること。

<到達目標> Aヒューマニズムについて学ぶ

(3) 信頼関係の確立を目指して

【チームワーク】

2. チームに参加し、協調的態度で役割を果たす。(態度)
3. 自己の能力の限界を認識し、必要に応じて他者に援助を求める。(態度)

<到達目標> F薬学準備教育ガイドライン

(8) プレゼンテーション

【プレゼンテーション】

- 1) 課題に対する自分の意見を決められた時間内、字数で発表できる。
- 3) 質問に対して的確な応答ができる。
- 4) 他者のプレゼンテーションに対して、優れた点および改良点を指摘できる。
- 5) 効果的なプレゼンテーションを行う工夫をする。

## 第8回 グループ討論5

設定したテーマに関し、第7回に引き続き各自が調査した内容を発表し、討論を行う。今回はこれまでの討論の総括と発表用のポスターの作成に取り掛かるため、議事進行係は今回で討論を終了し、5回の討論内容をまとめられるようにすること。調査や議論不足の点が出てきた場合には、授業時間以外にも時間を作って全員が集まり、問題点を解決しておくこと。

<到達目標> Aヒューマニズムについて学ぶ

(3) 信頼関係の確立を目指して

【チームワーク】

2. チームに参加し、協調的態度で役割を果たす。(態度)
3. 自己の能力の限界を認識し、必要に応じて他者に援助を求める。(態度)

<到達目標> F薬学準備教育ガイドライン

(8) プレゼンテーション

【プレゼンテーション】

- 1) 課題に対する自分の意見を決められた時間内、字数で発表できる。
- 3) 質問に対して的確な応答ができる。
- 4) 他者のプレゼンテーションに対して、優れた点および改良点を指摘できる。
- 5) 効果的なプレゼンテーションを行う工夫をする。

## 第9回 総括とポスター作成

これまでの議論を総括し、ポスター発表会で説明する事柄の整理を行う。聞き手がわかりやすい発表内容の構成を考え、ポスターの作成に着手する。ポスターに貼付する写真・グラフなどが必要となった場合は、その貼付スペースを空けておき、次回までに準備することを忘れないように。また、次の発表練習で、全体を通して一人で発表できるように準備しておくこと。発表用の原稿を作成しておくのも一つの方法である。

<到達目標> Aヒューマニズムについて学ぶ

(3) 信頼関係の確立を目指して

【チームワーク】

2. チームに参加し、協調的態度で役割を果たす。(態度)
3. 自己の能力の限界を認識し、必要に応じて他者に援助を求める。(態度)

<到達目標> F薬学準備教育ガイドライン

(8) プレゼンテーション

【プレゼンテーション】

- 2) グループディスカッションで得られた意見を、統合して発表できる。
- 5) 効果的なプレゼンテーションを行う工夫をする。

## 第10回 ポスター作成と発表練習

ポスター発表会用のポスターを完成する。作製したポスターをもとにグループのメンバーを聞き手として発表する練習を行う。ポスターに書いてある内容を指し示しながら、要領よく説明できるように工夫する。うまく説明できなかった部分については、発表会までに十分に練習をしておくこと。また、想定される質問事項に対する回答、資料なども準備しておくこと。

<到達目標> Aヒューマニズムについて学ぶ

(3) 信頼関係の確立を目指して

【チームワーク】

2. チームに参加し、協調的態度で役割を果たす。(態度)
3. 自己の能力の限界を認識し、必要に応じて他者に援助を求める。(態度)

<到達目標> F薬学準備教育ガイドライン



#### (8) プレゼンテーション

##### 【プレゼンテーション】

- 1) 課題に対する自分の意見を決められた時間内、字数で発表できる。
- 2) グループディスカッションで得られた意見を、統合して発表できる。
- 3) 質問に対して的確な応答ができる。
- 4) 他者のプレゼンテーションに対して、優れた点および改良点を指摘できる。
- 5) 効果的なプレゼンテーションを行う工夫をする。

#### 第11回 ポスター発表会1

第11回と第12回の2回で各グループの発表を行う。発表を行う人と、発表を聞く人に分かれて実施する。2回の発表会の間にすべての発表を一通り聞くように努めること。その際、ただ聞くだけではなく、疑問点やわからない点は発表者に質問をし、また、異なる意見を持っている時にはその場で議論をするように心がけること。

<到達目標> F薬学準備教育ガイドライン

#### (8) プレゼンテーション

##### 【プレゼンテーション】

- 1) 課題に対する自分の意見を決められた時間内、字数で発表できる。
- 2) グループディスカッションで得られた意見を、統合して発表できる。
- 3) 質問に対して的確な応答ができる。
- 4) 他者のプレゼンテーションに対して、優れた点および改良点を指摘できる。
- 5) 効果的なプレゼンテーションを行う工夫をする。

#### 第12回 ポスター発表会2

第11回に続きポスター発表を実施する。次回に、2回の発表会で議論した内容についてグループ討議を行うので、発表会終了後にレポート（A4用紙1枚程度）を作成しておくこと。議論した内容は、発表した時と、他グループの発表を聞いた時に分けて記入しておくこと。

<到達目標> F薬学準備教育ガイドライン

#### (8) プレゼンテーション

##### 【プレゼンテーション】

- 1) 課題に対する自分の意見を決められた時間内、字数で発表できる。
- 2) グループディスカッションで得られた意見を、統合して発表できる。
- 3) 質問に対して的確な応答ができる。
- 4) 他者のプレゼンテーションに対して、優れた点および改良点を指摘できる。
- 5) 効果的なプレゼンテーションを行う工夫をする。

#### 第13回 発表会をふりかえって

自分の発表内容をうまく説明できたか、質問に適切に回答できたかなどを振り返り、よいプレゼンテーションをするにはどうすればよいかについて考える。また、他のグループの発表を聞いて議論した内容などをグループ員に紹介し、発表会で得た知識を確かなものにするとともに、他のメンバーの報告を聞いて興味を持った点について次週の総合討論会で確認するようにする。

<到達目標> F薬学準備教育ガイドライン

#### (8) プレゼンテーション

##### 【プレゼンテーション】

- 1) 課題に対する自分の意見を決められた時間内、字数で発表できる。
- 3) 質問に対して的確な応答ができる。

#### 第14回 総合討論

第13回でのふりかえり内容の結果に基づき、グループ内で総合討論を行う。また今後の学習における各自のモチベーション向上に対する抱負を述べ合う。

<到達目標> F薬学準備教育ガイドライン

#### (8) プレゼンテーション

##### 【プレゼンテーション】

- 3) 質問に対して的確な応答ができる。
- 4) 他者のプレゼンテーションに対して、優れた点および改良点を指摘できる。
- 5) 効果的なプレゼンテーションを行う工夫をする。

#### 第15回 総括

グループ討論、発表会をふりかえり、基礎ゼミに対する自分の参加姿勢はどうであったか、「問題発見型」の能動的な学習に対する意識付けができたかなどを総括する。その結果を、授業のアンケート用紙に記入して提出する。

科目名： <b>基礎数学</b>			
英文名： Fundamental Mathematics			
担当者： <small>オオクボノリヒコ</small> 大久保 範彦			
単 位： 2単位	開講年次： 1年次	開講期： 前期	必修選択の別： 選択科目

### ■授業概要・方法等

三角関数・指数関数・対数関数・合成関数などの微分、不定積分、定積分の求め方、および、その応用を学習する。また、変数分離形の微分方程式の解法を学習する。授業中に、実際に自分で問題を解くことによって定理などの内容を理解する。

### ■学習・教育目標および到達目標

1. 様々な関数の微分が求められるようになる。
2. 微分法を応用して、様々な関数のグラフが描けるようになる。
3. 様々な関数の不定積分、定積分が求められるようになる。
4. 定積分を応用して、面積が求められるようになる。
5. 変数分離形の微分方程式を解くことができるようになる。

### ■授業時間外に必要な学修

1. 講義で配付するプリントの問題を解くこと。
2. 講義で指示された課題に取り組むこと。
3. 講義で疑問に思ったことは、自分なりに教科書などで調べる。それでもわからない場合は教員に質問すること。

### ■教科書

薬学生のための基礎シリーズ 2 「微分積分」 高遠節夫・加藤末広・丹羽典朗 共著 培風館 2300 円 (2010)

### ■成績評価方法および基準

定期試験 80%

日常の演習または小テストまたはレポート 20%

### ■授業評価アンケート実施方法

学部実施規程に準拠して行います。

### ■研究室・E-mailアドレス

21号館2階・講師控室

### ■授業計画の項目・内容及び到達目標

#### 第1回 三角関数

弧度法の定義と三角関数の定義をする。三角関数の性質を学ぶ。

#### 第2回 指数関数と対数関数、片対数グラフ

指数関数の定義と性質を学ぶ。対数関数の定義と性質を学ぶ。片対数グラフの描き方を学ぶ。

#### 第3回 逆関数、関数の極限

逆関数の求め方を学ぶ。関数の極限の計算方法を学ぶ。

#### 第4回 微分係数、導関数

微分係数の定義をする。接線の方程式の求め方を学ぶ。導関数の定義をする。

#### 第5回 導関数の性質

積と商の導関数の計算方法を学ぶ。合成関数の導関数の計算方法を学ぶ。

#### 第6回 逆三角関数と導関数、曲線の媒介変数表示

逆三角関数の定義をする。逆三角関数の導関数を求める。媒介変数表示された曲線の接線の求め方を学ぶ。

#### 第7回 高次導関数、ロピタルの定理、極大・極小

高次導関数の定義をする。ロピタルの定理を用いて関数の極限を計算する。関数の極大値と極小値の求め方を学ぶ。

## 第8回 関数の展開

マクローリン展開の定義をする。マクローリン展開の応用として、関数の1次近似式と関数の2次近似式を求める。

## 第9回 今までの復習

第1回から第8回までの復習をする。問題プリントを配付して問題を解く。

## 第10回 不定積分、置換積分

不定積分の定義をする。基本的な関数の不定積分を求める。置換積分法を学ぶ。

## 第11回 部分積分、分数関数の不定積分

部分積分法を学ぶ。分数関数の不定積分の求め方を学ぶ。

## 第12回 定積分、定積分の置換積分

定積分の定義をする。基本的な関数の定積分の値を求める。置換積分法により定積分の値を求める。

## 第13回 定積分の部分積分、面積、広義積分

部分積分法により定積分の値を求める。面積を求める公式を学ぶ。広義積分の定義をしてその値を求める。

## 第14回 微分方程式

変数分離形の微分方程式の解法を学ぶ。

## 第15回 n次反応

0次反応、1次反応の解を求める。半減期を求める。

## 定期試験

第1回から第15回までの授業内容に関する試験を行う。

科目名： <b>情報科学入門</b>			
英文名： Introduction to Drug Information			
担当者： <sup>カケヒ</sup> 掛樋 <sup>カズアキ</sup> 一晃・ <sup>ハチケン</sup> 八軒 <sup>ヒロコ</sup> 浩子			
単 位： 2単位	開講年次： 1年次	開講期： 前期	必修選択の別： 選択科目

### ■授業概要・方法等

現在はICTの時代といわれ、コンピュータの進歩・インターネット環境や通信技術の発展は非常に目覚しく、多くの企業・職業分野だけでなく、一般家庭においても利用することが当たり前となっている。このような状況の中で、ICTを活用する能力を習得することの重要性は年々高くなっており、社会に出る前に習得していることが望ましい。このため本学では、情報リテラシー教育において、コンピュータの基礎知識や情報倫理、アプリケーションやインターネットの操作方法、またそれらを安全かつ有効に利用する方法や知識を早期に習得し、情報化社会に対応できる能力を養う。

授業内容として、Microsoft Office Word / Excel / PowerPointの基礎的な操作方法に加え、IT基礎としてコンピュータの構成要素、社会での利用のされ方など活用する上で土台となる知識、さらに、情報セキュリティやインターネット / SNSの活用方法やリスクなど、実機による実習を取り入れながら、大学生活だけでなく社会に出て必要とされる情報活用能力を養成する。

### ■学習・教育目標および到達目標

1. Microsoft Officeアプリケーション (Word / Excel / PowerPoint) の基本的な操作方法を身に付ける。(ビジネス文書の作成、関数やグラフを使った表作成、スライドによる資料作成レベル)
2. コンピュータの構成などIT基礎知識の習得と、インターネット / SNSのメリットデメリットを理解し、適切な利用方法を身に付ける。
3. 情報セキュリティの重要性を理解し、さらには個人情報取り扱いや著作権等の基本的なルールを身に付ける。
4. KudosKnowledge (e-ラーニング) を活用し、自らアプリケーション操作に関するスキルアップを図る。

### ■授業時間外に必要な学修

打鍵練習ソフトを利用して、ブラインドタッチ入力を修得

kudosknowledge (e-ラーニング) の『よくわかるシリーズ』を使用して、次の時間までに必ず予習すること。また、授業内で行う問題を解き直すこと。

### ■教科書

情報リテラシー Windows7 / Office2010対応版

### ■参考文献

「薬学系のための情報リテラシー」佐藤憲一、川上順子著 (共立出版)  
「インターネットと情報倫理」社団法人私立大学情報教育協会編

### ■関連科目

情報科学、情報科学実習1、情報科学実習2

### ■成績評価方法および基準

確認演習 20%  
定期試験 20%  
eラーニング 60%

### ■授業評価アンケート実施方法

薬学部実施規程に準拠して行います。

### ■研究室・E-mailアドレス

生物情報薬学研究室  
掛樋一晃：k\_kakehi@phar.kindai.ac.jp  
教育専門部門  
八軒浩子：hhachi@phar.kindai.ac.jp

### ■オフィスアワー

平日9時～18時、上記研究室で受付けます。  
メールでの質問を歓迎します。

### ■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 オリエンテーション

Web履修登録



KUDOS) 施設案内・利用ガイド  
Gmail) ログイン確認  
授業概要 (授業日程・成績評価・出欠について)  
Web履修登録

## 第2回 ICT入門①

コンピュータの基礎/基本操作  
パソコン/コンピュータの種類、構成、ソフトウェア、ファイルの管理、ファイル形式  
コンピュータの構成要素  
CPU、メモリ、媒体の種類や特長、入出力形式

## 第3回 Word①

Wordについて  
概要、特長、画面構成  
Wordの基本操作  
文字/文章の入力、移動/コピー、書式設定 (配置、フォントの変更等)  
段落番号、箇条書きの設定、印刷、保存

## 第4回 Word②

文書作成術  
表の挿入/編集、ワードアート/クリップアートの挿入/編集、タブ/リーダー  
ビジネス文書の基本を確認しよう  
ビジネス文書の概要と種類、簡単なビジネス文書作成練習

## 第5回 ICT入門②

インターネット  
インターネットの利用、ブラウザ、電子メールの活用、情報検索等活用の仕方  
HTTPとHTTPSの違いについて (情報の信頼性)  
身近なコンピュータシステムやその役割  
身近にあるシステム (POS、GPS、組み込み等)、ヒューマンインタフェース

## 第6回 情報倫理①

セキュリティ対策の必要性  
情報化社会の現状、対策、対策しておかないとどうなる?  
情報資産についての考え方  
情報資産の重要性、セキュリティ事故例、情報漏えいするとどうなる?  
ウイルス/不正アクセス対策  
危険性、予防、感染した場合の対処法、不正アクセス禁止法

## 第7回 確認演習及び解説

学習内容のまとめの演習、その解説

## 第8回 SNS

SNSとは  
代表的なソーシャルメディア紹介、mixi、Twitter、FB等の特長、利用者属性等解説  
SNSの活用シーン  
SNSで何が得られるのか”利用の好事例”や人脈形成等将来につながるシーンの紹介

## 第9回 PowerPoint①

PowerPointについて  
概要、特長、画面構成  
PowerPointの基本操作  
プレゼンテーションの作成、タイトル/テキストの入力や編集、レイアウト、印刷  
コンテンツの挿入・編集  
画像、クリップアート、表の挿入、図形作成

## 第10回 PowerPoint②

## デザインの設定

- マスタの設定、ヘッダー／フッターの設定、配色の変更
- プレゼンテーションの実行
- 画面切り替え／アニメーションの設定、スライドショーの実行方法

## 第11回 情報倫理②

### 個人情報の取り扱い／著作権

- 個人情報の取り扱い、トラブル対応、著作権等の取り扱い
- リスク
- トラブル事例（情報流出、炎上等）紹介、ネット上に記録される怖さや防御知識の習得

## 第12回 Excel①

### Excelについて

- 概要、特長、画面構成
- Excelの基本操作（1）
- データ入力、編集、オートフィル、書式設定、罫線

## 第13回 Excel②

### Excelの基本操作（2）

- 計算式、簡単な関数（合計／平均等）、列行幅変更、
- 相対参照と絶対参照、簡単な表作成練習

## 第14回 Excel③

### 関数の活用

- フリガナ表示（PHONETIC）、本日の日付（TODAY）、データ個数（COUNTA）、条件判断（IF）

## 第15回 Excel④

### グラフの作成

- グラフの作成、編集、印刷
- データベース機能
- データベース機能、並べ替え、抽出

## 定期試験

科目名： <b>基礎物理化学</b>			
英文名： Basic Physical Chemistry			
担当者： <small>ナカムラ シンヤ</small> 中村 真也			
単 位： 2単位	開講年次： 1年次	開講期： 前期	必修選択の別： 選択科目

### ■授業概要・方法等

「物理化学」とは、「化学」の対象となる化合物や分子について、その熱やエネルギー、運動という「物理」的な観点から研究する分野です。例えば化学反応なども、そのエネルギーを考えれば、反応がどちらの向きにどれだけの速度で進むのかを知ることができます。

この講義では教科書に沿って、物理化学の基本概念、気体の運動と性質、分子の持つ様々なエネルギーとその熱力学法則、化学平衡について学習を行います。新しい「考え方」を学ぶ講義ですので、理解が難しいことが多いため、基本事項の理解と定着に重点をおき、演習問題とその解説を行いながら学習します。

### ■学習・教育目標および到達目標

薬品物理化学（1年後期）で学習する内容がスムーズに受け入れられるように、物理化学の基礎となる熱力学についての基礎知識を、ものの変化とエネルギーという点から学習し修得する。

化学反応や化学平衡がギブズ自由エネルギーによって説明できることを理解することが目標です。

#### C1 物質の物理的性質

- (1) 物質の構造
- (2) 物質の状態I

#### <一般目標>

- ・ 化学物質の基本的性質を理解するために、原子・分子の構造、熱力学、反応速度論などの基本的知識を修得し、それらを活用する技能を身につける。
- ・ 物理学および化学の基礎力を身につけ、化学物質の基本的性質を理解するための基本的知識と技能を修得する。
- ・ 物質の状態および相互変換過程を解析できるようになるために、熱力学の基本的知識と技能を修得する。

### ■授業時間外に必要な学修

- ・ 高校の数学、物理、化学の知識を復習しておくこと、特に微積分、運動方程式、気体の性質などについて抵抗をなくしておくこと。
- ・ 教科書の各章末問題について解答すること。

### ■教科書

「ベーシック薬学教科書シリーズ3 物理化学」 石田寿昌編（化学同人）

### ■参考文献

「スタンダード薬学シリーズ2 物理系薬学 I物質の物理化学的性質」 日本薬学会編（東京化学同人）

「薬学のための物理化学」 西庄重次郎編著（化学同人）

「わかりやすい物理化学」 中村和郎編（廣川書店）

### ■関連科目

薬品物理化学（1年後期）

製剤学（2年前期）

### ■成績評価方法および基準

確認演習 40%

定期試験 50%

授業中の演習課題 10%

### ■授業評価アンケート実施方法

学部実施規程に準拠して行います。

### ■研究室・E-mailアドレス

38号館9階創薬分子設計学研究室

nakas@phar.kindai.ac.jp

### ■オフィスアワー

随時

### ■授業計画の項目・内容及び到達目標

#### 第1回 物理化学における物理量と単位系（SI単位系）

物理量（長さ、質量、密度など）は、何らかの測定器で測定され、数値に対してある決まった単位とともに表される。例えば、

ある物体の質量は "10 g" でその密度は "13.6 g/mL" のように示される。単位は様々に存在しているが、科学を扱う上では国際的に統一した基準が必須となる。現在は、国際単位系 (SI単位系) で7つの「基本単位」が定められており、それらを組み合わせた「組立単位」とともに用いられている。また物理量には、大きさのみが問題となるスカラー量 (身長、密度など) と、大きさと方向の両方を考えるベクトル量 (速度、運動量など) が存在する。このような物理量と単位について、物理化学の概要説明の後学習を行う。

<到達目標>

高等学校化学・物理の補習と基礎知識の修得

【基本概念】

- 1) 物理量と基本単位の定義を説明できる。
- 2) 基本単位を組み合わせた組立単位を説明できる。
- 3) 物理量にはスカラー量とベクトル量があることを説明できる。
- 4) 示量性と示強性を例を挙げて説明できる。

## 第2回 気体の性質とその記述

物質の物理的な状態は大まかに3つの状態、つまり気体、液体および固体に分類できる。このうち気体には液体や固体にはない特徴が存在する。それは分子が広い空間を移動するために体積が大きく、その体積も圧力と温度で著しく変化するという点である。

<到達目標>

高等学校化学・物理の補習と基礎知識の修得

【基本概念】

- 1) 物質の三態について例を挙げて説明できる

C1 物質の物理的性質 (2) 物質の構造

【分子間相互作用】

- 2) ファンデルワールス力について例を挙げて説明できる

## 第3回 気体の状態方程式

気体にはいくつかの性質があり、気体の体積、圧力、温度、そして物質量の四つの量は独立でないことが歴史と共に明らかになってきた。これらの法則は気体の状態方程式 ( $pV = nRT$ ) として統合され、気体はこの状態式に従うことが認識されている。

<到達目標>

C1 物質の物理的性質 (2) 物質の状態 I

【総論】

- 1) ファンデルワールスの状態方程式について説明できる。

## 第4回 気体の分子運動論

物理化学の役目は、圧力などの定性的な概念を定量的な記述に換えることにある。気体は絶えず乱雑な運動をしている分子の集まりである。この分子の運動を考慮することで、気体分子の速度や運動エネルギーを得ることができる。このように物理化学の考え方をいけば、気体の持つエネルギーを取り扱うこともできるようになる。

<到達目標>

C1 物質の物理的性質 (2) 物質の状態 I

【総論】

- 2) 気体の分子運動とエネルギーの関係について説明できる。
- 3) エネルギーの量子化とボルツマン分布について説明できる。

## 第5回 熱力学第一法則 (エネルギー保存則)

人類は何世紀にもわたって、何もないところからエネルギーを生み出そうとしてきた。しかし、どのような変化が起こってもエネルギーの形態が別のものになるか、もしくはエネルギーが別の場所に移動するだけで、エネルギーそのものの生成や消滅を伴うことはない。物理化学では、気体のエネルギーの変換、特に熱から仕事、仕事から熱への変換、すなわち「熱力学」について学習する。

<到達目標>

C1 物質の物理的性質 (2) 物質の状態 I

【エネルギー】

- 1) 系、外界、境界について説明できる。
- 2) 状態関数の種類と特徴について説明できる。
- 3) 仕事および熱の概念を説明できる。
- 5) 熱力学第一法則について式を用いて説明できる。



## 第6回 内部エネルギー $U$ と気体のする仕事：可逆変化と不可逆変化

ある系と外界とでエネルギー（仕事や熱）が入り出したとき、その系のエネルギー変化を定量的に記述するために、系の「内部エネルギー」という考え方を物理化学では行う。この内部エネルギーの変化  $\Delta U$  は、熱  $q$  と仕事  $w$  の和で表すことができる。（ $\Delta U = q + w$ ）

ここで、系が可逆的に変化するときと、不可逆的に変化するときで、仕事  $w$  の量は異なってくる。特に可逆膨張のとき、系は最大仕事をするが、これらの違いについて学習する。

<到達目標>

C1 物質の物理的性質 (2) 物質の状態 I

【エネルギー】

6) 代表的な過程(変化)における熱と仕事を計算できる。

## 第7回 定容熱容量と定圧熱容量

系を加熱すると温度が上がる。この温度の上がり具合は、同じ物質であっても系が自由に膨張できるかどうかで異なってくる。このことは体積が温度で変化する気体では特に重要となる。この温めやすさの目安は「熱容量」(比熱)と呼ばれている。熱容量は2種類存在し、体積が変化できないときの定容熱容量  $C_v$  と自由に膨張できるときの定圧熱容量  $C_p$  が存在する。この両者のもつ特性について学習する。

<到達目標>

C1 物質の物理的性質 (2) 物質の状態 I

【エネルギー】

4) 定容熱容量および定圧熱容量について説明できる。

## 第8回 確認演習と解説

第1回から第7回までの講義内容に関して確認演習を実施する。(60分)

演習問題の内容に関して解説を行う(30分)

## 第9回 エンタルピー $H$ の性質と計算

化学で扱う系はふつう大気圧でものごとを考えている。すなわち圧力一定の条件下であり、系に変化が起こると、ふつう体積変化は起こる。内部エネルギーの考え方では、この体積変化としての仕事のエネルギーの出入りを考えなくてはならず煩わしい。そこで、内部エネルギーに代わる量として、一定圧力のもとでの熱の移動に相当する量「エンタルピー」を考える。エンタルピー  $H$  は、物理変化（融解、蒸発など）や化学変化（燃焼、呼吸など）の際に考えることができる。このエンタルピーの性質や計算について学習する。

<到達目標>

C1 物質の物理的性質 (2) 物質の状態 I

【エネルギー】

7) エンタルピーについて説明できる。

8) 代表的な物理変化、化学変化に伴う標準エンタルピー変化を説明し、計算できる。

9) 標準生成エンタルピーについて説明できる。

## 第10回 エントロピーの性質と計算

熱いお湯が冷えてやがて周囲の温度と等しくなるように、現象のなかにはひとりでに起こるもの（自発変化）もあるし、そのままでは起こらないもの（非自発変化）もある。自発変化は、再び自然にお湯が温まることがないように、一定の方向に熱や物が広く分散し乱雑になるように変化する。この乱雑さを示す指標を「エントロピー」と呼ぶ。エントロピーは熱力学の範囲においては熱と温度から定義される。このエントロピーの性質や計算について学習する。

<到達目標>

C1 物質の物理的性質 (2) 物質の状態 I

【自発的な変化】

1) エントロピーについて説明できる。

3) 代表的な物理変化、化学変化に伴うエントロピー変化を計算できる。

4) 熱力学第三法則について説明できる。

## 第11回 熱力学第二法則と熱機関

自発変化ではエントロピーは常に増大する方向へ変化が進む。これを熱力学第二法則と呼ぶ。この法則はさまざまな形で現象に現れる。熱機関は、車のエンジンなどのように熱を仕事に変換する装置のことであるが、熱を全く無駄なく100%の効率で仕事に変換することは不可能であることも熱力学第二法則から明らかになる。この熱サイクルについて、理論最大効率が得られるカルノーサイクルをもとに学習する。

<到達目標>

C1 物質の物理的性質 (2) 物質の状態 I

【自発的な変化】

- 2) 熱力学第二法則について説明できる。
- 4) 熱力学第三法則について説明できる。

第12回 ギブズ自由エネルギー

系の自発性をエントロピーで考えると、系と外界のエントロピー変化の両方を計算して考慮しなければならず、変化の方向性を決めるのが難しい。ここで、定温定圧条件下で新たに「ギブズ自由エネルギー  $G$ 」を導入すると、系と外界の全エントロピー変化が系に属する量 ( $T, H, S$ ) だけで表せるようになる。

$$(\Delta G = H - T\Delta S)$$

このギブズ自由エネルギーの性質や計算について学習する。

<到達目標>

C1 物質の物理的性質 (2) 物質の状態 I

【自発的な変化】

- 5) 自由エネルギーについて説明できる。
- 6) 熱力学関数の計算結果から、自発的な変化の方向と程度を予測できる。
- 7) 自由エネルギーの圧力と温度による変化を、式を用いて説明できる。

第13回 化学ポテンシャル

化学反応の方向を考える時、化学物質の1モル辺りのギブズ自由エネルギーを考えた方が都合が良い。これを「化学ポテンシャル」と定義する。定温定圧下で化学反応がおこる場合、系は化学ポテンシャルが減少する方(エネルギーが小さくなるように)に反応が起こる。反応前後の化学ポテンシャルの差が小さいほど系は安定になり、差が0の場合を平衡状態と呼ぶ。

<到達目標>

C1 物質の物理的性質 (2) 物質の状態 I

【自発的な変化】

- 7) 自由エネルギーの圧力と温度による変化を、式を用いて説明できる。

第14回 反応ギブズ自由エネルギー  $\Delta_r G$

反応がどれだけ進行しているかは、反応の際のギブズ自由エネルギーの差すなわち「反応ギブズ自由エネルギー」と密接にかかわっている。標準状態においては、その反応の濃度平衡定数を  $K$  とすると、 $\Delta_r G = -RT \ln K$  という、物理化学において非常に重要な関係が成り立つ。

<到達目標>

C1 物質の物理的性質 (2) 物質の状態 I

【自発的な変化】

- 6) 熱力学関数の計算結果から、自発的な変化の方向と程度を予測できる。
- 7) 自由エネルギーの圧力と温度による変化を、式を用いて説明できる。

第15回 平衡条件の変化と共役反応

反応が化学平衡に達している系に熱を加えると、熱を吸収する方向に平衡が移動する。この平衡定数の温度依存性 (van' t Hoffの式) を調べると、その反応の反応熱を求めることができる。また、ある反応は単独では進行しないが、進行しやすい別の反応を同時に起こすことで、両者の反応が進行する共役反応についても、反応ギブズ自由エネルギーの観点から学習する。

<到達目標>

C1 物質の物理的性質 (2) 物質の状態 I

【自発的な変化】

- 7) 自由エネルギーの圧力と温度による変化を、式を用いて説明できる。
- 8) 自由エネルギーと平衡定数の温度依存性(van' t Hoff の式)について説明できる。
- 9) 共役反応について例を挙げて説明できる。

定期試験

第9回から第15回の範囲で実施する。ただし、基礎的知識として確認試験の範囲も含む。

科目名： <b>キャリアデザインⅠ</b>			
英文名： Career Design I			
担当者： ヤギ アキラ マツヤマ ケンジ ヤギ ヒデアキ 八木 章・松山 賢治・八木 秀樹			
単 位： 1単位	開講年次： 1年次	開講期： 前期	必修選択の別： 選択科目

### ■授業概要・方法等

現在の雇用・労働を取り巻く環境は大きく変わりつつあり、個人の選択肢も多様化し、それに伴ってチャンスとリスクも拡大する傾向にある。同時に企業組織、従業員個人の関係も変化してきており、かつてのような「会社任せ」でなく、自ら主体的に自分自身のキャリアをデザインしながら、その目標に向かって学習と経験を積み重ねていくことが必要になっている。

自分にとっての「働くこと」の意味を考察し、自立性・自律性をもったキャリア開発を行っていくことの重要性を理解することで、それにつながる有意義な学生生活を送ることを一人ひとりに自覚・認識させることを「キャリアデザイン」の狙いとする。

### ■学習・教育目標および到達目標

自分の思いと、性格・行動特性などの自己分析結果をすり合わせ、将来の目標を考えることができる。またキャリアデザインの重要性を他人に説明できるようになると共に自分のキャンパスプランに反映させることができる。

### ■授業時間外に必要な学修

授業には、教科書の指定範囲を通読の上、臨むこととする。  
それ以外に、適宜宿題を課すことがある。

### ■教科書

『キャリア・マネジメントー企業・大学・公的機関の取り組み』  
(中央経済社：2008年) 八木 章著

### ■参考文献

『キャリアデザイン講座』（日経BPソフトプレス：2009年）大宮登ほか著

### ■関連科目

薬学概論 他

### ■成績評価方法および基準

毎回の授業での小テスト・レポート 30%  
授業への積極的参画、質問・発表 20%  
筆記試験（論述式）50%

### ■授業評価アンケート実施方法

「薬学部実施規程」に準拠して行う。

### ■研究室・E-mailアドレス

授業終了時に対応する。

### ■オフィスアワー

授業終了時に対応する。

### ■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 ガイダンス

第2回 雇用・就労環境の変化

個人の選択肢が多様化してきており、漫然と生きていくと「流される」危険性が強くなっている。非正規雇用の拡大、ニート・フリーターの抱える課題など。

第3回 企業・公務員就職に関するガイダンス

企業就職における意識や業界研究の仕方を、業種を紹介しながら行う。就職内定者による体験談も行う。また、公務員就職については試験の概要やその準備について、職域等についても概説する。

第4回 企業の人的資源管理の変化

いわゆる日本的経営の三種の神器の後退→個人の自立と自律の必要性。エンプロイアビリティなど。

#### 第5回 キャリアデザインの必要性・重要性

「キャリア」の概念を理解し、自らのキャリアデザインを描くことの必要性・重要性を認識する。

#### 第6回 自己理解

肯定的な自己概念等。パーソナリティ分析や、キャリア・アンカーなどからみた自分自身を考察する。

#### 第7回 キャリア形成と目標管理

目標設定と行動計画をもつことの重要性。PDCAサイクルなど。

#### 第8回 メンタルヘルス

ストレス管理、メンタル不全に陥らない対応など。

#### 第9回 ワーク・ライフバランス

ワークキャリアとライフキャリア（狭義と広義のキャリア）の関連。バランスのとれたキャリアデザイン、自分らしく生きることなど。

#### 第10回 大卒者の就職環境

就職率や、若年者失業率。近大の先輩の就職に関わる成功事例や失敗事例など。

#### 第11回 働くことの意味、目的

職業観の変化、職業の意義とその要素など。

#### 第12回 モチベーション

自らのキャリアデザインに向かったの主体性・自律性をもつことの重要性。組織のモラルとの関連。

#### 第13回 本大学のキャリア・サポートシステム

課外講座、インターンシップ、就職支援体制など。

#### 第14回 計画された偶発性（クランボルツ）

学習・経験を積むことの意義。偶発性を自らのキャリアデザインの好機にしていくこと。

#### 第15回 自らの学生生活における目標設定と行動計画

自分自身のキャリアデザインをイメージし、そのための有意義な学生生活となるように目標と計画を考察する。



科目名： <b>日本語の技法</b>			
英文名： Skills of Japanese Language			
担当者： <small>クロダ タイガ</small> 黒田 大河			
単 位： 2単位	開講年次： 2年次	開講期： 後期	必修選択の別： 選択科目

### ■授業概要・方法等

日本語による表現方法の変遷を、近代小説の検討を通して学ぶ。特に、西洋近代小説とは異なった原理で創作され、受容されてきた「私小説」というジャンルの成立と、その限界を批判的に乗り越えようとしてなされた様々な表現方法の発生と展開に着目する。特定の表現方法が成立した歴史的社会的状況との関連にもふれながら、20世紀初頭から現代に至る表現史を明らかにしたい。

受講者には小説を鑑賞する楽しさを味わうとともに、具体的な作品分析を通じて、現代における自己表現について考察する契機としてもらいたい。リテラシー能力の向上は現代社会における様々な情報を読み解く力の基礎ともなる。

### ■学習・教育目標および到達目標

【読解力】近代小説の表現を分析的に読み解き、表現方法や作品構造、主題などについて自分なりの考察ができるようになること。

【表現力】また、その考察内容を日本語としての確に表現しまとめられるようになること。

### ■授業時間外に必要な学修

【読むこと】講義に先立つか、あるいは講義内容から興味を持った文学作品や評論などを読むことで、読書を習慣づけること。

【書くこと】講義中に紹介する各種「文章読本」を参考に、講義ノート、レポート、小論文、日記、自己推薦文など、書くことについて意識的に取り組むこと。

### ■教科書

講義の対象となる文学作品のうち、文庫本で入手可能なもののリストを配布する。受講者は積極的に購読すること。

### ■参考文献

『物語のディスコース方法論の試み』ジェラルド・ジュネット著 花輪光・和泉涼訳 水声社

『私小説－自己暴露の儀式』イルメラ・日地谷・キルシュネライト著 三島憲一他訳 平凡社

### ■関連科目

なし。

### ■成績評価方法および基準

定期試験（論述式）80%

講義中のミニレポート（2、3回）20%

### ■授業評価アンケート実施方法

学部実施規程に準拠して行います。

### ■研究室・E-mailアドレス

講師控室（21号館2階）

### ■オフィスアワー

特に設けていませんが、出講日が月曜日なので、空き時間の3時限、5時限(前期のみ)などの時間に講師控室に来て下さい。

### ■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 「私小説」表現の成立と理論的背景

第2回 志賀直哉「和解」及び関連作品の分析

第3回 牧野信一「父を売る子」三部作の分析

第4回 アンドレ・ジイドの影響圏と「私小説」の方法化

第5回 永井荷風「溷東綺譚」及び関連作品の分析

第6回 横光利一「機械」及び関連作品の分析

第7回 破滅型「私小説」の方法意識について

第8回 太宰治「道化の華」「猿面冠者」の分析

第9回 中島敦「南島譚」と植民地主義について

第10回 文学における戦後一戦争体験の対象化について

第11回 横光利一「微笑」および関連作品の分析

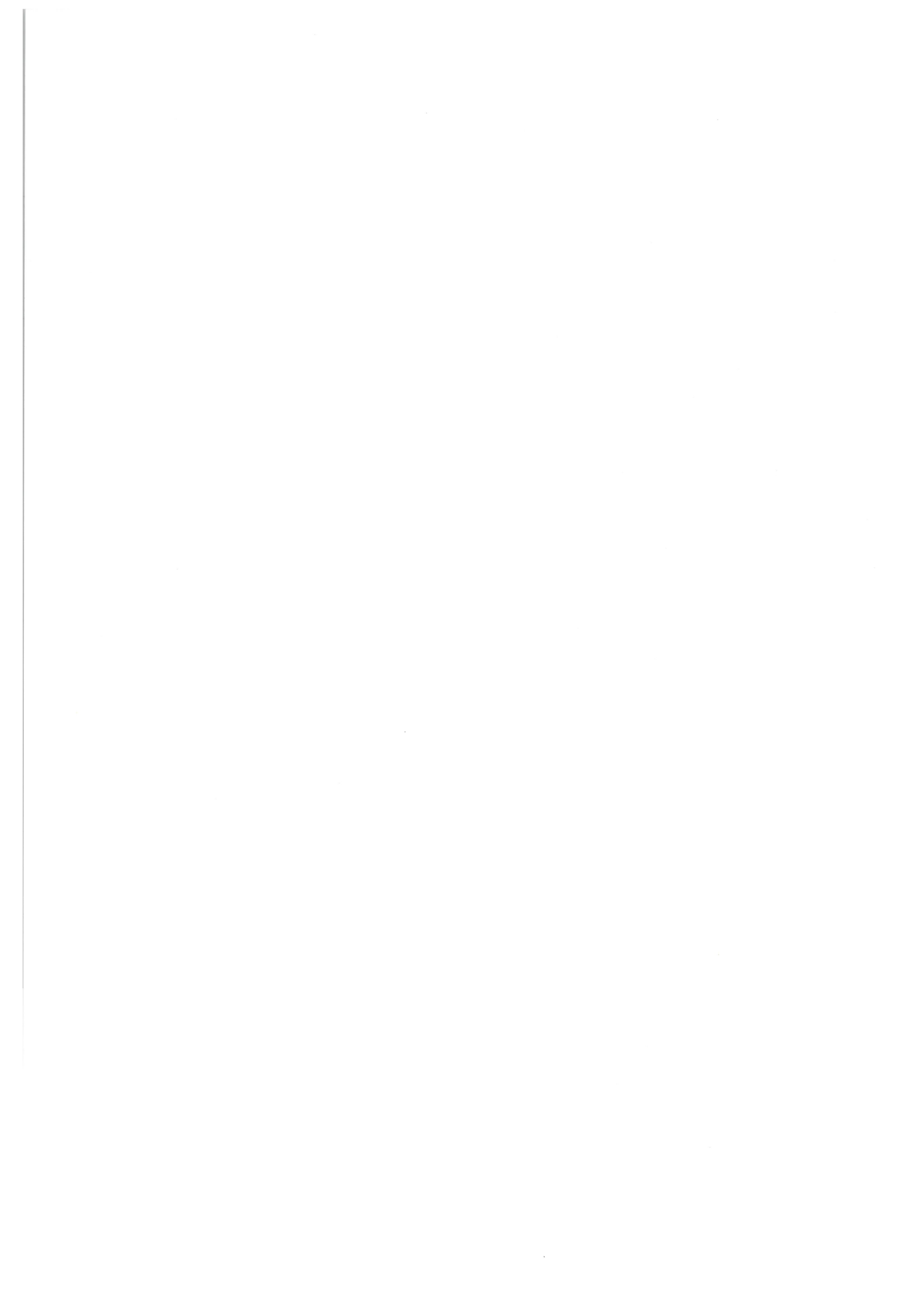
第12回 安部公房の満州体験について

第13回 安部公房「箱男」および関連作品の分析

第14回 大江健三郎「ピンチランナー調書」および関連作品の分析

第15回 まとめ

定期試験

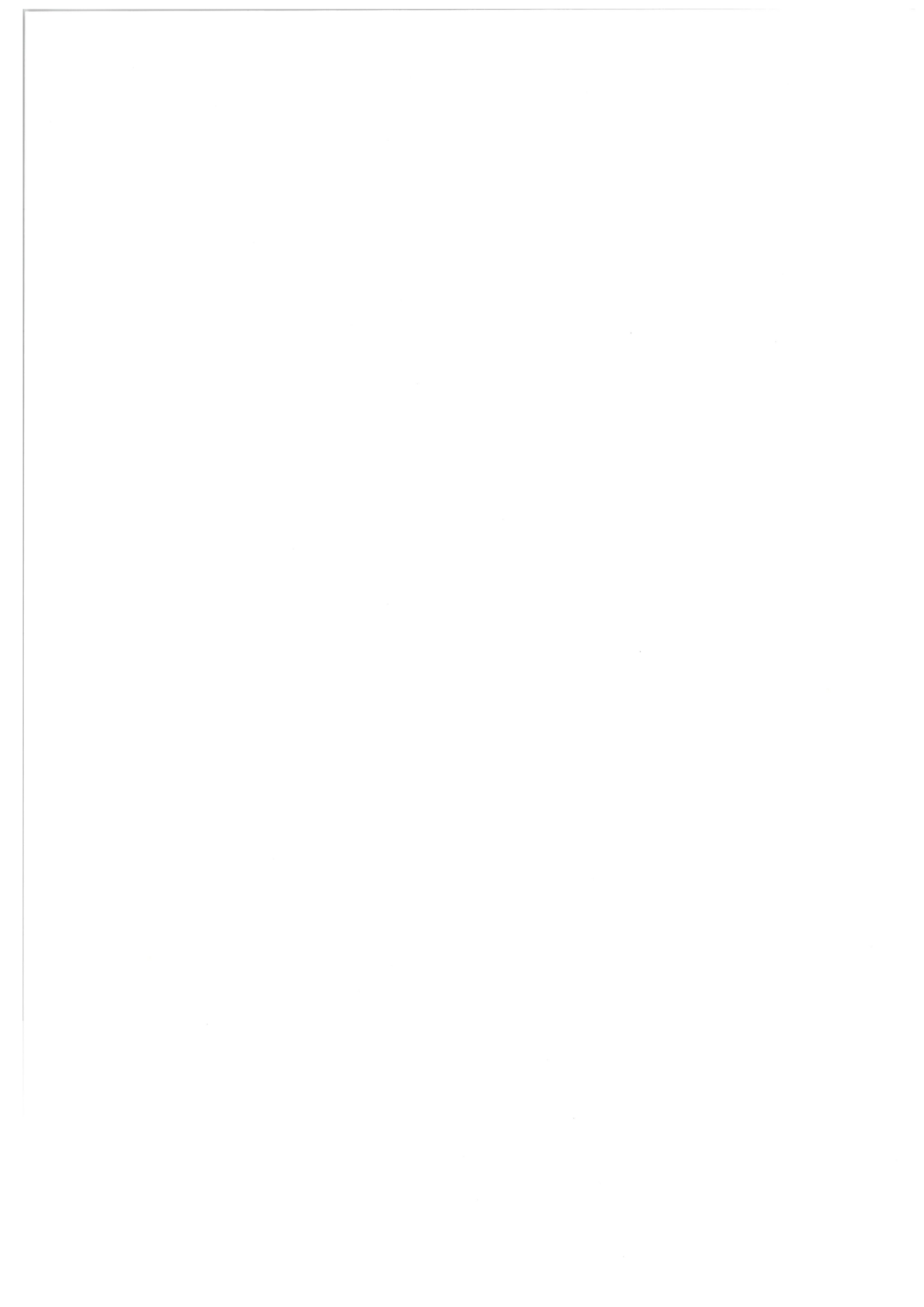


---

## 生涯スポーツ

---





# 近畿大学の健康スポーツ教育について

## I. 大学における健康スポーツ教育の目的

大学における健康スポーツ教育の目的は、「自己のライフステージや心身の状態に適した身体運動やスポーツを生活の中に積極的に取り入れ、人々との交流を通じて、豊かなライフスタイルを形成できる能力を身につけること」です。

具体的には、一つは健康・体力の回復・維持・増進という「健康への配慮」、一つは余暇の増大、生活水準の向上、生活意識の変化にともなう文化的な欲求としての「豊かな生きがいの創造」です。

すなわち、生涯にわたる身体運動・スポーツ活動を通じてすべての人々が豊かに生き生きと生きることと、自己を表現できることを目的としたものであり、各自がライフステージに対応した自己開発や自己表現がなされること、そして身体運動・スポーツ活動をすることが自己目的化されることを教育の目的としています。

そのために、健康スポーツ教育の目標を以下のように焦点づけています。

1. 生涯にわたる健康管理や、健康・体力の回復・維持・増進を図るための素養を高める。
2. 身体運動・スポーツ活動の中で、「新しい動きの体験」を享受することにより、運動する喜びとともに共生する喜びを体得する。
3. 身体運動・スポーツ活動に関する科学的「知」を動くことによって実感し、探求する。
4. 身体運動・スポーツ活動をすることによって得られる集約的な身体の「知」を体得し、生涯スポーツ活動の素養を養う。

## II. 授業について

本学がおこなう健康スポーツ教育の授業は以下の通りです。

1. 健康とスポーツの科学（講義 2単位）半期開講 ※一部の学部のみ開講
2. 心と体の健康（講義 2単位）半期開講 ※一部の学部のみ開講
3. 生涯スポーツ1（実技・実習 1単位）前期開講
4. 生涯スポーツ2（実技・実習 1単位）後期開講

\* 教職課程を履修する場合、生涯スポーツ1および生涯スポーツ2は必修科目です。

\* 健康運動実践指導者の称号資格を希望する場合（食品栄養学科・経営学科スポーツマネジメントコース）、生涯スポーツ1および生涯スポーツ2は必修科目です。

### 1) 健康とスポーツの科学（講義）

理工学部・経営学部・短期大学部・総合社会学部・建築学部にて開講

今日の学生が持つ多様なニーズに応えるための試みとして、「生涯学習」の視点から「健康とスポーツの科学」についてさまざまな角度から講義をします。

- (1) スポーツ科学の基礎知識
- (2) 健康科学の基礎から応用
- (3) 健康の自己管理論

※詳細は各学部シラバスを参照

## 2) 心と体の健康 (経済学部・文芸学部で開講)

現代人が抱えるさまざまな心身の健康問題を「心」から「体」、「体」から「心」へ、そして「心身一如」といった視座から心身の密接で統合的な関係に気づき、総合的な人間の見方について、実践より見出されたスポーツ科学の視点から論議をします。

- (1) 健康という心身のあり方の理解
- (2) 自己理解・他者理解
- (3) コミュニケーションの理解
- (4) 社会のなかで生きているという自分の理解

## 3) 生涯スポーツ 1・2 (実技・実習) ※開講 (1～4年)

生涯スポーツ 1・2 は、体育・スポーツに関する専門的知識と基礎から応用まで運動技術・技能の習得を目指すものです。具体的には、

- (1) プレイ・レジャー・コミュニケーションとしてのスポーツ
- (2) 健康づくりとしてのスポーツ
- (3) 身体能力開発としてのスポーツ

と、3つの視点からスポーツのあり方から理解し、実技・実習を行います。尚、生涯スポーツ 1は「基礎的」、生涯スポーツ 2は「応用的」な視点で実施し、以下の授業目的、内容をもって実施します。

- 授業目的: 生涯スポーツ 1 および生涯スポーツ 2 の授業は、実技を中心とした実習科目です。健康やスポーツに関する専門的知識の獲得のための講義や VTR などの視聴覚教材を利用して授業を行う以外は、グラウンドや体育館で実施します。両科目ともスポーツ・運動教材を用い、体力・運動能力の向上あるいはその方法、健康の意義とその保持・増進の方法などを習得することを目標としています。

ただし、生涯スポーツ 2 は、生涯スポーツ 1 と比較して、より専門的な知識の獲得や幅広い体力・運動能力の習得を目指しています。

また、生涯スポーツ 1, 2 とも、授業時に 2 回にわたってフィットネスチェックを実施します。フィットネスチェックとは、各自の健康状態に関わる身心状態 (日常生活における身心の健康に関わるチェック、形態・体格)、体力・運動能力の測定です。フィットネスチェックでの測定結果は、受講生の学習に役立つよう統計処理を行います。

- 授業内容： 生涯スポーツ1および生涯スポーツ2の授業は、一つの時限に複数の担当者が、それぞれ異なった運動教材で、それぞれが異なった授業展開をします。

スポーツ種目は、配布プリントもしくは近畿大学ホームページ <http://www.kindai.ac.jp/campus-life/lesson/lifelong-sport/index.html> を参照してください。

授業時間外に必要な学修：授業で与えた健康問題・課題を日常生活の中で取り組み、実践し、その理解を深めること。

### Ⅲ. 成績評価について

成績評価は、以下の2つの課題の達成度によって行われます。

○身体的課題の達成度（50点）

身体活動量の確保、技術・技能の獲得、戦術戦略の理解

○心理・社会的課題の達成度（50点）

努力・意欲の度合、コミュニケーションの度合、マナー・礼節の実践

### Ⅳ. 履修登録についての注意

1. クラス分け（第1回目授業にて）

- 1) 受講生の各種目によるクラス分けは、記念会館において、「生涯スポーツ1」は4月の第1回目の授業、「生涯スポーツ2」は9月の第1回目の授業で行います。
- 2) 受講希望者は記念会館に集合すること。配布資料を参考に各担当教員の説明を聞き、第一希望から第三希望まで希望するクラスを選択しておきます。
- 3) 各クラスには、円滑な授業運営および安全確保のために定員（30～40名）を設けています。
- 4) 各クラスにおいて希望者が多数の場合は各担当教員が抽選を行います。

2. 受講許可証の発行

- 1) 受講クラス決定後、受講許可証を発行します。
- 2) 受講許可証は大切に保管すること。
- 3) 受講許可証をもとに各自で履修登録（web登録）を行います。曜日・時限・担当教員名を確認し、登録ミスがないよう細心の注意を払うこと。
- 4) 受講の許可なく履修登録をした学生の履修登録は無効となります。

3. クラス分けを欠席した場合

- 1) 諸事情で第一回目授業を欠席した学生は、履修相談窓口にて受け付けます。受講クラスは、定員に達していないクラスでの選択になります。



2) 履修相談窓口は、以下の日程で行います。

◎東大阪キャンパス

(生涯スポーツ 1)

期日：4月9日(火)～4月15日(月)ただし、土日は除く。

時間：午前11時～午後1時・午後1時～3時・午後4時～6時

場所：11号館1階 生涯スポーツ担当教員控室

(生涯スポーツ 2)

期日：9月17日(火)～23日(月)ただし、土日は除く。

時間：午前11時～午後1時・午後1時～3時・午後4時～6時

場所：11号館1階 生涯スポーツ担当教員控室

※履修相談窓口にて、受講クラスを決定し、受講許可証受領後、各自で履修登録(web登録)を行うこと。

◎奈良キャンパス

(生涯スポーツ 1)

期日：4月9日(火)および4月12日(金)

時間：ガイダンス終了後

(生涯スポーツ 2)

期日：9月17日(火)および20日(金)

時間：ガイダンス終了後

※履修相談窓口にて、受講クラスを決定し、受講許可証受領後、各自で履修登録(web登録)を行うこと。

3) 履修登録を間違えた場合、履修登録期間内に各自、修正すること。

4) 決定した受講クラスの変更は、特別な理由がない限り認められません。

5) 上記の手続きを踏まずに勝手に履修登録をしても、受講することはできません。

## V. 履修上の注意

1. 実技・実習は、巻末の地図に示されたスポーツ施設において実施します。
2. 授業場所は「生涯スポーツ時間割ホームページ」に記載しています。雨天など天候変化、グラウンド状態不良等の理由により、授業場所を変更する場合があります。授業場所変更については、授業前に、生涯スポーツ担当教員控室(11号館1階)、記念会館ロビーの掲示板に掲示されますので、事前に確認をすること。
3. 実技・実習等の服装はトレーニングウェア及び運動靴を使用すること。眼鏡、時計、指輪など、破損しやすい物は、危険防止の見地からも、授業中できるだけ携帯しないで下さい。万一破損があっても保障することはできません。外傷などの身体的事故についての注意、万一の場合の処置については「実技・実習上の安全対策」の項を熟読すること。
4. 屋内(記念会館、小体育館、剣道場など)の授業では必ず館内シューズを使用すること。また、グラウンドでは担当教員が認めた運動靴を使用し、テニスコートではテニスシューズを、

人工芝グラウンドでは専用シューズを使用すること。

5. 各クラスの更衣場所については、担当教員の指示に従って下さい。
6. 授業に関する不明な点は、生涯スポーツ担当教員控室(11号館1階)に問い合わせして下さい。
7. 貴重品の管理は、各担当教員の指示に従うこと。
8. 実技科目である特性上、欠席日数が4回以上もしくは、それに相応する遅刻等がある場合は不可とする。
9. 再試験は、原則、実施しない。ただし、事情等を勘案し実施する場合、対象となるのは欠席回数が4回未満の者とする。

## VI. 実技・実習上の安全対策

実技・実習における安全管理は、日常生活の自己管理からです。自己管理されたリズムある日常生活は、最優先されるべき実技・実習上の安全対策です。

しかし実技・実習中、避けることのできない不可効力的な事故も発生します。多くのケースは、もう少し注意しておけば、あるいはもう少し準備・配慮しておけばといったことがしばしば見受けられます。不摂生な生活、睡眠不足などによる注意不足・散漫などが起因である場合が多いです。事故は、自分だけでなく他の受講生に対しても多大な迷惑をかけることとなります。

日常生活の中での自己管理も踏まえ、実技・実習の際に以下の事に注意して下さい。

1. 自己管理について
  - 1) 暴飲、暴食をしない
  - 2) 十分な睡眠を取る
  - 3) 朝食を摂る
  - 4) 規則正しい生活を送る
2. 服装について
  - 1) トレーニングウェアを着用すること
  - 2) 指定された靴を使用すること
  - 3) 時計、指輪等の装飾品を身に付けないこと
  - 4) 爪は切っておくこと
  - 5) 長い髪は束ねること
3. 用具について
  - 1) 使用用具の取り扱いは、担当教員の指示に従うこと
  - 2) 各種目の用具の特殊性を熟知し、慎重に取り扱うこと
4. 活動中について
  - 1) 担当教員の指導上の注意、助言を厳守すること
  - 2) 各種目のルール、マナーを厳守すること
  - 3) 感情的にならないこと

4) 心身の不調をきたした場合、すぐに担当教員に申し出ること

5. 事故の処置について

実技・実習中に万一外傷、その他授業が継続できないような事故が発生した場合、以下のような要領で処置をします。

1) 事故発生時

担当教員に申し出て指示を受けること。原則として次のように処置をします。大学保健管理センター（11月ホール3階）または、農学部医務室で処置を受ける。

2) 学外の医療機関で治療した場合

学生部学生生活課に届け出ること。その際、大学で扱う医療費給付制度などを確認すること。

参考：近畿大学学園学生健保共済会ホームページ

(<http://kindai-wellness.jp>)

近畿大学学園学生健保共済会発行「WELLNESS ガイドブック」

科目名：生涯スポーツ1			
英文名：Lifelong Sports 1			
担当者：詳細はホームページを参照してください			
単 位：1単位	開講年次：1年次	開講期：前期	必修選択の別：選択科目

### ■授業概要・方法等

運動教材2種目を用いて授業が展開されます。

運動教材については、開講の曜日・時限により異なりますので、初回の授業時に確認してください。

第1回目の授業は記念会館へ集合し、配布する資料を参考に受講クラス（種目・担当者）を決定します。

安全な授業の展開のために、各クラスには定員があります。定員を超えて受講希望があった場合には第2、第3希望のクラスへ回ることがあります。

生涯スポーツ1の受講希望者は必ず出席し、「受講許可書」を得てから履修登録を行なってください。\*「受講許可書」がなければ履修できません。

### ■学習・教育目標および到達目標

健康の維持・増進、体力・運動能力の向上とその意義についての科学的理論を理解し、各種スポーツの基本的運動技術・技能・ルールを学ぶことによって、自らすすんで運動・スポーツを楽しむことのできる態度を養い、生涯にわたり健康的な生活を営む能力の獲得を目指します。

生涯スポーツ1の学習内容は、生涯スポーツ2と比較し、より基礎的・一般的なものを扱います。

### ■授業時間外に必要な学修

選択したスポーツ種目のルールを復習する。

担当教員から指示された課題に取り組む。

平常より、十分な栄養摂取と休養・睡眠を心がける。

### ■教科書

必要に応じて担当教員が授業中に指示します。

### ■参考文献

必要に応じて担当教員が授業中に指示します。

### ■関連科目

「健康とスポーツの科学」

「心と体の健康」

### ■成績評価方法および基準

身体的課題の達成度（身体活動量の確保、技術・技能の習得、戦術・戦略の理解と応用）50%

心理的・社会的課題の達成度（努力・意欲の程度、コミュニケーションの度合、マナー・礼節の実践）50%

### ■授業評価アンケート実施方法

学部の実施規定に準拠して行ないます。

### ■研究室・E-mailアドレス

問い合わせは11号館1階「生涯スポーツ担当教員控室」まで。

(ihss@kindai.ac.jp)

### ■オフィスアワー

担当教員により異なるので、問い合わせること。

### ■授業計画の項目・内容及び到達目標

授業計画は各担当者が作成し、「生涯スポーツ時間割ホームページ」(<http://www.kindai.ac.jp/gakusei/gym/>)に明示しています。ただし、第2回～第4回目の授業は全クラス共通でフィットネス・チェックを実施します。測定項目は、形態測定・安静時心拍数・血圧・筋力・筋持久力・柔軟性・敏捷性・全身持久力などです。

一般的な授業計画は以下に記します。

第1回 ガイダンス、クラス選択および受講許可証の発行／健康・体力テスト（アンケート）の記入

第2回 フィットネス・チェック

第3回 フィットネス・チェック



- 第4回 フィットネス・チェック
- 第5回 第1運動教材（種目）の基礎的運動技能・技術の習得
- 第6回 第1運動教材（種目）の基礎的トレーニング法の理解
- 第7回 第1運動教材（種目）のルールと審判法の習得
- 第8回 第1運動教材（種目）の基礎的戦術・戦略の理解と立案
- 第9回 第1運動教材（種目）の理解度確認と実技テスト
- 第10回 第2運動教材（種目）の基礎的運動技能・技術の習得
- 第11回 第2運動教材（種目）の基礎的トレーニング法の理解
- 第12回 第2運動教材（種目）のルールと審判法の習得
- 第13回 第2運動教材（種目）の基礎的戦術・戦略の理解と立案
- 第14回 第2運動教材（種目）の理解度確認と実技テスト
- 第15回 まとめ

科目名：生涯スポーツ2			
英文名：Lifelong Sports 2			
担当者：詳細はホームページを参照してください			
単 位：1単位	開講年次：1年次	開講期：後期	必修選択の別：選択科目

### ■授業概要・方法等

次に示す運動教材のうち1種目を用いて授業が展開されます。

運動教材は、開講の曜日・時限により異なりますので、初回の授業で確認してください。

生涯スポーツ2は9月第1回目の授業時に記念会館へ集合し、配布資料を参考に受講クラス（種目・担当者）を決定します。

安全な授業展開のために、各クラスには定員があります。定員を超えて受講希望があった場合には第2希望、第3希望のクラスへ回ることがあります。

生涯スポーツ2の受講希望者は必ず出席し、受講許可書を得てから履修登録を行なってください。\*受講許可書がなければ履修不可です。

### ■学習・教育目標および到達目標

健康の維持・増進、体力・運動能力の向上とその意義についての科学的理論をより深く理解し、各種スポーツの専門的運動技術・技能・ルールを学ぶことによって、自らすすんで運動・スポーツを楽しむことのできる態度を養い、生涯にわたり健康的な生活を営む能力の獲得を目指します。

生涯スポーツ2の学習内容は、生涯スポーツ1と比較し、より専門的なものを扱います。

### ■授業時間外に必要な学修

選択したスポーツ種目のルールを復習する。

担当教員の指示する課題に取り組む。

平常より、十分な栄養摂取と休養・睡眠を心がける。

### ■教科書

必要に応じて担当教員が授業中に指示します。

### ■参考文献

必要に応じて担当教員が授業中に指示します。

### ■関連科目

「健康とスポーツの科学」

「心と体の健康」

### ■成績評価方法および基準

身体的課題の達成度（身体活動量の確保、技術・技能の習得、戦術・戦略の理解と応用）50%

心理的・社会的課題の達成度（努力・意欲の程度、コミュニケーションの度合、マナー・礼節の実践）50%

### ■授業評価アンケート実施方法

学部の実施規定に準拠して行ないます。

### ■研究室・E-mailアドレス

問い合わせは「11号館1階生涯スポーツ担当教員控室」(ihss@kinki.ac.jp)まで。

### ■オフィスアワー

担当教員により異なるので、各教員に問い合わせること。

### ■授業計画の項目・内容及び到達目標

授業計画は各担当者が作成し、「生涯スポーツ時間割シラバス」に明示しています。ただし、第2回目・第3回目の授業は全クラス共通でフィットネス・チェックを実施します。測定項目は、形態測定・安静時心拍数・血圧・筋力・筋持久力・柔軟性・敏捷性・全身持久力などです。

一般的な授業計画は以下に記します

第1回 ガイダンスおよびクラス選択、受講許可証の発行／健康・体力テスト（アンケート）の記入

第2回 フィットネス・チェック

第3回 フィットネス・チェック

第4回 フィットネス・チェックの評価とそれに基づく運動プログラムの考察

第5回 運動教材（種目）の特性とその健康・体力へ期待される効果

第6回 運動教材（種目）の特性と心理社会的効果

第7回 生涯にわたる運動・スポーツの実践と健康寿命の延伸

第8回 生涯にわたる運動・スポーツへの参加とQOL

第9回 運動教材（種目）の専門的運動技能・技術の習得

第10回 運動教材（種目）の専門的トレーニング法の理解

第11回 運動教材（種目）のルールと審判法の習得

第12回 運動教材（種目）の競技戦術・戦略の理解と立案

第13回 一流競技選手の体力・運動技能・戦術の観察（VTR等使用）

第14回 運動・スポーツに発生しがちに事故・障害と救急法

第15回 まとめ

# 近畿大学外国語教育の目的と共通基本目標

## —外国語教育マニフェスト—

### 前 文

近畿大学の教養教育の目的は、幅広い知識と深い洞察力を培い、豊かな人間関係と確かな主体性を確立することにある。この教養教育の目的に基づいて掲げられた計6項目の目標のうち、特に外国語教育と密接に関係するものとして、2. 日本文化と外国文化の理解を通じ、国際感覚を高め、相互の個性を尊重し、信頼し合う精神を養う、5. 国際社会に対応できる英語をはじめとする外国語によるコミュニケーション能力を養う、の2項目がある。この2項目に立脚して、近畿大学の外国語教育の目的を次のように掲げる。

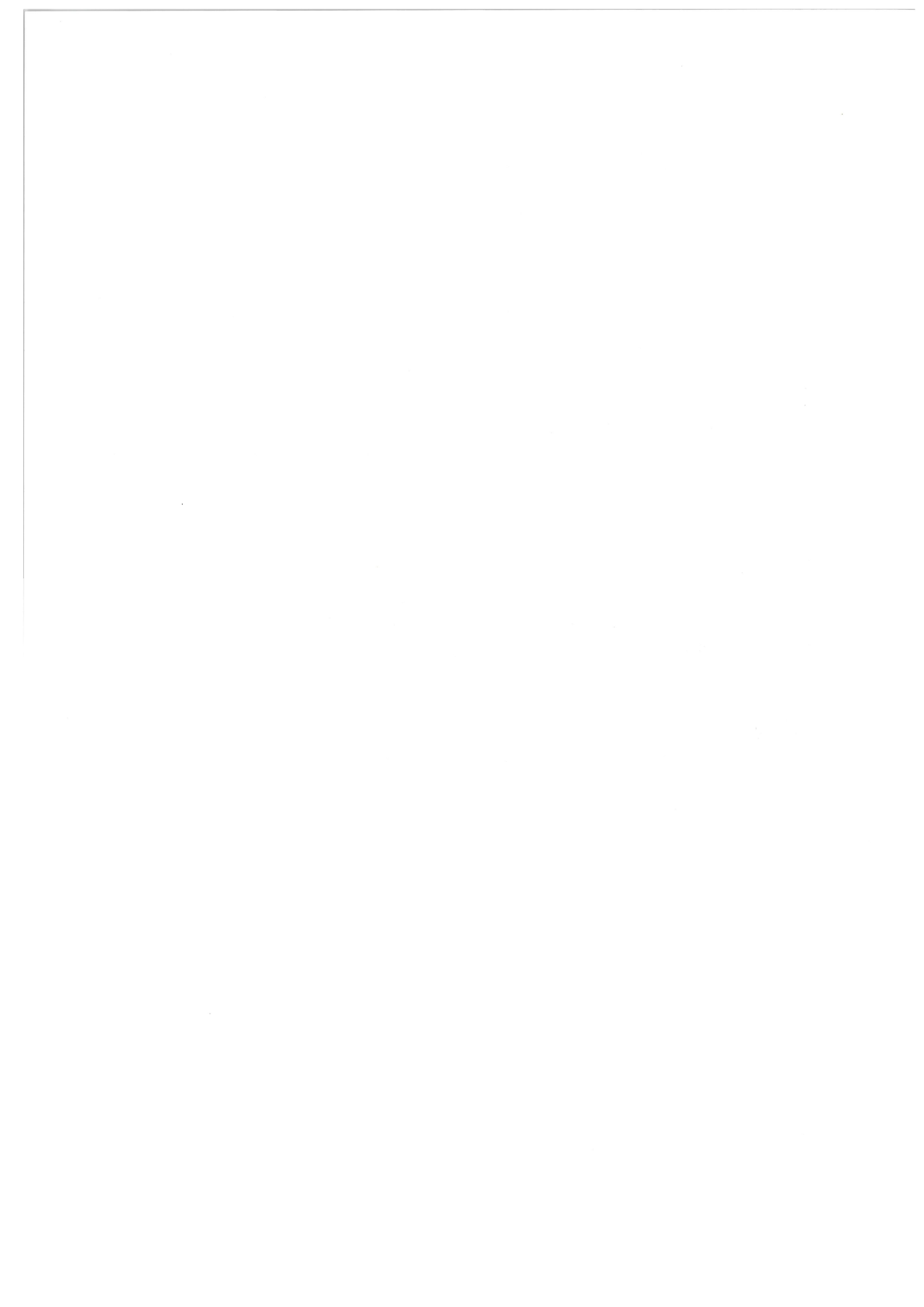
### 目 的

近畿大学の外国語教育は、国際社会に対応できる英語をはじめとする外国語によるコミュニケーション能力を養うとともに、日本文化と外国文化の理解を通じ、国際感覚を高め、相互の個性を尊重し、信頼し合う精神を養うことを目的とする。

### 共通目標

上記の目的を達成するために英語と第二外国語それぞれの全学共通の基本目標をおく。





---

# 外国語科目

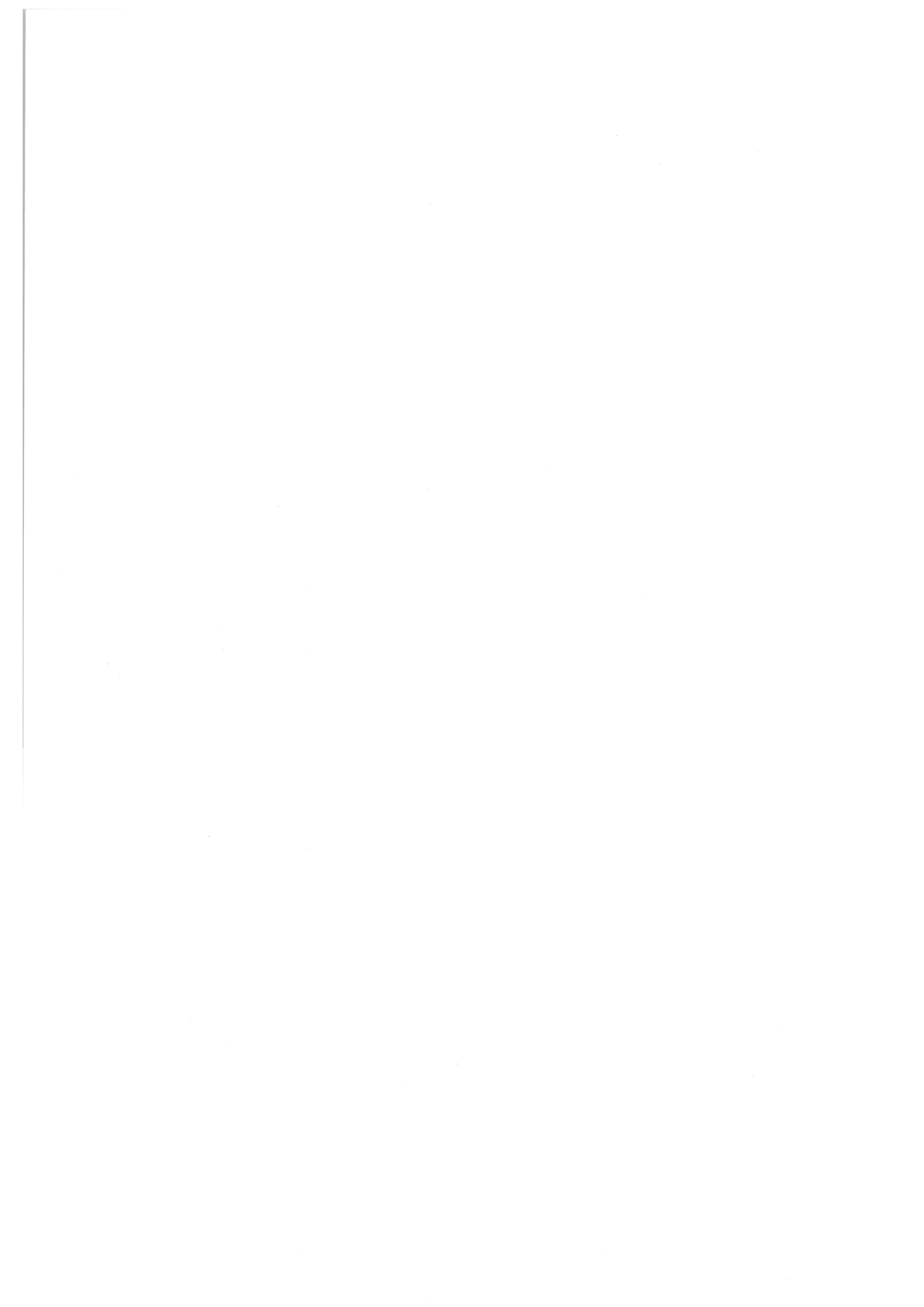
---

## 英語

医療薬学科

創薬科学科（平成 23 年度以前入学生）

\*創薬科学科平成 24 年度以降入学生は 75 ページ参照



# 英語履修案内

## 英語教育の共通基本目標

### From

中学・高校を通じて6年間英語の語彙や文法を一通り学習し、英文もある程度は読めるけれど、聞いたり話したりは自信がない。卒業後、社会に出たときに役立つかどうか分からない。



### To

- ① 実社会、特に産業界で役に立つ英語コミュニケーション力が身につく。
- ② 社会力（教養）の一部となる英語力が身につく。



“From⇄To”を実現する手段としての「近畿大学の英語教育」

— 専門教育と教養をリンクさせる実践的な英語教育 —

### 共通基本目標

1. 国際社会の共通言語としての英語をコミュニケーションの道具として使いこなすために、バランスのとれた4技能の能力を養成する。
2. 自分の意見を英語で書いたり、発表したり、人とディスカッションしたりする積極的な態度を養成する。
3. 自分の考えを持って課題に取り組み、英語で発表したり、異なる文化をもつ人々とインタラクションしたりできる能力を養成する。
4. 自己評価に基づいて目標を設定し、確実に目標を達成する自律力を養成する。

### 具体的方策

上記の目標を達成するために以下の具体的方策を実施する。

1. 基幹科目：プレイスメントテストによる比較的少人数（15人～30人）の習熟度別クラスの編成。習熟度に応じて基礎から応用まで、実践的でわかりやすい授業の展開。
2. 発展科目：学生のニーズに合わせた科目を開講。基幹科目で養った英語力及び教養、異文化理解力、アカデミックリテラシーなどをさらに深める。
3. 1年生全員にネイティブ教員によるオーラルコミュニケーションの授業の提供。間違いを恐れず、積極的に英語を話し、発表できる態度の養成。
4. コンテンツを重視した教材の使用。一般的な教養から専門の導入的課題について、学生同士が考え、話し合い、発表するやり甲斐のある活動を多く提供する。
5. フレームワーク（近畿大学英語能力指標〈5レベル〉）を共通基盤とし、学生の自己評価による目標レベルの設定。できれば2レベルアップを達成できるような教員による学生支援。
6. 授業外活動の充実による学生の自律性の養成。英語村（English café ‘e-cube’）や語学センターなどの利用促進。E-learning用ソフトや多読用図書の整備と、学生の利用促進。



## 英語科目一覧

科目名	配当 学年	単位	開講	備考	
英語演習 1	1	2	前	日本人教員担当科目	基 幹 科 目
英語演習 2	1	2	後		
英語演習 3	2	1	前	日本人教員担当科目	
英語演習 4	2	1	後		
オーラルイングリッシュ 1	1	1	前	ネイティブ教員担当科目	
オーラルイングリッシュ 2	1	1	後		
オーラルイングリッシュ 3	2	1	前	ネイティブ教員担当科目	
オーラルイングリッシュ 4	2	1	後		
TOEIC 1	2-4	1	前	日本人教員担当科目	発 展 科 目
TOEIC 2	2-4	1	後		
TOEIC 3	2-4	1	前	日本人教員担当科目	
TOEIC 4	2-4	1	後		
留学英語 A	2-4	1	前	日本人教員担当科目	
留学英語 B	2-4	1	後		
ライティング A	2-4	1	前	日本人教員担当科目	
ライティング B	2-4	1	後		
イングリッシュカルチャーセミナー A	3-4	1	前	日本人教員担当科目	
イングリッシュカルチャーセミナー B	3-4	1	後		
イングリッシュスペシャルスタディーズ A	3-4	1	前	ネイティブ または日本人教員担当科目	
イングリッシュスペシャルスタディーズ B	3-4	1	後		
アドバンスト TOEIC A	2-4	1	前	日本人教員担当科目	
アドバンスト TOEIC B	2-4	1	後		
TOEFL A	2-4	1	前	日本人教員担当科目	
TOEFL B	2-4	1	後		
インターネットイングリッシュ A	2-4	1	前	日本人 教員担当科目	
インターネットイングリッシュ B	2-4	1	後		
アドバンストオーラルイングリッシュ	3-4	2	前(2コマ) または 後(2コマ)	ネイティブ教員担当科目	

特例：特に優れた語学力を持っている学生（例えば帰国子女、TOEICスコア600点以上取得者等）は、1年次から発展科目を履修することも考慮し個別に対応する。

\*2単位は原則として同一教員週2回担当科目、1単位は週1回の科目

# 英語科目

## 〈基幹科目： 科目名・概要〉

### 英語演習 1・2（一年前期・後期科目）

理系・医薬系学生としての英語に必要な4技能（読む、書く、聞く、話す）の基礎力の育成を目標とする。基礎的な文法・語彙知識の習得を目指し、基本的なリスニング・速読能力の定着をはかる。比較的読み易い理系、医薬系の内容の文章を理解し、それを日本語や英語で要約できる力、さらに読み取った内容を論理的に整理し、他者に正確に伝えることができる理系・医薬系の英語基礎力を身につける。

### 英語演習 3・4（二年前期・後期科目）

英語演習 1・2 で習得した語学力をさらに向上させ、情報収集と、確実な伝達的手段としての英語力をより一層確実なものとするを目標とする。専門的な英語（English for Specific Purposes、ESP）の入門的な文章なら、分速 150 語程度スピードで読み、その要点をまとめる能力を身につける。またさまざまな英語資料を集め、簡単な口頭発表の原稿が書けるようになり、発表を行える英語力の養成を目指す。

### オーラルイングリッシュ 1・2（一年前期・後期科目）

日常会話に必要な基礎的語彙を増やし、その用法に習熟させるとともに、病院・薬局などを含めさまざまな場面で、ことばの機能（許可、依頼、招待、提案、予定、謝罪など）を学び、基礎的な会話能力の向上を図る。また英字新聞記事などを読み、内容について議論や意見発表を行いながら、大学生に必要な教養力の強化を英語を通じて行う。

### オーラルイングリッシュ 3・4（二年前期・後期科目）

特定のトピックについて聞いたり、読んだりしたことを口頭で伝達し、自分の意見や感想をつけ加えて発表でき、またトピックについてのディスカッションを行うことによって、さらに高い会話力を身につける。また、スピーチ、ディスカッションやディベートを行い、プレゼンテーション能力の向上とともに、英語のコミュニケーション能力の向上を図る。

# 英語科目

## ＜発展科目：科目名・概要＞

以下の発展科目は、第1回目の授業日から必ず出席し、担当教員の指示に従うこととする。

また、15回の授業に出席し、必ず定期試験を受けることとする。

### TOEIC 1・2

TOEIC 420 点以上を目安に、TOEIC 520 点以上取得するための演習を行う。TOEICに必要な語彙を強化し、文法事項を再確認するとともに、応答問題や会話問題の聞き取り練習を重点的に行い、リスニング能力を養成する。

### TOEIC 3・4

TOEIC 500 点以上取得している学生を対象に、TOEIC 600 点以上取得するための演習を行う。比較的長いナレーションを正確に聞き取るリスニング能力の養成を図る。

### 留学英語 A・B

留学を考慮・想定して、TOEFL対策の演習を中心に、英語圏の大学、大学院生活に必要な英語力の養成を目指す。ナチュラルスピードで話される講義を聞き取れ、レポートを英語で作成できることを目指す。

### ライティング A・B

日常生活で使う文章を含め、理科系の研究や仕事をする上で必要な文書の英文を作成する能力を養成することを目標とし、自分の伝えたいことを正確な英語で表現する訓練を行う。また英語文書の論理的構造を理解できるようになる。主題文→トピックセンテンスと具体例→結論、という英文構造を理解し、接続詞を論理的に使用し理科系英文を書くための基礎訓練をする。

### イングリッシュカルチャーセミナー A・B

ゼミ形式で英語圏の文化に対する理解を深めながら英語を学ぶ。英語圏の国々の言語、文化、社会などの話題について読み、自分の意見をレポートにまとめ、発表し、ディスカッションすることにより、課題解決能力と高度な英語力を養成する。

### イングリッシュスペシャルスタディーズ A・B

異文化にかかわる話題を聞き、読んで、ディスカッションやディベートに参加し、異文化間に潜む問題の要因や、異文化理解をさまたげるさまざまな要因について学ぶ。また、専門分野に関する記事を読んだり聞いたりして、ディスカッション、ディベート、プレゼンテーションを行う。

### アドバンスト TOEIC A・B

すでに TOEIC550 点以上を取得している学生を対象に、TOEIC 700 点以上取得を目指して、リスニング・文法・読解能力の向上を図る。さらにビジネスシーンに必要な会話表現を習得し、自然な発音・イントネーションでコミュニケーションできるように訓練する。また TOEIC に頻出の主要文法項目、語彙・表現を用いて、Eメ

ールやビジネスレター、注文書、広告、グラフなど読解に頻出のジャンルの特徴を学び、それらの書き方も学ぶ。

#### TOEFL A・B

外国の大学の学部・大学院への留学を希望し、TOEIC550 点以上または TOEFL487 点(PBT)を取得している学生を対象に、TOEFL 550 点(PBT)以上を目指して、リスニング・文法・読解能力の向上を図る。さらに外国での学生生活に必要な会話表現を学び、自然な発音・イントネーションでコミュニケーションできるように訓練する。TOEFL に頻出の重要文法項目を習得し、アカデミックライティングの訓練も行う。また説明文や講義に用いられる語彙・表現の特徴を習得し、速読・速解ができるように訓練する。

#### インターネットイングリッシュ A・B

TOEIC550 点以上を取得していることを目安に、インターネットを活用するために必要とされる英語能力の向上を図る。情報収集や発信の方法を学び、速読・速解を行い、インターネットを活用した問題解決能力を育成する。英文のホームページの作成や調べたことのプレゼンテーションに取り組む場合もある。

#### アドバンストオーラルイングリッシュ (前期2コマまたは後期2コマ 週2回)

TOEIC550 点以上を取得していることを目安に、高度で説得力のある英語を話せる能力の育成を目標とする。交渉・議論・プレゼンテーションなどをより効果的に行うための理論と方法を学び、視覚資料の作成法や提示法について実践的な訓練を行う。



## ＜英語基幹科目：1年次、2年次到達目標＞

	クラス	Listening	Speaking	Reading	Writing	文法・語彙	TOEIC スコア
1	年次	ネイティブの発音による理系英語の内容をほぼ理解できる。	音読上の規則を理解し、一定の速度で音読できる。客観的事実や、自分の考える論理的内容を簡潔な英語で話せる。	比較的平易な理系の内容の英文を1分で100語程度の速度で読め、その要点を的確に把握することができる。	客観的な事実や自分の意見、読んだ英文の要約を一つの段落にまとめることができる。	理系英文を読むのに必要な文法基本事項を理解している。3000語程度の基本語彙と必要な専門語彙を理解できる。	400   470
2	年次	ネイティブ発音のやや長めの理系英文を聞き、要点を整理し理解できる。	特定の話題について、3分間以上のプレゼンテーション・ディスカッションができる。	専門分野の入門的な文章を分速150語以上で読むことができ、要点を把握することができる。	理系の特定の話題について、2つ以上の段落を用いて表現することができる。	理系のやや長めの英文を含めて、文法基本事項理解している。3500語程度の基本語彙と必要な専門語彙を理解できる。	450   520



## 発展科目：到達目標

- TOEIC 1・2

TOEIC テストで520点以上の取得を目指す。語彙力、文法力を高め、会話を正確に聞き取る能力を身につけるとともに、問題文の速読能力を身につける。

- TOEIC 3・4

TOEIC テストで600点以上の取得を目指す。TOEIC1・2 で目標とした能力の一層の向上を図るとともに、ナレーションを正確に聞き取る能力、オフィスで使用される文書の速読能力を身につける。

- 留学英語 A・B

英語圏での日常生活や学生生活に必要な会話力を身につける。英語圏の大学で学ぶ際に必要となる知識を吸収し、TOFEL (PBT) 460点、TOEFL (CBT) 140点以上取得の英語力を身につける。

- ライティング A・B

研究や仕事上で必要な文書を書くに際し、比較的平易な英文を用いて複数のパラグラフの文章にまとめる能力を身につける。特に、基本的な単語、熟語、構文、接続表現などを使いこなし、意図したことを正確に伝達する英文を作る能力を身につける。理系英文、発表の英文の基礎を養う。

- イングリッシュカルチャーセミナー A・B

英語圏の文化に関する基礎的な情報を理解し、英語で書かれた新聞、雑誌、インターネット上の今日的話題について概要、要点を理解する能力を身につける。また、そうした情報を整理し、自分なりにまとめる能力や、自分の意見を発表したりする能力を身につける。

- イングリッシュスペシャルスタディーズ A・B

異文化の話題に関する話を聞いたり、読んだりして、ディスカッションやディベートに参加し、口頭発表能力を身につける。また、専門分野に関する記事を読んだり、聞いたりして、その内容についてディスカッションやディベートやプレゼンテーションを行う能力を身につける。

## 発展科目：到達目標

### ● アドバンスト TOEIC A・B (週1回)

- ・ TOEIC 700 点以上を目指す。
- ・ リスニングでは、会話、説明文対策に力点をおいて学習し、内容理解のための語彙力を増強し、問題文の速読・本文の内容把握能力を身につける。
- ・ TOEIC 頻出の主要文法項目を理解し、短時間で穴埋め部分の品詞や、間違い部分を発見する能力を身につける。
- ・ 読解では、ジャンル別の文章の特徴を学び、文章中の必要な情報をすばやく把握する能力を身につける。

### ● TOEFL A・B (週1回)

- ・ TOEFL 550 点 (PBT) 以上を目指す。
- ・ コンピューターによるテスト形式に対応できる技能を身につける。
- ・ 日常生活における会話、また大学構内や教室内でかわされる会話内容が理解できる能力を身につける。
- ・ 主要文法項目を理解し、すばやく問題に対応できる能力を身につける。
- ・ 読解では、ジャンル別・科目別の特徴を理解し、速読・速解の能力を身につける。
- ・ 文法・読解問題で学んだ知識をレポートなどアカデミックなライティングに応用できる能力を身につける

### ● インターネットイングリッシュ A・B (週1回)

- ・ コンピューターを用いた情報収集の方法（検索機能の効果的な利用方法など）を習得する。
- ・ メール、申し込み、注文などの書き方を身につける。
- ・ 英文のホームページの作成方法を身につける。

### ● アドバンストオーラルイングリッシュ (週1回)

- ・ 交渉、議論、さらにプレゼンテーションの効果的な進め方を身につける。
- ・ パワーポイントなどの視覚資料の作成ができるようにする。
- ・ 説得力のある話し方、身振り、自然な発音やイントネーションを身につける。

# 発展科目履修のガイドライン

〈平成19年度以前の入学生に適用〉

\*履修希望者は、下記の履修条件を満たしている者に限る。また各科目ごとに示すTOEIC等のスコア程度の学力が必要である。

科目名	履修条件	履修に必要な学力の目安
TOEIC 1・2	英語演習1・2＋オーラルイングリッシュ1・2を取得済みの者。	TOEIC420点 TOEFL443(PBT)/ 127点(CBT)
TOEIC 3・4	TOEIC 1・2の単位を取得済みの者または、TOEIC 1・2の単位認定基準に必要なスコアを取得し、単位認定された者。	TOEIC 500点 TOEFL 470点(PBT)/ 150点(CBT)
イングリッシュ カルチャー セミナーA・B	英語演習1・2＋オーラルイングリッシュ1・2を取得済みで、英語演習3・4も取得済みの者。	TOEIC 470点 TOEFL 460点(PBT)/ 140点(CBT)
イングリッシュ スペシャル スタディーズA・B	英語演習1・2＋オーラルイングリッシュ1・2を取得済みで、オーラルイングリッシュ3・4も取得済みの者。	TOEIC 470点 TOEFL 460点(PBT)/ 140点(CBT)
留学英語A・B ライティングA・B	英語演習1・2＋オーラルイングリッシュ1・2を取得済みの者。	
アドバンストTOEIC A・B	履修条件 なし	TOEIC 550点 TOEFL 487点(PBT)/ 163点(CBT) 以上取得済み
TOEFL A・B	履修条件 なし	TOEIC 550点 TOEFL487点(PBT)/ 163点(CBT) 以上取得済み
インターネット イングリッシュA・B	履修条件 なし	TOEIC 550点 TOEFL487点(PBT)/ 163点(CBT) 以上取得済み
アドバンストオーラル イングリッシュ	履修条件 なし	TOEIC 550点 TOEFL487点(PBT)/ 163点(CBT) 以上取得済み

# 発展科目履修のガイドライン

〈平成20年度以降の入学生に適用〉

\*履修希望者は、下記の履修条件を満たしている者に限る。また各科目ごとに示す TOEIC 等のスコア程度の学力が必要である。

科目名	履修条件	履修に必要な学力の目安
TOEIC 1・2	英語演習 1・2 + オーラルイングリッシュ 1・2 を取得済みの者。	TOEIC 420 点 TOEFL 443 (PBT) / 43 点 (iBT)
TOEIC 3・4	TOEIC 1・2 の単位を取得済みの者または、TOEIC 1・2 の単位認定基準に必要なスコアを取得し、単位認定された者。	TOEIC 500 点 TOEFL 470 点 (PBT) / 52 点 (iBT)
イングリッシュ カルチャー セミナー A・B	英語演習 1・2 + オーラルイングリッシュ 1・2 を取得済みで、英語演習 3・4 も取得済みの者。	TOEIC 470 点 TOEFL 460 点 (PBT) / 48 点 (iBT)
イングリッシュ スペシャル スタディーズ A・B	英語演習 1・2 + オーラルイングリッシュ 1・2 を取得済みで、オーラルイングリッシュ 3・4 も取得済みの者。	TOEIC 470 点 TOEFL 460 点 (PBT) / 48 点 (iBT)
留学英語 A・B ライティング A・B	英語演習 1・2 + オーラルイングリッシュ 1・2 を取得済みの者。	
アドバンスト TOEIC A・B	TOEIC 550 点以上取得済みの者。	TOEIC 550 点 TOEFL 488 点 (PBT) / 57 点 (iBT) 以上取得済み
TOEFL A・B	TOEIC 550 点以上取得済みの者。	TOEIC 550 点 TOEFL 488 点 (PBT) / 57 点 (iBT) 以上取得済み
インターネット イングリッシュ A・B	英語演習 1・2 + オーラルイングリッシュ 1・2 を取得済みの者。	TOEIC 550 点 TOEFL 488 点 (PBT) / 57 点 (iBT) 以上取得済み
アドバンストオーラル イングリッシュ	英語演習 1・2 + オーラルイングリッシュ 1・2 を取得済みの者。	TOEIC 550 点 TOEFL 488 点 (PBT) / 57 点 (iBT) 以上取得済み



## ＜TOEIC 等の得点による在学生の単位認定基準＞

〈平成19年度以前の入学生に適用〉

### TOEIC 等の得点

TOEIC 得点	TOEFL CBT 得点 (カッコ内は PBT)	単位認定される科目	備考
500-595	150 (470) -179 (508)	英語演習 3・4 TOEIC 1・2	計 4 単位
600 以上	180 (510) 以上	英語演習 3・4 TOEIC 1・2 TOEIC 3・4	計 6 単位 *英語検定準一級以上合格者も同じ扱いとする。

\*1 単位の認定を受けるためには所定の申請期間内にスコア原本・学生証を持参のうえ薬学部事務部に申請しなくてはならない。申請期間は、掲示で通知します。(取得後、一年以内のスコアに限る)

\*2 同一科目の重複認定は行わない。

\*3 入学時一年以内に取得したスコアについても準用する。

\*\*\*\*\*

## ＜海外英語研修による単位認定＞

国際交流センター主催の海外英語研修に参加し、所定の成績を得た者は、所定の手続きを経て以下の単位が認定単位として与えられる。

**留学英語 A・B (計 2 単位)**

## ＜TOEIC 等の得点による在学生の単位認定基準＞

〈平成20年度～22年度の入学生に適用〉

### TOEIC 等の得点

TOEIC 得点	TOEFL iBT 得点 (カッコ内は PBT)	単位認定される科目	備考
550-645	57 (488) -68 (520)	TOEIC 3・4	計2単位
650 以上	69 (523) 以上	TOEIC 3・4 アドバンスト TOEIC 1・2	計4単位 *英語検定準一級以上合格者も同じ扱いとする。

- \*1 単位の認定を受けるためには所定の申請期間内にスコア原本・学生証を持参のうえ薬学部事務部に申請しなくてはならない。申請期間は、掲示で通知します。(取得後、一年以内のスコアに限る)
- \*2 同一科目の重複認定は行わない。
- \*3 入学時一年以内に取得したスコアについても準用する。

**\*平成23年度以降の入学生には**

**TOEIC等の得点による単位認定は行わない。**

\*\*\*\*\*

## ＜海外英語研修による単位認定＞

国際交流センター主催の海外英語研修に参加し、所定の成績を得た者は、所定の手続きを経て以下の単位が認定単位として与えられる。

**留学英語 A・B (計2単位)**

## 統一英語試験(定期試験)について

- 1) 英語演習1, 2, 3, 4の各学期末にそれぞれ統一英語試験を実施します。
- 2) 英語演習2の成績によって、英語演習3(2年時)のクラス編成をおこないます。
- 3) 統一英語試験は、成績評価(100点満点)の内40%分となります。残りの60%は各担当教員が実施する。授業中での小テスト、課題発表等で配点され、合算した後、成績評価します。
- 4) 統一英語試験(定期試験)は、必ず受験しなければなりません。

		前・後期統一試験	クラス編成対象科目
1 年	英語演習1	前期定期試験期間中に実施→	クラス編成はおこなわない
	英語演習2	後期定期試験期間中に実施→	英語演習3
2 年	英語演習3	前期定期試験期間中に実施	クラス編成はおこなわない
	英語演習4	後期定期試験期間中に実施	クラス編成はおこなわない





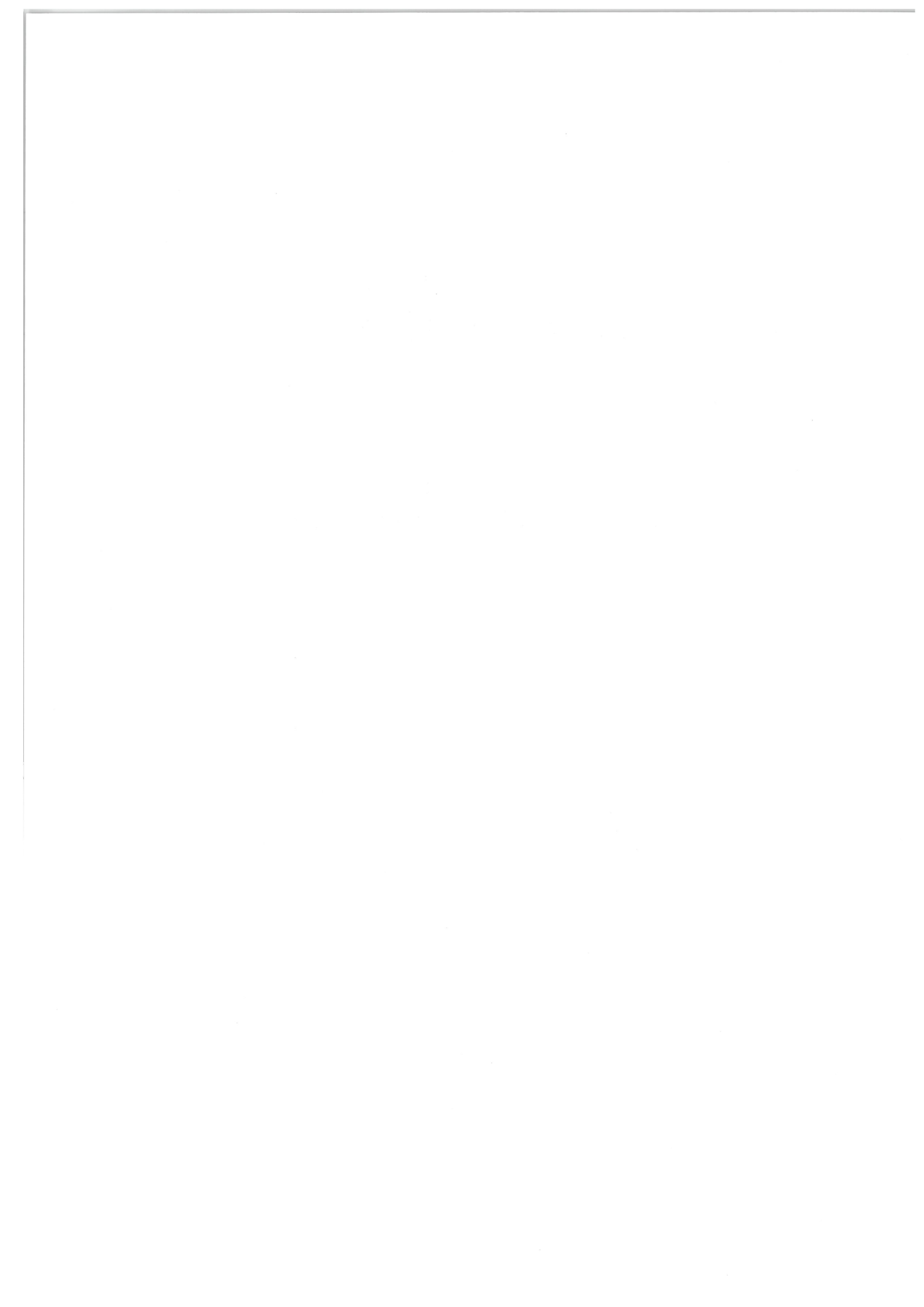
---

# 外国語科目

---

## 英語

創薬科学科（平成 24 年度以降入学生）



# 英語履修案内

## 英語教育の共通基本目標

### From

中学・高校を通じて6年間英語の語彙や文法を一通り学習し、英文もある程度は読めるけれど、聞いたり話したりは自信がない。卒業後、社会に出たときに役立つかどうか分からない。



### To

- ① 実社会、特に産業界で役に立つ英語コミュニケーション力が身につく。
- ② 社会力（教養）の一部となる英語力が身につく。



“From⇔To”を実現する手段としての「近畿大学の英語教育」

— 専門教育と教養をリンクさせる実践的な英語教育 —

### 共通基本目標

1. 国際社会の共通言語としての英語をコミュニケーションの道具として使いこなすために、バランスのとれた4技能の能力を養成する。
2. 自分の意見を英語で書いたり、発表したり、人とディスカッションしたりする積極的な態度を養成する。
3. 自分の考えを持って課題に取り組み、英語で発表したり、異なる文化をもつ人々とインタラクションしたりできる能力を養成する。
4. 自己評価に基づいて目標を設定し、確実に目標を達成する自律力を養成する。

### 具体的方策

上記の目標を達成するために以下の具体的方策を実施する。

1. 基幹科目：プレイスメントテストによる比較的少人数（15人～30人）の習熟度別クラスの編成。習熟度に応じて基礎から応用まで、実践的でわかりやすい授業の展開。
2. 発展科目：学生のニーズに合わせた科目を開講。基幹科目で養った英語力及び教養、異文化理解力、アカデミックリテラシーなどをさらに深める。
3. 1年生全員にネイティブ教員によるオーラルコミュニケーションの授業の提供。間違いを恐れず、積極的に英語を話し、発表できる態度の養成。
4. コンテンツを重視した教材の使用。一般的な教養から専門の導入的課題について、学生同士が考え、話し合い、発表するやり甲斐のある活動を多く提供する。
5. フレームワーク（近畿大学英語能力指標〈5レベル〉）を共通基盤とし、学生の自己評価による目標レベルの設定。少なくとも2レベルアップを達成できるような教員による学生支援。
6. 授業外活動の充実による学生の自律性の養成。英語村（English café ‘e-cube’）や語学センターなどの利用促進。E-learning用ソフトや多読用図書を整備と、学生の利用促進。

## 英語科目一覧

科目名	配当 学年	単位	開講	備考	
英語演習 1	1	2	前	日本人教員担当科目	基 幹 科 目
英語演習 2	1	2	後		
英語演習 3	2	1	前	日本人教員担当科目	
英語演習 4	2	1	後		
オーラルイングリッシュ 1	1	1	前	ネイティブ教員担当科目	
オーラルイングリッシュ 2	1	1	後		
オーラルイングリッシュ 3	2	1	前	ネイティブ教員担当科目	
オーラルイングリッシュ 4	2	1	後		
TOEIC A	2-4	1	前	日本人教員担当科目	発 展 科 目
TOEIC B	2-4	1	後		
ライティング A	2-4	1	前	日本人教員担当科目	
ライティング B	2-4	1	後		

特例：特に優れた語学力を持っている学生（例えば帰国子女、TOEICスコア600点以上取得者等）は、1年次から発展科目を履修できるものとします。特例は個別に対処します。

\*英語演習 1, 2, 3, 4 の 2 単位科目は、原則として同一教員週 2 回担当科目、その他の 1 単位科目は週 1 回の科目です。

# 英語科目

## <基幹科目：科目名・概要>

### 英語演習1・2（一年前期・後期科目）

理系・医薬系学生としての英語に必要な4技能（読む、書く、聞く、話す）の基礎力の育成を目標とする。基礎的な文法・語彙知識の習得を目指し、基本的なリスニング・速読能力の定着をはかる。比較的読み易い理系、医薬系の内容の文章を理解し、それを日本語や英語で要約できる力、さらに読み取った内容を論理的に整理し、他者に正確に伝えることができる理系・医薬系の英語基礎力を身につける。

### 英語演習3・4（二年前期・後期科目）

英語演習1・2で習得した語学力をさらに向上させ、情報収集と、確実な伝達の手段としての英語力をより一層確実なものとするを目標とする。専門的な英語（English for Specific Purposes、ESP）の入門的な文章なら、分速150語程度スピードで読み、その要点をまとめる能力を身につける。またさまざまな英語資料を集め、簡単な口頭発表の原稿が書けるようになり、発表を行える英語力の養成を目指す。

### オーラルイングリッシュ1・2（一年前期・後期科目）

日常会話に必要な基礎的語彙を増やし、その用法に習熟させるとともに、病院・薬局などを含めさまざまな場面で、ことばの機能（許可、依頼、招待、提案、予定、謝罪など）を学び、基礎的な会話能力の向上を図る。また英字新聞記事を読み、内容について議論や意見発表を行いながら、大学生に必要な教養力の強化を英語を通じて行う。

### オーラルイングリッシュ3・4（二年前期・後期科目）

特定のトピックについて聞いたり、読んだりしたことを口頭で伝達し、自分の意見や感想をつけ加えて発表でき、またトピックについてのディスカッションを行うことによって、さらに高い会話力を身につける。また、スピーチ、ディスカッションやディベートを行い、プレゼンテーション能力の向上とともに、英語のコミュニケーション能力の向上を図る。



# 英語科目

## ＜発展科目：科目名・概要＞

以下の発展科目は、第1回目の授業日から必ず出席し、担当教員の指示に従うこととする。

また、15回の授業に出席し、必ず定期試験を受けることとする。

### TOEIC A・B

TOEIC 420 点以上を目安に、TOEIC 520 点以上取得するための演習を行う。TOEICに必要な語彙を強化し、文法事項を再確認するとともに、応答問題や会話問題の聞き取り練習を重点的に行い、リスニング能力を養成する。

### ライティング A・B

日常生活で使う簡単な文章を含め、理科系の研究や仕事をする上で必要な文書までの英文を作成する能力を養成することを目標とし、自分の伝えたいことを正確な英語で表現する訓練を行う。また英語文書の論理的構造を理解できるようになる。主題文→トピックセンテンスと具体例→結論を明示、という英文構造を理解し、接続詞を論理的に使用し理科系英文を書くための基礎訓練をする。

## ＜英語基幹科目：1年次、2年次到達目標＞

	クラス	Listening	Speaking	Reading	Writing	文法・語彙	TOEIC スコア
1	年 次	ネイティブの発音による理科系英語の内容をほぼ理解できる。	音読上の規則を理解し、一定の速度で音読できる。客観的事実や、自分の考える論理的内容を簡潔な英語で話せる。	比較的平易な理系の内容の英文を1分で100語程度の速度で読め、その要点を的確に把握することができる。	客観的な事実や自分の意見、読んだ英文の要約を一つの段落にまとめることができる。	理系英文を読むのに必要な文法基本事項を理解している。3000語程度の基本語彙と必要な専門語彙を理解できる。	400   470
2	年 次	ネイティブ発音のやや長めの理系英文を聞き、要点を整理し理解できる。	特定の話題について、3分間以上のプレゼンテーション・ディスカッションができる。	専門分野の入門的な文章を分速150語以上で読むことができ、要点を把握することができる。	理系の特定の話題について、2つ以上の段落を用いて表現することができる。	理系のやや長めの英文を含めて、文法基本事項理解している。 3500語程度の基本語彙と必要な専門語彙を理解できる。	450   520

## 発展科目：到達目標

### ● TOEIC A・B

TOEIC テストで520点以上の取得を目指す。語彙力、文法力を高め、会話を正確に聞き取る能力を身につけるとともに、問題文の速読能力を身につける。

### ● ライティングA・B

研究や仕事上で必要な文書を書くに際し、比較的平易な英文を用いて複数のパラグラフの文章にまとめる能力を身につける。特に、基本的な単語、熟語、構文、接続表現などを使いこなし、意図したことを正確に伝達する英文を作る能力を身につける。理系英文、発表の英文の基礎を養う。

## 発展科目履修のガイドライン

〈平成24年度以降の入学生に適用〉

\*履修希望者は、下記の履修条件を満たしている者に限る。また各科目ごとに示すTOEIC等のスコア程度の学力が必要である。

科目名	履修条件	履修に必要な学力の目安
TOEIC A・B	英語演習1・2 + オーラルイングリッシュ1・2を取得済みの者。	TOEIC420点 TOEFL443 (PBT) / 43点(iBT)
ライティング A・B	英語演習1・2 + オーラルイングリッシュ1・2を取得済みの者。	TOEIC420点 TOEFL443 (PBT) / 43点(iBT)

\*\*\*\*\*

## ＜TOEIC 等の得点による在学生の単位認定は行わない＞

\*\*\*\*\*

## ＜海外英語研修による単位認定＞

国際交流センター主催の海外英語研修に参加し、所定の成績を得た者は、所定の手続きを経て以下の単位が認定単位として与えられる。

**TOEIC A・B または ライティング A・B**

**のいずれか、未修得の発展科目の単位として認定する。**

**(計 2 単位)**

## 統一英語試験(定期試験)について

- 1) 英語演習 1, 2, 3, 4 の各学期末にそれぞれ統一英語試験を実施します。
- 2) 英語演習 2 の成績によって、英語演習 3 (2 年時) のクラス編成をおこないます。
- 3) 統一英語試験は、成績評価 (100 点満点) の内 40 % 分となります。残りの 60 % は各担当教員が実施する。授業中での小テスト、課題発表等で配点され、合算した後、成績評価します。
- 3) 統一英語試験 (定期試験) は必ず受験しなければなりません。

		前・後期統一試験	クラス編成対象科目
1 年	英語演習1	前期定期試験期間中に実施→	クラス編成はおこなわない
	英語演習2	後期定期試験期間中に実施→	英語演習3
2 年	英語演習3	前期定期試験期間中に実施	クラス編成はおこなわない
	英語演習4	後期定期試験期間中に実施	クラス編成はおこなわない

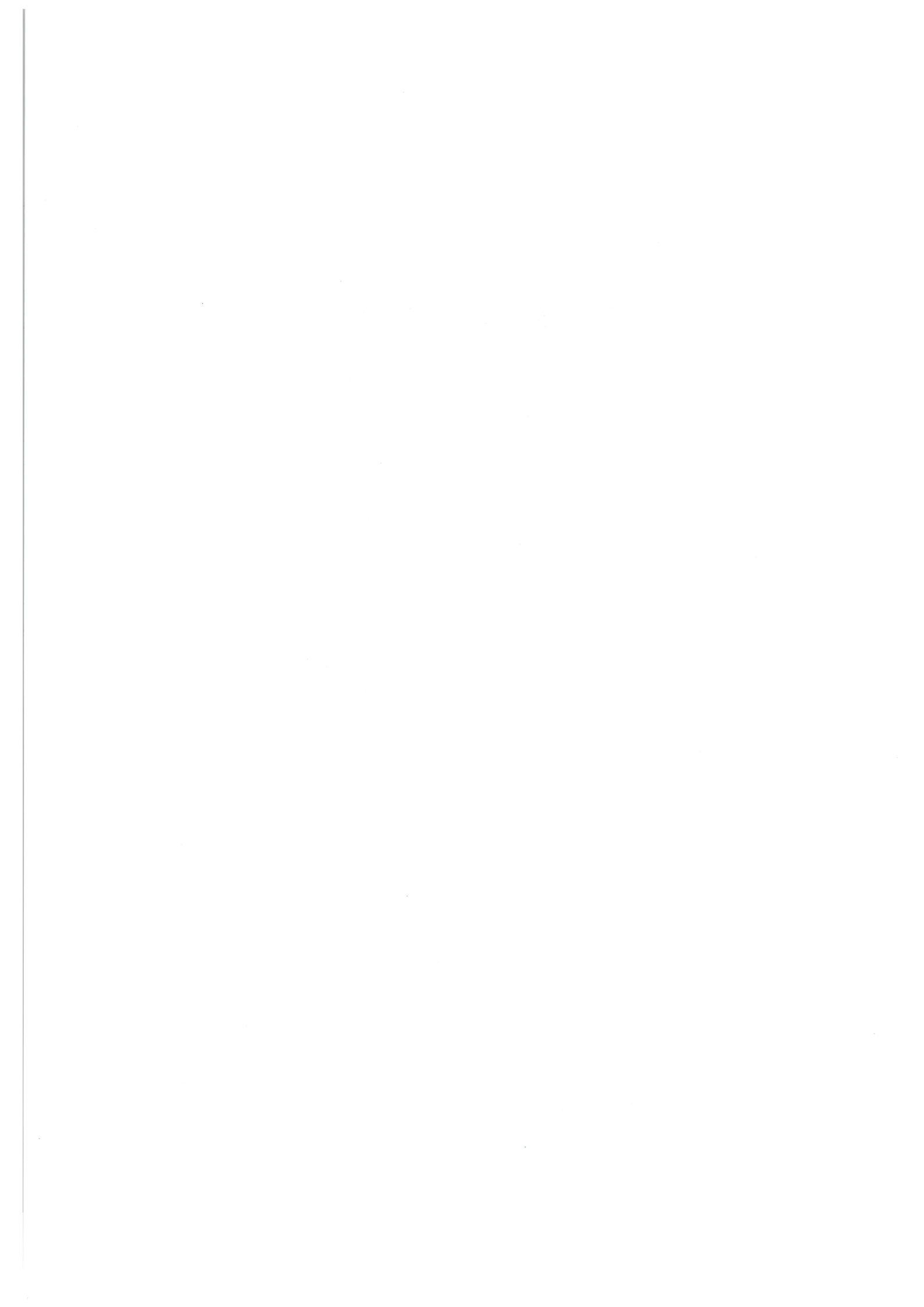


---

# 外国語科目

---

英 語



**科目名：英語演習1【I】薬指定テキスト I-1 1年前期共通**

英文名：English 1

担当クボキミヒト者：久保 公人・コイタヒロミ小坂 裕美・ヒラカワキミコ平川 公子・ヒロシゲナオミ廣重 尚実・フジオカマユミ藤岡 真由美・マサゴカオル真砂 薫・ヨダユウスケ依田 悠介

単 位：2単位

開講年次：1年次

開講期：前期

必修選択の別：医療：選択科目 創薬：必修科目

**■授業概要・方法等**

薬学部英語1年の基幹科目として、英語の4技能（読む、書く、聞く、話す）の基礎力養成を目指す。1週間に2回の授業があり、テキストを中心に、総合的な英語力の養成を目指す。具体的には、テキストの内容を正確に読むことができる、読んだ内容に関する簡単な文を聞きとることができ、内容の要約を自分の言葉で書くことができる、さらに書いた内容を話して伝えることができる、という能力の育成を目指す。このほかに発音や音読練習も行う。

**■学習・教育目標および到達目標**

読むことについては、1分間に100語程度のスピードで比較的よみやすい内容の英文を読むことができる、その内容をネイティブスピーカーが音読した英語が聞き取れる、その内容を日本語さらに英語で書いてまとめることができる、さらに書いた内容についてメモなどの準備を経て1分程度のスピーチができる、という英語力を身につけることを目標とする。

**■授業時間外に必要な学修**

1週間単位で授業に向けての計画を立て、単語調べ、語彙習得、練習問題の解答の用意などを行う。また各クラスでの小テスト、課題提出のための学習を各自が遂行する。

**■教科書**

Science for Everyone, Hattori et al. (著) 金星堂

Healing our World, Ogasawara &amp; Cutrone (著) 南雲堂

**■参考文献**

必要に応じて各クラスの担当者から指示がある。また、語学センターの速読・多読教材、英字新聞、TOEIC, TOEFL 問題集なども各自の目標に応じて積極的に活用する。

**■関連科目**

英語演習2

**■成績評価方法および基準**

統一英語試験 40%

授業平常点（小テスト、発表、課題など）60%

**■授業評価アンケート実施方法**

薬学部実施規程に準拠して行います。

**■研究室・E-mailアドレス**

真砂薫 39号館4階402

masagok@kindai.ac.jp

藤岡真由美 39号館4階404

mfujioka@kindai.ac.jp

または各クラスの担当の先生からの連絡先の指示にしたがう。

**■オフィスアワー**

真砂薫：水曜日2限または相談によりアポイントメントの時間を設定

藤岡真由美：水曜日3限

各クラスの先生からの指示がある場合はそれにしたがう。

**■授業計画の項目・内容及び到達目標**

1週間に2回授業があり、2冊のテキストを使用する。各回の内容はあくまでも標準的な進度であり、クラス担当教員の判断で、2冊のテキストの具体的な使用方法を決定し、進度調節を行う。

**第1回 Science for Everyone, Unit 1: Chocolate power!**

語彙、読解、内容要約、文法・リスニング練習、スピーチ練習

**第2回 Unit 2: An end to Malaria?**

語彙、読解、内容要約、文法・リスニング練習、スピーチ練習

第3回 Unit 3: Spiders in space?

語彙、読解、内容要約、文法・リスニング練習、スピーチ練習

第4回 Unit 4: Feeling stressed or annoyed? Talk, don't text!

語彙、読解、内容要約、文法・リスニング練習、スピーチ練習

第5回 Unit 5: Speeding sharks

語彙、読解、内容要約、文法・リスニング練習、スピーチ練習

第6回 Unit 6: Asteroid special delivery

語彙、読解、内容要約、文法・リスニング練習、スピーチ練習

第7回 Unit 7: "Dung Beetle" Car powered by poop

語彙、読解、内容要約、文法・リスニング練習、スピーチ練習

第8回 Unit 8: Robot Scientist

語彙、読解、内容要約、文法・リスニング練習、スピーチ練習

第9回 Skyscraper farms

語彙、読解、内容要約、文法・リスニング練習、スピーチ練習

第10回 Unit 10: Thanks to your twin brother

語彙、読解、内容要約、文法・リスニング練習、スピーチ練習

第11回 Unit 11: Butterflies find a cure

語彙、読解、内容要約、文法・リスニング練習、スピーチ練習

第12回 Unit 12: Warning: Sticky dust!

語彙、読解、内容要約、文法・リスニング練習、スピーチ練習

第13回 Unit 13: From the jungles of Mount Samkos

語彙、読解、内容要約、文法・リスニング練習、スピーチ練習

第14回 Unit 14: The birth of an ocean

語彙、読解、内容要約、文法・リスニング練習、スピーチ練習

第15回 Unit 15: A heart that doesn't beat

語彙、読解、内容要約、文法・リスニング練習、スピーチ練習

第16回 Healing our World, Unit 1: Scientists zap coral reefs with electricity to save them

語彙、読解、文法、ライティング練習、スピーチ練習

第17回 Unit 2: "Humble" potato emerging as world's next food source

語彙、読解、文法、ライティング練習、スピーチ練習

第18回 Unit 3: Offices use ice to cool down and save power

語彙、読解、文法、ライティング練習、スピーチ練習

第19回 Unit 4: Study: Exercise in middle age cuts risk of Alzheimer's

語彙、読解、文法、ライティング練習、スピーチ練習

第20回 Unit 5: Egyptians look to desert for hot residential property

語彙、読解、文法、ライティング練習、スピーチ練習

第21回 Unit 6: College students feel better after screaming together

語彙、読解、文法、ライティング練習、スピーチ練習

第22回 Unit 7: Indian dam drowns valley, angering farmers

語彙、読解、文法、ライティング練習、スピーチ練習

第23回 Unit 8: Smoking bans could cut into Cuban cigar sales

語彙、読解、文法、ライティング練習、スピーチ練習

第24回 Unit 9: Global warming claiming next victim: Andes water

語彙、読解、文法、ライティング練習、スピーチ練習

第25回 Unit 10: Aborigines still rely on bush medicines for remedies

語彙、読解、文法、ライティング練習、スピーチ練習

第26回 Unit 11: African farmers seek ways to survive droughts

語彙、読解、文法、ライティング練習、スピーチ練習

第27回 Unit 12: Study: Fruity cocktails may be good for health

語彙、読解、文法、ライティング練習、スピーチ練習

第28回 Unit 13: Rising seas may force island nations to evacuate

語彙、読解、文法、ライティング練習、スピーチ練習

第29回 Unit 14: Malaysians getting appetite for healthier eating

語彙、読解、文法、ライティング練習、スピーチ練習

第30回 Unit 15: Planned Chinese city wants all eco-friendly power

語彙、読解、文法、ライティング練習、スピーチ練習

定期試験

学部統一英語試験（リスニング、文法読解）



科目名：英語演習1（再）			
英文名：English 1			
担当者： <sup>マサゴ カオル</sup> 眞砂 薫			
単 位：2単位	開講年次：2年次	開講期：前期	必修選択の別：医療：選択科目 創薬：必修科目

### ■授業概要・方法等

2時間連続講義で、1年科目英語演習1に相当する内容の英語演習を行う。教材は基本的に毎回授業で次回分の教材プリントを配布し、次回までに予習し準備する。授業では、解答の発表と検討、質疑を行い、正解を解説する。最後に確認テストを行い、それらの演習をもって授業実習点として評価する。準備してきたワークシートの採点は、自己採点または相互採点とし、採点を通じても授業内容の定着、理解を深める。

### ■学習・教育目標および到達目標

英文300語程度の、薬学、医学を含む科学、健康、環境などの英文の内容を1分間100語以上の速さで読み、内容を正しく理解できる。内容に関して選択式の解答から正解を正しく選択し、その理由を本文該当箇所の指摘などを行い、簡潔に説明できる。また日本語あるいは英語の間に正しく解答でき、その理由を論理的に説明できる。これらの演習のために、自律的に学習を計画し、実行し、結果を精査し、改善を行うPDCAサイクルの自己学習管理ができる。また学習課題の内容について、用語や概念を自主的に調べ、説明や発表にそなえることができる。

### ■授業時間外に必要な学修

事前に配布されるプリントの英文の単語意味調べ、音読練習、練習問題解答、解答の根拠解説の準備

### ■教科書

プリント教材（授業の1週間前に、授業中配布）

### ■参考文献

授業中にリスト等で配布する

### ■関連科目

英語演習1

### ■成績評価方法および基準

授業実習点（準備課題、授業中復習テスト）60%  
定期試験（英語運用能力テスト）40%

### ■授業評価アンケート実施方法

薬学部実施規程に準拠して行います。

### ■研究室・E-mailアドレス

masagok@kindai.ac.jp

### ■オフィスアワー

水曜日2時間目（および原則として月、水、木、土の12:10~13:10）

### ■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 授業説明

教材S Unit1

Unit 1 問題演習

第2回 教材H Unit1

Unit1 問題演習

次回 教材S-unit2, H-Unit2配布

第3回 教材S Unit2

問題演習 採点と提出課題加点

第4回 教材H Unit2

問題演習 採点解説 提出課題 加点

第5回 教材 S Unit3

問題演習 採点と解説 提出課題 加点

第6回 教材 H Unit3

問題演習 採点と解説 提出課題 加点  
次回教材 S Unit4 H Unit4 配布

第7回 教材 S Unit4

問題演習 採点と解説 提出課題 加点

第8回 教材 H unit4

問題演習 採点と解説 提出課題 加点  
次回教材 S Unit5 H Unit5 配布

第9回 教材 S Unit5

問題演習 採点と解説 提出課題 加点

第10回 教材 H Unit5

問題演習 採点と解説 提出課題 加点  
次回教材 S Unit6 H Unit6 配布

第11回 教材 S Unit6

問題演習 採点と解説 提出課題 加点

第12回 教材 H Unit6

問題演習 採点と解説 提出課題 加点  
次回教材 S Unit7 H Unit7 配布

第13回 教材 S Unit7

問題演習 採点と解説 提出課題 加点

第14回 教材 H Unit7

問題演習 採点と解説 提出課題 加点  
次回教材 S Unit8 H Unit8 配布

第15回 教材 S Unit8

問題演習 採点と解説 提出課題 加点

中間試験は実施しない

第16回 教材 H Unit8

問題演習 採点と解説 提出課題 加点  
教材 S Unit9 H Unit9 配布

第17回 教材 S Unit9

問題演習 採点と解説 提出課題 加点

第18回 教材 H Unit9

問題演習 採点と解説 提出課題 加点  
教材 S, H Unit10 配布

第19回 教材S Unit 10

問題演習 採点と解説 提出課題 加点

第20回 教材H Unit10

問題演習 採点と解説 提出課題 加点  
教材S, H Unit 11配布

第21回 教材S Unit11

問題演習 採点と解説 提出課題 加点

第22回 教材H Unit11

問題演習 採点と加点 提出課題加点  
次回教材 S, H unit12 配布

第23回 教材S Unit12

問題演習

第24回 教材H Unit12

問題演習  
次回教材配布 S, H Unit13

第25回 教材S Unit13

問題演習

第26回 教材H Unit13

問題演習  
次回教材配布 S, H Unit14

第27回 教材S unit14

問題演習

第28回 教材H Unit14

問題演習  
次回教材配布 S, H Unit15

第29回 教材S Unit15

問題演習

第30回 教材H Unit15

問題演習

定期試験 (学部統一英語試験)

VELCテスト70分 リスニングあり

科目名：英語演習2【I】薬指定テキスト I-2 1年後期共通			
英文名：English 2			
担当者：久保 公人・小坂 裕美・平川 公子・廣重 尚実・藤岡 真由美・眞砂 薫・依田 悠介			
単 位：2単位	開講年次：1年次	開講期：後期	必修選択の別：医療：選択科目 創薬：必修科目

### ■授業概要・方法等

薬学部英語1年の基幹科目として、英語の4技能（読む、書く、聞く、話す）の基礎力養成を目指す。1週間に2回の授業があり、テキストを中心に、総合的な英語力の養成を目指す。具体的には、テキストの内容を正確に読むことができる、読んだ内容に関する簡単な文を聞きとることができ、内容の要約を自分の言葉で書くことができる、さらに書いた内容を話して伝えることができる、という能力の育成を目指す。このほかに発音や音読練習も行う。

### ■学習・教育目標および到達目標

読むことについては、1分間に100語程度のスピードで比較的良好な内容の英文を読むことができる、その内容をネイティブスピーカーが音読した英語が聞き取れる、その内容を日本語さらに英語で書いてまとめることができる、さらに書いた内容についてメモなどの準備を経て1分程度のスピーチができる、という英語力を身につけることを目標とする。

### ■授業時間外に必要な学修

1週間単位で授業に向けての計画を立て、単語調べ、語彙習得、練習問題の解答の用意などを行う。また各クラスでの小テスト、課題提出のための学習を各自が遂行する。

### ■教科書

To the Future 未来につながる健康と環境, Yasunami & Lavin (著) 松柏社  
Caregiver 世界に見る医療と看護 Kondo et al. (著) 朝日出版社

### ■参考文献

必要に応じて各クラスの担当者から指示がある。また、語学センターの速読・多読教材、英字新聞、TOEIC, TOEFL 問題集なども各自の目標に応じて積極的に活用する。

### ■関連科目

英語演習1

### ■成績評価方法および基準

統一英語試験 40%  
授業平常点（小テスト、発表、課題など）60%

### ■授業評価アンケート実施方法

薬学部実施規程に準拠して行います。

### ■研究室・E-mailアドレス

眞砂薫 39号館4階402  
masagok@kindai.ac.jp  
藤岡真由美 39号館4階404  
mfujioka@kindai.ac.jp

または各クラスの担当の先生からの連絡先の指示にしたがう。

### ■オフィスアワー

眞砂薫：水曜日2限または相談によりアポイントメントの時間を設定  
藤岡真由美：水曜日3限  
各クラスの先生からの指示がある場合はそれにしたがう。

### ■授業計画の項目・内容及び到達目標

1週間に2回授業があり、2冊のテキストを使用する。各回の内容はあくまでも標準的な進度であり、クラス担当教員の判断で、2冊のテキストの具体的な使用方法を決定し、進度調節を行う。

#### 第1回 To the Future, Unit 1: Older is better?

語彙、リスニングによる概要理解、リスニング練習、内容理解、英語表現練習、スピーチ練習

#### 第2回 Unit 2: Baboons in your crops?

語彙、リスニングによる概要理解、リスニング練習、内容理解、英語表現練習、スピーチ練習



第3回 Unit 3: Bedtime rules help children in school

語彙、リスニングによる概要理解、リスニング練習、内容理解、英語表現練習、スピーチ練習

第4回 Unit 4: Making a beeline for home

語彙、リスニングによる概要理解、リスニング練習、内容理解、英語表現練習、スピーチ練習

第5回 Unit 5: Reusing pacemakers

語彙、リスニングによる概要理解、リスニング練習、内容理解、英語表現練習、スピーチ練習

第6回 Unit 6: Trees in the desert

語彙、リスニングによる概要理解、リスニング練習、内容理解、英語表現練習、スピーチ練習

第7回 Unit 7: A focus on women on world no tobacco day

語彙、リスニングによる概要理解、リスニング練習、内容理解、英語表現練習、スピーチ練習

第8回 Unit 8: Lessons from ancient farmers

語彙、リスニングによる概要理解、リスニング練習、内容理解、英語表現練習、スピーチ練習

第9回 Unit 9: Laying the roots for healthy teeth

語彙、リスニングによる概要理解、リスニング練習、内容理解、英語表現練習、スピーチ練習

第10回 Unit 10: Powered by coconuts and mangoes

語彙、リスニングによる概要理解、リスニング練習、内容理解、英語表現練習、スピーチ練習

第11回 Unit 11: More nurses required

語彙、リスニングによる概要理解、リスニング練習、内容理解、英語表現練習、スピーチ練習

第12回 Unit 12: Pesticides causing attention deficits

語彙、リスニングによる概要理解、リスニング練習、内容理解、英語表現練習、スピーチ練習

第13回 Unit 13: Losing weight by counting calories

語彙、リスニングによる概要理解、リスニング練習、内容理解、英語表現練習、スピーチ練習

第14回 Unit 14: Weeding out weeds

語彙、リスニングによる概要理解、リスニング練習、内容理解、英語表現練習、スピーチ練習

第15回 Unit 15: The problem of premature births

語彙、リスニングによる概要理解、リスニング練習、内容理解、英語表現練習、スピーチ練習

第16回 Caregiver, Unit 1: Colds, flu and folk advice

語彙確認、定義、語彙練習、読解、リスニング・スピーチ練習

第17回 Unit 2: Mask-wearing significantly boosts flu protection

語彙確認、定義、語彙練習、読解、リスニング・スピーチ練習

第18回 Unit 3: Drinking beer could provide health benefits

語彙確認、定義、語彙練習、読解、リスニング・スピーチ練習

第19回 Unit 4: Alcohol, the 'Asian Flush' and the risk of cancer

語彙確認、定義、語彙練習、読解、リスニング・スピーチ練習



第20回 Unit 5: Cancer may soon be world's leading killer

語彙確認、定義、語彙練習、読解、リスニング・スピーチ練習

第21回 Unit 6: Insomnia

語彙確認、定義、語彙練習、読解、リスニング・スピーチ練習

第22回 Unit 7: The mystery of dreams and dreaming

語彙確認、定義、語彙練習、読解、リスニング・スピーチ練習

第23回 Unit 8: Headache

語彙確認、定義、語彙練習、読解、リスニング・スピーチ練習

第24回 Unit 9: Saving preterm babies with an idea from nature

語彙確認、定義、語彙練習、読解、リスニング・スピーチ練習

第25回 Unit 10: Looking for new uses for spices in the medical lab

語彙確認、定義、語彙練習、読解、リスニング・スピーチ練習

第26回 Unit 11: Feeling no pain: The world of anesthesia

語彙確認、定義、語彙練習、読解、リスニング・スピーチ練習

第27回 Unit 12: How autoimmune diseases attack the body's defenses: A look at Lupus

語彙確認、定義、語彙練習、読解、リスニング・スピーチ練習

第28回 Useful expressions 1 : Making an appointment, Useful expressions 2: Forms, medical history and billing

病院、歯科医院の予約、表の記入、病歴と請求書に関する表現練習

第29回 Useful expressions 3: Pains and sensations, Useful expressions 4: Examination language and general exam instructions

痛みと感覚、検査用語、健康診断における指示に関する表現練習

第30回 Useful expressions 5: Emergency room, Useful expressions 6: Medication

緊急救命室、薬剤、投薬に関する表現練習

定期試験

学部統一英語試験（リスニング、文法読解）

科目名：英語演習2（再）			
英文名：English 2			
担当者： <sup>マサゴ カオル</sup> 眞砂 薫			
単 位：2単位	開講年次：2年次	開講期：後期	必修選択の別：医療：選択科目 創薬：必修科目

### ■授業概要・方法等

2時間連続で、1年科目英語演習2に相当する内容の英語演習を行う。教材は基本的に毎回授業で次回分の教材プリントを配布し、次回までに予習し準備する。授業では、解答の発表と検討、質疑を行い、正解を解説する。授業の後半に確認テストを行い、その回の授業実習点として加算する。準備してきたワークシートの採点は、自己採点または相互採点とし、採点作業を通じても授業内容の理解定着を深める。

### ■学習・教育目標および到達目標

英文300～400語程度の英語で書かれた薬学、医学、環境、健康、科学などの内容を、1分間100語以上の速さで読み、全文を正確に訳せる。また内容に関する選択式の問題に正しく解答でき、その理由を論理的に説明できる。また英語または日本語の問に対し、解答した解答の根拠となった本文を示して簡潔に説明できるコミュニケーション力を持つ。これらの学習を行うために自律的に学修を計画し、実行し、結果を精査し、改善を行うPDCAサイクルの自己管理が実行できる。また学習課題の範囲に含まれる用語や概念で未知のものを積極的に調べ質疑発表にそなえることができる。

### ■授業時間外に必要な学修

事前に配布されるプリントの英文の単語意味調べ、音読練習、練習問題解答、解答根拠の解説の準備、全文訳

### ■教科書

プリント教材とし授業の1週間前に配布する

### ■参考文献

授業中にリストにして配布する

### ■関連科目

英語演習2

### ■成績評価方法および基準

授業実習点（準備課題、授業中復習テスト）60%  
定期試験（英語運用能力テスト）40%

### ■授業評価アンケート実施方法

薬学部実施規程に準拠して行います。

### ■研究室・E-mailアドレス

masagok@kindai.ac.jp

### ■オフィスアワー

水曜日2時間目（および月、水、木、土の昼休み時間）

### ■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 授業説明 教材T Unit1

問題演習

第2回 教材C Unit1

問題演習

教材T, C Unit2配布

第3回 教材T Unit2

問題演習

第4回 教材C unit2

問題演習

教材 T, C unit3配布

第5回 教材T Unit3

問題演習

第6回 教材C Unit3

問題演習

教材T, C Unit4配布

第7回 教材T unit4

問題演習

第8回 教材C Unit4

問題演習

教材T, C unit5配布

第9回 教材T unit5

問題演習

第10回 教材C Unit5

問題演習

教材T, C unit6配布

第11回 教材T Unit6

問題演習

第12回 教材C Unit6

問題演習

教材T, C Unit7配布

第13回 教材T Unit7

問題演習

第14回 教材C Unit7

問題演習

教材T, C Unit8配布

第15回 教材T Unit8

問題演習

中間テストはしない

第16回 教材C Unit8

問題演習

教材T, C Unit9 配布

第17回 教材T Unit9

問題演習

第18回 教材C Unit9

問題演習

教材T, C Unit 10配布

第19回 教材T Unit10

問題演習

第20回 教材C Unit10

問題演習

教材T, C Unit11配布

第21回 教材T Unit11

問題演習

第22回 教材C Unit11

問題演習

教材T, C Unit12配布

第23回 教材T Unit12

問題演習

第24回 教材C Unit12

問題演習

教材T,C Unit13 配布

第25回 教材T Unit13

問題演習

第26回 教材C Unit13

問題演習

教材T, C Unit14 配布

第27回 教材T Unit14

問題演習

第28回 教材C Unit14

問題演習

教材T, C Unit15配布

第29回 教材T Unit15

問題演習

第30回 教材C Unit15

問題演習

定期試験 (学部統一英語試験)

VELCテスト 70分 リスニング、読解

科目名：英語演習3【Ⅱ】薬指定テキストⅡ-1 2年前期共通（医療薬学科）週1回、15回			
英文名：English 3			
担当者：久保 公人・東野 ツヤ子・霧道 哲彦・廣重 尚実			
単 位：1単位	開講年次：2年次	開講期：前期	必修選択の別：選択科目

### ■授業概要・方法等

薬学部医療薬学科英語2年の基幹科目として、英語の4技能（読む、書く、聞く、話す）の基礎力養成を目指す。1週間に1回の授業で、テキストを中心に、総合的な英語力の養成を目指す。具体的には、テキストの内容を正確に読むことができる、読んだ内容に関する簡単な文を聞きとることができ、内容の要約を自分の言葉で書くことができる、さらに書いた内容を話して伝えることができる、という能力の育成を目指す。このほかに発音や音読練習も行う。

### ■学習・教育目標および到達目標

読むことについては、1分間に150語程度のスピードで薬学の専門に近い内容の英文を読むことができる、その内容をネイティブスピーカーが音読した英語が聞き取れる、その内容を日本語さらに英語で書いてまとめることができる、さらに書いた内容についてメモなどの準備を経て3分程度のスピーチができる、という英語力を身につけることを目標とする。

### ■授業時間外に必要な学修

1週間単位で授業に向けての計画を立て、単語調べ、語彙習得、練習問題の解答の用意などを行う。また各クラスでの小テスト、課題提出のための学習を各自が遂行する。

### ■教科書

The Wonders of Medicine, Seya et al. (著) 南雲堂

### ■参考文献

必要に応じて各クラスの担当者から指示がある。また、語学センターの速読・多読教材、英字新聞、TOEIC, TOEFL 問題集なども各自の目標に応じて積極的に活用する。

### ■関連科目

英語演習4

### ■成績評価方法および基準

統一英語試験 40%

授業平常点（小テスト、発表、課題など）60%

### ■授業評価アンケート実施方法

薬学部実施規程に準拠して行います。

### ■研究室・E-mailアドレス

各クラスの先生の指示にしたがう。

### ■オフィスアワー

各クラスの先生の指示にしたがう。

### ■授業計画の項目・内容及び到達目標

基本的にテキスト1章を1回の授業で進む。各回の内容はあくまでも標準的な進度であり、クラス担当教員の判断で進度の調節を行う。

#### 第1回 Unit 1: Receptors as drug targets

語彙確認、リーディング、読解練習、リスニング練習、医学用語練習、スピーチ練習

#### 第2回 Unit 2: Routes of drug administration

語彙確認、リーディング、読解練習、リスニング練習、医学用語練習、スピーチ練習

#### 第3回 Unit 3: Drug development and approval

語彙確認、リーディング、読解練習、リスニング練習、医学用語練習、スピーチ練習

#### 第4回 Unit 4: What is Kampo?

語彙確認、リーディング、読解練習、リスニング練習、医学用語練習、スピーチ練習



第5回 Unit 5: Helicobacter pylori and the new drugs for Peptic Ulcers

語彙確認、リーディング、読解練習、リスニング練習、医学用語練習、スピーチ練習

第6回 Unit 6: Heart disease: Nitroglycerin as a cardiovascular drug

語彙確認、リーディング、読解練習、リスニング練習、医学用語練習、スピーチ練習

第7回 Unit 7: Respiratory disease: The renewed threat of tuberculosis

語彙確認、リーディング、読解練習、リスニング練習、医学用語練習、スピーチ練習

第8回 Unit 8: Anti-anxiety agents

語彙確認、リーディング、読解練習、リスニング練習、医学用語練習、スピーチ練習

第9回 Unit 9: Chemotherapy: An old treatment with new hope for the future

語彙確認、リーディング、読解練習、リスニング練習、医学用語練習、スピーチ練習

第10回 Unit 10: AIDS: Getting a handle on treatment

語彙確認、リーディング、読解練習、リスニング練習、医学用語練習、スピーチ練習

第11回 Unit 11: Immunosuppressant drugs and the transplant revolution

語彙確認、リーディング、読解練習、リスニング練習、医学用語練習、スピーチ練習

第12回 Unit 12: Adverse drug reactions

語彙確認、リーディング、読解練習、リスニング練習、医学用語練習、スピーチ練習

第13回 Unit 13: Iatrogenic CJD

語彙確認、リーディング、読解練習、リスニング練習、医学用語練習、スピーチ練習

第14回 Unit 14: Pharmacists and society

語彙確認、リーディング、読解練習、リスニング練習、医学用語練習、スピーチ練習

第15回 復習

前期に学習した重要語彙、表現、医学用語などの復習

定期試験

学部統一英語試験（リスニング、文法読解）

科目名：英語演習3【Ⅱ】薬指定テキストⅡ-3 2年前期共通（創薬科学科）週2回、30回			
英文名：English 3			
担当者：久保 公人・藤岡 真由美・廣重 尚実			
単 位：2単位	開講年次：2年次	開講期：前期	必修選択の別：必修科目

### ■授業概要・方法等

薬学部創薬学科英語2年の基幹科目として、英語の4技能（読む、書く、聞く、話す）の基礎力養成を目指す。1週間に2回の授業で、テキストを中心に、総合的な英語力の養成を目指す。具体的には、テキストの内容を正確に読むことができる、読んだ内容に関する簡単な文を聞きとることができ、内容の要約を自分の言葉で書くことができる、さらに書いた内容を話して伝えることができる、という能力の育成を目指す。このほかに発音や音読練習も行う。

### ■学習・教育目標および到達目標

読むことについては、1分間に150語程度のスピードで薬学の専門に近い内容の英文を読むことができる、その内容をネイティブスピーカーが音読した英語が聞き取れる、その内容を日本語さらに英語で書いてまとめることができる、さらに書いた内容についてメモなどの準備を経て3分程度のスピーチができる、という英語力を身につけることを目標とする。

### ■授業時間外に必要な学修

1週間単位で授業に向けての計画を立て、単語調べ、語彙習得、練習問題の解答の用意などを行う。また各クラスでの小テスト、課題提出のための学習を各自が遂行する。

### ■教科書

The Wonders of Medicine, Seya et al. (著) 南雲堂  
First Aids! English for Nursing, Higuchi & Tremarco (著) 金星堂

### ■参考文献

必要に応じて各クラスの担当者から指示がある。また、語学センターの速読・多読教材、英字新聞、TOEIC、TOEFL 問題集なども各自の目標に応じて積極的に活用する。

### ■関連科目

英語演習4

### ■成績評価方法および基準

統一英語試験 40%  
授業平常点（小テスト、発表、課題など）60%

### ■授業評価アンケート実施方法

薬学部実施規程に準拠して行います。

### ■研究室・E-mailアドレス

藤岡真由美 39号館4階404  
mfujioka@kindai.ac.jp  
または各クラスの先生の指示にしたがう。

### ■オフィスアワー

水曜日3限  
または各クラスの先生の指示にしたがう。

### ■授業計画の項目・内容及び到達目標

1週間に2回の授業があり、2冊のテキストを使用する。各回の内容はあくまでも標準的な進度であり、クラス担当教員の判断で進度の調節を行う。

#### 第1回 The Wonders of Medicine, Unit 1: Receptors as drug targets

語彙確認、リーディング、読解練習、リスニング練習、医学用語練習

#### 第2回 First Aids! Unit 1: First visit to a hospital

リスニング、対話練習、重要表現、リーディング、医学用語、スピーチ練習

#### 第3回 Unit 2: Routes of drug administration

語彙確認、リーディング、読解練習、リスニング練習、医学用語練習

第4回 Unit 2: How to fill in a registration form

リスニング、対話練習、重要表現、リーディング、医学用語、スピーチ練習

第5回 Unit 3: Drug development and approval

語彙確認、リーディング、読解練習、リスニング練習、医学用語練習

第6回 Unit 3: Let's ask about Mr. Brown's daily activities

リスニング、対話練習、重要表現、リーディング、医学用語、スピーチ練習

第7回 Unit 4: What is Kampo?

語彙確認、リーディング、読解練習、リスニング練習、医学用語練習

第8回 Unit 4: Mr. Brown's symptoms

リスニング、対話練習、重要表現、リーディング、医学用語、スピーチ練習

第9回 Unit 5: Helicobacter pylori and the new drugs for Peptic Ulcers

語彙確認、リーディング、読解練習、リスニング練習、医学用語練習

第10回 Unit 5: Medical check up 1

リスニング、対話練習、重要表現、リーディング、医学用語、スピーチ練習

第11回 Unit 6: Heart disease: Nitroglycerin as a cardiovascular drug

語彙確認、リーディング、読解練習、リスニング練習、医学用語練習

第12回 Unit 6: Medical check up 2

リスニング、対話練習、重要表現、リーディング、医学用語、スピーチ練習

第13回 Unit 7: Respiratory disease: The renewed threat of tuberculosis

語彙確認、リーディング、読解練習、リスニング練習、医学用語練習

第14回 Unit 7: Mr. Brown's diagnosis

リスニング、対話練習、重要表現、リーディング、医学用語、スピーチ練習

第15回 Unit 8: Anti-anxiety agents

語彙確認、リーディング、読解練習、リスニング練習、医学用語練習

第16回 Unit 8: Mr. Anderson's symptoms

リスニング、対話練習、重要表現、リーディング、医学用語、スピーチ練習

第17回 Unit 9: Chemotherapy: An old treatment with new hope for the future

語彙確認、リーディング、読解練習、リスニング練習、医学用語練習

第18回 Unit 9: Let's ask more about Mr. Anderson's symptoms

リスニング、対話練習、重要表現、リーディング、医学用語、スピーチ練習

第19回 Unit 10: AIDS: Getting a handle on treatment

語彙確認、リーディング、読解練習、リスニング練習、医学用語練習

第20回 Unit 10: Explaining blood test results

リスニング、対話練習、重要表現、リーディング、医学用語、スピーチ練習

第21回 Unit 11: Immunosuppressant drugs and the transplant revolution

語彙確認、リーディング、読解練習、リスニング練習、医学用語練習

第22回 Unit 11: How to take medicine

リスニング、対話練習、重要表現、リーディング、医学用語、スピーチ練習

第23回 Unit 12: Adverse drug reactions

語彙確認、リーディング、読解練習、リスニング練習、医学用語練習

第24回 Unit 12: Mrs. Johnson feels dizzy

リスニング、対話練習、重要表現、リーディング、医学用語、スピーチ練習

第25回 Unit 13: Iatrogenic CJD

語彙確認、リーディング、読解練習、リスニング練習、医学用語練習

第26回 Unit 13: An MRI test

リスニング、対話練習、重要表現、リーディング、医学用語、スピーチ練習

第27回 Unit 14: Pharmacists and society

語彙確認、リーディング、読解練習、リスニング練習、医学用語練習

第28回 Unit 14: Recommending an operation

リスニング、対話練習、重要表現、リーディング、医学用語、スピーチ練習

第29回 復習

前期に学習した重要語彙、表現、医学用語などの復習

第30回 Unit 15: post-operative care

リスニング、対話練習、重要表現、リーディング、医学用語、スピーチ練習

定期試験

学部統一英語試験（リスニング、文法読解）



科目名：英語演習4【Ⅱ】薬指定テキストⅡ-2 2年後期共通（医療薬学科）週1回、15回			
英文名：English 4			
担当者：久保 公人・東野 ツヤ子・霧道 哲彦・廣重 尚実			
単 位：1単位	開講年次：2年次	開講期：後期	必修選択の別：選択科目

### ■授業概要・方法等

薬学部医療薬学科英語2年の基幹科目として、英語の4技能（読む、書く、聞く、話す）の基礎力養成を目指す。1週間に1回の授業で、テキストを中心に、総合的な英語力の養成を目指す。具体的には、テキストの内容を正確に読むことができる、読んだ内容に関する簡単な文を聞きとることができ、内容の要約を自分の言葉で書くことができる、さらに書いた内容を話して伝えることができる、という能力の育成を目指す。このほかに発音や音読練習も行う。

### ■学習・教育目標および到達目標

読むことについては、1分間に150語程度のスピードで科学に関する内容の英文を読むことができる、その内容をネイティブスピーカーが音読した英語が聞き取れる、その内容を日本語さらに英語で書いてまとめることができる、さらに書いた内容についてメモなどの準備を経て3分程度のスピーチができる、という英語力を身につけることを目標とする。

### ■授業時間外に必要な学修

1週間単位で授業に向けての計画を立て、単語調べ、語彙習得、練習問題の解答の用意などを行う。また各クラスでの小テスト、課題提出のための学習を各自が遂行する。

### ■教科書

Science in Popular Culture(ポピュラーカルチャーの科学) Bowdoin Van Riper(著), Nozaki et al. (編著)南雲堂

### ■参考文献

必要に応じて各クラスの担当者から指示がある。また、語学センターの速読・多読教材、英字新聞、TOEIC, TOEFL 問題集なども各自の目標に応じて積極的に活用する。

### ■関連科目

英語演習3

### ■成績評価方法および基準

統一英語試験 40%

授業平常点（小テスト、発表、課題など）60%

### ■授業評価アンケート実施方法

薬学部実施規程に準拠して行います。

### ■研究室・E-mailアドレス

各クラスの先生の指示にしたがう。

### ■オフィスアワー

各クラスの先生の指示にしたがう。

### ■授業計画の項目・内容及び到達目標

基本的にテキスト1章を1回の授業で進む。各回の内容はあくまでも標準的な進度であり、クラス担当教員の判断で進度の調節を行う。

#### 第1回 Unit 1: Artificial intelligence

語彙確認、読解、語彙練習、要約、対話練習、スピーチ練習

#### 第2回 Unit 2: Gorillas

語彙確認、読解、語彙練習、要約、対話練習、スピーチ練習

#### 第3回 Unit 3: Organ transplants

語彙確認、読解、語彙練習、要約、対話練習、スピーチ練習

#### 第4回 Unit 4: Mars

語彙確認、読解、語彙練習、要約、対話練習、スピーチ練習



第5回 Unit 5: Flying cars

語彙確認、読解、語彙練習、要約、対話練習、スピーチ練習

第6回 Unit 6: Epidemics

語彙確認、読解、語彙練習、要約、対話練習、スピーチ練習

第7回 Unit 7: Psychic powers

語彙確認、読解、語彙練習、要約、対話練習、スピーチ練習

第8回 Unit 8: Whales

語彙確認、読解、語彙練習、要約、対話練習、スピーチ練習

第9回 Unit 9: Earthquakes

語彙確認、読解、語彙練習、要約、対話練習、スピーチ練習

第10回 Unit 10: Meteorites

語彙確認、読解、語彙練習、要約、対話練習、スピーチ練習

第11回 Unit 11: Smart houses

語彙確認、読解、語彙練習、要約、対話練習、スピーチ練習

第12回 Unit 12: Miracle drugs

語彙確認、読解、語彙練習、要約、対話練習、スピーチ練習

第13回 復習1

後期に学習した重要語彙、表現の復習およびスピーチ

第14回 復習2

後期に学習した重要語彙、表現の復習およびスピーチ

第15回 復習3

後期に学習した重要語彙、表現の復習およびスピーチ

定期試験

学部統一英語試験（リスニング、文法読解）

科目名：英語演習4【Ⅱ】薬指定テキストⅡ-4 2年後期共通（創薬科学科）週2回、30回

英文名：English 4

担当者：久保 公人・藤岡 真由美・廣重 尚実

単 位：2単位

開講年次：2年次

開講期：後期

必修選択の別：必修科目

### ■授業概要・方法等

薬学部創薬学科英語2年の必修科目として、英語の4技能（読む、書く、聞く、話す）の基礎力養成を目指す。1週間に2回の授業で、テキストを中心に、総合的な英語力の養成を目指す。具体的には、テキストの内容を正確に読むことができる、読んだ内容に関する簡単な文を聞きとることができ、内容の要約を自分の言葉で書くことができる、さらに書いた内容を話して伝えることができる、という能力の育成を目指す。またリスニング練習も強化し、実生活での様々な場面での英語が聞き取れるようになることを目指す。

### ■学習・教育目標および到達目標

読むことについては、1分間に150語程度のスピードで科学に関する内容の英文を読むことができる、その内容をネイティブスピーカーが音読した英語が聞き取れる、その内容を日本語さらに英語で書いてまとめることができる、さらに書いた内容についてメモなどの準備を経て3分程度のスピーチができる、という英語力を身につけることを目標とする。聞くことについては、テーマに則した対話およびストーリーが聞き取れることを目標とする。

### ■授業時間外に必要な学修

1週間単位で授業に向けての計画を立て、単語調べ、語彙習得、練習問題の解答の用意などを行う。また各クラスでの小テスト、課題提出のための学習を各自が遂行する。

### ■教科書

Science in Popular Culture(ポピュラーカルチャーの科学) Bowdoin Van Riper(著), Nozaki et al. (編著) 南雲堂  
Live Listening, Todd et al. (著) 金星堂

### ■参考文献

必要に応じて各クラスの担当者から指示がある。また、語学センターの速読・多読教材、英字新聞、TOEIC、TOEFL 問題集なども各自の目標に応じて積極的に活用する。

### ■関連科目

英語演習3

### ■成績評価方法および基準

統一英語試験 40%

授業平常点 60%

### ■授業評価アンケート実施方法

薬学部実施規程に準拠して行います。

### ■研究室・E-mailアドレス

藤岡真由美 39号館4階404

mfujioka@kindai.ac.jp

または各クラスの先生の指示にしたがう。

### ■オフィスアワー

水曜日3限

または各クラスの先生の指示にしたがう。

### ■授業計画の項目・内容及び到達目標

1週間に2回の授業があり、2冊のテキストを使用する。各回の内容はあくまでも標準的な進度であり、クラス担当教員の判断で進度の調節を行う。

#### 第1回 Science in Popular Culture, Unit 1: Artificial intelligence

語彙確認、読解、語彙練習、要約、対話練習、スピーチ練習

#### 第2回 Live Listening, Unit 1: Listen carefully

リピートリスニング、内容理解、対話聴き取り、語彙・表現練習

#### 第3回 Unit 2: Gorillas

語彙確認、読解、語彙練習、要約、対話練習、スピーチ練習

第4回 Unit 2: World famous

リピートリスニング、内容理解、対話聴き取り、語彙・表現練習

第5回 Unit 3: Organ transplants

語彙確認、読解、語彙練習、要約、対話練習、スピーチ練習

第6回 Unit 3: A healthy diet

リピートリスニング、内容理解、対話聴き取り、語彙・表現練習

第7回 Unit 4: Mars

語彙確認、読解、語彙練習、要約、対話練習、スピーチ練習

第8回 Unit 4: Heavy traffic

リピートリスニング、内容理解、対話聴き取り、語彙・表現練習

第9回 Unit 5: Flying cars

語彙確認、読解、語彙練習、要約、対話練習、スピーチ練習

第10回 Unit 5: Fighting fire

リピートリスニング、内容理解、対話聴き取り、語彙・表現練習

第11回 Unit 6: Epidemics

語彙確認、読解、語彙練習、要約、対話練習、スピーチ練習

第12回 Unit 6: Enjoying sports

リピートリスニング、内容理解、対話聴き取り、語彙・表現練習

第13回 Unit 7: Psychic powers

語彙確認、読解、語彙練習、要約、対話練習、スピーチ練習

第14回 Unit 7: Throwing a party

リピートリスニング、内容理解、対話聴き取り、語彙・表現練習

第15回 Unit 8: Whales

語彙確認、読解、語彙練習、要約、対話練習、スピーチ練習

第16回 Unit 8: A good salary

リピートリスニング、内容理解、対話聴き取り、語彙・表現練習

第17回 Unit 9: Earthquakes

語彙確認、読解、語彙練習、要約、対話練習、スピーチ練習

第18回 Unit 9: A new album

リピートリスニング、内容理解、対話聴き取り、語彙・表現練習

第19回 Unit 10: Meteorites

語彙確認、読解、語彙練習、要約、対話練習、スピーチ練習

第20回 Unit 10: Leaving the company

リピートリスニング、内容理解、対話聴き取り、語彙・表現練習

第21回 Unit 11: Smart houses

語彙確認、読解、語彙練習、要約、対話練習、スピーチ練習

第22回 Unit 11: The train ride

リピートリスニング、内容理解、対話聴き取り、語彙・表現練習

第23回 Unit 12: Miracle drugs

語彙確認、読解、語彙練習、要約、対話練習、スピーチ練習

第24回 Unit 12: Perfect recipes

リピートリスニング、内容理解、対話聴き取り、語彙・表現練習

第25回 復習 1

後期に学習した重要語彙、表現の練習およびスピーチ

第26回 Unit 13: The price of energy

リピートリスニング、内容理解、対話聴き取り、語彙・表現練習

第27回 復習 2

後期に学習した重要語彙、表現の練習およびスピーチ

第28回 Unit 14: Sending a message

リピートリスニング、内容理解、対話聴き取り、語彙・表現練習

第29回 復習 3

後期に学習した重要語彙、表現の練習およびスピーチ

第30回 Unit 15: Further study

リピートリスニング、内容理解、対話聴き取り、語彙・表現練習

定期試験

学部統一英語試験（リスニング、文法読解）

科目名： <b>オーラルイングリッシュ 1</b>			
英文名： Oral English 1			
担当者： マーク ジョン シェフナー・トマス サイモン マーク・ハディング スティーブン・ ファイゴニー ウィリアム・シェーンリーチ・トラスコット ジョージ			
単 位： 1単位	開講年次： 1年次	開講期： 前期	必修選択の別： 医療：選択科目 創薬：必修科目

### ■授業概要・方法等

日常会話に必要な基礎的語彙を増やすと共に、その語法に習熟させることを目標とする。その上で、場面や機能に応じた会話力の向上を目指す。

通常のオーラル・イングリッシュ 1 の授業に加えて、1 セメスターのうち、少なくとも2回は、近畿大学英语村E<sup>3</sup> (e-cube) スタッフと様々なトピックでディスカッションを行うこと。なお、あらかじめ、英語村E<sup>3</sup> (e-cube) パスポート申請書に必要事項を記入し、英語村E<sup>3</sup> (e-cube) にて同パスポートの交付を受けること。

### ■学習・教育目標および到達目標

音読上の規則を理解し、5～10語前後からなる会話ができる。様々な場面に応じた表現を使うことができる。

### ■授業時間外に必要な学修

授業で習ったことを身近なものへ適用や応用し、その理解を深めること。そして、各授業で指示された課題に取り組むこと。

### ■教科書

クラスにより使用テキストが異なります。  
最初の授業で指示する。

### ■参考文献

最初の授業で指示する。

### ■関連科目

英語演習 1

### ■成績評価方法および基準

口頭発表 50%

小テスト 25%

宿題/レポート 25%

### ■授業評価アンケート実施方法

薬学部実施規程に準拠して行います。

### ■研究室・E-mailアドレス

最初の授業で指示する。

### ■オフィスアワー

最初の授業で指示する。

### ■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 授業目標と説明、挨拶

第2回 挨拶、自己紹介、他己を紹介する

第3回 情報の収集、目的の説明、郵便局での会話

第4回 情報の確認（相手に繰り返してもらおう）銀行での会話（数字、数え方など）

第5回 相手の意見を求める、意見を述べる、同意する、反対する

第6回 物事を説明する、理由を述べる

第7回 日本文化、ホームステイでの会話



第8回 好き嫌い、趣味

第9回 依頼する、引き受ける、断る

第10回 レストランでの注文、チップの習慣など

第11回 招待する、招待を受ける、断る

第12回 電話での会話（予定、予約、計画など）

第13回 許可を求める、与える、断る

第14回 申し出る、申し出を受ける、断る

第15回 総合復習

科目名： <b>オーラルイングリッシュ 2</b>			
英文名： Oral English 1			
担当者： <small>マーク ジョン シェフナー トマス サイモン マーク ハテイング ステイーブン</small> <small>マーク ジョン シェフナー トマス サイモン マーク ハテイング ステイーブン</small> <small>フィゴ ニウイリアム シェーン リーチ トラスコット ジョージ</small> <small>フィゴ ニウイリアム シェーン リーチ トラスコット ジョージ</small>			
単 位： 1単位	開講年次： 1年次	開講期： 後期	必修選択の別： 医療：選択科目 創薬：必修科目

### ■授業概要・方法等

この科目はオーラルイングリッシュ1で学習した内容を発展させ、初歩的な日常会話力のさらなる向上を目指す。通常のオーラル・イングリッシュ2の授業に加えて、1セメスターのうち、少なくとも2回は、近畿大学英語村E<sup>3</sup>(e-cube)スタッフと様々なトピックでディスカッションを行うこと。なお、あらかじめ、英語村E<sup>3</sup>(e-cube)パスポート申請書に必要事項を記入し、英語村E<sup>3</sup>(e-cube)にて同パスポートの交付を受けること。

### ■学習・教育目標および到達目標

音読上の規則を理解し、一定の速度で音読できる。様々な場面での日常会話を伝達機能を理解した上で使いこなせる。

### ■授業時間外に必要な学修

授業で習ったことを身近なものへ適用や応用し、その理解を深めること。そして、各授業で指示された課題に取り組むこと。

### ■教科書

クラスにより使用テキストが異なります。  
最初の授業で指示する。

### ■参考文献

最初の授業で指示する。

### ■関連科目

英語演習 1, 2  
オーラルイングリッシュ 1

### ■成績評価方法および基準

口頭発表 50%  
小テスト 25%  
宿題／レポート 25%

### ■授業評価アンケート実施方法

薬学部実施規程に準拠して行います。

### ■研究室・E-mailアドレス

最初の授業で指示する。

### ■オフィスアワー

最初の授業で指示する。

### ■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 過去についての会話

第2回 道順を尋ねる、答える／交通（乗り物）の会話

第3回 旅行の会話、場所の描写

第4回 人の描写（身体的特徴、性格など）

第5回 家族についての会話

第6回 洋服や身に着けるものについての会話／天候についての会話

第7回 買い物の会話、必要な物を求める、物の描写、比較、対照

第8回 感情の表現

第9回 病院での会話（症状と治療法）／健康維持に関する会話

第10回 提案や忠告を求める、与える

第11回 苦情を言う、謝る／ホテルでの会話

第12回 相手を説得する

第13回 ほめる、お世辞を言う、感謝する

第14回 将来についての会話

第15回 総合復習

科目名： <b>オーラルイングリッシュ 3</b>			
英文名： Oral English 1			
担当者： <small>マーク ジョン シェフナー</small> ・ <small>ハテイング ステイブン</small> ・ <small>フィゴーニ ウィリアム</small> ・ <small>シェーン リーチ</small> ・ <small>クリストファー</small> ・ <small>カー</small>			
単 位： 1単位	開講年次： 2年次	開講期： 前期	必修選択の別： 選択科目

### ■授業概要・方法等

身近なトピックについて聞いたり、読んだりしたことを説明したり、自分の意見や感想を少しつけ加えて発表したり、簡単なディスカッションをしたりして、会話表現力を身につけることを目標とする。

### ■学習・教育目標および到達目標

特定の話題について1分間以上のプレゼンテーションやディスカッションができる。

### ■授業時間外に必要な学修

授業で習ったことを身近なものへ適用や応用し、その理解を深めること。そして、各授業で指示された課題に取り組むこと。

### ■教科書

最初の授業で指示する。

### ■参考文献

最初の授業で指示する。

### ■関連科目

オーラルイングリッシュ1, 2  
英語演習1, 2

### ■成績評価方法および基準

口頭発表 50%  
小テスト 25%  
宿題／レポート 25%

### ■授業評価アンケート実施方法

薬学部実施規程に準拠して行います。

### ■研究室・E-mailアドレス

最初の授業で指示する。

### ■オフィスアワー

最初の授業で指示する。

### ■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 授業目標と説明

第2回 挨拶、自己紹介

第3回 食べ物

第4回 日本文化

第5回 買い物

第6回 プレゼンテーション

第7回 音楽

第8回 交通

第9回 仕事

第10回 家族

第11回 プレゼンテーション

第12回 旅行

第13回 ヨーロッパ

第14回 有名人

第15回 総合復習



科目名： <b>オーラルイングリッシュ 4</b>			
英文名： Oral English 1			
担当者： <small>マーク ジョン シェフナー ・ ハテイング ステイブン ・ フィゴーニ ウィリアム ・ シェーン リーチ ・ クリストファー カー</small>			
単 位： 1単位	開講年次： 2年次	開講期： 後期	必修選択の別： 選択科目

### ■授業概要・方法等

この科目はオーラルイングリッシュ3で学習した内容を発展させ、簡単なスピーチやディベートを通して一層進んだ会話表現力を身につけることを目指す。

### ■学習・教育目標および到達目標

特定の話題について2分間以上のプレゼンテーションやディスカッションができる。

### ■授業時間外に必要な学修

授業で習ったことを身近なものへ適用や応用し、その理解を深めること。そして、各授業で指示された課題に取り組むこと。

### ■教科書

最初の授業で指示する。

### ■参考文献

最初の授業で指示する。

### ■関連科目

オーラルイングリッシュ1, 2, 3

英語演習1, 2, 3

### ■成績評価方法および基準

口頭発表 50%

小テスト 25%

宿題／レポート 25%

### ■授業評価アンケート実施方法

薬学部実施規程に準拠して行います。

### ■研究室・E-mailアドレス

最初の授業で指示する。

### ■オフィスアワー

最初の授業で指示する。

### ■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 夏休みについての話

第2回 スポーツ

第3回 住まいや生活

第4回 健康

第5回 プレゼンテーション

第6回 娯楽、メディア、エンターテインメントなど

第7回 動物

第8回 天候

第9回 アメリカ

第10回 プレゼンテーション

第11回 迷信 (信じる／信じない)

第12回 教育

第13回 異文化

第14回 プレゼンテーション

第15回 総合復習

科目名：TOEIC A/1			
英文名：TOEIC A/1			
担当者： <sup>タカハシ ナホコ</sup> 高橋 奈穂子			
単 位：1単位	開講年次：2～4年次	開講期：前期	必修選択の別：選択科目

### ■授業概要・方法等

現在、英語力の指標となっているTOEICテストの問題を通して、英語学習の根幹である技能（Listening, Grammar, Reading）を学修する。TOEIC420点以上を目安に、TOEIC520点以上取得するための演習を行う。TOEICに必要な語彙を強化し、文法事項を再確認するとともに、応答問題や会話問題の聞き取り練習を重点的に行い、リスニング能力を養成する。

### ■学習・教育目標および到達目標

このクラスを受講することで、TOEICテストの性質、問題のパターンに慣れるとともに、文法をはじめ読む、聞くの技能を向上させる。またあらゆる分野の内容をカバーすることで語彙も同時に身に付けていく。最終的に、少なくともTOEIC500点前後の点数を獲得できる程度の英語力を養う事を目指す。

### ■授業時間外に必要な学修

日常から、英字新聞などを使い、身近な話題を英語で読む習慣をつけることが望ましい。インターネット上で発信されている英語で書かれているニュースなどに目を通したり、実際に聞いたりして、日常的に英語に触れること。

### ■教科書

『SEIZE THE ESSENCE OF THE TOEIC TEST』金星堂／著・安丸雅子、八尋真由美、ほか

### ■成績評価方法および基準

定期試験 40%  
小テスト 20%  
発表・課題 40%

### ■授業評価アンケート実施方法

薬学部実施規程に準拠して行う。

### ■研究室・E-mailアドレス

21号館 2F 講師控室

メールアドレス：yutauzer2000@yahoo.co.jp

### ■オフィスアワー

火曜日 12:15 - 13:00

### ■授業計画の項目・内容及び到達目標

#### 第1回 オリエンテーション

クラスの概要、および成績評価、TOEICテストの内容に関する説明を行う。

#### 第2回 Daily Life（日常生活）／ 文法：名詞・主語と動詞の一致

Part 1 写真を客観的に判断する  
Part 2 一般疑問文（Yes/Noで答えられる疑問文）の質問に慣れる  
Part 5 名詞と、主語と動詞の呼応関係をマスターする  
Part 7 広告に慣れよう①

#### 第3回 Eating Out&Amusemnt（外食と娯楽）／ 文法：形容詞・副詞

Part1 タンゴにまどわされないようにする  
Part3 話している人物に関する質問に慣れる  
Part5 形容詞と副詞をマスターする  
Part7 広告に慣れる②

#### 第4回 Cooking&Purchasing（料理と買い物）／ 文法：基本時制

Part1 動詞の時制を聞き取る  
Part4 広告に慣れる③

Part5 基本時制と、動詞の一致、副詞節中の時制をマスターする  
Part7 ホームページに慣れる①

第5回 Traffic&Travel (交通と旅行) / 文法：進行形・完了形

Part1 動作の内容を聞き分ける  
Part2 疑問視で始まる疑問文慣れる  
Part6 進行形・完了形をマスターする  
par7 通知文書に慣れる①

第6回 Production&Logistics (製造と運輸) / 文法：受動態

Part1 似たような発音の単語に注意する  
Part3 「何が起きているのか」を問う質問に慣れる  
Part5 受動態をマスターする  
Part7 社内回覧に慣れる

第7回 Business&Economics (ビジネスと経済) / 文法：分詞・分子構文

Part1 場所や位置関係に注意する  
Part4 公共の場でのアナウンスや留守番電話に慣れる  
Part5 分詞の限定用法と叙述用法、分子構文をマスターする  
Part7 ビジネスレターに慣れる

第8回 Review Test1

Unit1-Unit6のReviewをテスト形式で行う。

第9回 Advertising&ICT (広告と情報通信技術) / 文法：不定詞・動名詞

Part1 音が消えても慌てない  
Part2 慣用表現に注意する  
Part5 不定詞と動名詞をマスターする  
Part7 ホームページに慣れる

第10回 Health&the Environment (健康と環境) / 文法：助動詞

Part1 状況を正確にとらえる  
Part3 数値や曜日、時間を尋ねる質問に慣れる  
Part6 助動詞の用法をマスターする  
Part7 社内回覧に慣れる②

第11回 Law&Administration (司法と行政) / 文法：代名詞・関係詞

Part1 人物の姿勢を表す表現を覚える  
Part4 数値や曜日、時間を尋ねる質問に慣れる  
Part5 助動詞の用法をマスターする  
Part7 社内回覧に慣れる②

第12回 Employment&Personnel (雇用と人事) / 文法：比較構文

Part1 アクセントを意識する  
Part2 変則的な応答問題に注意する  
Part5 比較構文をマスターする  
Part7 2つ英文がある問題に注意する

第13回 Fainance&Banking (財務と銀行業務) / 文法：前置詞

Part1 多義語や同音異議語に気を付ける  
Part3 長文のリスニングに慣れる  
Part5 前置詞・前置詞句をマスターする  
Part7 通知文書に慣れる

第14回 Office Work&Correspondence (社内業務と通信) / 文法：その他の構文

Part1 和製英語に気を付ける

Part4 天気予報・ニュースの問題に慣れる  
Part6 倒置・省略・強調構文をマスターする  
Part7 ビジネス関連の英文に慣れる

#### 第15回 Review Test2

Unit7-Unit12のReviewをテスト形式で行う。

定期試験



科目名：TOEIC A/1			
英文名：TOEIC A/1			
担当者： <sup>コイタ ヒロミ</sup> 小坂 裕美			
単 位：1単位	開講年次：2～4年次	開講期：前期	必修選択の別：選択科目

### ■授業概要・方法等

TOEICテストの出題形式に即した問題演習を通して、出題形式やパターンを把握し、点数アップに必要な英語力をつける授業です。リスニングパートの学習には問題文のディクテーションや音読の練習を取り入れ、出題されたさまざまな場面設定の中で「自分ならどう表現するか/どう応答するか」ということも考えながら、要点を正しく聞き取ったり適切な受け答えを選んだりする力をつけます。リーディングパートでは、頻出語句をテーマごとにまとめて覚えることで効率的に語彙力を高めながら、各分野で出題されやすい形の文書に触れて必要な情報を素早く読み取ることができるようにします。文法に関しては、項目ごとに基礎を確認しながら問題を解き、適切な英文を作る力を確かなものにします。

### ■学習・教育目標および到達目標

TOEICテストで520点以上の取得を目指します。語彙力、文法力を高め、会話を正確に聞き取る能力を身につけるとともに、問題文の速読能力を身につけます。

### ■授業時間外に必要な学修

1. 授業中に指定された個所の予習や宿題
2. 各自で目標を立てて、授業中に紹介した学習法を実践すること
3. 授業で学習した個所の復習

### ■教科書

"Gear Up for the TOEIC Test (ポイントで攻略するTOEICテスト)" Mark D. Stafford, 妻鳥千鶴子著 (金星堂)

### ■参考文献

必要に応じて授業中に指示します。

### ■関連科目

TOEIC B/2

### ■成績評価方法および基準

定期試験 40%  
小テスト 20%  
口頭発表および課題 40%

### ■授業評価アンケート実施方法

薬学部実施規程に準拠して行います。

### ■研究室・E-mailアドレス

21号館2階 講師控室

### ■オフィスアワー

月曜 12:20-13:00

### ■授業計画の項目・内容及び到達目標

#### 第1回 Introduction / Unit 1: Events

授業の進め方についての説明

状況把握、提案・依頼・許可の表現、同僚同士の会話、イベントでのアナウンス

#### 第2回 Unit 1: Events

動詞、イベント出店許可、イベント告知、相談の手紙

#### 第3回 Unit 2: Eating Out

1人の人物が写った写真、適切な応答の表現、レストランでの会話、店の宣伝(1)、名詞(1)、苦情に対する謝罪、飲食店リスト、広告

#### 第4回 Unit 3: Shopping

2人以上が写った写真、Yes/Noで答える問題・答えない問題、買い物についての会話、店の宣伝(2)、動詞の時制、返品方法の案内、店からの案内、割引クーポン

#### 第5回 Unit 4: Housing

室内が写った写真、Howで始まる質問文、電話での問い合わせ、不動産情報、名詞(2)、入居前の注意事項、物件案内、不動産屋へのメール

#### 第6回 Unit 5: Employment

物がアップで写った写真、面接などの応答、面接での会話、就職オリエンテーション、形容詞と副詞、求人案内、関連する2通のメール

#### 第7回 Unit 6: Personnel

2名以上の位置関係、職業に関する応答、人事に関する会話、会議での発言(1)、品詞の選択、昇進に関するメール、社内告知(1)

#### 第8回 Unit 7: Office

Lの発音、職場などに関する応答、社内設備に関する会話、会議での発言(2)、前置詞、地震発生時の安全確認、社内告知(2)

#### 第9回 Unit 8: Finance and Banking

VとB・SとSHとTH・LとRの発音の違い、金銭などに関する応答、銀行での会話、セミナーの導入、不定詞をとる動詞・動名詞をとる動詞、顧客への謝罪、投資の広告・記事

#### 第10回 Unit 9: Management

音声変化(1)、管理業務に関する応答、仕事に関する会話(1)、会議での告知、代名詞、人事に関するメール、売上報告書、セミナー告知

#### 第11回 Unit 10: Transactions

音声変化(2)、疑問詞で始まる質問文、仕事に関する会話(2)、商品発送のお知らせ、接続詞、支払い催促、関連する手紙と請求書

#### 第12回 Unit 11: Documents

canとcan'tの発音、付加疑問文、仕事に関する会話(3)、応募方法の説明、現在完了、役所からの通知、不動産関連の書類

#### 第13回 Unit 12: Public Announcements

内容語の聞き取り(1)、否定疑問の質問文(1)、仕事に関する会話(4)、天気予報、助動詞、社内告知、新聞記事、緊急時の案内

#### 第14回 Unit 13: Commuting

内容語の聞き取り(2)、否定疑問の質問文(2)、通勤に関する会話、交通情報、仮定法、友人へのメール、市からの告知、時刻表

#### 第15回 Unit 14: Travel

内容語の聞き取り(3)、適切な応答の練習(1)、旅行に関する会話、アナウンス、関係詞、税関からの説明、旅の案内、旅費についての相談メール

定期試験

科目名： <b>TOEIC B/2</b>			
英文名： TOEIC B/2			
担当者： <small>タカハシ ナホコ</small> 高橋 奈穂子			
単 位： 1単位	開講年次： 2～4年次	開講期： 後期	必修選択の別： 選択科目

### ■授業概要・方法等

現在、英語力の指標となっているTOEICテストの問題を通して、英語学習の根幹である技能（Listening, Grammar, Reading）を学修する。TOEIC420点以上を目安に、TOEIC520点以上取得するための演習を行う。TOEICに必要な語彙を強化し、文法事項を再確認するとともに、応答問題や会話問題の聞き取り練習を重点的に行い、リスニング能力を養成する。

### ■学習・教育目標および到達目標

このクラスを受講することで、TOEICテストの性質、問題のパターンに慣れるとともに、文法をはじめ読む、聞くの技能を向上させる。またあらゆる分野の内容をカバーすることで語彙力も同時に身に付けていく。最終的に、少なくともTOEIC500点前後の点数を獲得できる程度の英語力を養う事を目指す。

### ■授業時間外に必要な学修

日常から、英字新聞などを使い、身近な話題を英語で読む習慣をつけることが望ましい。インターネット上で発信されている英語で書かれているニュースなどに目を通したり、実際に聞いたりして、日常的に英語に触れること。

### ■教科書

『Perfect Practice for the TOEIC Test』 成美堂 著／石井孝之・山口修 ほか

### ■成績評価方法および基準

定期試験 40%

小テスト 20%

発表 40%

### ■授業評価アンケート実施方法

薬学部実施規程に準拠して行う。

### ■研究室・E-mailアドレス

21号館 2F 講師控室

メールアドレス：yutauzer2000@yahoo.co.jp

### ■オフィスアワー

火曜日 12:15-13:00

### ■授業計画の項目・内容及び到達目標

#### 第1回 オリエンテーション

授業の概要・成績評価について、またTOEICテストの内容等に関する説明を行う。

(TOEICテストはPart1からPart7に分かれており、Part1-Part4がListeningセクション、Part5-7がReadingセクションとなっている。第2回目の授業より、各Unitのトピックに合わせて各Partのテーマを設定している。)

#### 第2回 Unit1 Studying Abroad (留学)

Part2 Yes/No形式

Part3 人間関係を問う設問

Part4 大学の案内

Part5 動詞の時制

Part6 Eメール

Part7 レター

#### 第3回 Unit2 International Conference (国際会議)

Part2 orの入った疑問文

Part3 会話の場所を問う設問

Part4 情報提供文

Part5 自動詞と他動詞

- Part6 レター
- Part7 案内文

#### 第4回 Unit3 Holidays (休日)

- Part2 付加疑問文
- Part3 職業を問う設問
- Part4 娯楽施設の案内
- Part5 主語と動詞の一致
- Part6 ビジネスレター
- Part7 求人の広告

#### 第5回 Unit4 Leisure (娯楽)

- Part2 提案・勧誘の文
- Part3 行動を問う設問
- Part4 観光案内
- Part5 動名詞
- Part6 メッセージ
- Part7 企業戦略発表文

#### 第6回 Unit5 Restaurant (レストラン)

- Part2 依頼・許可の文
- Part3 好みを問う設問
- Part4 ビジネスニュース
- Part5 不定詞
- Part6 広告文
- Part7 ニュース記事

#### 第7回 Unit6 Online Shopping (買い物)

- Part2 W h a t
- Part3 所属を問う設問
- Part4 デパートのニュース
- Part5 副詞
- Part6 情報文
- Part7 商品の価格表

#### 第8回 Unit7 Global Warning (地球温暖化)

- Part2 W h o
- Part3 提案を問う設問
- Part4 天気予報
- Part5 分詞
- Part6 オフィス通知文
- Part7 スケジュール表

#### 第9回 Unit8 Web Sites (ホームページ)

- Part2 W h i c h
- Part3 W h a t の設問
- Part4 会社の案内
- Part5 名詞の可算・不可算
- Part6 謝罪文
- Part7 パーティーの案内

#### 第10回 Unit9 Workplace (職場)

- Part2 W h o s e
- Part3 W h e n の設問
- Part4 会議案内
- Part5 代名詞
- Part6 会社案内
- Part7 通知文

第11回 Unit10 Nursing Care (介護)

- Part2 W h e n
- Part3 W h o の設問
- Part4 プレゼンテーション
- Part5 接続詞
- Part6 報告書
- Part7 お知らせ

第12回 Unit11 Global Trading (貿易)

- Part2 W h e r e
- Part3 W h y の設問
- Part4 銀行の報告
- Part5 受動態と使役
- Part6 ニュース記事
- Part7 製品説明とレター

第13回 Unit12 Eco-Friendly Economy (環境に優しい経済)

- Part2 W h y
- Part3 H o w + 形容詞の設問
- Part4 ラジオのニュース
- Part5 関係詞
- Part6 経済記事
- Part7 記事とEメール

第14回 Unit13 Business Trips (出張)

- Part2 H o w
- Part3 W h e r e の設問
- Part4 ホテルの予約
- Part5 形容詞
- Part6 契約書
- Part7 図表とEメール

第15回 Hybrid Cars (ハイブリッド車)

- Part2 意外な応答の疑問文
- Part3 W h i c h の設問
- Part4 修理の依頼
- Part5 前置詞
- Part6 取扱い説明書
- Part7 通知文とレター

定期試験

TOEIC TEST (Unit1-Unit14までの内容をカバーしたテスト)



科目名：TOEIC B/2			
英文名：TOEIC B/2			
担当者： <sup>コイタ ヒロミ</sup> 小坂 裕美			
単 位：1単位	開講年次：2～4年次	開講期：後期	必修選択の別：選択科目

### ■授業概要・方法等

問題演習を通してTOEICテストの点数アップに必要な英語力をつける授業です。TOEICテストの全7パートの中から毎回2つのパートをピックアップすることにより、各パートの出題パターンをより明確に把握し、実際のテストで解答に割ける時間を具体的にイメージできるようにします。語彙力は、音声の聞き取りも取り入れて増強します。文法に関しては、前半の回に頻出事項を学習し、後半の回に発展問題・復習問題として再び取り上げる方式をとって、力を定着させます。また、リスニング・リーディングそれぞれの問題の目の付け所を学ぶことで、必要な情報の在り処を素早く判断し、正しく読み取る力をつけます。

### ■学習・教育目標および到達目標

TOEICテストで520点以上の取得を目指します。語彙力、文法力を高め、会話を正確に聞き取る能力を身につけるとともに、問題文の速読能力を身につけます。

### ■授業時間外に必要な学修

1. 授業中に指定された箇所の予習や宿題
2. 各自で目標を立てて、授業中に紹介した学習法を実践すること
3. 授業で学習した箇所の復習

### ■教科書

"The Best Approach to the TOEIC Test: Getting the Point of Strategies (ポイントと戦略で学ぶTOEIC総合対策問題集)"  
森田光宏, 鈴木淳, Stephen B. Ryan著 (松柏社)

### ■参考文献

必要に応じて授業中に指示します。

### ■関連科目

TOEIC A/1

### ■成績評価方法および基準

定期試験 40%

小テスト 20%

口頭発表および課題 40%

### ■授業評価アンケート実施方法

薬学部実施規程に準拠して行います。

### ■研究室・E-mailアドレス

21号館2階 講師控室

### ■オフィスアワー

月曜 12:20-13:00

### ■授業計画の項目・内容及び到達目標

#### 第1回 Introduction

授業の進め方についての説明と、模擬テストを用いたTOEICテストの全体的な説明

#### 第2回 Chapter 1: Part 1 & 5

Part 1の主な特徴、Part5の頻出問題（品詞）

#### 第3回 Chapter 2: Part 2 & 5

Part 2の主な特徴、Part 5の頻出問題（主語と動詞の対応）

#### 第4回 Chapter 3: Part 3 & 5

Part 3の主な特徴、Part 5の頻出問題（動詞の形(1)時制）

第5回 Chapter 4: Part 4 & 5

Part 4の主な特徴、Part 5の頻出問題（動詞(2)受動態）

第6回 Chapter 5: Part 6 & 5

Part 6の主な特徴、Part 5の頻出問題（関係詞）

第7回 Chapter 6: Part 7 & 5

Part 7の主な特徴、Part 5の頻出問題（接続詞）

第8回 Chapter 7: Part 1 & 5

Part 1の攻略法（文が読まれる前・読まれている間にすべきこと）、Part 5の強化問題（Chapter1-6の学習事項の復習問題と演習）

第9回 Chapter 8: Part 2 & 5

Part 2の攻略法（冒頭の語の聞き取り、答えの予測）、Part 5の強化問題（Chapter1-6の学習事項の復習問題と演習）

第10回 Chapter 9: Part 3 & 5

Part 3の攻略法（会話の先読み、固有名詞の聞き取り）、Part 5の強化問題（Chapter1-6の学習事項の復習問題と演習）

第11回 Chapter 10: Part 4 & 5

Part 4の攻略法（内容の先読み、疑問詞やキーワードへの注目）、Part 5の強化問題（Chapter1-6の学習事項の復習問題と演習）

第12回 Chapter 11: Part 6 & 5

Part 6の攻略法（文脈の把握）、Part 5の強化問題（Chapter1-6の学習事項の復習問題と演習）

第13回 Chapter 12: Part 7 & 5

Part 7の攻略法（スキミングとスキヤニング）、Part 5の強化問題（Chapter1-6の学習事項の復習問題と演習）

第14回 Chapter 13: Mini-Test 1

本番の時間配分で行う全パートの模擬問題演習（リスニング25問、リーディング23問）

第15回 Chapter 14: Mini-Test 2

本番の時間配分で行う全パートの模擬問題演習（リスニング25問、リーディング23問）

定期試験

科目名：TOEIC3			
英文名：TOEIC 3			
担当者： <small>マキムラ コウワ</small> 牧村 興和			
単 位：1単位	開講年次：2～4年次	開講期：前期	必修選択の別：選択科目

### ■授業概要・方法等

TOEIC 500点以上取得している学生を対象に、TOEIC 600点以上取得するための演習を行う。リプロダクション、ディクテーション、暗写を行う。

### ■学習・教育目標および到達目標

TOEICテストで600点以上の取得を目指す。TOEIC 1・2で目標とした能力の一層の向上を図るとともに、比較的長いナレーションを正確に聞き取るリスニング能力、オフィスで使用される文章の速読能力の養成を図る。

### ■授業時間外に必要な学修

授業で取り組んだUnitについて、リスニングセクションはCDを使ってリプロダクションを行い、リーディングセクションを音読を行うことで復習をすること。

### ■教科書

ハーバート久代, 伊藤佳世子, 村上裕美, John C. Herbert.「The Next Stage to the TOEIC Test-Intermediate (CD-ROM) で学習するTOEICテスト：中級編」金星堂. 定価2,100円 (税別).

### ■参考文献

国際ビジネスコミュニケーション協会.「TOEICテスト新公式問題集 (vol.1～5)」. 2,940円

### ■関連科目

TOEIC 1, 2, 4

### ■成績評価方法および基準

定期試験 40%

小テスト 20%

課題 40%

### ■授業評価アンケート実施方法

薬学部実施規程に準拠して行います。

### ■研究室・E-mailアドレス

21号館 2階 講師控室

kowam@hotmail.com

### ■オフィスアワー

金曜日 5限終了後

### ■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 Unit 1 Dining and Shopping

第2回 Unit 1 Dining and Shopping

第3回 Unit 2 Computers

第4回 Unit 2 Computers

第5回 Unit 3 Science and Technology

第6回 Unit 3 Science and Technology

第7回 Unit 4 Entertainment

第8回 Unit 4 Entertainment

第9回 Unit 5 Advertisement

第10回 Unit 5 Advertisement

第11回 Unit 6 Medicine

第12回 Unit 6 Medicine

第13回 Unit 7 Transportation

第14回 Unit 7 Transportation

第15回 今学期の復習

定期試験

科目名： <b>TOEIC4</b>			
英文名： TOEIC 4			
担当者： <small>マキムラ コウワ</small> 牧村 興和			
単 位： 1単位	開講年次： 2～4年次	開講期： 後期	必修選択の別： 選択科目

#### ■授業概要・方法等

TOEIC 500以上習得している学生を対象に、Testで600点以上取得するための演習を行う。リプロダクション、ディクテーション、暗写を行います。

#### ■学習・教育目標および到達目標

TOEICテストで600点以上の取得を目指す。TOEIC1・2で目標とした能力の一層の向上を図るとともに、比較的長いナレーションを正確に聞き取る能力、オフィスで使用される文章の速読能力の養成を図る。

#### ■授業時間外に必要な学修

授業で取り組んだUnitについて、リスニングセクションはCDを使ってリプロダクションを行い、リーディングセクションは音読を行うことで復習をすること。

#### ■教科書

ハーバート久代, 伊藤佳世子, 村上裕美, John C. Herbert.「The Next Stage to the TOEIC Test-Intermediate (CD-ROMで学習するTOEICテスト：中級編)」金星堂. 定価 2,100円(税別).

#### ■参考文献

国際ビジネスコミュニケーション協会.「TOEICテスト新公式問題集(vol.1～5)」. 2,940円

#### ■関連科目

TOEIC 1, 2, 3

#### ■成績評価方法および基準

定期試験 40%

小テスト 20%

課題 40%

#### ■授業評価アンケート実施方法

薬学部実施規程に準拠して行います。

#### ■研究室・E-mailアドレス

21号館 2階 講師控室

kowam@hotmail.com

#### ■オフィスアワー

金曜日5限終了後

#### ■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 Unit 8 Business Trips

第2回 Unit 8 Business Trips

第3回 Unit 9 Environment

第4回 Unit 9 Environment

第5回 Unit 10 Office Work (1)

第6回 Unit 10 Office Work (1)

第7回 Unit 11 Economy



第8回 Unit 11 Economy

第9回 Unit 12 Industry

第10回 Unit 12 Industry

第11回 Unit 13 Personnel

第12回 Unit 13 Personnel

第13回 Unit 14 Office Work (2)

第14回 Unit 14 Office Work (2)

第15回 今学期の復習

定期試験

科目名： <b>アドバンストTOEIC A</b>			
英文名： Advanced TOEIC A			
担当者： <sup>ク</sup> 久 <sup>ボ</sup> 保 <sup>ユ</sup> 祐 <sup>ミ</sup> 美 <sup>コ</sup> 子			
単 位： 1単位	開講年次： 2～4年次	開講期： 前期	必修選択の別： 選択科目

### ■授業概要・方法等

総合的な英語力と解法のtechniqueを習得することで、TOEICのscore upを目指します。

### ■学習・教育目標および到達目標

- 1) TOEIC 700点以上を目指す。
- 2) 授業では、language building activitiesを通じて語彙力を強化する。
- 3) 問題を解く中で、既習内容の定着を図りながら、TOEICのListening TestとReading Testを効果的に攻略できるような能力を身につける。

### ■授業時間外に必要な学修

- 1) 本文中の重要表現・新出単語の意味をcontextから推察する習慣をつけること。
- 2) paragraph readingを習慣付けることで、本文の内容を把握する力を身につけること。
- 3) 授業で指示された課題に取り組むこと。
- 4) 授業で取り上げる頻出文法事項について、予習復習をすること。
- 5) 不得意箇所がある場合は、授業中に質問できるように準備してくること。
- 6) 普段から英語でNewsを聴くなど、英語を聞く習慣を身につけること。
- 7) 定期的に公開されるe-learningを使った問題に挑戦すること。

### ■教科書

Tactics for TOEIC Listening and Reading Test (Oxford University Press)2600円

### ■参考文献

TOEICテスト公式プラクティスリスニング編 国際ビジネスコミュニケーション協会  
TOEICテスト新公式問題集Vol.4 国際ビジネスコミュニケーション協会 2940円

### ■関連科目

なし

### ■成績評価方法および基準

定期試験 40%  
小テスト 20%  
口頭発表および課題 40%

### ■授業評価アンケート実施方法

薬学部実施規程に準拠して行います。

### ■研究室・E-mailアドレス

21号館2階講師控室

### ■オフィスアワー

原則として授業時間の後または別途指示する時間帯

### ■授業計画の項目・内容及び到達目標

#### 第1回 講義概要の説明+Unit 7 Reading Test Part 7

講義の進め方の説明、成績評価方法と基準の説明を行った後、授業に入ります。

#### 第2回 Unit 4 Listening Test Part 4

確認クイズ (Unit 7) を行った後、課題のTOEICの補助問題の解答を行い、授業に入ります。  
listening strategiesの説明を行い、効果的に正解が解答できるように練習します。

#### 第3回 Unit 3 Listening Test Part 3

確認クイズ (Unit 4) を行った後、課題のTOEICの補助問題の解答を行い、授業に入ります。  
listening strategiesの説明を行い、効果的に正解が解答できるように練習します。

#### 第4回 Unit 2 Listening Test Part 2

確認クイズ (Unit 3) を行った後、課題のTOEICの補助問題の解答を行い、授業に入ります。  
listening strategiesの説明を行い、効果的に正解が解答できるように練習します。

#### 第5回 Unit 5 Reading Test Part 5

確認クイズ (Unit 2) を行った後、課題のTOEICの補助問題の解答を行い、授業に入ります。  
Reading strategiesの説明を行い、効果的に正解が解答できるように練習します。

#### 第6回 Unit 6 Reading Test Part 6

確認クイズ (Unit 5) を行った後、課題のTOEICの補助問題の解答を行い、授業に入ります。  
Reading strategiesの説明を行い、効果的に正解が解答できるように練習します。

#### 第7回 Unit 1 Listening Test Part 1

確認クイズ (Unit 6) を行った後、課題のTOEICの補助問題の解答を行い、授業に入ります。  
listening strategiesの説明を行い、効果的に正解が解答できるように練習します。

#### 第8回 Unit 14 Reading Test Part 7

確認クイズ (Unit 1) を行った後、課題のTOEICの補助問題の解答を行い、授業に入ります。  
Reading strategiesの説明を行い、効果的に正解が解答できるように練習します。

#### 第9回 Unit 11 Listening Test Part 1

確認クイズ (Unit 14) を行った後、課題のTOEICの補助問題の解答を行い、授業に入ります。  
listening strategiesの説明を行い、効果的に正解が解答できるように練習します。

#### 第10回 Unit 10 Listening Test Part 3

確認クイズ (Unit 11) を行った後、課題のTOEICの補助問題の解答を行い、授業に入ります。  
listening strategiesの説明を行い、効果的に正解が解答できるように練習にします。

#### 第11回 Unit 9 Listening Test Part 2

確認クイズ (Unit 10) を行った後、課題のTOEICの補助問題の解答を行い、授業に入ります。  
listening strategiesの説明を行い、効果的に正解が解答できるように練習します。

#### 第12回 Unit 12 Reading Test Part 5

確認クイズ (Unit 9) を行った後、課題のTOEICの補助問題の解答を行い、授業に入ります。  
Reading strategiesの説明を行い、効果的に正解が解答できるように練習します。

#### 第13回 Unit 13 Reading Test Part 6

確認クイズ (Unit 12) を行った後、課題のTOEICの補助問題の解答を行い、授業に入ります。  
Reading strategiesの説明を行い、効果的に正解が解答できるように練習します。

#### 第14回 Unit 8 Listening Test Part 1

確認クイズ (Unit 13) を行った後、課題のTOEICの補助問題の解答を行い、授業に入ります。  
listening strategiesの説明を行い、効果的に正解が解答できるように練習します。

#### 第15回 Review

確認クイズ (Unit 8) を行った後、これまで練習してきた中で特に不得意に感じた箇所の練習を重点的に行います。

#### 定期試験

科目名： <b>アドバンストTOEIC B</b>			
英文名： Advanced TOEIC B			
担当者： <b>久保 祐美子</b>			
単 位： 1単位	開講年次： 2～4年次	開講期： 後期	必修選択の別： 選択科目

### ■授業概要・方法等

総合的な英語力と解法のtechniqueを習得することで、TOEICのscore upを目指す。

### ■学習・教育目標および到達目標

- 1) TOEIC 700点以上をめざす。
- 2) language building activitiesを通じて語彙力を強化する。
- 3) 問題を解く中で既習内容の定着を図りながら、TOEICのListening TestとReading Testを効果的に攻略できるような能力を身につける。

### ■授業時間外に必要な学修

- 1) 本文中の重要表現・新出単語の意味を、contextから推察する習慣をつけること。
- 2) paragraph readingを習慣付けることで、本文の内容を把握する力を身につけること。
- 3) 授業で取り上げる頻出文法事項について、予習復習をすること。
- 4) 不得意箇所がある場合は、授業中に質問できるように準備をしてくること。
- 5) 普段から英語でNewsを聴くなど、英語を聞く習慣を身につけること。
- 6) 定期的に公開されるe-learningを使った問題に挑戦すること。

### ■教科書

Tactics for TOEIC Listening and Reading Test (Oxford University Press)2600円

### ■参考文献

TOEIC テスト公式プラクティスリスニング編 国際コミュニケーション協会  
 TOEIC テスト新公式問題集 Vol.4 国際コミュニケーション協会 2940円

### ■関連科目

なし

### ■成績評価方法および基準

定期試験 40%  
 小テスト 20%  
 口頭発表および課題 40%

### ■授業評価アンケート実施方法

薬学部実施規程に準拠して行います。

### ■研究室・E-mailアドレス

21号館2階講師控室

### ■オフィスアワー

原則として授業時間の後または別途指示する時間帯

### ■授業計画の項目・内容及び到達目標

#### 第1回 講義概要の説明、Unit 21 Reading Test Part 7

授業方針や、評価の仕方等を説明した後、授業に入ります。  
 Reading strategiesの説明を行い、効果的に正解が解答できるように練習します。

#### 第2回 Unit 18 Listening Test Part 4

確認クイズ (Unit 21) を行った後、課題のTOEICの補助問題の解答を行い、授業に入ります。  
 listening strategiesの説明を行い、効果的に正解が解答できるように練習します。

#### 第3回 Unit 17 Listening Test Part 3

確認クイズ (Unit 18) を行った後、課題のTOEICの補助問題の解答を行い、授業に入ります。  
 listening strategiesの説明を行い、効果的に正解が解答できるように練習します。



#### 第4回 Unit 16 Listening Test Part 2

確認クイズ (Unit 17) を行った後、課題のTOEICの補助問題の解答を行い、授業に入ります。  
listening strategiesの説明を行い、効果的に正解が解答できるように練習します。

#### 第5回 Unit 19 Reading test Part 5

確認クイズ (Unit 16) を行った後、課題のTOEICの補助問題の解答を行い、授業に入ります。  
Reading strategiesの説明を行い、効果的に正解が解答できるように練習します。

#### 第6回 Unit 20 Reading Test Part 6

確認クイズ (Unit 19) を行った後、課題のTOEICの補助問題の解答を行い、授業に入ります。  
Reading strategiesの説明を行い、効果的に正解が解答できるように練習します。

#### 第7回 Unit 15 Listening Test Part 1

確認クイズ (Unit 20) を行った後、課題のTOEICの補助問題の解答を行い、授業に入ります。  
listening strategiesの説明を行い、効果的に正解が解答できるように練習します。

#### 第8回 Unit 28 Reading Test Part 7

確認クイズ (Unit 15) を行った後、課題のTOEICの補助問題の解答を行い、授業に入ります。  
Reading strategiesの説明を行い、効果的に正解が解答できるように練習します。

#### 第9回 Unit 25 Listening Test Part 4

確認クイズ (Unit 28) を行った後、課題のTOEICの補助問題の解答を行い、授業に入ります。  
listening strategiesの説明を行い、効果的に正解が解答できるように練習します。

#### 第10回 Unit 24 Listening Test Part 3

確認クイズ (Unit 25) を行った後、課題のTOEICの補助問題の解答を行い、授業に入ります。  
listening strategiesの説明を行い、効果的に正解が解答できるように練習します。

#### 第11回 Unit 23 Listening Test Part 2

確認クイズ (Unit 24) を行った後、課題のTOEICの補助問題の解答を行い、授業に入ります。  
listening strategiesの説明を行い、効果的に正解が解答できるように練習します。

#### 第12回 Unit 26 Reading Test Part 5

確認クイズ (Unit 23) を行った後、課題のTOEICの補助問題の解答を行い、授業に入ります。  
Reading strategiesの説明を行い、効果的に正解が解答できるように練習します。

#### 第13回 Unit 27 Reading Test Part 6

確認クイズ (Unit 26) を行った後、課題のTOEICの補助問題の解答を行い、授業に入ります。  
Reading strategiesの説明を行い、効果的に正解が解答できるように練習します。

#### 第14回 Unit 22 Listening Test Part 1

確認クイズ (Unit 27) を行った後、課題のTOEICの補助問題の解答を行い、授業に入ります。  
listening strategiesの説明を行い、効果的に正解が解答できるように練習します。

#### 第15回 Review

確認クイズ (Unit 22) を行った後、これまで練習してきた中で、特に不得意に感じた箇所の練習を重点的に行います。

#### 定期試験



科目名： <b>TOEFL A</b>			
英文名： TOEFL A			
担当者： <sup>ヒラカワ キミコ</sup> 平川 公子			
単 位： 1単位	開講年次： 2～4年次	開講期： 前期	必修選択の別： 選択科目

### ■授業概要・方法等

英語の発展科目です。主に北米の高等教育機関へ留学する際に英語能力を証明するための試験である、TOEFLの受験に向けた準備を行う授業です。TOEFL iBTのリスニング、リーディング・パートを中心に、練習問題に取り組みます。高等教育機関での勉学・研究に耐えうる英語能力があるかを測る、というTOEFLの目的を確認しながら、大学レベルで求められる、academic Englishとはどのようなものかについて練習問題を通じて理解をしていきます。

### ■学習・教育目標および到達目標

- ・TOEFLにおける、自然なスピードのリスニング・テストに対応する方法を学習する
- ・TOEFLで出題される、大学教養レベルのリーディング素材を読みこなすための、(1)英語能力、(2)アカデミックな教養を向上させる
- ・海外の大学レベルで求められるacademic Englishとはどのようなものか、今まで学習してきた英語や、会話における英語とはどのように異なるのか、について学習する

### ■授業時間外に必要な学修

- ・授業中に指示された課題に取り組むこと
- ・テキストの付属CDを用いて、各自でリスニングの練習をすること
- ・リーディング・パートについては、語数が多く難度が高いため、必ず予習をすること

### ■教科書

鶴岡公幸ほか『Get Ready for the TOEFL iBT: Listening & Reading』（松柏社）

### ■参考文献

授業中に適宜指示します

### ■関連科目

TOEFL B、留学英語A・B

### ■成績評価方法および基準

- 定期試験 40%
- 小テスト 30%
- 課題および発表 30%

### ■授業評価アンケート実施方法

「薬学部実施規程」に準拠して行います

### ■研究室・E-mailアドレス

21号館2階 講師控室

### ■オフィスアワー

月曜日 12:20～13:00

### ■授業計画の項目・内容及び到達目標

#### 第1回 Chapter 1 Listening: The Irish Potato Famine

歴史および史学に関する題材を用いたリスニング問題を練習します

#### 第2回 Chapter 1 Reading: Baseball History

歴史および史学に関する題材を扱ったリーディング問題を練習します

#### 第3回 Chapter 2 Listening: Music and History

音楽および音楽学に関する題材を用いたリスニング問題を練習します

#### 第4回 Chapter 2 Reading: Boston Orchestra

音楽および音楽学に関する題材を扱ったリーディング問題を練習します

第5回 Chapter 3 Listening: Kurt Vonnegut

文学および小説に関する題材を用いたリスニング問題を練習します

第6回 Chapter 3 Reading: Emerson and Thoreau

文学および小説に関する題材を扱ったリーディング問題を練習します。

第7回 Chapter 4 Listening: Information Technology

情報技術 (IT) に関する題材を用いたリスニング問題を練習します

第8回 Chapter 4 Reading: Adapting to the Era of Information

情報技術 (IT) に関する題材を扱ったリーディング問題を練習します

第9回 中間試験

第8回までの授業でどの程度理解が進んだかを測るために、模擬問題に取り組みます

第10回 Chapter 5 Listening: Living Organisms

生物および生物学に関する題材を用いたリスニング問題を練習します

第11回 Chapter 5 Reading: Idea for a New Biology

生物および生物学に関する題材を扱ったリーディング問題を練習します

第12回 Chapter 6 Listening: All Sports Bring Something to Our Life

スポーツおよびスポーツ科学に関する題材を用いたリスニング問題を練習します

第13回 Chapter 6 Reading: Sports Science

スポーツおよびスポーツ科学に関する題材を扱ったリーディング問題を練習します

第14回 Chapter 7 Listening: Sample Set

市場および経済学に関する題材を用いたリスニング問題を練習します

第15回 Chapter 7 Reading: Demographic Segmentation and How It Can Help

市場および経済学に関する題材を扱ったリーディング問題を練習します

定期試験

15回までの授業でどの程度理解が進んだかを測るために、模擬問題に取り組みます

科目名：TOEFL B			
英文名：TOEFL B			
担当者： <sup>ヒラカワ キミコ</sup> 平川 公子			
単 位：1単位	開講年次：2～4年次	開講期：後期	必修選択の別：選択科目

### ■授業概要・方法等

英語の発展科目です。主に北米の高等教育機関へ留学する際に英語能力を証明するための試験である、TOEFLの受験に向けた準備を行う授業です。TOEFL iBTのリスニング、リーディング・パートを中心に、練習問題に取り組みます。高等教育機関での勉強・研究に耐えうる英語能力があるかを測る、というTOEFLの目的を確認しながら、大学レベルで求められる、academic Englishとはどのようなものかについて練習問題を通じて理解をしていきます。

### ■学習・教育目標および到達目標

- ・TOEFLにおける、自然なスピードのリスニング・テストに対応する方法を学習する
- ・TOEFLで出題される、大学教養レベルのリーディング素材を読みこなすための、(1)英語能力、(2)アカデミックな教養を向上させる
- ・海外の大学レベルで求められるacademic Englishとはどのようなものか、今まで学習してきた英語や、会話における英語とはどのように異なるのか、について学習する

### ■授業時間外に必要な学修

- ・授業中に指示された課題に取り組むこと
- ・テキストの付属CDを用いて、各自でリスニングの練習をすること
- ・リーディング・パートについては、語数が多く難度が高いため、必ず予習をすること

### ■教科書

鶴岡公幸ほか『Get Ready for the TOEFL iBT: Listening & Reading』（松柏社）

### ■参考文献

授業中に適宜指示します

### ■関連科目

TOEFL B、留学英語A・B

### ■成績評価方法および基準

定期試験 40%

小テスト 30%

課題および発表 30%

### ■授業評価アンケート実施方法

「薬学部実施規程」に準拠して行います

### ■研究室・E-mailアドレス

21号館 2階 講師控室

### ■オフィスアワー

月曜日 12:20～13:00

### ■授業計画の項目・内容及び到達目標

#### 第1回 Chapter 8 Listening: History of Modern Art

芸術および美学に関する題材を用いたリスニング問題を練習します

#### 第2回 Chapter 8 Reading: Cave Paintings

芸術および美学に関する題材を扱ったリーディング問題を練習します

#### 第3回 Chapter 9 Listening: Critical Thinking Listening

「批判的思考（法）」(critical thinking)に関する題材を用いたリスニング問題を練習します

#### 第4回 Chapter 9 Reading: Critical Thinking

「批判的思考（法）」(critical thinking)に関する題材を扱ったリーディング問題を練習します

第5回 Chapter 10 Listening: Acid Rain

気象学および地球科学に関する題材を用いたリスニング問題を練習します

第6回 Chapter 10 Reading: Cloud Control

気象学および地球科学に関する題材を扱ったリーディング問題を練習します

第7回 Chapter 11 Listening: Media Effects and Transmission Technologies

メディアに関する題材を用いたリスニング問題を練習します

第8回 Chapter 11 Reading: How Media Drives Obesity in Children

メディアに関する題材を扱ったリーディング問題を練習します

第9回 中間試験

第8回までの授業でどの程度理解が進んだかを測るために、模擬問題に取り組みます

第10回 Chapter 12 Listening: Health Listening

健康管理および健康科学に関する題材を用いたリスニング問題を練習します

第11回 Chapter 12 Reading: Modern Health Care

健康管理および健康科学に関する題材を扱ったリーディング問題を練習します

第12回 Chapter 13 Listening: Welcome Speech

教育および教育学に関する題材を用いたリスニング問題を練習します

第13回 Chapter 13 Reading: History of MBA Education

教育および教育学に関する題材を扱ったリーディング問題を練習します

第14回 Chapter 14 Listening: Light and Matter

物理学に関する題材を用いたリスニング問題を練習します

第15回 Chapter 14 Reading: How Fireworks Work

物理学に関する題材を扱ったリーディング問題を練習します

定期試験

第15回までの授業でどの程度理解が進んだかを測るために模擬問題に取り組みます



科目名：インターネットイングリッシュ A			
英文名：Internet English A			
担当者： <small>コンドウ ススム</small> 近藤 進			
単 位：1単位	開講年次：2～4年次	開講期：前期	必修選択の別：選択科目

### ■授業概要・方法等

インターネットは、英語学習の重要なツールの一つであり、効果的に使えば、英語力の上達だけではなく、専門分野の知識についてもグローバルな視点から再確認できます。インターネット・イングリッシュAの授業では、主にインターネット・リサーチ（英文のウェブ情報の収集、ウェブニュースの検索など）に慣れ親しみ、収集した情報をうまく整理し理解していく力を身につけます。また、このクラスでは、Wordを常に授業で使用しますので、英文タイプのスキルアップも目指します。

### ■学習・教育目標および到達目標

氾濫するネット情報の中で、必要な英文情報を正確に収集し、いくつかの情報源と比較しながら、その内容のポイントを日本語で要約できることを目標とします。

### ■授業時間外に必要な学修

授業内容をクラスルーム外でも実践させることが重要です。普段から積極的にインターネットにアクセスし、自分の興味のある分野（音楽、映画、スポーツなど）について英語でリサーチして楽しむことが大切です。

### ■教科書

指定テキストはなしです。  
必要に応じて配布資料がありますので、ファイルを一冊準備すること。  
データ保存のためのUSBを授業に持ってくること。

### ■参考文献

必要に応じて、授業で指示します。

### ■成績評価方法および基準

定期試験 40%  
小テスト 20%  
発表・課題 40%

### ■授業評価アンケート実施方法

薬学部実施規程に準拠して行います。

### ■研究室・E-mailアドレス

susumukondo@hotmail.com

### ■オフィスアワー

月曜日/21号館講師控室  
12:10-12:30

### ■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 オリエンテーション

第2回 情報収集&まとめ (My Favorite Artist：英文図表・グラフの作成)

第3回 情報収集&まとめ (My Favorite Movie 1：文章作成/あらすじ)

第4回 情報収集&まとめ (My Favorite Movie 2: 文章作成/あらすじ)

第5回 情報収集&まとめ (My Favorite City in the World 1: 英文ポスターの作成)

第6回 情報収集&まとめ (My Favorite City in the World 2: 英文ポスターの作成)



第7回 Review

発表の準備 (第1回～第6回の内容からテーマを選ぶ)

第8回 発表日

第9回 専門分野リサーチ&要約 (自分の専攻内容と関連性のあるトピックについて)

第10回 専門分野リサーチ&要約 (発表)

第11回 オンライン記事 (Troubleshooter 1: 英文レターを読む)

第12回 オンライン記事 (Troubleshooter 2: 英文レター&返答の文章作成)

第13回 オンラインニュース1 (オンライン新聞サイトで時事英語を読む)

第14回 オンラインニュース2 (オンライン新聞サイトで時事英語を読む)

第15回 オンラインニュース3 (オンライン新聞サイトで時事英語を読む)

定期試験

科目名：インターネットイングリッシュ B			
英文名：Internet English B			
担当者： <small>コンドウ ススム</small> 近藤 進			
単 位：1単位	開講年次：2～4年次	開講期：後期	必修選択の別：選択科目

### ■授業概要・方法等

インターネットは、英語学習の重要なツールであり、英文のウェブ情報を効果的に収集できれば、英語力の上達だけでなく、専門分野の知識についてもグローバルな視点から再認識できます。インターネット・イングリッシュBでは、前期のAの授業に続き、情報収集能力を高めながら、ネットを通じて、自己発信をフォーカスしていきます。特に、英文の問い合わせ、注文書の送付、納品催促、クレーム書の書き方、礼状など、日常生活の中でのemail関連の英文表現を中心に勉強します。また、英文ブログやホームページの作成も進度に合わせて視野に入れます。

### ■学習・教育目標および到達目標

インターネットを使用して、日常の問題処理の為の英文作成能力の基礎をしっかりと身につけます。

### ■授業時間外に必要な学修

クラスルームをでれば、英語の勉強が終わるのではなく、授業で学んだことに基づき、英語を実際にいろんな場で使用する努力を絶えない事。

### ■教科書

指定テキストなし。

配布資料整理用のファイルとデータ保存用のUSBを準備すること。

### ■参考文献

必要に応じて授業で紹介します。

### ■成績評価方法および基準

定期試験 40%

小テスト 20%

発表・課題 40%

### ■授業評価アンケート実施方法

薬学部実施規程に準拠して行います。

### ■研究室・E-mailアドレス

susumukondoz@hotmail.com

### ■オフィスアワー

月曜/21号館講師控室

12:10-12:30

### ■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 オリエンテーション/自己紹介文の作成

第2回 オンライン申込書などの書き方

第3回 感謝状のメール作成

第4回 インターネット・リサーチ&問い合わせ

第5回 商品リサーチ&注文書の書き方

第6回 納期確認&納品催促のメール作成

第7回 クレーム・メールの作成

第8回 インターネット・リサーチ：求人広告/英文履歴書の書き方

第9回 インターネット・リサーチ1：外資系企業（発展の背景）

第10回 インターネット・リサーチ2：外資系企業（日本進出）

第11回 発表：

（自分の専門分野と関連性のある）ある外資系企業のビジネス・ストラテジーについて

第12回 Review

第13回 英文ブログ1

第14回 英文ブログ2

第15回 英文ホームページ

定期試験

科目名： <b>留学英語A</b>			
英文名： English for Studying Abroad A			
担当者： <small>イクラ リエ</small> 以倉 理恵			
単 位： 1単位	開講年次： 2～4年次	開講期： 前期	必修選択の別： 選択科目

### ■授業概要・方法等

英語でコミュニケーションを図る際にまず自分自身の考えを明確に意識する必要がある。テキストで扱うテーマは、「生活・職業・文化・社会・民族」という幅広い分野である。留学生生活を視野に、インプットした知識や情報を自分の考えとして発信できる習慣をつける。英文の読み方や英文中の情報の整理方法を習得し、自分の意見へ応用できるレベルへ達することをねらいとする。

受講者は第1回目から出席のこと。

### ■学習・教育目標および到達目標

留学生活でのコミュニケーション能力を強化するために、英文理解度の向上を目指し、そこから得た幅広い知識と情報を活用し、発信していける応用力をつける。

### ■授業時間外に必要な学修

授業で指示された課題に取り組む。

### ■教科書

Linda robinson fellag著 “Tapestry Reading 3, Intermediate” 松柏社

### ■成績評価方法および基準

定期試験およびそれに準じる評価 40%

小テスト 20%

発表および課題 40%

### ■授業評価アンケート実施方法

薬学部実施規程に準拠して行います。

### ■授業計画の項目・内容及び到達目標

#### 第1回 オリエンテーション

受講希望者は必ず出席のこと。辞書は必ず持参のこと。携帯や端末の辞書機能は使用禁止とする。

#### 第2回 U.1

小テスト、課題確認、  
リーディング、文法、プレゼンテーション。

#### 第3回 U.1

小テスト、課題確認、  
リーディング、文法、プレゼンテーション。

#### 第4回 U.2

小テスト、課題確認、  
リーディング、文法、プレゼンテーション。

#### 第5回 U.2

小テスト、課題確認、  
リーディング、文法、プレゼンテーション。

#### 第6回 U.3

小テスト、課題確認、  
リーディング、文法、プレゼンテーション。

第7回 U.3

小テスト、課題確認、  
リーディング、文法、プレゼンテーション。

第8回 U.4

小テスト、課題確認、  
リーディング、文法、プレゼンテーション。

第9回 U.4

小テスト、課題確認、  
リーディング、文法、プレゼンテーション。

第10回 U.5

小テスト、課題確認、  
リーディング、文法、プレゼンテーション。

第11回 U.5

小テスト、課題確認、  
リーディング、文法、プレゼンテーション。

第12回 U.6

小テスト、課題確認、  
リーディング、文法、プレゼンテーション。

第13回 U.6

小テスト、課題確認、  
リーディング、文法、プレゼンテーション。

第14回 U.7

小テスト、課題確認、  
リーディング、文法、プレゼンテーション。

第15回 U.7

小テスト、課題確認、  
リーディング、文法、プレゼンテーション。

定期試験



科目名： <b>留学英語B</b>			
英文名： English for Studying Abroad B			
担当者： <sup>イクラ</sup> <sup>リエ</sup> 以倉 理恵			
単 位： 1単位	開講年次： 2～4年次	開講期： 後期	必修選択の別： 選択科目

### ■授業概要・方法等

英語でコミュニケーションを図る際に、まず自分自身の意見をもつ必要がある。テキストで扱うテーマは多岐に渡る分野である。留学生生活を視野に、得た知識や情報を自分の考えとして発信できる習慣をつける。英文の読み方や英文中の情報の整理の仕方を習得し、自分の意見へ応用できることを狙いとする。

### ■学習・教育目標および到達目標

留学生活でのコミュニケーション能力を強化するために、英文理解度のレベルアップを目指し、そこから得た情報や知識を活用し、アウトプットできる力をつける。

### ■授業時間外に必要な学修

授業で指示された課題に取り組む。

### ■教科書

Linda Robinson Fellag 著 “Tapestry Reading 3, intermediate” 松柏社

### ■成績評価方法および基準

定期試験およびそれに準じる評価 40%

小テスト 20%

発表および課題 40%

### ■授業評価アンケート実施方法

薬学部実施規程に準拠して行います。

### ■授業計画の項目・内容及び到達目標

#### 第1回 オリエンテーション

実力テスト

#### 第2回 U.8

小テスト、課題確認、  
リーディング、文法、プレゼンテーション。

#### 第3回 U.8

小テスト、課題確認、  
リーディング、文法、プレゼンテーション。

#### 第4回 U.9

小テスト、課題確認、  
リーディング、文法、プレゼンテーション。

#### 第5回 U.9

小テスト、課題確認、  
リーディング、文法、プレゼンテーション。

#### 第6回 U.10

小テスト、課題確認、  
リーディング、文法、プレゼンテーション。

#### 第7回 U.10

小テスト、課題確認、  
リーディング、文法、プレゼンテーション。

第8回 U.11

小テスト、課題確認、  
リーディング、文法、プレゼンテーション。

第9回 U.11

小テスト、課題確認、  
リーディング、文法、プレゼンテーション。

第10回 U.12

小テスト、課題確認、  
リーディング、文法、プレゼンテーション。

第11回 U.12

小テスト、課題確認、  
リーディング、文法、プレゼンテーション。

第12回 U.13

小テスト、課題確認、  
リーディング、文法、プレゼンテーション。

第13回 U.13

小テスト、課題確認、  
リーディング、文法、プレゼンテーション。

第14回 U.14

小テスト、課題確認、  
リーディング、文法、プレゼンテーション。

第15回 U.14

小テスト、課題確認、  
リーディング、文法、プレゼンテーション。

定期試験

科目名：ライティングA			
英文名：Writing A			
担当者： <sup>フジオカ マユミ</sup> 藤岡 真由美			
単 位：1単位	開講年次：2～4年次	開講期：前期	必修選択の別：選択科目

### ■授業概要・方法等

英語ライティングで重要な、パラグラフやエッセイの論理展開の仕方を学ぶ。定義、手順説明、描写、例示などの論理展開を理解し、求められる型に応じてまとまった内容の英文が書けるようにする。また、それぞれのトピックや論理展開に関連した文法、語彙、言い回しも習得できるようにする。さらに、考えをまとめ英文を下書きし、何度も書き直すというプロセスライティングを重視し、ピアレスポンス（お互いの英文についてコメントしあう）活動などを通じて、相手にわかるように自分の言いたいことを伝えるというライティングの基本姿勢を身につける。

### ■学習・教育目標および到達目標

- 英文パラグラフの構造を理解する。
- 定義、手順、説明、描写、例示などのパラグラフの型と論理展開を理解する。
- 与えられたトピックにもとづいて、それぞれのパラグラフの型に応じたまとまった内容の英文が書ける。
- それぞれのトピックに特徴的な語彙、文法、表現を習得し、英文の中で適切に使うことができる。
- プロセスライティングが実践できるようになる。
- 読み手を意識し、相手によくわかるように伝えたい内容を英文で表現できる。

### ■授業時間外に必要な学修

1週間単位で授業に向けての計画を立て、単語調べ、語彙習得、教科書のタスクへの準備などを行う。また各週での小テスト、ライティング課題提出のための学習を各自が遂行する。

### ■教科書

Writing frontiers, Kumamoto et al. (著) 金星堂

### ■参考文献

必要に応じて指示をする。

### ■関連科目

ライティングB

### ■成績評価方法および基準

定期試験 40%

授業平常点（小テスト、課題、グループワークなど）60%

### ■授業評価アンケート実施方法

薬学部実施規程に準拠して行います。

### ■研究室・E-mailアドレス

39号館4階404

mfujioka@kindai.ac.jp

### ■オフィスアワー

水曜日3限

### ■授業計画の項目・内容及び到達目標

#### 第1回 Chapter 1: Introducing yourself

定義の英文構造を理解する。自己紹介の簡単なパラグラフを書く。

#### 第2回 Chapter 2: Writing a story by yourself

時系列で経験や出来事を説明する。順序を表す表現を学ぶ。関係詞を使った表現を習得する。

#### 第3回 Chapter 2: Writing a story by yourself

物語文（時系列文）を練習する。本や映画、テレビドラマの物語を簡単に書いてみる。

#### 第4回 Chapter 3: Writing your own recipe

手順、順序を説明する。順序を表す表現を習得する。

#### 第5回 Chapter 4: Different varieties of English

パラグラフの基本構造（主題文、支持文、結論文）を理解する。英語のつなぎ言葉を習得する。

#### 第6回 Chapter 4: Different varieties of English

訪れてみたい国、場所についてパラグラフの基本構造にしたがい、つなぎ言葉を使って書いてみる。

#### 第7回 Chapter 5: Describing interesting people and places

人物や場所の描写表現を習得する。基本的な前置詞の使い方を習得する。

#### 第8回 Chapter 6: Expressing your feelings

パラグラフでの具体例の挙げ方を習得する。

#### 第9回 Chapter 6: Expressing your feelings

自分が感動した作品についての具体例を書いてみる。グループメンバーとお互いのライティングについてコメントしあう。

#### 第10回 Chapter 7: Introducing your hometown

プロセスライティングの概念を理解する。英文推敲の過程を、例文を通じて理解する。

#### 第11回 Chapter 8: Studying more about the world

分類を示すパラグラフの構造を理解する。

#### 第12回 Chapter 9: Why are they so popular?

理由を示すパラグラフの構造を理解する。理由を表すつなぎ言葉、言いまわしを習得する。自分の選んだ人物や事象について人気の理由を説明するパラグラフを書いてみる。

#### 第13回 Chapter 9: Why are they so popular?

チェックリストを使って自分のパラグラフを修正、書きなおしをする。グループメンバーとお互いのライティングについてコメントしあう。

#### 第14回 Chapter 9: Why are they so popular?

理由を表すパラグラフの内容（推敲を終えたもの）について各自がグループで簡単に発表する。

#### 第15回 復習

前期学んだ重要語句、表現を復習する。

#### 定期試験

前期学んだ内容（パラグラフの構造、論理展開）、重要語彙、表現について習得度合いを確認する試験をする。

科目名：ライティングA			
英文名：Writing A			
担当者： <sup>ヒラオ</sup> 平尾 <sup>ヒデミ</sup> 秀実			
単 位：1単位	開講年次：2～4年次	開講期：前期	必修選択の別：選択科目

### ■授業概要・方法等

日本語と英語の違いという点から和文英訳をしてもらい、英文を書く練習をしてもらいます。模範文の暗記・再生、練習問題でのドリルを予定しています。

### ■学習・教育目標および到達目標

意図したことを英語らしい表現で正確に伝える基本的な英文が書けるようになることが目標です。

### ■授業時間外に必要な学修

毎回進んだ範囲は答えを見ないでも英語で書けるようになるまで復習すること。  
毎日教科書の予習・復習をすること。

### ■教科書

“How to Write English” 羽鳥博愛(朝日出版)1,068円+税

### ■参考文献

英和・和英辞書は必ず持参のこと。

### ■関連科目

ライティングB

### ■成績評価方法および基準

定期試験 40%  
小テスト 20%  
口頭発表および課題 40%

### ■授業評価アンケート実施方法

薬学部実施規程に準拠して行います。

### ■研究室・E-mailアドレス

21号館2回講師控室

### ■オフィスアワー

月・水は1・2限目の間の休み時間  
土は12：10から13：10

### ■授業計画の項目・内容及び到達目標

#### 第1回 オリエンテーションとプリント

授業の進め方と目標を確認し、プリントでは英検2級・準1級レベルの問題で現在の学力を把握します。

#### 第2回 主語とその他を補う

日本語では主語を明示しないことがあるが、英語はふつうきちんと主語を補わないとならない。

#### 第3回 英語の語順

英語では語順が大切である。一見複雑そうに見えても実は五文型の組み合わせである。

#### 第4回 テンスのずれ

日本語ではふだん意識しないことが多いがテンスのいろいろある英語ではどのテンスで書くか考える必要がある。

#### 第5回 Essay Writingの練習(1)

自己紹介(家族・趣味)



## 第6回 否定詞先行

日本語では否定をあらわすのは後方に来ることが多いが、英語では比較的前の方にくる。

## 第7回 状態的表現

日本語では動詞的に表現することを、英語ではbe動詞を使ってあらわすことが少なくない。

## 第8回 課題テストと解説

自宅学習用に渡してあるプリント問題で小テストします。成績評価にも入ります。

## 第9回 能動と受動が逆になる場合

英語では能動で書かれているが、日本語では受身で表現する方が自然な場合がある。

## 第10回 無生物主語

英語の無生物主語をそのまま日本語に訳すと変な日本語になる。これを逆に利用して英語では無生物を主語にして英語らしい表現になる。

## 第11回 Essay Writingの練習(2)

(自分の愛読書)

## 第12回 日本語の動詞的表現を英語では名詞的に

日本語では動詞で表現するところを英語では「be+～する人」の形であらわすことがよくある。

## 第13回 動詞を前置詞で表す

英語では名詞中心の表現が多いから、日本語なら動詞で表現することを「be+前置詞+名詞」で言うことがよくある。

## 第14回 名詞を修飾する諸形式

英語は名詞中心の言語だから、名詞を修飾する形式がいろいろある。

## 第15回 単語の意味範囲

定期試験

科目名：ライティングA			
英文名：Writing A			
担当者：濱崎 <sup>ハマザキ</sup> 佳子 <sup>ヨシコ</sup>			
単 位：1単位	開講年次：2～4年次	開講期：前期	必修選択の別：選択科目

### ■授業概要・方法等

理系の研究、仕事場は、現在最もグローバル化が進んでいる環境といえるでしょう。そのような中で、自分の意思を英語で表現するにはどのようにすればよいでしょうか。

この授業では、自分が発信したい事柄を読み手にわかりやすく説明するために、考える技術、書く技術についてパラグラフを基本として学んでいきます。また、医療系企業のホームページから、実社会で使われている英語を観察し、応用してみましよう。

この授業は、「ライティングB」と連携しています。授業の進捗については、開講後受講生の状況で変更する場合があります。

### ■学習・教育目標および到達目標

ライティングに必要な英文構造が理解できる。

時系列、比較と対照、原因と結果に基づいて説明するパラグラフロジックの基本を理解できる。

実証に基づいた説明をするためにトピック内のそれぞれの文章を適切な接続詞を使って論理的に英文が書けるようになる。

### ■授業時間外に必要な学修

テキスト、関連資料の予習・復習  
課題の作成

### ■教科書

1. 静哲人、『構造から学べるパラグラフライティング入門』、松柏社、2011年。
2. プリント教材

### ■関連科目

ライティングB

### ■成績評価方法および基準

授業運営 60%

定期試験 40%

### ■授業評価アンケート実施方法

薬学部実施規程に準拠して行います。

### ■研究室・E-mailアドレス

21号館2階講師控室

メールアドレス：y-hamazaki@kindai.ac.jp

### ■オフィスアワー

原則として授業時間の後または木曜日12:30～13:00 21号館2階講師控室

### ■授業計画の項目・内容及び到達目標

#### 第1回 オリエンテーション／（授業運営および成績評価等について）、自己紹介

これから参加する授業の最終目標を確認する。授業では、ペアやグループワーク、発表などがおこなわれることなど、授業の運営方法について説明する。

自己紹介をクラス内で行う。

#### 第2回 Unit 1 A Paragraph as a Product：パラグラフは「段落」ではない

言語にはそれぞれ固有の論理展開がある。このUnitでは英語の論理展開の基本的パターンを学習する。

#### 第3回 Unit 2 Writing a Topic Sentence：主題文で要点を宣言

このUnitではtopic sentenceについてさらに深く学び、よいtopic sentenceを書く練習をする。

#### 第4回 Unit 3 Writing Supporting Sentences：支持文で強力にサポート

このUnitでは、Supporting Sentencesの書き方について、さらに詳しく学習する。

## 第5回 Unit 4 Writing a Concluding Sentence : 結論文で念押し

このUnitでは、効果的なConcluding Sentencesの書き方を練習する。

## 第6回 Unit 5 Explaining Your Character

このUnitでは、自分の性格を説明するパラグラフを書く。  
Main idea、導入、アウトラインを理解する。

## 第7回 Unit 6 Describing Your Daily Life

このUnitでは自分の一週間の生活サイクルに対する感想を述べるパラグラフを書く。  
形容詞の理解。Topic sentence、及び、読者をTopic sentenceへ導くためのIntroductory Sentencesを書く

## 第8回 Unit 1 から6のまとめ

パラグラフィティングプロセスのまとめ  
主語と動詞の対応、名詞の確認

## 第9回 Unit 7 Expressing an Opinion

このUnitでは、自分の意見を述べるパラグラフを書く。  
意見と理由を述べる。構成を明確にするつなぎ言葉を確認する。時制の確認。

## 第10回 Unit 8 Giving Advice and Instructions

このUnitでは、「x xの効果的な方法」、「〇〇のやり方」など、物事の方法や手順について読み手にアドバイスするパラグラフを書く。  
Topic Sentenceをサポートするポイントを箇条書きにする。さらに一つ一つのポイントを2つ以上の文で説明する。  
接続詞の理解。

## 第11回 Unit 9 Comparing and Instructions

このUnitでは、似ているが異なる二つのものを比較対照するパラグラフを書く。  
Topic Sentenceに読者を導くための個人的なエピソードを書く。  
比較しているそれぞれの特徴を書く。  
センテンスの始まりに変化をつける。  
従属接続詞、分詞構文の理解。

## 第12回 Unit 10 Explaining Japanese Culture

このUnitでは、日本の食べ物や習慣について説明する練習をする。  
15のばらばらのセンテンスをパラグラフに構成する。  
いくつかの情報をひとつの文で説明する。

## 第13回 Unit 11 Describing Data

このUnitでは、図や表から情報を読み取ってパラグラフを書く練習をする。  
図を読み、質問にfull sentenceで答える。答えた質問をひとつのパラグラフにまとめる。同じ表現を繰り返さないことや、  
パラレルな文法構造を理解する。

## 第14回 Unit 12 Summarizing What You Have Read

このUnitでは、読んだり聞いたりした内容を要約してパラグラフにまとめる練習をする。  
要約することを念頭に置きながら、key wordsを見つけ、長文を読み進む。  
要約文がオリジナルの論文のどの部分に対応しているか、オリジナルの表現をどのように変えているかに着目する。

## 第15回 総括

さまざまなタイプの誤りを含む文のエディティングを練習する。

## 定期試験

科目名：ライティングB			
英文名：Writing B			
担当者：藤岡 真由美			
単 位：1単位	開講年次：2～4年次	開講期：後期	必修選択の別：選択科目

### ■授業概要・方法等

前期で学習した英文パラグラフ構造、論理展開の仕方にもとづき、さらに高度なレベルのパラグラフを書くことができるようにする。原因と結果、比較・対照、意見文などの論理展開を理解し、求められる型に応じてまとまった内容の英文が書けるようにする。また、それぞれのトピックや論理展開に関連した文法、語彙、言い回しも習得できるようにし。パラグラフからエッセイへの移行も学ぶ。さらに、前期同様プロセスライティングを重視し、ピアレスポンス（お互いの英文についてコメントしあう）活動などを通じて、相手を説得するライティングの基本姿勢を身につける。また書いた内容を英語で発表できるプレゼンテーションの技術も身につける。

### ■学習・教育目標および到達目標

- 英文パラグラフ、エッセイ構造への理解を深める。
- 原因と結果、比較・対照、意見文などのパラグラフの型と論理展開を理解する。
- 与えられたトピックにもとづいて、それぞれのパラグラフまたはエッセイの型に応じたまとまった内容の英文が書け、相手を内容的に説得できる。
- それぞれのトピックに特徴的な語彙、文法、表現を習得し、英文の中で適切に使うことができる。
- プロセスライティングが実践できるようになる。
- 自分で書いた英文を自分で直すことができ、またグループメンバーの書いた英文を的確に批評できるようになる。
- 英語でのプレゼンテーションを通じて、自分の書いた内容を相手にわかりやすく伝えることができる。

### ■授業時間外に必要な学修

1週間単位で授業に向けての計画を立て、単語調べ、語彙習得、教科書のタスクへの準備などを行う。また各週での小テスト、ライティング課題提出、プレゼンテーションのための学習を各自が遂行する。

### ■教科書

Writing frontiers, Kumamoto et al. (著) 金星堂

### ■参考文献

必要に応じて指示をする。

### ■関連科目

ライティングA

### ■成績評価方法および基準

定期試験 40%

授業平常点（小テスト、課題提出、プレゼンテーション、グループワークなど）60%

### ■授業評価アンケート実施方法

薬学部実施規程に準拠して行います。

### ■研究室・E-mailアドレス

39号館4階404

mfujioka@kindai.ac.jp

### ■オフィスアワー

水曜日3限

### ■授業計画の項目・内容及び到達目標

#### 第1回 Chapter 10: Why have fast food shops become popular in Japan?

原因と結果を表すパラグラフ構造を理解する。原因と結果を表す文章に用いられる表現を習得する。

#### 第2回 Chapter 10: Why have fast food shops become popular in Japan?

原因と結果を表すトピックを選び、リサーチをして自分でパラグラフを書いてみる。

#### 第3回 Chapter 10: Why have fast food shops become popular in Japan?

グループメンバーでお互いのパラグラフをコメントしあう。コメントと自分で直しにもとづき、推敲する。



第4回 Chapter 11: Comparing Shogi and Chess

比較・対照のパラグラフ構造を理解する。比較・対照を表す表現を習得する。

第5回 Chapter 11: Comparing Shogi and Chess

比較・対照を表すトピックを選び、リサーチして自分でパラグラフを書いてみる。

第6回 Chapter 11: Comparing Shogi and Chess

グループメンバーでお互いのパラグラフをコメントしあう。コメントと自分での直しにもとづき、推敲する。

第7回 Chapter 12: Things can be the same; Things can be different

パラグラフからエッセイへの移行を理解する。エッセイの基本構造（序論、本論、結論）を理解する。

第8回 Chapter 13: Expressing your opinion

意見を表すエッセイの構造を理解する。意見・主張を述べるときに使われる表現を習得する。

第9回 Chapter 13: Expressing your opinion

意見を表すエッセイについてさらに理解を深める。

第10回 Chapter 13: Expressing your opinion

自分で選んだトピックについてリサーチをし、意見を述べるエッセイを書いてみる。

第11回 Chapter 13: Expressing your opinion

グループメンバーでお互いのパラグラフをコメントしあう。コメントと自分での直しにもとづき、推敲する。

第12回 How to make a presentation in English

英語でのプレゼンテーションの仕方を学ぶ。

第13回 Presentation

自分の書いた意見文の内容についてプレゼンテーションをする。

第14回 Chapter 14: International students at various universities

グラフの解釈に仕方について学ぶ。

第15回 復習

後期に学んだ重要語句、表現を復習する。

定期試験

後期学んだ内容（パラグラフ、エッセイの構造、論理展開）、重要語彙、表現について習得度合いを確認する試験をする。



科目名：ライティングB			
英文名：Writing B			
担当者： <sup>ヒラオ ヒデミ</sup> 平尾 秀実			
単 位：1単位	開講年次：2～4年次	開講期：後期	必修選択の別：選択科目

### ■授業概要・方法等

日本語と英語の違いという点から和文英訳をしてもらい、英文を書く練習をします。模範文の暗記・再生、練習問題でドリルを予定しています。

### ■学習・教育目標および到達目標

意図したことを英語らしい表現で正確に伝える基本的な英文が書けるようになることが目標です。

### ■授業時間外に必要な学修

毎回進んだ範囲は答えを見ないでも英語で書けるようになるまで復習すること。

### ■教科書

“How to Write English” 羽鳥博愛(朝日出版)1,068円＋税

### ■参考文献

英和・和英辞書は必ず持参

### ■関連科目

ライティングA

### ■成績評価方法および基準

定期試験 40%

小テスト 20%

口頭発表および課題 40%

### ■授業評価アンケート実施方法

薬学部実施規程に準拠して行います。

### ■研究室・E-mailアドレス

21号館2階講師控室

### ■オフィスアワー

月・水は1・2限目の間の休み時間

土は12：10～13：10

### ■授業計画の項目・内容及び到達目標

#### 第1回 英語では省略できるもの

日本語を英語にすると、一字一句訳さないで省いた方がよいことがある。

#### 第2回 英語では補足が必要

第1回目とは逆の場合で、日本語を英語にすると、補足した方がよい場合がある。

#### 第3回 英語のくせ

日本語では続けて言うが、英語では接続詞を使わないで別の文で表現したり、逆の順序で述べた方がよいものもある。

#### 第4回 Essay Writingの練習（1）

自分の好きなスポーツや映画

#### 第5回 英語は立体的

日本語では次々にうしろに続けて行くが、英語の構文は層をなして積み重なっている。

#### 第6回 副詞節のいろいろ

英語の立体的構造を作る一因となっているものに副詞節がある。

#### 第7回 補語の活用

過去分詞や-ing形が補語になる文はなかなか作りにくい。

#### 第8回 課題テストと解説

自宅学習用に渡してあるプリント問題で小テストします。

#### 第9回 Essay Writingの練習(2)

日本の紹介(政治・経済・地理など)

#### 第10回 代名詞的名詞

#### 第11回 英語のニュアンス

#### 第12回 Essay Writingの練習(3)

自由テーマ

#### 第13回 ビジネスレターの書き方(1)

ビジネスレターの構成

#### 第14回 ビジネスレターの書き方(2)

ビジネスEメールの基礎

#### 第15回 ビジネスレターの書き方(3)

ビジネスでのアポイント・ホテルの予約などのとり方など

定期試験

科目名：ライティングB			
英文名：Writing B			
担当者：濱崎 佳子 <small>ハマザキ ヨシコ</small>			
単 位：1単位	開講年次：2～4年次	開講期：後期	必修選択の別：選択科目

### ■授業概要・方法等

グローバル化が最も進んでいる理系の研究や職場環境では、日常生活で使われる簡単な英文から、レポートや論文まで様々な文書を作成できることが求められています。一つの文書は、いくつかのパラグラフによって論理的に組み立てられています。優れたエッセイや記事、医療系の企業のホームページから、英文がどのように組み立てられているか、英文構造や品詞の役割を確認し、応用していきましょう。授業を通して、小論文を書く練習をし、本格的な報告書や学術論文を完成させる土台を築いてください。

大まかな授業計画は下記に示していますが、授業の進行に応じて調整する場合があります。

この授業は、「ライティングA」と連携しています。

### ■学習・教育目標および到達目標

- ・パラグラフの構造が理解できる。
- ・読み手を念頭にした文章の作成法を理解する。
- ・文法の用法を理解し、用途に応じた英文の構造を理解しながら、エッセイのパラグラフを作成できるようになる。

### ■授業時間外に必要な学修

- ・テキスト、関連資料の予習・復習
- ・課題の作成

### ■教科書

1. Kate Elwood, Leonid Yoffe 『From Paragraph to Essay』、2012年、南雲堂.
2. プリント配布教材

### ■関連科目

ライティング A

### ■成績評価方法および基準

授業運営 60%

定期試験 40%

### ■授業評価アンケート実施方法

薬学部実施規程に準拠して行います。

### ■研究室・E-mailアドレス

21号館2階講師控室

### ■オフィスアワー

原則として授業時間の後または別途指示する時間帯

### ■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 オリエンテーション（授業運営および成績評価等について）、自己紹介

授業の運営の方法と最終目標について確認する。授業では、ペアやグループでの作業を説明する。自己紹介をする。

第2回 Unit 1 I am going to write one paragraph

パラグラフの構成の復習をする。

第3回 Unit 2 Trying to be polite

適切な文体を選択する練習をする。

第4回 Unit 3 What do you think?

意見を明確に述べることを学ぶ。根拠に基づいて意見を主張する練習をする。

第5回 Unit 4 This may work!

問題解決の方法を学ぶ。問題を明確にし、適切な解決法を提示する練習をする。

第6回 Unit 5 How could it happen?

因果関係を示すパラグラフを分析し、まとめていく練習をする。

第7回 Unit 6 What is an essay?

小論文の構成（序論、本論、結論）とアウトラインの作成法を学ぶ。

第8回 Unit7 Who am I?

アウトラインの作成をしてから、小論文を書く練習をする。

第9回 Unit 8 Let me tell you about a beautiful place (1)!

叙述（描写）文の特徴を分析する。

第10回 Unit 9 Let me tell you about a beautiful place (2)!

叙述文（描写）を書く練習をする。

第11回 Unit 10 That's a good point!(1)

説得文の特徴を分析する。

第12回 Unit 11 That's a good point! (2)

説得文を書く練習をする。

第13回 Unit 12 How are they different? (1) (2)

比較をする文の特徴を分析する。比較をする文を書く練習をする。

第14回 Unit 14 Let's sort it out! (1)

分類をする文の特徴を分析する。

第15回 Unit 15 Let's sort it out! (2)

分類をする文を書く練習をする。

定期試験

科目名： <b>イングリッシュカルチャーセミナー A</b>			
英文名： English Culture Seminar A			
担当者： <small>コバヤシ マヤ</small> 小林 摩耶			
単 位： 1単位	開講年次： 3～4年次	開講期： 前期	必修選択の別： 選択科目

### ■授業概要・方法等

異文化間コミュニケーション(Intercultural Communication)について学習する。異文化間コミュニケーションにおける非言語(nonverbal)と言語(verbal)における誤解を学んでいく。アクティビティーやディスカッションを行うことで自身の考えを持ち、さらなる理解を深める。

### ■学習・教育目標および到達目標

英語で書かれた文献の概要、要点を理解する。異文化間コミュニケーションについて自分の意見を持つ。英語の語彙力を増やす。

### ■授業時間外に必要な学修

英語で書かれた文献の要点を理解した上での授業参加となるため、予習は必須となる。また毎時間授業始めに小テストを行う。

### ■教科書

「What Do You Mean?」 八代京子, Cecilia Ikeguchi, Robin Sakamoto著, 金星堂

### ■成績評価方法および基準

定期テスト 40%

小テスト 20%

口頭発表および課題 40%

### ■授業評価アンケート実施方法

薬学部実施規程に準拠して行います。

### ■研究室・E-mailアドレス

21号館2階講師控室

### ■オフィスアワー

授業終了後、アポイントを取ってください。

### ■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 インTRODクシヨン、Unit1

第2回 Unit2

第3回 Unit3

第4回 Unit4

第5回 Unit5

第6回 Unit6

第7回 Unit7

第8回 Unit8

第9回 Unit9



第10回 Unit10

第11回 Unit11

第12回 Unit12

第13回 Unit13

第14回 Unit14

第15回 Unit15

定期試験

科目名： <b>イングリッシュカルチャーセミナー B</b>			
英文名： English Culture Seminar B			
担当者： <small>コバヤシ マヤ</small> 小林 摩耶			
単 位： 1単位	開講年次： 3～4年次	開講期： 後期	必修選択の別： 選択科目

### ■授業概要・方法等

異文化間コミュニケーション (Intercultural Communication) について学習する。異文化の人と接して不可解な言動に出会った時、自分の文化の枠組みで相手の言動を解釈するのでは異文化理解にはつながりません。アメリカ人と日本人の発想の違いから生じる誤解について、様々な身近な場面の事例から異文化理解を深めていく。

### ■学習・教育目標および到達目標

英語で書かれた文献の概要、要点を理解する。異文化間コミュニケーションについて、自分の意見を持つ。英語の語彙力を増やす。

### ■授業時間外に必要な学修

英語で書かれた文献の要点を理解した上での授業参加となるため、予習は必須となる。また、毎時間授業の始めに小テストを行う。

### ■教科書

『Polite Fictions in Collision』 Nancy Sakamoto, Shiyo Sakamoto著、金星堂

### ■成績評価方法および基準

定期テスト 40%

小テスト 20%

口頭発表および課題 40%

### ■授業評価アンケート実施方法

薬学部実施規程に準拠して行います。

### ■研究室・E-mailアドレス

21号館2階講師控室

### ■オフィスアワー

授業終了後、アポイントを取ってください。

### ■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 イン트로ダクション

第2回 Unit 1 (1)

第3回 Unit 1 (2)

第4回 Unit 2 (1)

第5回 Unit 2 (2)

第6回 Unit 3 (1)

第7回 Unit 3 (2)

第8回 Unit 4 (1)

第9回 Unit 4 (2)

第10回 Unit5 (1)

第11回 Unit5 (2)

第12回 Unit6 (1)

第13回 Unit6 (2)

第14回 Unit7 (1)

第15回 Unit7 (2)

定期試験

科目名： <b>イングリッシュスペシャルスタディーズA</b>			
英文名： English Special Studies A			
担当者： <small>エ</small> <small>ス</small> <small>タ</small> <small>ー</small> <small>メ</small> <small>リ</small> <small>ー</small> <small>レ</small> <small>イ</small> <small>ク</small> <small>ス</small> エスター メリー レイクス			
単 位： 1単位	開講年次： 3～4年次	開講期： 前期	必修選択の別： 選択科目

### ■授業概要・方法等

社会や異文化の話題に関する話を聞いたり、読んだりして、ディスカッションやディベートに参加して、日本と他国の文化的な違いに潜む要因や、異文化理解をさまたげるさまざまな要因について学ぶ。

### ■学習・教育目標および到達目標

口頭発表能力とプレゼンテーション能力を身につける。

### ■授業時間外に必要な学修

授業で習ったことを身近なものへ適用や応用し、その理解を深めること。そして、各授業で指示された課題に取り組むこと。

履修条件：英語演習1・2+オーラルイングリッシュ1・2を取得済みで、オーラルイングリッシュ3・4も取得済みであること。

### ■教科書

クラスにより使用テキストが異なります。  
最初の授業で指示する。

### ■参考文献

最初の授業で指示する。

### ■関連科目

オーラルイングリッシュ1. 2. 3. 4  
英語演習1. 2. 3. 4

### ■成績評価方法および基準

口頭発表 50%  
小テスト 25%  
宿題／レポート 25%

### ■授業評価アンケート実施方法

学部実施規程に準拠して行います。

### ■研究室・E-mailアドレス

最初の授業で指示する。

### ■オフィスアワー

最初の授業で指示する。

### ■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 授業の目標や説明、挨拶、自己紹介

第2回 言語、文化、社会/Language, Culture & Society: Values, cultural relativity, body language, gestures, religion, folk beliefs (i.e., superstition), taboos, stereotypes, prejudice & discrimination, , Japanese customs, etc.

第3回 言語、文化、社会/Language, Culture & Society (続き)

第4回 言語、文化、社会/Language, Culture & Society (続き)

第5回 仕事、生活、レジャー /Work, Lifestyles, and Leisure; Career choice, 'freeters', work issues, women's issues, investments & retirement, sexual harassment, gender issues, fashion, social issues, diet

第6回 仕事、生活、レジャー /Work, Lifestyles, and Leisure (続き)

第7回 仕事、生活、レジャー /Work, Lifestyles, and Leisure (続き)

第8回 プレゼンテーション

第9回 人間関係、結婚、家族/Relationships, Marriage and Family: Friendship, love, dating, marriage, single parents, child rearing,domestic violence & abuse, divorce, etc.

第10回 人間関係、結婚、家族/Relationships, Marriage and Family (続き)

第11回 人間関係、結婚、家族/Relationships, Marriage and Family (続き)

第12回 教育/Education: Education in Japan & abroad, English education, 'juku' & 'yobiko' school violence, bullying,university life, etc.

第13回 教育/Education (続き)

第14回 教育/Education (続き)

第15回 General course review



科目名： <b>イングリッシュスペシャルスタディーズB</b>			
英文名： English Special Studies B			
担当者： <b>エスター メリー レイクス</b>			
単 位： 1単位	開講年次： 3～4年次	開講期： 後期	必修選択の別： 選択科目

### ■授業概要・方法等

異文化や専門分野に関する記事も読んだり、聞いたりして、その内容についての質問に即答出来るようにする。更にその話題についてディスカッション、ディベートやプレゼンテーションを行う。

### ■学習・教育目標および到達目標

異文化や専門分野に関する記事も読んだり、聞いたりして、その内容についてディスカッションやディベートやプレゼンテーション能力を身につける。

### ■授業時間外に必要な学修

授業で習ったことを身近なものへ適用や応用し、その理解を深めること。そして、各授業で指示された課題に取り組むこと。

### ■教科書

クラスにより使用テキストが異なります。  
最初の授業で指示する。

### ■参考文献

最初の授業で指示する。

### ■関連科目

オーラルイングリッシュ1. 2. 3. 4  
英語演習1. 2. 3. 4  
イングリッシュスペシャルスタディーズ1

### ■成績評価方法および基準

口頭発表 50%  
小テスト 25%  
宿題／レポート 25%

### ■授業評価アンケート実施方法

大学実施規定に準拠して行います。

### ■研究室・E-mailアドレス

最初の授業で指示する。

### ■オフィスアワー

最初の授業で指示する。

### ■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 夏休みについての話

第2回 メディア、エンターテインメント/Media & Entertainment: TV, movies & music, the Internet, news topics, etc.

第3回 メディア、エンターテインメント/Media & Entertainment (続き)

第4回 メディア、エンターテインメント/Media & Entertainment (続き)

第5回 健康、科学、テクノロジー /Health, Science & Technology: Diet, health issues, death & euthanasia, the digital revolution, IT, etc

第6回 健康、科学、テクノロジー /Health, Science & Technology (続き)

第7回 健康、科学、テクノロジー /Health, Science & Technology (続き)

第8回 プレゼンテーション

第9回 環境や人道的な問題/Environmental & Humanitarian Issues; Global warming, natural disasters, population issues, biodiversity, terrorism, war & militarism, etc.

第10回 環境や人道的な問題/Environmental & Humanitarian Issues (続き)

第11回 環境や人道的な問題/Environmental & Humanitarian Issues (続き)

第12回 法律、道徳、倫理/Law, Ethics & Morals: Crime, doping in sports, cheating, gun control, the death penalty, abortion, etc.

第13回 法律、道徳、倫理/Law, Ethics & Morals (続き)

第14回 法律、道徳、倫理/Law, Ethics & Morals (続き)

第15回 General course review

科目名：アドバンストオーラルイングリッシュ			
英文名：Advanced Oral English			
担当者：ロバートガリテイ			
単 位：2単位	開講年次：3～4年次	開講期：後期	必修選択の別：選択科目

### ■授業概要・方法等

This course is designed for students with high-level English skills (TOEIC 550 or above). In the first half of this course, students will learn various discussion, debate and negotiation skills (i.e., asking for opinions, expressing opinions, agreeing, disagreeing, asking for clarification, supporting opinions, using anecdotes, asking follow-up questions and other discussion strategies). These skills will be practiced weekly using a variety of topics. Throughout the course, students will develop presentation skills (i.e., managing "stage fright", posture, eye contact, voice intonation, and the use of gestures, voice, note cards and visual aids).

### ■学習・教育目標および到達目標

- ビジネスシーンにおける交渉、議論、更にプレゼンテーションの効果的な進め方を身につける。
- 説得力のある話し方、身振り、自然な発音やイントネーションを身につける。

### ■授業時間外に必要な学修

授業で習ったことを身近なものへ適用や応用し、その理解を深めること。そして、各授業で指示された課題に取り組むこと。

### ■教科書

"Topic Talk Second Edition", David Martin, EFL Press

※この科目の教科書は事前に購入せず、第1回目の授業で教員の指示を聞いてから購入してください。

### ■参考文献

最初の授業で指示する。

### ■関連科目

オーラルイングリッシュ 1・2・3・4

### ■成績評価方法および基準

Classwork & Presentations 40%

Performance Evaluations 30%

Final Exam 30%

### ■授業評価アンケート実施方法

学部実施規程に準拠して行います。

### ■研究室・E-mailアドレス

最初の授業で指示する。

### ■オフィスアワー

最初の授業で指示する。

### ■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 Class Explanation, Greetings and Self Introductions

第2回 Topic 1: Family

第3回 Student selection topic 1

第4回 Student selection topic 2

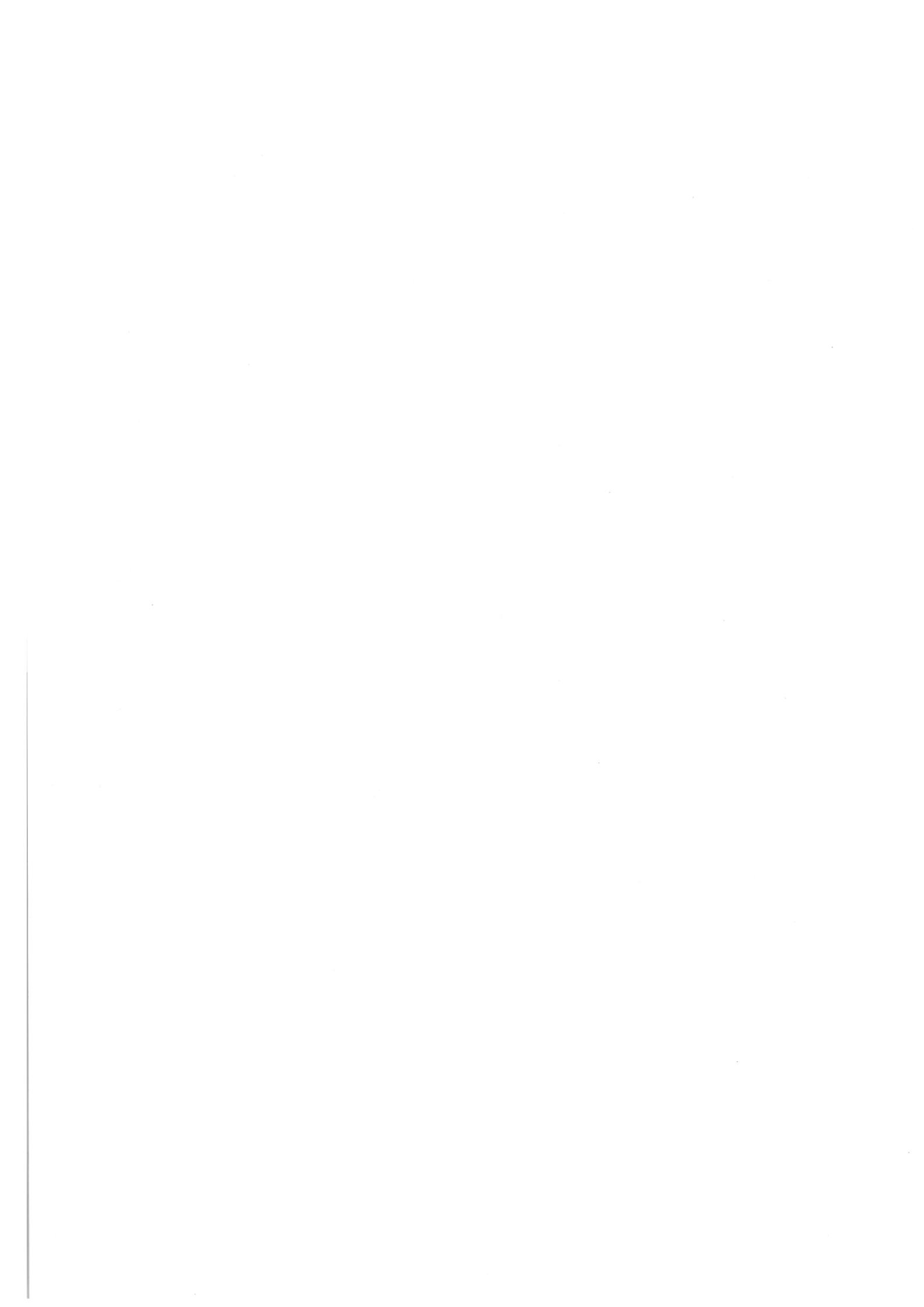
第5回 Student selection topic 3

第6回 Student selection topic 4

- 第7回 Graded group discussion
- 第8回 Student selection topic 5
- 第9回 Student selection topic 6
- 第10回 Student selection topic 7
- 第11回 Student selection topic 8
- 第12回 Student selection topic 9
- 第13回 Graded group discussion
- 第14回 Review and Consolidation
- 第15回 Mid-Term Exam
- 第16回 Presentation Skills
- 第17回 Student selection topic 10
- 第18回 Student selection topic 11
- 第19回 Student selection topic 12
- 第20回 Student selection topic 13
- 第21回 Student selection topic 14
- 第22回 Graded group discussion
- 第23回 Student Presentation 1
- 第24回 Student selection topic 15
- 第25回 Student selection topic 16
- 第26回 Student selection topic 17
- 第27回 Student selection topic 18
- 第28回 Graded group discussion
- 第29回 Student Presentation 2







---

# 外国語科目

---

## 第二外国語



## 第二外国語教育の共通基本目標

From

中学・高校を通じて英語を勉強したが、英語以外の外国語も今から身につけておきたい。



To

- ① 外国人と臆することなくコミュニケーションができる。
- ② 国際感覚と広い視野が身につく。



“From ⇄ To”を実現する手段としての「近畿大学の第二外国語教育」

— 今しかない、ゼロから始める楽しい第二外国語 —

### 共通基本目標

1. 独仏中韓を基軸とした英語以外の言語も学習し、これらの外国語の学習を通して多元的な世界の見方ができる力を培う。
2. 一人一人のレベルに応じて到達目標を設定し、その達成度を確認しつつ段階的に外国語の運用能力を向上させる。
3. 多様化する国際社会において相互に尊重し信頼し合う上で必要な知識を習得し、異文化への理解を深め、国際的な感覚を高める。

### 具体的方策

上記の目標を達成するために以下の具体的方策を実施する。

1. 希望する第二外国語を選択し履修できるクラス編成。新しく学ぶ外国語の基本要素が確実に身につく基幹科目。知識を実用レベルにまで高める発展科目。
2. 自己評価により現在のレベルを確認し、次の目標を設定して自律的に学習できるシステム。教員によるきめ細かい学習支援。
3. 「ことばと文化」「国際化と異文化理解」などの教養講座と語学教育との連携。ことばを通して文化に接し、文化を学ぶことによって国際的視野と深い教養が身につく授業。
4. 授業外活動による学生の学習意欲の向上。語学センター講座（検定対策講座を含む）、スピーチコンテストなど学内における交流。留学及び海外研修の支援。
5. 学生一人一人の意欲とニーズに応える学習指導体制。教員による学生個人を対象とする学習相談。
6. 学部専門教育との連携・橋渡し。各学部の特色を最大限に生かした第二外国語教育。専門教育と多様な外国語をリンクさせる発展科目の整備・充実。

## 第二外国語について

なぜ大学で第二外国語を学ぶのでしょうか？

あなたは、第二外国語を学びたいと思いますか？ 本学では、多くの学部において第二外国語は必修科目ではなく、選択科目のひとつです。しかし、実際はほとんどの学生が第二外国語を履修しています。みなさんの先輩にその動機を尋ねると、「英語以外の外国語を話せるようになりたい」、「英語の単位だけでは足りないから」といった答えが返ってきます。

どうして大学で第二外国語を学ぶのでしょうか？ 地球規模でのネットワーク化が進行している今日にあって、国際社会におけるコミュニケーション言語として、英語が重要なことは言うまでもありません。しかし一方で、世界は、新たな多文化・多言語社会へと向かっています。中国や韓国をはじめとするアジアの国々との交流だけでなく、EU諸国との関係も日本にとって重要です。現代の日本を作り上げてきた歴史や文化は、英語圏以外の多様な国々からの影響も受けているのです。第二外国語を学ぶことは、自分の知見や価値観を広げ、またそのことばを母語とする人々について、深く学ぶ機会であり、国際社会において不可欠な教養を得る機会と言えるでしょう。

しかし、一部の学部を除いて、一年次に履修可能な第二外国語の授業は週一回の90分しかありません。ただ受動的に授業を聴いているだけでは、流暢に話せるようにはなりません。それでは意味がないと思う人もいるでしょう。しかし、実際に、第二外国語の授業を楽しみにしている人たちがたくさんいるのです。それはなぜか、答えは単純です。第二外国語を学ぶことには「新しいことを知る喜び」があるからです。

そもそも、大学での外国語学習は、流暢に話せるようになることだけを目的としてはいません。話すことはあくまで手段の一つなのです。大学では、そのことばを形成してきた文化的背景や、ことばの構造から日本とは異なる文化を知ることが目的としています。そこに「知る喜び」を感じて、そのことばを積極的に学べば学ぶほど、語学もまた自然と上達していきます。事実、毎年、語学検定試験の高難度の級に合格し、語学力と多様な価値観を身につけて、世界に羽ばたいてゆく先輩も少なくありません。

日本にも外国の方がたくさんいます。かれらが一生懸命日本語で話しかけてくれると、自分たちの文化を認めてもらえたような気がして、うれしくはありませんか？ 多様なことばを知ることが、多様な文化を認め、そこに住む人々と文化的に近づくことでもあるのです。それは旅行や留学、将来の海外赴任にも活かされることでしょう。たとえ流暢でなくとも、さまざまなことばを話そうとする人は多くの友人や思い出を得られるものです。

本学では、多様化する国際社会の要請に応じて、諸外国の言語を学び、その文化に固有の伝統や考え方を理解することを第二外国語教育の最重要目標としています。世界を見渡す視点を日本や英語圏からずらしてみるとまた違った世界が見えてきます。視点は多ければ多いほど、世界は広がりをもつはずで、ことばを学ぶことによって開かれる世界は、無限なのです。

いまこそ、第二外国語を学んでみませんか？



## ドイツ語について

「ドイツ語」と聞くと、何だか堅苦しくて難しそう、というイメージを抱く人が多いかもしれません。本当にそうでしょうか。ドイツ語は英語と同じ西ゲルマン語という仲間に属し、英語とかなり近い関係にあるので、単語や文法体系に共通点が多く、しかも発音は英語よりずっと簡単です。語順などもむしろ日本語に似ているところがあり、私たち日本人にとっては特に学びやすい外国語だと言えます。

ではドイツ語はどこで、どのくらい多くの人々が話しているのでしょうか。ドイツ語圏にはドイツ（人口約 8200 万人）を始め、オーストリア（約 800 万人）、スイス（ドイツ語人口は約 500 万人）、そしてリヒテンシュタイン（約 3 万人）が含まれます。この他ルクセンブルクでもドイツ語が公用語のひとつとなっており、またドイツと国境を接する地域や東欧でもドイツ語を話す人たちがおり、世界のドイツ語話者人口はほぼ 1 億人、EU（ヨーロッパ連合）の中でドイツ語は最も多く話されている言葉となっています。

さて皆さんは、ドイツ語やドイツ語圏について、何を知っているのでしょうか。最近ではゲームを通じてドイツ語やドイツ文化（ゲルマン神話を含む）にふれる機会が増えているようですが、子供の時にグリム童話を読んだという人、モーツァルトやベートーヴェン、あるいはクラフトワークに代表されるテクノ・ミュージシャンの音楽が好きだという人も少なくないでしょう。オーストリアの首都ウィーンで花開いた世紀末の文化は今もなお私たちに惹きつけて離しません。また、環境先進国・福祉先進国として有名なドイツから、日本が多くのことを学んでいることはよく知られています。ドイツと言えばやはりベンツやBMWに代表されるクルマがあり、一度はアウトバーンを走ってみたいと思っている人、サッカーのブンデスリーガに興味を持っている人もいるでしょう。最近ではドイツ語圏の映画が日本公開される機会も増えました。そうした関心や興味を手がかりにして、ドイツ語の勉強を始めてみましょう。現在はインターネットを使ってドイツ語圏の情報が瞬時に手に入り、英語圏のソースとは異なったものの見方、考え方に触れることもできます。また、ドイツ語圏での旅行や語学研修も簡単に行える時代です。たとえ片言でもドイツ語を使って買い物や現地の人との会話ができれば、旅の楽しみが増し、印象も全然違ったものになるでしょう。ドイツ語を学ぶことを通して、自分の世界を広げていきましょう。

### <辞書と参考書>

語学を学ぶには辞書が必要です。初級の段階では、なるべく紙の辞書を使うようにしましょう。用例が見やすく、書き込みも容易だからです。参考書は必需品ではありませんが、必要に応じて自主学習に役立てましょう。どちらも先生の説明を聞いて自分に合ったものを選び、早く使い慣れてください。

おすすめ辞書 『クラウン独和辞典』（三省堂） 『新アクセス独和辞典』（三修社）  
『新アポロン独和辞典』（同学社） 『エクセル独和辞典』（郁文堂） 他  
おすすめ参考書 『ドイツ語のしくみ（CDつき）』（白水社） 他

## フランス語について

フランスというと、皆さんは何を思い浮かべますか？ フランス料理やワインなど、グルメの国。スイーツ大国。最近ではミシュランガイドの名前がテレビで聞かれることも多くなりました。また世界のファッションをリードする国でもあります。スポーツでも、サッカーや柔道やフィギュアスケートなどさまざまな種目で、フランス語圏の選手たちがめざましい活躍をしていますね。それにロワールの古城やモン・サン・ミシェルに代表される数多くの世界遺産を有する国でもあります。でもそれだけではなく、フランスはヨーロッパで一番のマンガ大国という意外な一面も持っているのです！ そんな多様で豊かな文化への入口として「フランス語」を勉強してみませんか？

フランス語は英語と同じアルファベットを使い、英語と共通する単語も多いので、とても簡単に学ぶことができます。しかも国連やオリンピックでも英語と並んで使われる「第二の国際語」です。それにフランス語はフランス本国だけでなく、ヨーロッパのベルギーやスイス、アフリカ諸国、カナダのケベック州やアメリカの一部、中南米諸国やアジア、オセアニア、中東など、世界中で広く使われています。世界でフランス語を話す人は、何とフランスの人口の4倍もいるのです！ 世界で2億6千万人が話している言語、それがフランス語です。

グローバル化がしきりに言われる現代にあって、国際言語としてのフランス語の重要性はいつそう高まっています。フランス語を知ることによって、日本やアメリカとは違った視点から世界を眺めることができるようになるでしょう。英語だけではなく、さらにフランス語の知識を身につけることは、皆さんにとっても貴重な知的財産の一つとなるはずです。また検定試験に挑戦したい、留学したい、フランス語圏の国々に旅行に行きたいという人も積極的にサポートします。フランス語は明晰さと論理性に富む言語であると言われてますが、フランス語の学習が論理的な思考力の育成と、新しい視点からの異文化理解に役立つことを願っています。さあ、一緒に楽しくフランス語を学びましょう！

### 〈辞書と参考書〉

辞書 外国語を勉強する上で一番基本となる参考書は、何と言っても辞書に他なりません。最初からいきなり語彙数の多い大型辞書を買うよりも、次に挙げるような「学習仏和辞典」で勉強を始めるのがいいでしょう。

「ディコ仏和辞典」(白水社) 「プチ・ロワイヤル仏和辞典」(旺文社)

「クラウン仏和辞典」(三省堂) など

参考書 講義の中でも文法は分かりやすく詳しく説明しますが、自分で分からないところを確認し、知識をさらに深めるのには、次のような文法参考書をおすすめします。

「新・リュミエール フランス文法参考書」(駿河台出版社)

「大学で始めるフランス語」(駿河台出版社) など

## 中国語について

13億の人口と、日本の25倍の国土を抱える、中国。改革開放以来、急速な経済発展を遂げてきました。今や日本にとって最大の貿易相手国であり、生産地としても市場としても、日本経済の重要な鍵を握っています。また、日中の距離は、飛行機でわずか2時間程度。人々の交流も活発で、ビジネスや観光での往来はあっという間に増すでしょう。

中国と日本、お互いの理解を深めるために私たちができることは何でしょうか？ その答えの一つは、「中国語」を学ぶことです。広大な中国には、お互いの意思疎通が不可能なほど多様な方言が存在しますが、私たちが学ぶ中国語は、「漢語」または「普通話」と呼ばれ、中国全土だけでなく、台湾や香港、シンガポール、世界中にあるチャイナタウンでも使える、中華圏の共通語です。また、日本は中国と同じく、漢字文化圏に属します。中国では「簡体字」という簡略化された漢字、台湾や香港では「繁体字」という旧来の漢字を用いていますが、いずれにせよ漢字。日本人は中国語を学ぶのに極めて有利です。漢字に助けられつつ、中国語を学べば、広い中華圏への扉が開くのです。

百聞は一見にしかず、在学中にぜひ一度、中国や台湾へ、旅行や留学をしてみたいかごでしょうか。現在本学では、春季休暇に台湾への3週間の語学研修を提供しています。異なる文化や価値観に触れることで、大いに刺激を受けることでしょう。

また、実用的な中国語を資格として身に付け、就職活動に備えるのもいいでしょう。本学のカリキュラムは、「中国語検定試験」にも対応して構成されています。また、11月ホール2階の語学センターでは、検定対策など、無料で豊富な講座を提供しています。

中国語を学ぶことで、より豊かな知識と感覚を備えた国際人になってほしいと願っています。

### <辞書と参考書>

辞書 旅行や留学へ持参し、コミュニケーションツールとして活用することを考えると、最初は携帯用で、日中と併せて一冊のものを購入するのがいいでしょう。

『デイリーコンサイス中日・日中辞典』（三省堂）

『ポケットプログレッシブ中日・日中辞典』（小学館）

『中日辞典 第二版』（小学館） 『中日辞典 第三版』（講談社）

『東方中国語辞典』（東方書店） 『中国語辞典』（白水社）

参考書 授業と並行して、気軽な入門書を読んでみてはいかがでしょうか。

『はじめての中国語』（講談社現代新書） 『中国語はじめの一步』（ちくま新書）

『中国語文法・完成マニュアル』（白帝社） 『よくわかる中国語文法』（白帝社）

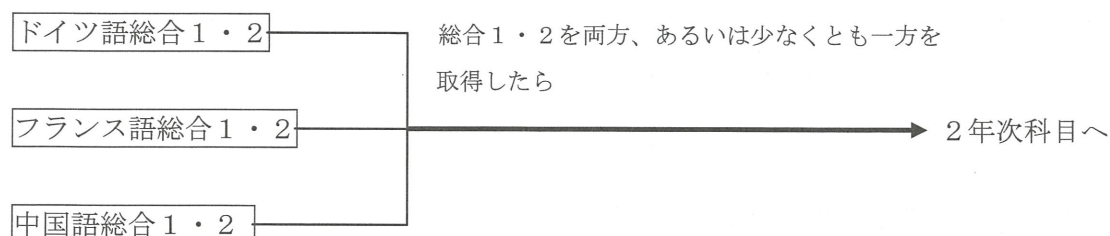
## 第二外国語科目一覧

科目名	配当学年	単位	学期	備考	
ドイツ語総合1	1	1	前	日本人または ネイティブ教 員担当科目	基幹科目
ドイツ語総合2	1	1	後		
フランス語総合1	1	1	前		
フランス語総合2	1	1	後		
中国語総合1	1	1	前		
中国語総合2	1	1	後		
ドイツ語総合3	2	1	前		
ドイツ語総合4	2	1	後		
フランス語総合3	2	1	前	日本人または ネイティブ教 員担当科目	基幹科目
フランス語総合4	2	1	後		
中国語総合3	2	1	前		
中国語総合4	2	1	後		
ドイツ語コミュニケーション1	2-4	1	前	ネイティブま たは日本人教 員担当科目	発展科目
ドイツ語コミュニケーション2	2-4	1	後		
フランス語コミュニケーション1	2-4	1	前		
フランス語コミュニケーション2	2-4	1	後		
中国語コミュニケーション1	2-4	1	前		
中国語コミュニケーション2	2-4	1	後		



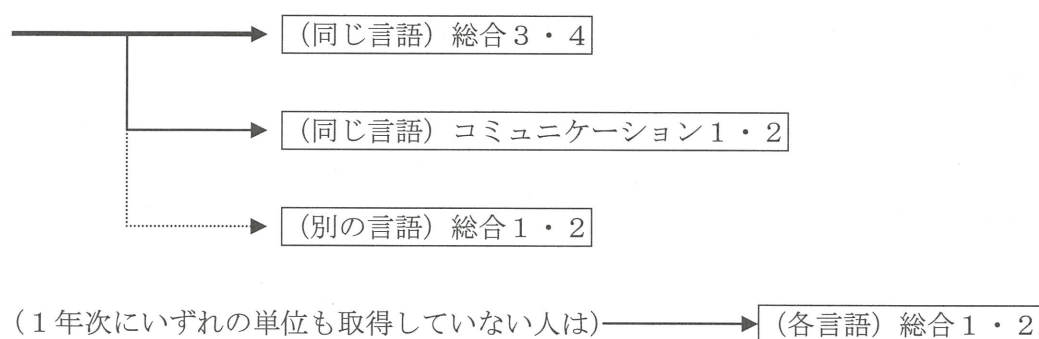
## 第二外国語履修フローチャート

### 1年次



- ・「総合1」は前期科目、「総合2」は後期科目。同一言語を1・2継続して履修登録すること。

### 2年次



- ・1と3は前期科目、2と4は後期科目。1・2および3・4は継続して履修登録すること。
- ・「総合1・2」と「総合3・4」は基幹科目。「コミュニケーション1・2」は発展科目。
- ・「総合3・4」と「コミュニケーション1・2」は並行して履修することができる。これらの科目は必ず1年次と同じ言語で履修すること。



## 第二外国語科目<科目名・概要>

### <ドイツ語・フランス語・中国語 総合1・2>

(一年選択科目、1は前期、2は後期)(基幹科目)(同一言語を1・2継続して履修する)

新しい外国語に慣れ親しみ、初歩的なコミュニケーションが図れるようにする。文字、発音、基本語彙と表現、文構造など、聞き、話し、読み、書くというバランスの取れた言語運用に不可欠な基礎的知識を習得する。週1回の授業。

### <ドイツ語・フランス語・中国語 総合3・4>

(二年選択科目、3は前期、4は後期)(基幹科目)(総合1あるいは2いずれか1科目修得を先修条件とする)

総合1・2で学んだ知識をもとに、その言語のさらにスムーズな運用ができるようにする。比較的長い表現を聞き取って、自分でも言えるように練習する。また平易な文章を読みこなし、手紙や簡単な文章を書ける能力も養う。週1回の授業。

### <ドイツ語・フランス語・中国語 コミュニケーション1・2>

(二年選択科目、1は前期、2は後期)(発展科目)(総合1あるいは2いずれか1科目修得を先修条件とする)

「話す」と「聞く」という二つの側面に重点を置く。外国旅行で必ず出会う場面や日常生活によくある場面などを用いて、必要な情報を聞き取り、自分を表現する方法を練習する。週1回の授業。

## 第二外国語履修のガイドライン

\*履修希望者は、下記の履修条件を満たしている者に限る。

科目名		履修条件
ドイツ語 フランス語 中国語	総合1・2	同一言語を1・2継続して履修登録すること
	総合3・4	同一言語を3・4継続して履修登録すること 前年までに同一言語の総合1・2のうち、少なくとも一方の単位を取得していることを条件とする
	コミュニケーション1・2	同一言語を1・2継続して履修登録すること 前年までに同一言語の総合1・2のうち、少なくとも一方の単位を取得していることを条件とする

科目名： <b>ドイツ語総合1</b>			
英文名： Basic German 1			
担当者： <small>ヨシダ ユミコ ミヤケ ヒロコ サカイ テツオ オオマエ トモミ ヒラオカ ユミコ</small> 吉田 由美子・三宅 博子・酒井 哲男・大前 智美・平岡 由美子			
単 位： 1単位	開講年次： 1年次	開講期： 前期	必修選択の別： 選択科目

### ■授業概要・方法等

日常のさまざまな場面で使われる会話体のテキストに従って、文法事項の説明、語彙や表現の聴き取り、口頭練習などを段階的、反復的に行ない、ドイツ語の基本的な仕組みを学びます。またテキストの内容に関連して、ドイツ語圏の事情についても紹介します。

### ■学習・教育目標および到達目標

情報システムコース学習・教育目標B1に主体的に関与  
 受講者は、「読む」「書く」「聴く」「話す」能力を総合的に養い、実際に使えるドイツ語を目指し、ドイツ語検定5級に相当する語彙と表現を習得し、初歩的なドイツ語を理解する力をつけます。

### ■授業時間外に必要な学修

初めて学ぶ言語なので、予習よりも復習に重点を置き、課題としての練習問題を自ら解くことによって、理解を確かなものにするのが大切です。わからない単語は前もって調べ、辞書を引く習慣をつけましょう。

### ■教科書

『ドイツ・サラダ (DVD付き)』  
 Deutschland-Salat mit DVD  
 保阪良子  
 朝日出版社 2500円 (+税)

### ■参考文献

独和辞典  
 「ドイツ語について」の項を参照

### ■関連科目

ドイツ語総合2・3・4  
 ドイツ語コミュニケーション1・2・3・4  
 ドイツ語カルチャーセミナー A・B

### ■成績評価方法および基準

定期試験 50%  
 小テスト 20%  
 口頭発表及び課題 30%

### ■授業評価アンケート実施方法

学部実施規程に準拠して行います。

### ■授業計画の項目・内容及び到達目標

#### 第1回 Lektion 1. Markt (動詞の現在人称変化)

動詞の仕組み、ドイツ語の人称代名詞、人称語尾の種類は4つだけ

#### 第2回 Lektion 1. Markt (動詞の現在人称変化)

動詞の仕組み、ドイツ語の人称代名詞、人称語尾の種類は4つだけ

#### 第3回 Lektion 2. Bier und Wein (seinとhabenの現在人称変化)

動詞sein、動詞haben、möchteの使い方

#### 第4回 Lektion 2. Bier und Wein (seinとhabenの現在人称変化)

動詞sein、動詞haben、möchteの使い方

#### 第5回 Lektion 3. Drinnen und Draußen (wissenの現在人称変化)

動詞wissen、möchte、wie + 形容詞で作る疑問詞

第6回 Lektion 3. Drinnen und Draußen (wissenの現在人称変化)

動詞wissen、möchte、wie + 形容詞で作る疑問詞

第7回 まとめと復習／小テスト

まとめと復習／小テスト

第8回 Lektion 4. Sehenswürdigkeiten (fahrenの現在人称変化)

主語がduと3人称単数のときに母音が変わる動詞、命令文の作り方

第9回 Lektion 4. Sehenswürdigkeiten (fahrenの現在人称変化)

主語がduと3人称単数のときに母音が変わる動詞、命令文の作り方

第10回 Lektion 5. In der Stadt (動詞の語幹の中の母音がe→i/ieに変わる動詞)

sprechen、gebenとnehmenの現在人称変化、上のパターンの動詞の命令形 (duに対して)

第11回 Lektion 5. In der Stadt (動詞の語幹の中の母音がe→i/ieに変わる動詞)

sprechen、gebenとnehmenの現在人称変化、上のパターンの動詞の命令形 (duに対して)

第12回 Lektion 6. Alte Städte (助動詞könnenの現在人称変化)

主語がichのときと3人称単数のときは同じ形、助動詞の使い方、よく使う助動詞：müssenとdürfen

第13回 Lektion 6. Alte Städte (助動詞könnenの現在人称変化)

主語がichのときと3人称単数のときは同じ形、助動詞の使い方、よく使う助動詞：müssenとdürfen

第14回 まとめと復習・補足

まとめと復習・補足

第15回 総復習

総復習

定期試験

科目名：ドイツ語総合2			
英文名：Basic German 2			
担当者：吉田 由美子・三宅 博子・酒井 哲男・大前 智美・平岡 由美子			
単 位：1単位	開講年次：1年次	開講期：後期	必修選択の別：選択科目

### ■授業概要・方法等

日常のさまざまな場面で使われる会話体のテキストに従って、文法事項の説明、語彙や表現の聴き取り、口頭練習などを段階的、反復的に行ない、ドイツ語の基本的な仕組みを学びます。またテキストの内容に関連して、ドイツ語圏の事情についても紹介します。

### ■学習・教育目標および到達目標

情報システムコース学習・教育目標B1に主体的に関与  
 受講者は、「読む」「書く」「聴く」「話す」能力を総合的に養い、実際に使えるドイツ語を目指し、ドイツ語検定4級に相当する語彙と表現を習得し、基礎的なドイツ語を理解する力をつけます。

### ■授業時間外に必要な学修

初めて学ぶ言語なので、予習よりも復習に重点を置き、課題としての練習問題を自ら解くことによって、理解を確かなものにするのが大切です。わからない単語は前もって調べ、辞書を引く習慣をつけましょう。

### ■教科書

『ドイツ・サラダ (DVD付き)』  
 Deutschland-Salat mit DVD  
 保阪良子  
 朝日出版社 2500円 (+税)

### ■参考文献

独和辞典  
 「ドイツ語について」の項を参照

### ■関連科目

ドイツ語総合1・3・4  
 ドイツ語コミュニケーション1・2・3・4  
 ドイツ語カルチャーセミナー A・B

### ■成績評価方法および基準

定期試験 50%  
 小テスト 20%  
 口頭発表及び課題 30%

### ■授業評価アンケート実施方法

学部実施規程に準拠して行います。

### ■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 Lektion 7. Brot (分離動詞の仕組み) (前期の続き)

分離動詞とは、離れる場合：前つづりは文末、離れない場合

第2回 Lektion 7. Brot (分離動詞の仕組み)

分離動詞とは、離れる場合：前つづりは文末、離れない場合

第3回 Lektion 8. Fußball (所有冠詞)

所有冠詞とは、種類、所有冠詞の語尾変化

第4回 Lektion 8. Fußball (所有冠詞)

所有冠詞とは、種類、所有冠詞の語尾変化

第5回 Lektion 9. Berlin (現在完了形)

現在完了形とは、seinを完了助動詞として使う場合、過去分詞の形



第6回 Lektion 9. Berlin (現在完了形)

現在完了形とは、seinを完了助動詞として使う場合、過去分詞の形

第7回 まとめと復習／小テスト

まとめと復習／小テスト

第8回 Lektion 10. Kulturvielfalt (現在完了形、haben支配の動詞と過去分詞)

seinを使って完了形を作る動詞以外は、すべてhaben、規則的な過去分詞の作り方、不規則な作りの過去分詞、過去分詞にge-がつかない動詞

第9回 Lektion 10. Kulturvielfalt (現在完了形、haben支配の動詞と過去分詞)

seinを使って完了形を作る動詞以外は、すべてhaben、規則的な過去分詞の作り方、不規則な作りの過去分詞、過去分詞にge-がつかない動詞

第10回 Lektion 11. Weihnachten (前置詞)

前置詞はまず意味を覚える、重要な9つの前置詞、前置詞の次に来る名詞の格として大事なものは3格と4格、1. で紹介した9つの前置詞の次にくる名詞が3格の場合

第11回 Lektion 11. Weihnachten (前置詞)

前置詞はまず意味を覚える、重要な9つの前置詞、前置詞の次に来る名詞の格として大事なものは3格と4格、1. で紹介した9つの前置詞の次にくる名詞が3格の場合

第12回 Lektion 12. Umwelt (前置詞)

第11課でとりあげた「主要な9つの前置詞」が4格をとる場合、3格支配の前置詞、4格支配の前置詞

第13回 Lektion 12. Umwelt (前置詞)

第11課でとりあげた「主要な9つの前置詞」が4格をとる場合、3格支配の前置詞、4格支配の前置詞

第14回 まとめと復習・補足

まとめと復習・補足

第15回 総復習

総復習

定期試験

科目名： <b>ドイツ語総合3</b>			
英文名： Basic German 3			
担当者： トーマス シュピンレル			
単 位： 1単位	開講年次： 2年次	開講期： 前期	必修選択の別： 選択科目

### ■授業概要・方法等

Im Mittelpunkt dieses Kurses stehen aktive Sprechübungen. Wir werden anhand kurzer Videoszenen wichtige grammatische Strukturen und den Grundwortschatz wiederholen. Im Hauptteil bereiten die Übungen auf das Niveau der deutschen Alltagssprache in normaler Sprechgeschwindigkeit vor. In Ergänzung zu den Videoszenen werden geeignete Textmaterialien eingesetzt.

### ■学習・教育目標および到達目標

Diese Veranstaltung verfolgt zwei Ziele:

1. die Grundlage für eine zwanglose deutschsprachige Kommunikation zu schaffen und bereits vorhandene Kenntnisse auszubauen und
2. über das aktuelle Leben im deutschsprachigen Raum zu informieren.

この授業の目的は、ドイツで見られる典型的なヨーロッパの生活様式と文化について知り、ドイツ語の基本的な伝達能力を身につけることです。中心となるのは、多少の基礎知識をもつ学生と全くのドイツ語初心者である学生が一緒になって、容易に基本的なコミュニケーションの技術を高めることを可能にするシャドウイングおよびパターン・ドリルです。

### ■授業時間外に必要な学修

付属のCDやメディアライブラリーを利用して、聞き取りの練習をしましょう。

### ■教科書

教科書は使用しません。

### ■参考文献

授業の際に指示します。

### ■関連科目

ありません

### ■成績評価方法および基準

口頭発表 30%

小テスト 20%

定期試験を行わず、まとめテスト 50%

### ■授業評価アンケート実施方法

授業の際に指示します。

### ■研究室・E-mailアドレス

ありません

### ■オフィスアワー

ありません

### ■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 基本的語彙、名詞、文章の作り方と質問。

基本的語彙、名詞、文章の作り方と質問。

第2回 基本的語彙、名詞、文章の作り方と質問。(パート2)

基本的語彙、名詞、文章の作り方と質問。(パート2)

第3回 ドイツの動詞(規則)

ドイツの動詞(規則)

第4回 ドイツの動詞(habenおよびsein)、否定

ドイツの動詞 (habenおよびsein)、否定

第5回 ドイツの動詞 (不規則) 定冠詞、不定冠詞、冠詞

ドイツの動詞 (不規則) 定冠詞、不定冠詞、冠詞

第6回 数、価格、時間

数、価格、時間

第7回 1-6のためのエクササイズ、ゲームおよびロールプレイ

1-6のためのエクササイズ、ゲームおよびロールプレイ

第8回 Akkusativ (4格)

Akkusativ(4格)

第9回 ビデオ・レッスン：ヨーロッパの生活様式および文化

ビデオ・レッスン：ヨーロッパの生活様式および文化

第10回 代名詞

代名詞

第11回 話法の助動詞 müssen, wollen, können

話法の助動詞 müssen, wollen, können

第12回 エクササイズおよびロールプレイ (買い物)

エクササイズおよびロールプレイ (買い物)

第13回 Dativ (3格)

Dativ(3格)

第14回 エクササイズおよび復習

エクササイズおよび復習

第15回 エクササイズおよびロールプレイ

エクササイズおよびロールプレイ

科目名： <b>ドイツ語総合3</b>			
英文名： Basic German 3			
担当 <small>サカイ テツオ</small> 者： <b>酒井 哲男</b>			
単 位： 1単位	開講年次： 2年次	開講期： 前期	必修選択の別： 選択科目

■授業概要・方法等

これまで学んだドイツ語の文法や基本構造をもう一度確認しながら、語彙や表現の聴き取り、口頭練習、ドイツ語を作り出す練習などにより、ドイツの日常生活で使うことができ、またいろいろな場面で簡単に応用できる表現を習得する。随時プリントなどの補助教材を使うことがある。

■学習・教育目標および到達目標

「総合1・2」で学んだドイツ語の知識をもとに、さらにドイツ語の表現力や応用力を養い、簡単な会話や文章が理解できる力をつける。

■授業時間外に必要な学修

予習として単語を調べておくこと、復習としては課題の練習問題を自ら解くことによって、理解を確かなものにする。

■教科書

ドイツ語の時間－読解編－読めると楽しい！

Meine Deutschstunde. Lesen mit Strategie

Tomoaki Seino 他

朝日出版社 定価2300円

■参考文献

総合1・2で使用した教科書

各自のドイツ語辞書、ドイツ語文法書

■関連科目

ドイツ語総合1・2・4

ドイツ語総合A・B

ドイツ語コミュニケーション1・2・3・4

ドイツ語カルチャーセミナー A・B

■成績評価方法および基準

定期試験 50%

小テスト 20%

口頭発表および課題 30%

■授業評価アンケート実施方法

学部実施規程に準拠して行います。

■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 Lektion1

動詞の現在人称変化、seinと habenの現在人称変化、動詞の位置

第2回 Lektion1

動詞の現在人称変化、seinと habenの現在人称変化、動詞の位置

第3回 Lektion2

名詞の性、名詞の格変化（1格と4格）、不規則動詞werden、ja, nein,dochの使い方

第4回 Lektion2

名詞の性、名詞の格変化（1格と4格）、不規則動詞werden、ja, nein,dochの使い方

第5回 Lektion3

不規則動詞の現在人称変化、名詞の複数形、名詞の2格と3格

第6回 Lektion3

不規則動詞の現在人称変化、名詞の複数形、名詞の2格と3格

第7回 復習、小テスト

やり残し部分、復習、小テスト

第8回 Lektion4

前置詞と名詞の格、副文

第9回 Lektion4

前置詞と名詞の格、副文

第10回 Lektion5

人称代名詞の3格と4格、再帰代名詞と再帰動詞、非人称のes

第11回 Lektion5

人称代名詞の3格と4格、再帰代名詞と再帰動詞、非人称のes

第12回 Lektion6

定冠詞類、不定冠詞類、否定冠詞keinと否定文

第13回 Lektion6

定冠詞類、不定冠詞類、否定冠詞keinと否定文

第14回 学び残しと復習

第15回 復習

定期試験



科目名：ドイツ語総合4			
英文名：Basic German 4			
担当者：トーマス シュビンレル			
単 位：1単位	開講年次：2年次	開講期：後期	必修選択の別：選択科目

### ■授業概要・方法等

Im Mittelpunkt dieses Kurses stehen aktive Sprechübungen. Wir werden anhand kurzer Videoszenen wichtige grammatische Strukturen und den Grundwortschatz wiederholen. Im Hauptteil bereiten die Übungen auf das Niveau der deutschen Alltagssprache in normaler Sprechgeschwindigkeit vor. In Ergänzung zu den Videoszenen werden geeignete Textmaterialien eingesetzt.

### ■学習・教育目標および到達目標

Diese Veranstaltung verfolgt zwei Ziele:

1. die Grundlage für eine zwanglose deutschsprachige Kommunikation zu schaffen und bereits vorhandene Kenntnisse auszubauen und
2. über das aktuelle Leben im deutschsprachigen Raum zu informieren.

この授業の目的は、ドイツで見られる典型的なヨーロッパの生活様式と文化について知り、ドイツ語の基本的な伝達能力を身につけることです。中心となるのは、多少の基礎知識をもつ学生と全くのドイツ語初心者である学生が一緒になって、容易に基本的なコミュニケーションの技術を高めることを可能にするシャドウイングおよびパターン・ドリルです。

### ■授業時間外に必要な学修

付属のCDやメディアライブラリーを利用して、聞き取りの練習をしましょう。

### ■教科書

教科書は使用しません。

### ■参考文献

授業の際に指示します。

### ■関連科目

ありません

### ■成績評価方法および基準

口頭発表 30%

小テスト 20%

定期試験を行わず、まとめテスト 50%

### ■授業評価アンケート実施方法

授業の際に指示します。

### ■研究室・E-mailアドレス

ありません

### ■オフィスアワー

ありません

### ■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 Dativ (3格) Akkusativ (4格)

Dativ(3格) Akkusativ(4格)

第2回 再帰代名詞

再帰代名詞

第3回 現在完了形(I)

現在完了形(I)

第4回 現在完了形(II)

現在完了形(II)

第5回 現在完了形(III)

現在完了形(III)

第6回 エクササイズおよびロールプレイ (現在完了形)

エクササイズおよびロールプレイ (現在完了形)

第7回 過去形

過去形

第8回 どれ?どのような?

どれ?どのような?

第9回 受動 (現在形、過去形、現在完了形)

受動 (現在形、過去形、現在完了形)

第10回 形容詞

形容詞

第11回 形容詞II

形容詞II

第12回 ビデオ・レッスン：ヨーロッパの生活様式および文化

ビデオ・レッスン：ヨーロッパの生活様式および文化

第13回 エクササイズおよび復習

エクササイズおよび復習

第14回 エクササイズおよびロールプレイ

エクササイズおよびロールプレイ

第15回 集中的な復習

集中的な復習

科目名：ドイツ語コミュニケーション1			
英文名：German Communication 1			
担当者： <sup>タナカ マコト</sup> 田中 誠			
単 位：1単位	開講年次：2～4年次	開講期：前期	必修選択の別：選択科目

### ■授業概要・方法等

「話す」と「聞く」という二つの側面に重点を置き、実践的な活動を中心に授業を進める。外国旅行でよく出会う場面や日常生活によくある場面などを用いて、情報を聞き取り、自分を表現する方法を練習する。またドイツ語圏の文化や歴史についての知識も深める。

### ■学習・教育目標および到達目標

旅行や日常生活で困らない程度のドイツ語力を身につける。  
春・秋に実施されるドイツ語検定試験4,5級に合格する実力を身につける。

### ■授業時間外に必要な学修

復習に重点を置き、課題としての練習問題を自ら解くことによって、理解を確かなものにするのが大切です。わからない単語は前もって調べ、辞書を引く習慣をつけましょう。また、ドイツ語技能検定試験への参加等を勧めます。

### ■教科書

シチュエーション ユミと一緒にドイツ語を学ぼう！  
Situationen - Mit Yumi Deutsch lernen -  
朝日出版社 定価2800円

### ■参考文献

各自のドイツ語辞書  
ドイツ語文法書

### ■関連科目

ドイツ語総合1, 2, 3, 4  
ドイツ語コミュニケーション2, 3, 4  
ドイツ語カルチャーセミナー A, B

### ■成績評価方法および基準

定期試験 50%  
小テスト 20%  
課題及び口頭発表 30%

### ■授業評価アンケート実施方法

学部実施規定に準拠して行います。

### ■研究室・E-mailアドレス

11-216

### ■オフィスアワー

木曜日 3時限目

### ■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 Lektion 1 ドイツへようこそ！

第2回 Lektion 1 ドイツへようこそ

第3回 Lektion 2 私の名前は中村ユミです

第4回 Lektion 2 私の名前は中村ユミです

第5回 Lektion 3 ドイツ語で何と言いますか？

第6回 Lektion 3 ドイツ語で何と言いますか？

第7回 中間テスト

第8回 Lektion 4 朝ご飯よ！

第9回 Lektion 4 朝ご飯よ！

第10回 Lektion 5 映画を観に行くのが好きです

第11回 Lektion 5 映画を観に行くのが好きです

第12回 Lektion 6 母は主婦です

第13回 Lektion 6 母は主婦です

第14回 学び残しの部分と復習

第15回 復習

定期試験

科目名：ドイツ語コミュニケーション1

英文名：German Communication 1

担当：<sup>サカイ テツオ</sup>酒井 哲男

単 位：1単位

開講年次：2～4年次

開講期：前期

必修選択の別：選択科目

### ■授業概要・方法等

「話す」と「聞く」という二つの側面に重点を置き、実践的な活動を中心に授業を進める。外国旅行でよく出会う場面や日常生活によくある場面などを用いて、情報を聞き取り、自分を表現する方法を練習する。またドイツ語圏の文化や歴史についての知識も深める。

### ■学習・教育目標および到達目標

旅行や日常生活で困らない程度のドイツ語力を身につける。  
春・秋に実施されるドイツ語検定試験4,5級に合格する実力を身につける。

### ■授業時間外に必要な学修

復習に重点を置き、課題としての練習問題を自ら解くことによって、理解を確かなものにするのが大切です。わからない単語は前もって調べ、辞書を引く習慣をつけましょう。また、ドイツ語技能検定試験への参加等を勧めます。

### ■教科書

シチュエーション ユミと一緒にドイツ語を学ぼう！  
Situationen - Mit Yumi Deutsch lernen -  
朝日出版社 定価2800円

### ■参考文献

各自のドイツ語辞書  
ドイツ語文法書

### ■関連科目

ドイツ語総合1, 2, 3, 4  
ドイツ語コミュニケーション2, 3, 4  
ドイツ語カルチャーセミナー A, B

### ■成績評価方法および基準

定期試験 50%  
小テスト 20%  
課題及び口頭発表 30%

### ■授業評価アンケート実施方法

学部実施規定に準拠して行います。

### ■研究室・E-mailアドレス

11-216

### ■オフィスアワー

木曜日 3時限目

### ■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 Lektion 1 ドイツへようこそ！

第2回 Lektion 1 ドイツへようこそ

第3回 Lektion 2 私の名前は中村ユミです

第4回 Lektion 2 私の名前は中村ユミです

第5回 Lektion 3 ドイツ語で何と言いますか？



第6回 Lektion 3 ドイツ語で何と言いますか？

第7回 中間テスト

第8回 Lektion 4 朝ご飯よ！

第9回 Lektion 4 朝ご飯よ！

第10回 Lektion 5 映画を観に行くのが好きです

第11回 Lektion 5 映画を観に行くのが好きです

第12回 Lektion 6 母は主婦です

第13回 Lektion 6 母は主婦です

第14回 学び残しの部分と復習

第15回 復習

定期試験

科目名：ドイツ語コミュニケーション2			
英文名：German Communication 2			
担当者： <sup>コウノ エイジ</sup> 河野 英二			
単 位：1単位	開講年次：2～4年次	開講期：後期	必修選択の別：選択科目

### ■授業概要・方法等

話す」と「聞く」という二つの側面に重点を置き、実践的な活動を中心に授業を進める。外国旅行でよく出会う場面や日常生活によくある場面などを用いて、情報を聞き取り、自分を表現する方法を練習する。またドイツ語圏の文化や生活のを知る。

### ■学習・教育目標および到達目標

旅行や日常生活で困らない程度のドイツ語力を身につける。  
春・秋に実施されるドイツ語検定試験4, 5級に合格する実力を身につける。

### ■授業時間外に必要な学修

復習に重点を置き、課題としての練習問題を自ら解くことによって、理解を確かなものにするのが大切です。わからない単語は前もって調べ、辞書を引く習慣をつけましょう。また、ドイツ語技能検定試験への参加等を勧めます。

### ■教科書

シチュエーション ユミと一緒にドイツ語を学ぼう！

Situationen - Mit Yumi Deutsch lernen-

朝日出版社

定価2800円

### ■参考文献

各自のドイツ語辞書、  
ドイツ語文法書

### ■関連科目

ドイツ語総合1, 2, 3, 4、

ドイツ語総合A, B, C, D

ドイツ語コミュニケーション1 (A), 3, 4

ドイツ語カルチャーセミナーA, B

### ■成績評価方法および基準

定期試験 50%

小テスト 20%

口頭発表および課題 30%

### ■授業評価アンケート実施方法

学部実施規程に準拠して行います。

### ■研究室・E-mailアドレス

11号館213号室

### ■オフィスアワー

木曜12-15時

### ■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 Lektion 7 プレートヘンを15個ください！

第2回 Lektion 7 プレートヘンを15個ください！

第3回 Lektion 8 食事に行きませんか？

第4回 Lektion 8 食事に行きませんか？

第5回 Lektion 9 携帯電話はどこ？

第6回 Lektion 9 携帯電話はどこ？

第7回 中間テスト

第8回 Lektion 10 図書館へはどう行くのですか？

第9回 Lektion 10 図書館へはどう行くのですか？

第10回 Lektion 11 何をしようか？

第11回 Lektion 11 何をしようか？

第12回 Lektion 12 週末、何をしたの？

第13回 Lektion 12 週末、何をしたの？

第14回 学び残しの部分と復習

第15回 復習

定期試験

科目名： <b>フランス語総合1</b>			
英文名： Basic French 1			
担当者： <small>アキヨシ タカヒロ チュウジョ セイイチ</small> <b>秋吉 孝浩・中所 聖一</b>			
単 位： 1単位	開講年次： 1年次	開講期： 前期	必修選択の別： 選択科目

### ■授業概要・方法等

フランスというと、何を思い浮かべますか？ フランス料理とスイーツの国、世界のファッションをリードする国、ロワールの古城やモン・サン・ミシェルなどの世界遺産を有する国。でもそれだけではなく、フランスは例えばヨーロッパで一番のマンガ大国でもあります！ フランス語はフランスだけではなく世界各地で使われる国際語で、しかも英語と共通する単語も多いので、とても簡単に学ぶことができます。そんなフランス語を学んでみませんか？

この講義では、フランス語を聞き、話し、読み、書くためのバランスの取れた能力の育成を目指します。基本的な文法を、日常的な会話文をもとに楽しく学びながら、自分でも使える力を身につけます。一人一人の積極的な参加を望みます！

### ■学習・教育目標および到達目標

受講者は、フランス語を聞き、話し、読み、書くことに慣れ親しみ、初歩的なコミュニケーションが図れるようになります。またフランスの言葉と文化への理解を深め、より広い国際感覚を養うことができます。

### ■授業時間外に必要な学修

講義で学んだ内容をテキストで再確認し、新しい単語は必ず辞書でチェックします。  
テキスト付録のCDを聞いて、ダイアログや例文を自分で正しく発音し読む練習をしておきましょう。

### ■教科書

沼田、松村、米谷、バンドロム著『カジュアルにフランス語 一改訂版』（朝日出版社）2200円

### ■参考文献

(辞書)  
『ディコ仏和辞典』（白水社）、  
『プチ・ロワイヤル仏和辞典』（旺文社）、  
『クラウン仏和辞典』（三省堂）など  
(参考書)  
『大学で始めるフランス語』（駿河台出版社）、  
『新リュミエール・フランス文法参考書』（駿河台出版社）など  
※辞書・参考書については、教員の指示に従って下さい。

### ■関連科目

全てのフランス語科目、国際化と異文化理解

### ■成績評価方法および基準

定期試験 50%  
小テスト 20%  
口頭発表及び課題 30%

### ■授業評価アンケート実施方法

学部実施規程に準拠して行います。

### ■授業計画の項目・内容及び到達目標

- 第1回 オリエンテーション フランス語のあらまし 学習の心構え
- 第2回 アルファベ Leçon 1-1 あいさつの表現 「お元気ですか？」
- 第3回 Leçon 1-2 お礼・おわびの表現 数字の言い方(1-20)
- 第4回 第1回小テスト Leçon 2-1 カフェでの会話 名詞の性と数 発音とつづり字(1)
- 第5回 Leçon 2-2 冠詞 発音とつづり字(2)
- 第6回 Leçon 3-1 駅での会話 主語人称代名詞、動詞êtreの活用と用法 発音とつづり字(3)

第7回 Leçon 3-2 動詞avoirの活用と用法 曜日・月の名前と日付の言い方 発音とつづり字(4)

第8回 第2回小テスト Leçon 4-1 映画に関する話題 形容詞の用法 発音とつづり字(5)

第9回 Leçon 4-2 形容詞の用法のつづき 自己紹介 国名・国籍の言い方

第10回 Leçon 5-1 大学の食堂で 第一群規則動詞(-er形の動詞) 数字の言い方(20-60)

第11回 Leçon 5-2 第一群規則動詞(つづき) いま何時ですか？

第12回 第3回小テスト Leçon 6-1 カフェテリアでの会話 否定文と疑問文

第13回 Leçon 6-2 否定文と疑問文(つづき) 映画は好きですか？

第14回 Leçon 7-1 夕食に招かれて 指示形容詞・所有形容詞 お父さんは何をしていますか？

第15回 Leçon 7-2 命令文 前期のまとめと復習

定期試験(定期試験期間中に行います)



科目名： <b>フランス語総合2</b>			
英文名： Basic French 2			
担当者： <small>アキヨシ タカヒロ</small> 秋吉 孝浩・ <small>チュウジヨ セイイチ</small> 中所 聖一			
単 位： 1単位	開講年次： 1年次	開講期： 後期	必修選択の別： 選択科目

### ■授業概要・方法等

「フランス語総合1」に引き続き、日常生活に即した会話を楽しく学びながら、フランス語をさらに自由に使えるように知識を深めていきます。

「総合2」では、さまざまな動詞を使いこなし、いろいろな種類の語彙を身に付けながら、会話でより自由にいろいろなことを表現できるようにします。また文法では過去形も学び、簡単な文章も読みこなせるレベルまで進んでいきます。前期と同様、毎回休まずに出席し、授業には積極的に参加しましょう！

### ■学習・教育目標および到達目標

受講者は、フランス語を聞き、話し、読み、書くことに慣れ親しみ、初歩的なコミュニケーションが図れるようになります。またフランスの言葉と文化への理解を深め、より広い国際感覚を養うことができます。

### ■授業時間外に必要な学修

講義で学んだ内容をテキストで再確認し、新しい単語は必ず辞書でチェックします。テキスト付録のCDを聞いて、ダイアログや例文を自分で正しく発音し読む練習をしておきましょう。

### ■教科書

沼田、松村、米谷、バンドロム著『カジュアルにフランス語 一改訂版一』（朝日出版社）2200円

### ■参考文献

(辞書)  
『ディコ仏和辞典』（白水社）、  
『プチ・ロワイヤル仏和辞典』（旺文社）、  
『クラウン仏和辞典』（三省堂）など  
(参考書)  
『大学で始めるフランス語』（駿河台出版社）、  
『新リュミエール・フランス文法参考書』（駿河台出版社）など  
※辞書・参考書については、教員の指示に従って下さい。

### ■関連科目

全てのフランス語科目、国際化と異文化理解

### ■成績評価方法および基準

定期試験 50%  
小テスト 20%  
口頭発表及び課題 30%

### ■授業評価アンケート実施方法

学部実施規程に準拠して行います。

### ■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 オリエンテーション Leçon 8-1 地下鉄の中で 動詞aller (行く) とvenir (来る)

第2回 Leçon 8-2 近い未来と近い過去 ささまざまな前置詞 明日は何をするの？

第3回 Leçon 9-1 キャンパスでの会話 第二群規則動詞 (-ir形の動詞)

第4回 第1回小テスト Leçon 9-2 第二群規則動詞 (つづき) 数字の言い方 (60-) ユーロによる金額の言い方

第5回 Leçon 10-1 講義の合間に 疑問詞を使った疑問文

第6回 Leçon 10-2 動詞faireとprendre 買い物の会話 「順序」を表す言い方

第7回 Leçon 11-1 通りでの会話 直接・間接目的語と強勢形

第8回 第2回小テスト Leçon 11-2 目的語と強勢形 (つづき) 郵便局はどこですか？

第9回 Leçon 12-1 電話での会話 動詞vouloir (～したい), pouvoir (～できる), devoir (～しなければならない)

第10回 Leçon 12-2 動詞vouloir, pouvoir, devoir (つづき) 電話での会話 住居・部屋に関する語彙

第11回 Leçon 13-1 旅行代理店での会話 比較の表現

第12回 第3回小テスト Leçon 13-2 比較 (つづき) レストランでの会話

第13回 Leçon 14-1 ローランの部屋で フランス語の過去形 (複合過去)

第14回 Leçon 14-2 フランス語の過去形 (複合過去) (つづき)

第15回 後期のまとめと復習

定期試験 (定期試験期間中に行います)

科目名： フランス語総合3			
英文名： Basic French 3			
担当者： <sup>ヒラヤマ ユヅキ</sup> 平山 弓月			
単 位： 1単位	開講年次： 2年次	開講期： 前期	必修選択の別： 選択科目

### ■授業概要・方法等

すでに「フランス語総合1,2」を履修した学生を対象とします。  
 日常的な会話を楽しく学び、文化を紹介する読解文も読んだりしながら、フランス語を使いこなすための能力の完成を目指します。フランス語ネイティブと基本的な会話をしたり、旅行に行つてフランス語を話したり、検定の4級を受験できるレベルのフランス語が身につけられるでしょう。  
 授業は知識を積み重ねていくことが必要ですので、休まず出席しましょう。予習と復習を欠かさないようにして、知識をしっかりと身に付けるようにしてください。

### ■学習・教育目標および到達目標

受講者は、フランス語を使っていろいろな場面でより多様な表現ができるようになる。また身の回りの直接的なことの他に、事実を理解し説明したりできる能力を身に付けることができる。

### ■授業時間外に必要な学修

講義で学んだ内容をテキストで再確認し、新しい単語は必ず辞書でチェックします。  
 テキスト付録のCDを聞いて、ダイアログや例文を自分で正しく発音し読む練習をしておきましょう。

### ■教科書

沼田、松村、米谷、バンドロム著『カジュアルにフランス語2 一改訂版一』（朝日出版社）2200円

### ■参考文献

(辞書)  
 『ディコ仏和辞典』（白水社）、  
 『プチ・ロワイヤル仏和辞典』（旺文社）、  
 『クラウン仏和辞典』（三省堂）など  
 (参考書)  
 『大学で始めるフランス語』（駿河台出版社）、  
 『新リュミエール・フランス文法参考書』（駿河台出版社）など  
 ※辞書・参考書については、教員の指示に従って下さい。

### ■関連科目

全てのフランス語科目、国際化と異文化理解

### ■成績評価方法および基準

定期試験 50%  
 小テスト 20%  
 口頭発表及び課題 30%

### ■授業評価アンケート実施方法

学部実施規程に準拠して行います。

### ■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 オリエンテーション Leçon 1-1 大学で 基本動詞・複合過去の復習

第2回 Leçon 1-2 基本動詞・複合過去の復習(つづき) 自己紹介の練習

第3回 Leçon 2-1 時差ぼけ 代名動詞(seのつく動詞)の用法

第4回 第1回小テスト Leçon 2-2 代名動詞(つづき) 空港での会話

第5回 Leçon 3-1 ホテルで 中性代名詞と指示代名詞の用法

第6回 Leçon 3-2 中性代名詞と指示代名詞の用法(つづき) ホテルでの会話

第7回 Leçon 4-1 コンサート フランス語の未来形 (単純未来)

第8回 第2回小テスト Leçon 4-2 未来形 (単純未来) (つづき) 道を尋ねる会話

第9回 Leçon 5-1 スポーツ 半過去 (~だった、~していた) の用法

第10回 Leçon 5-2 半過去の用法 (つづき) 病院と薬局の会話

第11回 Leçon 6-1 ロワールの古城 現在分詞と過去分詞

第12回 第3回小テスト Leçon 6-2 現在分詞と過去分詞 (つづき) 駅での会話

第13回 Leçon 7-1 読解 環境に優しいレンタサイクル

第14回 Leçon 7-2 読解 環境に優しいレンタサイクル (つづき)

第15回 前期のまとめと復習

定期試験 (定期試験期間中に行う)

科目名： フランス語総合4			
英文名： Basic French 4			
担当者： <sup>ヒラヤマ ユヅキ</sup> 平山 弓月			
単 位： 1単位	開講年次： 2年次	開講期： 後期	必修選択の別： 選択科目

### ■授業概要・方法等

これまでに習得した知識にさらに磨きをかけながら、フランス語の文法を完成に近づけます。日常のさまざまな場面での会話文を楽しく学びながら、それらの表現を自分でも使えるように練習し、それと同時により幅広い分野の語彙も身につけて、簡単な文章なども読みこなせるようにします。そうすることによって、フランス語圏の文化についてもより深く知ることができるでしょう。

前期と同様、休まず出席しましょう。また予習や復習もして知識をしっかりと身に付けるようにしてください。

### ■学習・教育目標および到達目標

受講者は、フランス語を使っているいろいろな場面でより多様な表現ができるようになる。また身の回りの直接的なことの他に、事実を理解し説明したりできる能力を身に付けることができる。

### ■授業時間外に必要な学修

講義で学んだ内容をテキストで再確認し、新しい単語は必ず辞書でチェックします。

テキスト付録のCDを聞いて、ダイアログや例文を自分で正しく発音し読む練習をしておきましょう。

### ■教科書

沼田、松村、米谷、バンドロム著『カジュアルにフランス語2 一改訂版一』（朝日出版社）2200円

### ■参考文献

(辞書)

『ディコ仏和辞典』（白水社）、

『プチ・ロワイヤル仏和辞典』（旺文社）、

『クラウン仏和辞典』（三省堂）など

(参考書)

『大学で始めるフランス語』（駿河台出版社）、

『新リュミエール・フランス文法参考書』（駿河台出版社）など

※辞書・参考書については、教員の指示に従って下さい。

### ■関連科目

全てのフランス語科目、国際化と異文化理解

### ■成績評価方法および基準

定期試験 50%

小テスト 20%

口頭発表及び課題 30%

### ■授業評価アンケート実施方法

学部実施規程に準拠して行います。

### ■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 オリエンテーション Leçon 8-1 日本語コンクール 関係代名詞

第2回 Leçon 8-2 関係代名詞(つづき) 郵便局と銀行の会話

第3回 Leçon 9-1 大学図書館で 時・理由・条件を表す接続詞

第4回 第1回小テスト Leçon 9-2 時・理由・条件を表す接続詞(つづき) 市場での会話

第5回 Leçon 10-1 望遠鏡が買いたい 条件法の使い方

第6回 Leçon 10-2 条件法の使い方(つづき) 洋服店での会話



第7回 Leçon 11-1 ホテルのチェックアウト 接続法の使い方

第8回 第2回小テスト Leçon 11-2 接続法の使い方(つづき) 電話での会話

第9回 Leçon 12-1 レストランで 直接話法と間接話法

第10回 Leçon 12-2 直接話法と間接話法 レストランでの会話

第11回 Leçon 13-1 エッフェル塔の研究発表 単純過去の用法

第12回 第3回小テスト Leçon 13-2 単純過去の用法(つづき) 手紙の書き方

第13回 Leçon 14-1 読解 心のレストランについて

第14回 Leçon 14-2 読解 心のレストランについて(つづき)

第15回 後期のまとめと復習

定期試験(定期試験期間中に行う)

科目名： フランス語コミュニケーション1			
英文名： French Communication 1			
担当者： <sup>ハットリ エツコ</sup> 服部 悦子			
単 位： 1単位	開講年次： 2～4年次	開講期： 前期	必修選択の別： 選択科目

### ■授業概要・方法等

フランス語総合1あるいは2いずれか1科目修得を履修条件とする。  
「話す」「聞く」という二つの側面に重点を置き、実践的な活動を中心に授業を進める。旅行でよく出会う場面や日常によくある場面などを用いて、情報を聞き取り、フランス語で表現する方法を練習する。

### ■学習・教育目標および到達目標

受講者は日常生活や旅行に必要なフランス語の表現、コミュニケーション能力を既習の文法事項の復習をしながら、習得する。

### ■授業時間外に必要な学修

単語を調べる、練習問題等、毎回指示された課題に取り組む。  
CDを聴く。

### ■教科書

「街かどのフランス語」瀬戸秀一（朝日出版社）2100円

### ■参考文献

仏和辞典

### ■関連科目

すべてのフランス語科目、国際化と異文化理解

### ■成績評価方法および基準

定期試験 50%  
小テスト 20%  
口頭発表および課題 30%

### ■授業評価アンケート実施方法

大学学部実施規定に準拠して行います。

### ■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 発音練習、フランス紹介

第2回 数字、疑問文、不定冠詞、定冠詞、規則動詞。

第3回 挨拶、パリの名所。

第4回 形容詞、所有形容詞、指示形容詞。～ですの表現。

第5回 国籍、職業を言う。ホテルでの表現。

第6回 形容詞、avoir動詞の活用と表現。

第7回 地図をもらう、予約する。

第8回 否定文、命令文、許可を求める表現。

第9回 場所、道を聞く。

第10回 部分冠詞、天候表現と季節。動詞prendre,faire.

第11回 カフェで飲み物、軽食を注文する。身体の痛い部分を使う。

第12回 疑問詞。自己紹介。

第13回 時刻表現、電話でレストランを予約する。

第14回 文法復習

第15回 まとめ

「定期試験」(定期試験期間中に行う)

科目名： フランス語コミュニケーション2			
英文名： French Communication 2			
担当者： <sup>ハットリ エツコ</sup> 服部 悦子			
単 位： 1単位	開講年次： 2～4年次	開講期： 後期	必修選択の別： 選択科目

### ■授業概要・方法等

フランス語総合1あるいは2いずれか1科目修得を履修条件とする。

コミュニケーション1に引き続き、「話す」「聞く」という二つの側面に重点を置き、実践的な活動を中心に授業を進める。旅行でよく出会う場面や日常によくある場面などを用いて、情報を聞き取り、自分を表現する方法を練習する。

### ■学習・教育目標および到達目標

受講者は日常生活や旅行に必要なフランス語の表現、コミュニケーション能力を既習の文法事項の復習をしながら、習得する。

### ■授業時間外に必要な学修

単語を調べる、練習問題等、毎回指示された課題に取り組む。  
CDを聴く。

### ■教科書

コミュニケーション1と同じ

「街かどのフランス語」瀬戸秀一 朝日出版社 2100円

### ■参考文献

仏和辞典

### ■関連科目

すべてのフランス語科目、国際化と異文化理解

### ■成績評価方法および基準

定期試験 50%

小テスト 20%

口頭発表および課題 30%

### ■授業評価アンケート実施方法

大学学部実施規定に準拠して行います。

### ■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 発音の復習

第2回 比較級、目的語代名詞、色の形容詞。

第3回 お店で洋服を買う。

第4回 最上級、非人称構文。

第5回 地下鉄での表現。

第6回 複合過去（1）

第7回 レストランで注文する。

第8回 複合過去（2）

第9回 近い未来、近い過去。

第10回 観光案内書での表現。

第11回 さまざまな不規則動詞。

第12回 未来の表現。

第13回 仮定の表現。

第14回 まとめと応用演習。

第15回 まとめと応用演習。

「定期試験」(定期試験期間中に行う)



科目名：中国語総合1			
英文名：Basic Chinese 1			
担当者： <sup>ヒサダ</sup> 久田 <sup>マミコ</sup> 麻実子・ <sup>ハタ</sup> 畑 <sup>シノブ</sup> 忍・ <sup>ハヤシ</sup> 林 <sup>キミホ</sup> 君穂			
単 位：1単位	開講年次：1年次	開講期：前期	必修選択の別：選択科目

### ■授業概要・方法等

中国語を聞き、話し、読み、書くことに慣れ親しみ、初歩的な中国語を用いてコミュニケーションが図れるようにします。「総合1」では、中国語の音節構造を理解し、発音表記（ピンイン）に習熟することが第一の目標となりますが、簡単な自己紹介や日常会話ができるよう、文法の基礎もしっかりと学んでいきます。

### ■学習・教育目標および到達目標

この科目の単位修得は電気電子工学科総合エレクトロニクスコースで設定した学習・教育目標Cの達成に付随的に関与している。

「総合2」と併せて、中国語検定準4級程度の基本語彙と文法力を身につけます。

### ■授業時間外に必要な学修

授業で学修した発音・文法・表現を把握し、それを応用できるよう練習を積極的に行うこと。

講義内で重要とされる部分をノートし、予復習に益するよう工夫をする。また授業内で配布された参考プリントなども丁寧にファイルし、授業に活用すること。

学修済の項目に関し、問題点や疑問点を具体的に於て授業に臨むこと。

### ■教科書

本間史・張明傑『音読で学ぶ中国語』金星堂 2625円

### ■参考文献

辞書：『デイリーコンサイス中日・日中辞典』（三省堂）・『中日辞典 第二版』（小学館）など

参考書：相原茂『はじめての中国語』（講談社現代新書）・木村英樹『中国語はじめての一步』（ちくま新書）など

### ■関連科目

中国語総合2、中国語総合3, 4（理工・薬学・農のみ）

### ■成績評価方法および基準

定期試験 50%

小テスト 20%

口頭発表及び課題 30%

### ■授業評価アンケート実施方法

学部実施規程に準拠して行います。

### ■研究室・E-mailアドレス

教室で各教員に直接確認して下さい。

### ■オフィスアワー

教室で各教員に直接確認して下さい。

### ■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 第1課 声調・単母音・複合母音

第2回 第2課 鼻母音・子音・巻舌母音

第3回 第3課 軽声・声調の変化

第4回 第4課 声調の組み合わせ・音の区別

第5回 発音の復習 第5課 人称代名詞・動詞述語文・副詞「也」と「都」

第6回 第6課 指示代名詞・「是」の文・否定を表わす「不」・「～ma？」の疑問文・疑問詞疑問文

第7回 第5課～第6課の復習

第8回 第7課 形容詞述語文・反復疑問文・省略疑問文・「的」の使い方

第9回 第8課 物の数え方・「ba」の用法・選択疑問文

第10回 第9課 所有をあらわす「有」・存在をあらわす「有」・曜日の言い方

第11回 第7課～第9課の復習

第12回 第10課 年月日の言い方・連動文・金額の言い方

第13回 第11課 場所をあらわす代名詞・存在をあらわす「在」と「有」・動詞の重ね型

第14回 第12課 時刻の言い方・介詞・動作を行う時間量

第15回 総合1の総復習

定期試験

科目名：中国語総合2

英文名：Basic Chinese 2

担当者：<sup>ヒサダ マ ミ コ</sup>久田 麻実子・<sup>ハタ シノブ</sup>畑 忍・<sup>ハヤシ キミホ</sup>林 君穂

単 位：1単位

開講年次：1年次

開講期：後期

必修選択の別：選択科目

### ■授業概要・方法等

「総合2」では、「総合1」で習熟したピンインを見て、一字一句正確に発音できることを目指します。また平易な文章を聞き、話すことができるよう中国語の基礎的知識を身につけ、初級レベルのコミュニケーションが図れるようにします。

### ■学習・教育目標および到達目標

「総合1」と併せて、中国語検定準4級程度の基本語彙と文法力を身につけます。

### ■授業時間外に必要な学修

授業で学修した発音・文法・表現を把握し、それを応用できるよう練習を積極的に行うこと。

講義内で重要とされる部分をノートし、予復習に益するよう工夫をする。また授業内で配布された参考プリントなども丁寧にファイルし、授業に活用すること。

学修済の項目に関し、問題点や疑問点を具体的に授業に臨むこと。

### ■教科書

本間史・張明傑『音読で学ぶ中国語』金星堂 2625円

### ■参考文献

辞書：『デイリーコンサイス中日・日中辞典』（三省堂）・『中日辞典 第二版』（小学館）など

参考書：相原茂『はじめての中国語』（講談社現代新書）・木村英樹『中国語はじめの一步』（ちくま新書）など

### ■関連科目

中国語総合1・中国語総合3, 4（理工・薬学・農のみ）

### ■成績評価方法および基準

定期試験 50%

小テスト 20%

口頭発表及び課題 30%

### ■授業評価アンケート実施方法

大学実施規定に準拠して行います。

### ■研究室・E-mailアドレス

教室で各教員に直接確認して下さい。

### ■オフィスアワー

教室で各教員に直接確認して下さい。

### ■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 総合1の復習 第13課 ふたつの「了」

第2回 第13課 動態助詞「着」・「できる」の意をあらわす助動詞

第3回 第14課 経験をあらわす「guo」・「是～的」の構文

第4回 第14課 動作の進行と動作の回数・禁止の表現

第5回 第13課・第14課の復習

第6回 第15課 主述語文・比較の表現

第7回 第16課 「もうすぐ～する」・様態補語

第8回 第16課 助動詞の「得」

第9回 第17課 結果補語

第10回 第17課 方向補語・複合方向補語

第11回 第18課 兼語文・二つの目的語をとる動詞

第12回 第15課～第18課の復習

第13回 第19課 受け身文

第14回 第19課 可能補語・「又」と「再」

第15回 第20課 目的を表わす表現・存現文・主述構造の目的語

定期試験

科目名：中国語総合3			
英文名：Basic Chinese 3			
担当者： <sup>コウフク カオリ</sup> 幸福 香織			
単 位：1単位	開講年次：2年次	開講期：前期	必修選択の別：選択科目

### ■授業概要・方法等

中国語総合1, 2を履修し、基礎的事項をマスターした学生を対象とする科目です。  
中国語総合1, 2で学習した単語や文法事項を復習しながら、日常の身近な話題をテーマに、自分の言葉で表現できる力を養います。

### ■学習・教育目標および到達目標

日常生活の具体的な場面で、最低限必要とされる語彙や慣用表現を身につけます。簡単な文を聞き取って、基本的な言い回しを用いて自己表現できるようにします。

### ■授業時間外に必要な学修

中国語総合1, 2で学修した内容を十分に復習し、その知識を授業内で運用できるよう日頃より準備すること。  
授業で学修した発音・文法・表現を把握し、それを応用できるよう練習を積極的に行うこと。  
講義内で重要とされる部分をノートし、予復習に益するよう工夫をする。また授業内で配布された参考プリントなども丁寧にファイルし、授業に活用すること。  
学修済の項目に関し、問題点や疑問点を具体的に授業に臨むこと。

### ■教科書

『初級中国語課本』胡士雲・矢羽野隆男・呂順長 駿河台出版社 2625円  
(1年次使用したテキストを継続使用します)

### ■参考文献

「中国語について」の項を参照

### ■関連科目

中国語総合1, 2, 4

### ■成績評価方法および基準

定期試験 50%  
小テスト 20%  
口頭発表及び課題 30%

### ■授業評価アンケート実施方法

学部実施規程に準拠して行います。

### ■研究室・E-mailアドレス

教室で各教員に直接確認して下さい。

### ■オフィスアワー

教室で各教員に直接確認して下さい。

### ■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 中国語発音の復習 中国語総合1・2の復習

第2回 第13課 願望の助動詞・状態語等

第3回 第13課 形容詞の重ね型・前置詞と前置詞句(1)

第4回 第14課 主述述語文・前置詞と前置詞句(2)

第5回 第14課 是～的の文

第6回 第13課・第14課の復習



第7回 第15課 助詞の「了」

第8回 第15課 経験の表現

第9回 第16課 助詞「着」・状態の持続と進行の表現

第10回 16課 選択疑問文・相手の意見の聞き方

第11回 第15課第16課の復習

第12回 第17課 比較文

第13回 第17課 助動詞「能」「会」

第14回 第17課 助動詞「可以」

第15回 総合3の総復習

定期試験

科目名：中国語総合4			
英文名：Basic Chinese 4			
担当者： <sup>コウフク カオリ</sup> 幸福 香織			
単 位：1単位	開講年次：2年次	開講期：後期	必修選択の別：選択科目

### ■授業概要・方法等

「総合3」に引き続き、日常の身近な話題や生活習慣をテーマに、中国語による自己表現力を高めていきます。語彙を増やすとともに文法力や表現力も強化し、総合的な中国語運用能力を伸ばしていきます。

### ■学習・教育目標および到達目標

総合3と併せて中国語検定4級程度の常用語彙と文法力を身につけます。

### ■授業時間外に必要な学修

中国語総合1, 2, 3で学修した内容を十分に復習し、その知識を授業内で運用できるよう日頃より準備すること。

授業で学修した発音・文法・表現を把握し、それを応用できるよう練習を積極的に行うこと。

講義内で重要とされる部分をノートし、予復習に益するよう工夫をする。また授業内で配布された参考プリントなども丁寧にファイルし、授業に活用すること。

学修済の項目に関し、問題点や疑問点を具体的にして授業に臨むこと。

### ■教科書

胡士雲・矢羽野隆男・呂順長『初級中国語課本』駿河台出版社 2625円  
(1年次のテキストを継続使用します)

### ■参考文献

「中国語について」の項を参照

### ■関連科目

中国語総合1, 2, 3

### ■成績評価方法および基準

定期試験 50%

小テスト 20%

口頭発表及び課題 30%

### ■授業評価アンケート実施方法

学部実施規程に準拠して行います。

### ■研究室・E-mailアドレス

教室で各教員に直接確認して下さい。

### ■オフィスアワー

教室で各教員に直接確認して下さい。

### ■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 総合3の復習

第2回 第18課 「把」構文

第3回 第18課 結果補語

第4回 第18課 命令文・感嘆文

第5回 第19課 兼語文

第6回 第19課 様態補語・概数の表現

第7回 第20課 受け身文

第8回 第20課方向補語

第9回 第20課 可能補語

第10回 第19課～第20課の復習

第11回 第21課 時量補語と動量補語・時量の表現

第12回 第21課 動量詞・度量衡の表現

第13回 第22課 「到」をもちいる結果補語

第14回 第22課 補語の復習

第15回 総合4の復習

定期試験

科目名：中国語コミュニケーション1

英文名：Chinese Communication 1

担当者：<sup>ゲン フク</sup> 巖 馥

単 位：1単位

開講年次：2～4年次

開講期：前期

必修選択の別：選択科目

### ■授業概要・方法等

中国語総合1, 2を履修し、基礎的事項をマスターした学生を対象とする科目です。

中国語総合1, 2で学習した単語や文法事項を復習しながら、日常の身近な話題をテーマに、自分の言葉で表現できる力を養います。「コミュニケーション1」では、主に「聞く」と「話す」に重点を置き、中国語による会話能力の基礎を身につけます。中国語を聞いて適切に反応し、質問のやりとりができること、また情報や自分の考えを場面や目的に応じて適切に伝えることを学びます。

この科目を受講する人は、「中国語総合3」と併せて受講されることをお勧めします。

### ■学習・教育目標および到達目標

日常生活の具体的な場面で、最低限必要とされる語彙や慣用表現を身につけます。簡単な文を聞き取って、基本的な言い回しを用いて自己表現できるようにします。

### ■授業時間外に必要な学修

中国語総合1, 2で学修した内容を十分に復習し、その知識を授業内で運用できるよう日頃より準備すること。

授業で学修した発音・文法・表現を把握し、それを応用できるよう練習を積極的に行うこと。

講義内で重要とされる部分をノートし、予復習に益するよう工夫をする。また授業内で配布された参考プリントなども丁寧にファイルし、授業に活用すること。

学修済の項目に関し、問題点や疑問点を具体的に授業に臨むこと。

### ■教科書

尹景春・竹島毅『中国語つぎへの一步』白水社 2310円

### ■参考文献

「中国語について」の項を参照

### ■関連科目

中国語総合1, 2, 3, 4

中国語コミュニケーション2, 3, 4

中国語カルチャーセミナーA, B

### ■成績評価方法および基準

定期試験 50%

小テスト 20%

口頭発表及び課題 30%

### ■授業評価アンケート実施方法

学部実施規程に準拠して行います。

### ■研究室・E-mailアドレス

教室で各教員に直接確認して下さい。

### ■オフィスアワー

教室で各教員に直接確認して下さい。

### ■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 中国語発音の復習 復習1 基本動詞・形容詞をチェックしよう 復習2 基本文型をチェックしよう

第2回 第1課 中国に行こう！

助動詞「可以」「要」・主述述語文

第3回 第1課 中国に行こう！

目的語が主述句のとき

第4回 第2課 ジャスミン茶を飲もう！

「的」の用法・原因理由の表現

第5回 第2課 ジャスミン茶を飲もう！

文末の助詞

第6回 第3課 友だちをつくろう！

連動文

第7回 第3課 友だちをつくろう！

「是～的」の文・疑問詞「怎么」

第8回 第1課～第3課の復習

第9回 第4課 長城に登ろう！

「了」の三つの用法

第10回 第4課 長城に登ろう！

副詞「就」

第11回 第5課 卓球を楽しもう！

様態補語

第12回 第5課 卓球を楽しもう！

可能性の予測をあらわす「会」・「仮定」をあらわす「要是」

第13回 第6課 漢字を覚えよう！

結果補語（1）

第14回 第6課 漢字を覚えよう！

副詞 有点儿

第15回 「コミュニケーション1」の復習

定期試験



科目名：中国語コミュニケーション2			
英文名：Chinese Communication 2			
担当者： <sup>ゲン フク</sup> 嚴 馥			
単 位：1単位	開講年次：2～4年次	開講期：後期	必修選択の別：選択科目

### ■授業概要・方法等

「コミュニケーション1」に引き続き、日常の身近な話題や生活習慣をテーマに、中国語による自己表現力を高めていきます。語彙を増やすとともに文法力や表現力も強化し、中国語による会話能力をいっそう高めていきます。この科目を受講する人は、「中国語総合4」と併せて受講されることをお勧めします。

### ■学習・教育目標および到達目標

日常生活の具体的な場面で、最低限必要とされる語彙や慣用表現を身につけます。簡単な文を聞き取って、基本的な言い回しを用いて自己表現できるようにします。

### ■授業時間外に必要な学修

中国語総合1, 2、コミュニケーション1で学修した内容を十分に復習し、その知識を授業内で運用できるよう日頃より準備すること。

授業で学修した発音・文法・表現を把握し、それを応用できるよう練習を積極的に行うこと。

講義内で重要とされる部分をノートし、予復習に益するよう工夫をする。また授業内で配布された参考プリントなども丁寧にファイルし、授業に活用すること。

学修済の項目に関し、問題点や疑問点を具体的に授業に臨むこと。

### ■教科書

尹景春・竹島毅『中国語つぎへの一步』白水社 2310円

### ■参考文献

「中国語について」の項を参照

### ■関連科目

中国語総合1, 2, 3, 4

中国語コミュニケーション1, 3, 4

中国語カルチャーセミナーA, B

### ■成績評価方法および基準

定期試験 50%

小テスト 20%

口頭発表及び課題 30%

### ■授業評価アンケート実施方法

学部実施規程に準拠して行います。

### ■研究室・E-mailアドレス

教室で各教員に直接確認して下さい。

### ■オフィスアワー

教室で各教員に直接確認して下さい。

### ■授業計画の項目・内容及び到達目標

第1回 「コミュニケーション1」の復習

第2回 第7課 街を歩こう！

存現文

第3回 第7課 街を歩こう！

主語がフレーズのとき・「～了～了」の用法

第4回 第8課 中国映画を見よう！

「状態の持続」をあらわす「着」

第5回 第8課 中国映画を見よう！

副詞「再」・疑問詞の不定用法

第6回 第9課 チャイナドレスを買おう！

方向補語

第7回 第9課 使役の文

第8回 第7課～第9課の復習

第9回 第10課 中華を食べよう！

可能補語

第10回 第10課 中華を食べよう！

強調表現

第11回 第11課 西遊記を読もう！

結果補語（2）

第12回 第11課 西遊記を読もう！

受け身の文

第13回 第12課 春節を祝おう！

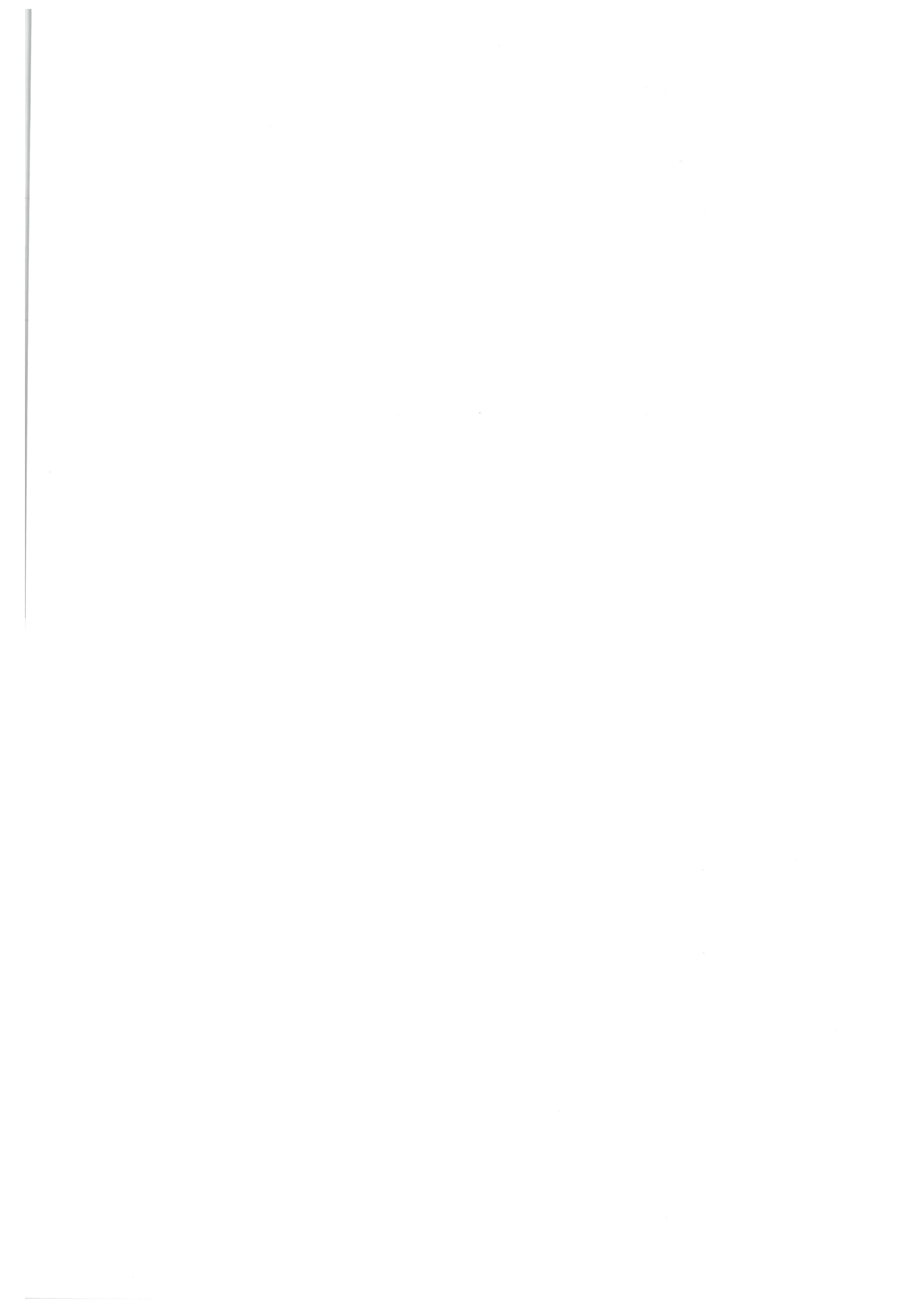
近い未来の表現

第14回 第12課 春節を祝おう！

処置式の文

第15回 「コミュニケーション2」の総復習

定期試験



## 薬学部 授業計画 (2013)

---

2013.4 印刷発行

発行者 近畿大学薬学部  
編集 近畿大学薬学部 教務委員会  
所在地 〒577-8502 東大阪市小若江3-4-1  
電話番号 (06)6721-2332

### インターネット版シラバス

下記のアドレスでもシラバスを公開しています。

<http://syllabus.itp.kindai.ac.jp/customer/Form/sy01000.aspx>

※インターネット版シラバスでは、学科名以外にも、キーワードや、開講年次、単位、開講期、科目区分、必修・選択の別などの科目属性からシラバスを検索することができます。



 近畿大学